東北自動車道

思川橋耐震補強工事

交 付 図 書 正 誤 表

東日本高速道路株式会社 関東支社

宇都宮管理事務所

対象	特記仕様書　７　関連施設その他との関係

誤

（３）河川・水路関係

河川等名	河川等管理者名	位置	摘　要
赤津川	栃木県 栃木土木事務所	KP７３．４８～７３．６０付近 （吹上橋 Ａ１橋台～Ａ２橋台間）	一級河川　利根川水系
赤津川	栃木県 栃木土木事務所	KP７５．７２～７５．８１付近 （木村橋 Ａ１橋台～Ａ２橋台間）	一級河川　利根川水系
思川	栃木県 鹿沼土木事務所 小倉川漁業協同組合	KP８２．５８～８２．９０付近 （思川橋 Ａ１橋台～Ａ２橋台間）	一級河川　利根川水系
黒川	栃木県 鹿沼土木事務所	KP８５．２１～８５．４６付近 （黒川橋 Ａ１橋台～Ａ２橋台間）	一級河川　利根川水系

請負契約締結後、受注者からの施工計画書の提出を受けてから河川管理者との協議を行うものとする。河川管理者との協議が完了次第、工事に着手するものとする。

事前協議結果に基づき、受注者は工事施工前に小倉川漁業協同組合との協議を行うものとする。

正

（３）河川・水路関係

河川等名	河川等管理者名	位置	摘　要
赤津川	栃木県 栃木土木事務所 下都賀漁業協同組合	KP７３．４８～７３．６０付近 （吹上橋Ａ１橋台～Ａ２橋台間）	一級河川　利根川水系
赤津川	栃木県 栃木土木事務所 下都賀漁業協同組合	KP７５．７２～７５．８１付近 （木村橋Ａ１橋台～Ａ２橋台間）	一級河川　利根川水系
思川	栃木県 鹿沼土木事務所 小倉川漁業協同組合	KP８２．５８～８２．９０付近 （思川橋Ａ１橋台～Ａ２橋台間）	一級河川　利根川水系
黒川	栃木県 鹿沼土木事務所 黒川漁業協同組合	KP８５．２１～８５．４６付近 （黒川橋Ａ１橋台～Ａ２橋台間）	一級河川　利根川水系

請負契約締結後、受注者からの施工計画書の提出を受けてから河川管理者との協議を行うものとする。河川管理者との協議が完了次第、工事に着手するものとする。

事前協議結果に基づき、受注者は工事施工前に各漁業協同組合との協議を行うものとする。

備考	特記仕様書　７　関連施設その他との関係 協議先の修正

対象	特記仕様書　１６－１　発生する残存物件と引渡し方法

誤

１６－１　発生する残存物件と引渡し方法

本工事で発生する残存物件及び引渡し方法は下表のとおりとする。なお、残存物件を引渡す場合は、残存物件調書（様式－３）を提出するとともに、その数量の確認を受けるものとする。

品　名	規格・寸法等	数量	単位	引渡し方法
鋼製支承	ローラー支承	140	基	発注者に引渡し ※引き渡し場所は宇都宮ＩＣ資材置場とする。
仮受ブラケット	ＳＭ４００Ａ等	約300	t	
橋梁検査路	検査路Ｂ	約2100	ｋｇ	
落橋防止構造	ＰＣ鋼より線	16	本	
橋梁排水装置	塩化ビニル管	約100	m	
コルゲートパイプ管	φ1000　t=1.6mm	約100	m	
コルゲートパイプ管	φ2000　t=2.7mm	約100	m	
仮固定材	ＳＭ４００Ａ等	約3200	ｋｇ	

なお、これらに要する費用は関連項目の契約単価に含むものとし別途支払は行わないものとする。

正

１６－１　発生する残存物件と引渡し方法

本工事で発生する残存物件及び引渡し方法は下表のとおりとする。なお、残存物件を引渡す場合は、残存物件調書（様式－３）を提出するとともに、その数量の確認を受けるものとする。

品　名	規格・寸法等	数量	単位	引渡し方法
鋼製支承	ローラー支承	140	基	発注者に引渡し ※引き渡し場所は宇都宮ＩＣ資材置場とする。
橋梁検査路	検査路Ｂ	約2100	ｋｇ	
落橋防止構造	ＰＣ鋼より線	16	本	
橋梁排水装置	塩化ビニル管	約100	m	
コルゲートパイプ管	φ1000　t=1.6mm	約100	m	
コルゲートパイプ管	φ2000　t=2.7mm	約100	m	

なお、これらに要する費用は関連項目の契約単価に含むものとし別途支払は行わないものとする。

備考	特記仕様書　１６－１　発生する残存物件と引渡し方法 残存物件の品名を削除

対象	特記仕様書　２５－８－３（３）　段差防止構造M　作業内容

誤

（３）作業内容

段差防止構造Mの作業内容は、下表の通りとする。

単価表の項目	作業内容
段差防止構造M 設置工	１）芯出し調整工 ２）段差防止構造を設置するコンクリート面のチッピング、不陸調整用樹脂パテ材の施工 ３）段差防止構造のアンカーボルトの製作・防せい・輸送 ４）段差防止構造アンカーボルトの挿入・固定 ５）鋼部材の製作・防せい・輸送・設置 ６）緩衝材（クロロプレンゴム）の製作・設置
段差防止構造 アンカー工　φａ・Ｌ	１）鉄筋位置調査工 ２）既設コンクリート構造物の削孔、孔の清掃、樹脂定着 ３）削孔に伴い発生するコンクリート殻の処分

正

（３）作業内容

段差防止構造Mの作業内容は、下表の通りとする。

単価表の項目	作業内容
段差防止構造M 設置工	１）芯出し調整工 ２）段差防止構造を設置するコンクリート面のチッピング、不陸調整用樹脂パテ材の施工 ３）段差防止構造のアンカーボルトの製作・防せい・輸送 ４）段差防止構造アンカーボルトの挿入・固定 ５）鋼部材の製作・防せい・輸送・設置 ６）緩衝材（クロロプレンゴム）の製作・設置
段差防止構造M アンカー工　φａ・Ｌ	１）鉄筋位置調査工 ２）既設コンクリート構造物の削孔、孔の清掃、樹脂定着 ３）削孔に伴い発生するコンクリート殻の処分

備考	特記仕様書　２５－８－３（３）　段差防止構造M　作業内容 単価表の項目名を修正

対象	特記仕様書　２５－８－３（４）　段差防止構造M　作業内容の細部に関する事項
誤	（４）作業内容の細部に関する事項 １）　鋼部材の製作 鋼部材の製作は、設計図書に示す鋼製部材の製作を監督員の指示と共通仕様書１０－６「鋼構造物の製作」及び構造物施工管理要領Ⅱ－３－２「鋼材」の規定に従って行うことをいう。使用する鋼材の材料及び品質は、道示Ⅱ２０．６．１、２０．７及び２０．８の関係各項の規定に従うものとする。 ２）鋼部材の防せい 鋼部材の防せいは、製作した鋼製部材のうち設計図書で指示するものに対して、設計図書に示された防せいを工場にて施工することをいう。これらは、共通仕様書１０－７「鋼構造物の防せい」によるものとする。 ３）鋼部材の運搬 鋼部材の運搬は、設計図書に従い製作した鋼製部材の製作場所から施工箇所までの運搬を、監督員の指示と共通仕様書１０－８「鋼構造物の輸送」の規定に従って行うことをいう。 ４）鋼部材の設置 鋼部材の設置は、設計図書に従い製作した鋼製部材の設置を、監督員の指示と共通仕様書１７－５－５「段差防止構造」の規定に従って行うことをいう。溶接の施工は本特記仕様書２５－８－２（３）の関連項目の規定によるものとする。 ５）アンカーボルト設置 アンカーボルト設置とは、設計図書と監督員の指示に従い、鉄筋位置調査工を実施したのち、段差防止構造を固定するアンカーの削孔と接着用樹脂の注入及びアンカー鋼材の挿入を行うことをいう。 あと施工アンカーの材料及び施工は、構造物施工管理要領Ⅲ－６－２－１「接着系あと施工アンカー」の規定に従って行うものとする。 アンカー削孔によって発生するコンクリート塊は、本特記仕様書「１９．再生資源及び建設副産物に関する事項」によって適切に処分するものとし、処分に要する費用及び集積したあと処分場所まで運搬する費用については、監督員と協議を行い決定するものとする。
正	（４）作業内容の細部に関する事項 １）　鋼部材の製作 鋼部材の製作は、設計図書に示す鋼製部材の製作を監督員の指示と共通仕様書１０－６「鋼構造物の製作」及び構造物施工管理要領Ⅱ－３－２「鋼材」の規定に従って行うことをいう。使用する鋼材の材料及び品質は、道示Ⅱ２０．６．１、２０．７及び２０．８の関係各項の規定に従うものとする。 ２）鋼部材の防せい 鋼部材の防せいは、製作した鋼製部材のうち設計図書で指示するものに対して、設計図書に示された防せいを工場にて施工することをいう。これらは、共通仕様書１０－７「鋼構造物の防せい」によるものとする。 ３）鋼部材の運搬 鋼部材の運搬は、設計図書に従い製作した鋼製部材の製作場所から施工箇所までの運搬を、監督員の指示と共通仕様書１０－８「鋼構造物の輸送」の規定に従って行うことをいう。 ４）鋼部材の設置 鋼部材の設置は、設計図書に従い製作した鋼製部材の設置を、監督員の指示と共通仕様書１７－５－５「段差防止構造」の規定に従って行うことをいう。溶接の施工は本特記仕様書２５－８－２（３）の関連項目の規定によるものとする。 ５）アンカーボルト設置 アンカーボルト設置とは、設計図書と監督員の指示に従い、鉄筋位置調査工を実施したのち、段差防止構造を固定するアンカーの削孔と接着用樹脂の注入及びアンカー鋼材の挿入を行うことをいう。 あと施工アンカーの材料及び施工は、構造物施工管理要領Ⅲ－６－２－１「接着系あと施工アンカー」の規定に従って行うものとする。
備考	特記仕様書　２５－８－３（４）　段差防止構造M　作業内容の細部に関する事項 コンクリート塊の処分に関する記載を削除

対象	特記仕様書　２５－８－６　支払
誤	２５－８－６　支　払 （１）落橋防止構造 落橋防止構造の支払は、前項の規定で検測された数量に対して、１本当りの契約単価で支払うものとする。この契約単価には、鋼構造物の製作、鋼構造物の輸送、上部工ブラケットの設置、ワイヤー設置、ブラケット背面充填、防せい等設計図書及び監督員の指示に従って行う落橋防止構造の施工に要する材料・労力・機械器具経費等で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。なお、アンカーの材料費に関しては落橋防止構造Ｐ１の単価項目に計上するものとする。 （２）　段差防止構造M 段差防止構造M又は段差防止構造Mアンカー工の支払は、前項の規定で検測された数量に対して、１ｔ又は１本当りの契約単価で支払うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う鋼構造物の製作、防せい、輸送、設置、アンカー削孔、孔の清掃、樹脂接着、コンクリート塊の運搬、アンカーボルトの設置等段差防止構造の施工に要する材料・労力・機械器具経費等で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。なお、アンカーの材料費に関しては段差防止構造M設置工の単価項目に計上するものとする。 （４）　横変位拘束構造ＭＤ、Ｅ 横変位拘束構造ＭＤ、Ｅの支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、１基当りの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う芯出し調整工、横変位拘束構造を設置するコンクリート面のチッピング、不陸調整用樹脂パテ材の施工、横変位拘束構造のアンカーボルトの製作・防せい・輸送、横変位拘束構造のアンカーボルトの挿入・固定、鋼部材の製作・防せい・輸送・設置、緩衝材（クロロプレンゴム）の製作・設置と横変位拘束構造の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成させるために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。なお、アンカーの材料費に関しては横変位拘束構造ＭＤ、Ｅの単価項目に計上するものとする。 横変位拘束構造　アンカー工の支払いは、前項の規定に従って検測された数量に対し、１本あたりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う近接調査計測工等本工事を完成させるために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。
正	２５－８－６　支　払 （１）落橋防止構造 落橋防止構造の支払は、前項の規定で検測された数量に対して、１本当りの契約単価で支払うものとする。この契約単価には、鋼構造物の製作、鋼構造物の輸送、上部工ブラケットの設置、防せい等設計図書及び監督員の指示に従って行う落橋防止構造の施工に要する材料・労力・機械器具経費等で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。なお、アンカーの材料費に関しては落橋防止構造Ｐ１の単価項目に計上するものとする。 （２）　段差防止構造M 段差防止構造M又は段差防止構造Mアンカー工の支払は、前項の規定で検測された数量に対して、１ｔ又は１本当りの契約単価で支払うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う鋼構造物の製作、防せい、輸送、設置、アンカー削孔、孔の清掃、樹脂接着、コンクリート塊の運搬、処分、アンカーボルトの設置等段差防止構造の施工に要する材料・労力・機械器具経費等で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。なお、アンカーの材料費に関しては段差防止構造M設置工の単価項目に計上するものとする。 （４）　横変位拘束構造ＭＤ、Ｅ 横変位拘束構造ＭＤ、Ｅの支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、１基当りの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う芯出し調整工、横変位拘束構造を設置するコンクリート面のチッピング、不陸調整用樹脂パテ材の施工、横変位拘束構造のアンカーボルトの製作・防せい・輸送、横変位拘束構造のアンカーボルトの挿入・固定、鋼部材の製作・防せい・輸送・設置、緩衝材（クロロプレンゴム）の製作・設置と横変位拘束構造の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成させるために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。なお、アンカーの材料費に関しては横変位拘束構造ＭＤ、Ｅの単価項目に計上するものとする。 （５）　横変位拘束構造M　アンカー工 横変位拘束構造M　アンカー工の支払いは、前項の規定に従って検測された数量に対し、一本あたりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う、鉄筋位置調査、アンカー削孔、孔の清掃、樹脂定着、コンクリート殻の運搬、処分等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。
備考	特記仕様書　２５－８－６　支払 不要な文言を削除、作業内容を追記、アンカー工の項目を分割し文言を修正

<table>
<tr><td>対象</td><td>特記仕様書　２５－９－２　支承取替工　作業内容</td></tr>
<tr><td>誤</td><td>
<table>
<tr><th>単価表の項目</th><th>作業内容</th></tr>
<tr><td>支承取替工
Ｅ―〇</td><td>（１）　近接調査計測工（既設構造物の詳細寸法計測・障害物の有無、ハンドリング調査等）
（２）　新設支承材料の製作・防せい処理、アンカーボルト・新設ソールプレートの製作、荷下ろし、取り込み
（３）　既設支承橋座コンクリートのウォータージェット工法によるはつり処理、既設沓座モルタル取壊し
（４）　既設アンカーボルトの切断・防せい
（５）　既設支承・ソールプレートの撤去（ガウジング含む）、資材置き場への運搬
（６）　アンカープレートの製作・防せい・輸送、既設コンクリート構造物の削孔、孔の清掃
（７）　アンカーボルトの挿入、樹脂接着剤による固定
（８）　支承台座部の鉄筋の加工・組立、型わくの加工・据付・コンクリートの施工
（９）　新設ソールプレートの設置、既設桁部への高力ボルト接合部の現場孔明工及び高力ボルト本締、ピンテール仕上げ
（１０）ジャッキアップ、新設支承の据付・調整、ジャッキダウン
（１１）仮固定材取付に伴う既設桁部への高力ボルト接合部現場孔明工
（１２）仮固定材の製作・防錆・輸送・設置
（１３）仮固定材の高力ボルト本締及びピンテール仕上げ
（１４）仮固定材の撤去
（１５）既設コンクリート、削孔に伴い発生するコンクリート殻の処分、モルタルの廃材運搬・処分</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>正</td><td>
<table>
<tr><th>単価表の項目</th><th>作業内容</th></tr>
<tr><td>支承取替工
Ｅ―〇</td><td>（１）　近接調査計測工（既設構造物の詳細寸法計測・障害物の有無、ハンドリング調査等）
（２）　新設支承材料の製作・防せい処理、アンカーボルト製作、荷下ろし、取り込み
（３）　既設支承橋座コンクリートのウォータージェット工法によるはつり処理、既設沓座モルタル取壊し
（４）　既設アンカーボルトの切断・防せい
（５）　既設支承・ソールプレートの撤去（ガウジング含む）、資材置き場への運搬
（６）　アンカープレートの製作・防せい・輸送、既設コンクリート構造物の削孔、孔の清掃
（７）　アンカーボルトの挿入、樹脂接着剤による固定
（８）　支承台座部の鉄筋の加工・組立、型わくの加工・据付・コンクリートの施工
（９）　既設桁部への高力ボルト接合部の現場孔明工及び高力ボルト本締、ピンテール仕上げ
（１０）ジャッキアップ、新設支承の据付・調整、ジャッキダウン
（１１）仮固定材取付に伴う既設桁部への高力ボルト接合部現場孔明工
（１２）仮固定材の製作・輸送・設置
（１３）仮固定材の高力ボルト本締及びピンテール仕上げ
（１４）仮固定材の撤去、処分
（１５）既設コンクリート、削孔に伴い発生するコンクリート殻の処分、モルタルの廃材運搬・処分</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>特記仕様書　２５－９－２　支承取替工　作業内容
仮固定材、ソールプレートに関する記載を削除</td></tr>
</table>

対象	特記仕様書　２５－９－３　支承取替工　作業内容の細部に関する事項

誤

（４） 支承設置

支承設置とは、設計図書と監督員の指示に従い、分解搬入した支承材料を据付け位置まで揚重、据付け、支承基部の無収縮モルタル打設、養生後に油圧ジャッキに仮受していた主桁荷重を設置した支承へ受替え、主桁のこう下を行うことをいう。

支承設置は、共通仕様書１１－３「支承」及び構造物施工管理要領Ⅲ－５－１「支承補修」の各規定に従って行うものとし、本特記仕様書２５－２０「上部工補強工」での主桁への補剛材設置が完了した後に施工するものとする。

（５）現場溶接の施工は、日本道路協会「道路橋示方書・同解説（Ⅱ．鋼橋編）Ｈ２９．１１」２０．８の規定に従うものとする。なお、これに要する費用は、関連する単価項目に含むものとし、別途支払いは行わないものとする。

２５－９－４　数量の検測

支承取替工の数量の検測は、設計図書に示された支承取替１基当りとし、設計数量（基）で行うものとする。

正

（５） 台座コンクリート及び無収縮モルタルの施工

台座コンクリートの施工に使用する材料、種別は次の通りとする。

台座コンクリート

使用構造物	使用区分	材齢28日における圧縮強度（N/mm2）	粗骨材の最大寸法（mm）	スランプ（cm）	空気量（%）	セメントの種類	最小単位セメント量（kg/m3）	最大塩化物含有量（Cl－）（kg/m3）
支承部台座コンクリート	支承台座のコンクリートに使用するもの。	40	20、25	8±2.5	4.5±1.5	H	300	0.30

台座コンクリート及び無収縮モルタルの施工に適用する型わく等

材料	種別	適用規定
型わく	型わくＤ	共通仕様書８－３
鉄筋	鉄筋Ａ	共通仕様書８－４
定着用接着剤材料		構造物施工管理要領Ⅲ－６－２－１
無収縮モルタル	支承用無収縮モルタル	構造物施工管理要領Ⅲ－５－１－２

（６） 現場溶接の施工は、日本道路協会「道路橋示方書・同解説（Ⅱ．鋼橋編）Ｈ２９．１１」２０．８の規定に従うものとする。なお、これに要する費用は、関連する単価項目に含むものとし、別途支払いは行わないものとする。

備考	特記仕様書　２５－９－３　作業内容の細部に関する事項 台座コンクリートの品質管理を追記

対象	特記仕様書　２５－１０－２　構造物等取壊し工　施工
誤	５）ウォータージェット工法による回収（汚濁）水は沈殿槽に貯水し排水時においてその水質は、各自治体が定める基準に適合しなければならない。なお、回収（汚濁）水の沈殿槽への貯水及び水質調整等に要する費用は関連する単価項目に含むものとし、別途支払いは行わない。 ６）回収（汚濁）水から分離した汚泥の処分については、関連する法令に基づき適切に処理しなければならない。なお、汚泥、コンクリート塊の処分に要する費用については、別途、監督員と受注者とで協議し定めるものとする。 ７）施工中の飛散防止対策に要する費用は関連する単価項目に含むものとし、別途支払いは行わないものとする。 ８）はつり処理により構造に影響を及ぼすおそれがある劣化損傷箇所や鉄筋の著しい損傷を発見した場合は、速やかに監督員に報告し、その指示を受けるものとする。
正	５）ウォータージェット工法による回収（汚濁）水は沈殿槽に貯水し排水時においてその水質は、各自治体が定める基準に適合しなければならない。なお、回収（汚濁）水の沈殿槽への貯水及び水質調整等に要する費用は関連する単価項目に含むものとし、別途支払いは行わない。 ６）回収（汚濁）水から分離した汚泥の処分については、関連する法令に基づき適切に処理しなければならない。なお、汚泥の処分に要する費用については、別途、監督員と受注者とで協議し定めるものとする。 ７）施工中の飛散防止対策に要する費用は関連する単価項目に含むものとし、別途支払いは行わないものとする。 ８）はつり処理により構造に影響を及ぼすおそれがある劣化損傷箇所や鉄筋の著しい損傷を発見した場合は、速やかに監督員に報告し、その指示を受けるものとする。
備考	特記仕様書　２５－１０－２　構造物等取壊し工　施工 不要な記載を削除

対象	特記仕様書　２５－１１－１　交通規制工　種別

誤

共通仕様書１９－３－２「種別」に下表を追加する。なお、交通規制工の種別における交通規制箇所、交通規制内の施工内容に関する単価表の項目については設計図に示す数量総括表のとおりとする。

単価表の項目	交通規制箇所	交通規制内の作業内容	規制時間	備考
車線規制 Ｌ×Ｎ×Ｍ	東北自動車道（上下） 栃木都賀ＪＣＴ～鹿沼ＩＣ	支承等の資材搬入	09：00～17：00	黒川橋 第一走行 車線規制

正

共通仕様書１９－３－２「種別」に下表を追加する。なお、交通規制工の種別における交通規制箇所、交通規制内の施工内容に関する単価表の項目については設計図に示す数量総括表のとおりとする。

単価表の項目	交通規制箇所	交通規制内の作業内容	規制時間	備考
車線規制 Ｌ×Ｎ×Ｍ	東北自動車道（上下） 栃木都賀ＪＣＴ～鹿沼ＩＣ	支承等の資材搬入	08：00～18：00 （09:00～17：00）	黒川橋 第一走行 車線規制

備考	特記仕様書　２５－１１－１　交通規制工　種別 交通規制時間を修正

対象	特記仕様書　２５－１２－１　交通保安要員　種別及び配置

誤

２５－１２－１　種別及び配置

共通仕様書１９－４－２「種別」に規定する交通保安要員の種別は、下表のとおりとする。

単価表の項目	配置場所	配置人数	交替要員	配置時間及び期間	備考
交通誘導警備員Ｂ	市道１３３１５号線（吹上橋下りＡ１橋台横）	１人	１人	9:00～17:00 土留工事及び土砂搬出期間	
交通誘導警備員Ｂ	市道４３１７１号線（吹上橋上りＡ２橋台横）	１人		9:00～17:00 土留工事及び土砂搬出期間	
交通誘導警備員Ｂ	市道１３３１５号線（木村橋下りＡ１橋台横）	１人		9:00～17:00 土留工事及び土砂搬出期間	
交通監視員	東北自動車道（上り線）栃木都賀ＪＣＴ～鹿沼ＩＣ（黒川橋　Ａ１橋台付近第一走行車線規制）	１人		９：00～17：00	

上表の配置時間は、作業時間（休憩時間を含む）とする。なお、受注者の責によらず、交通保安要員の配置場所、配置時間が大幅に変更となった場合は、これらに要する費用について監督員と受注者で協議し定めるものとする。

正

２５－１２　交通保安要員

２５－１２－１　種別及び配置

共通仕様書１９－４－２「種別」に規定する交通保安要員の種別は、下表のとおりとする。

単価表の項目	配置場所	配置人数	交替要員	配置時間及び期間	備考
交通誘導警備員Ｂ	市道１３３１５号線（吹上橋下りＡ１橋台横）	１人	１人	9:00～17:00 土留工事及び土砂搬出期間	
交通誘導警備員Ｂ	市道４３１７１号線（吹上橋上りＡ２橋台横）	１人		9:00～17:00 土留工事及び土砂搬出期間	
交通誘導警備員Ｂ	市道１３３１５号線（木村橋下りＡ１橋台横）	１人		9:00～17:00 土留工事及び土砂搬出期間	
交通監視員	東北自動車道（上り線）栃木都賀ＪＣＴ～鹿沼ＩＣ（黒川橋　Ａ１橋台付近第一走行車線規制）	１人		９：00～17：00	工事用車両の安全監視

上表の配置時間は、作業時間（休憩時間を含む）とする。なお、受注者の責によらず、交通保安要員の配置場所、配置時間が大幅に変更となった場合は、これらに要する費用について監督員と受注者で協議し定めるものとする。

備考	特記仕様書　２５－１２－１　交通保安要員　種別及び配置 備考欄に追記

対象	特記仕様書　２５－１３－４　桁衝突防止構造　材料及び施工
誤	２５－１３－４　材料及び施工 （１）　鉄筋位置調査工 鉄筋位置調査工とは、設計図書と監督員の指示に従い、測定機器を用いてあと施工アンカーの削孔箇所の既設鉄筋の位置の調査、把握、結果整理を行い、削孔箇所を決定するとともに既設コンクリート面に位置をマーキングすることをいう。測定機器、測定方法については、コンクリート施工管理要領４－８－（４）「鉄筋かぶりの管理方法」の規定に準じるものとする。 （２）　近接位置計測工 近接位置調査工とは、設計図書と監督員の指示に従い行う支承取替箇所において、作業箇所周辺の支障物の有無や配置を調査してスケッチ等の資料作成を行い、支承の取替、補強部材や仮受支柱や仮ブラケット及び固定装置などの仮受設備の設置、撤去の作業計画立案のための基礎資料を得ることをいう。 （３）　芯出し調整工 芯出し調整工とは、設計図書と監督員の指示に従い行う支承取替において、設置する補強部材の位置や高力ボルトの孔明けやアンカー削孔位置を現地の主桁やコンクリートなどの構造物に芯出しすることをいう。 芯出し位置とその基準となる点は、相対的に不動なものを選定し、施工後も確認できるように現地にマーキングをすること。 （４）　下部工ブラケットアンカーの削孔及び定着 下部工ブラケットアンカーの削孔とは、設計図書と監督員の指示に従い、桁衝突防止構造を固定する金属製アンカーの削孔を行うことをいう。 アンカー削孔によって発生するコンクリート塊は、本特記仕様書「１９．再生資源及び建設副産物に関する事項」によって適切に処分するものとし、処分に要する費用及び集積したあと処分場所まで運搬する費用については、監督員と協議を行い決定するものとする。 （５）　部材取り付け工 部材取り付け工は、設計図書に基づき、桁衝突防止構造の鋼製部材に緩衝材（クロロプレンゴム）を設置する作業をいう。緩衝材（クロロプレンゴム）の規格は、硬度５５°±５°程度、許容支圧応力度１２Ｎ／ｍｍ^{2}とする。
正	２５－１３－４　材料及び施工 （１）　鉄筋位置調査工 鉄筋位置調査工とは、設計図書と監督員の指示に従い、測定機器を用いてあと施工アンカーの削孔箇所の既設鉄筋の位置の調査、把握、結果整理を行い、削孔箇所を決定するとともに既設コンクリート面に位置をマーキングすることをいう。測定機器、測定方法については、コンクリート施工管理要領４－８－（４）「鉄筋かぶりの管理方法」の規定に準じるものとする。 （２）　近接位置計測工 近接位置調査工とは、設計図書と監督員の指示に従い行う桁衝突防止構造設置箇所において、作業箇所周辺の支障物の有無や配置を調査してスケッチ等の資料作成を行い、桁衝突防止構造の設置に必要な基礎資料を得ることをいう。 （３）　芯出し調整工 芯出し調整工とは、設計図書と監督員の指示に従い行う桁衝突防止構造の設置において、設置する補強部材の位置や高力ボルトの孔明けやアンカー削孔位置を現地の主桁やコンクリートなどの構造物に芯出しすることをいう。 芯出し位置とその基準となる点は、相対的に不動なものを選定し、施工後も確認できるように現地にマーキングをすること。 （４）　下部工ブラケットアンカーの削孔及び定着 下部工ブラケットアンカーの削孔とは、設計図書と監督員の指示に従い、桁衝突防止構造を固定する金属製アンカーの削孔を行うことをいう。 （５）　部材取り付け工 部材取り付け工は、設計図書に基づき、桁衝突防止構造の鋼製部材に緩衝材（クロロプレンゴム）を設置する作業をいう。緩衝材（クロロプレンゴム）の規格は、硬度５５°±５°程度、許容支圧応力度１２Ｎ／ｍｍ^{2}とする。
備考	特記仕様書　２５－１３－４　桁衝突防止構造　材料及び施工 誤記及びコンクリート塊の処分方法を修正

対象	特記仕様書　２５－１３－６　桁衝突防止構造　支払
誤	２５－１３－６　支払 桁衝突防止構造の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、１箇所当りの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う鋼構造物の製作・運搬・部材取り付け、アンカー削孔、アンカー定着等桁衝突防止構造の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成させるために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。
正	２５－１３－６　支払 桁衝突防止構造の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、１箇所当りの契約単価で行うものとする。この契約単価には、鉄筋位置調査工、近接調査計測工、芯出し調整工、鋼製ブラケットの製作、防せい、輸送、アンカー削孔工、部材取り付け工、打ち込み式アンカーでの定着、緩衝ゴムの製作、設置、発生材の運搬、処分等桁衝突防止構造の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成させるために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。
備考	特記仕様書　２５－１３－６　桁衝突防止構造　支払 含まれる費用を修正

対象	特記仕様書　２５－１４－２　水平力分担構造　種別

誤

２５－１４－２　種別

水平力分担構造の単価表に示す種別は、次のとおりとする。

単価表の項目	区分内容	対象箇所
水平力分担構造　A	鋼製ストッパーを主材料とするもの（980KN・変位140mm）１基あたり340kg	思川橋Ａ１橋台（上下線）
水平力分担構造　B	鋼製ストッパーを主材料とするもの（680KN・変位200mm）１基あたり242kg	黒川橋Ａ２橋台（上下線）

φａ：コンクリート削孔径（mm）Ｌ：設計削孔長（mm）とし設計削孔長を５mm単位で検測する。

正

２５－１４－２　種別

水平力分担構造の単価表に示す種別は、次のとおりとする。

単価表の項目	区分内容	対象箇所
水平力分担構造　A	鋼製ストッパーを主材料とするもの（980KN・変位140mm）１基あたり340kg	思川橋Ａ１橋台（上下線）
水平力分担構造　B	鋼製ストッパーを主材料とするもの（680KN・変位200mm）１基あたり242kg	黒川橋Ａ２橋台（上下線）

備考	特記仕様書　２５－１４－２　水平力分担構造　種別 誤記を修正

<table>
<tr><td>対象</td><td>特記仕様書　２５－１６－２　仮受ブラケット工　種別</td></tr>
<tr><td>誤</td><td>
２５－１６－２　種別
仮受ブラケット工の種別と区分内容は、下表のとおりとする。
<table>
<tr><th>単価表の項目</th><th>区分内容</th><th>摘要</th></tr>
<tr><td>仮受ブラケット
設置撤去</td><td>反力受台用の鋼製ブラケットを製作、輸送し、橋脚部に設置し、支承取替後に撤去するもの
当項目には以下の作業を含む
（１）　芯出し調整工
（２）　仮受ブラケットを設置するコンクリート面のチッピング、不陸調整用樹脂パテ材の施工
（３）　仮受ブラケットのアンカーボルトの製作・防せい・輸送
（４）　仮受ブラケットアンカーボルトの挿入、固定
（５）　仮受ブラケットの設置
（６）　支承取替後の仮受ブラケットの撤去、処分
（７）　仮受ブラケット撤去後のアンカーボルト頭部の切断、防せい</td><td>思川橋、黒川橋</td></tr>
<tr><td>仮受ブラケット
アンカー工φａ</td><td>仮受ブラケット施工用のアンカー鉄筋の施工のため、コアボーリングにて既設コンクリート構造物を水平方向に削孔し、アンカー鉄筋を接着剤により固定するもの（接着用樹脂を含む）
当項目には以下の作業を含む
１）鉄筋位置調査工
２）既設コンクリート構造物の削孔、孔の清掃、樹脂定着
３）削孔に伴い発生するコンクリート殻の処分</td><td>思川橋、黒川橋</td></tr>
</table>
φａ：コンクリート削孔径（㎜）
</td></tr>
<tr><td>正</td><td>
２５－１６－２　種別
仮受ブラケット工の種別と区分内容は、下表のとおりとする。
<table>
<tr><th>単価表の項目</th><th>区分内容</th><th>摘要</th></tr>
<tr><td>仮受ブラケット
設置撤去</td><td>反力受台用の鋼製ブラケットを製作、輸送し、橋脚部に設置し、支承取替後に撤去するもの
当項目には以下の作業を含む
（１）　芯出し調整工
（２）　仮受ブラケットを設置するコンクリート面のチッピング、不陸調整用樹脂パテ材の施工
（３）　仮受ブラケットのアンカーボルトの製作・防せい・輸送
（４）　仮受ブラケットアンカーボルトの挿入、固定
（５）　仮受ブラケットの設置
（６）　支承取替後の仮受ブラケットの撤去、処分</td><td>思川橋、黒川橋</td></tr>
<tr><td>仮受ブラケット
アンカー工φａ</td><td>仮受ブラケット施工用のアンカー鉄筋の施工のため、コアボーリングにて既設コンクリート構造物を水平方向に削孔し、アンカー鉄筋を接着剤により固定するもの（接着用樹脂を含む）
当項目には以下の作業を含む
１）鉄筋位置調査工
２）既設コンクリート構造物の削孔、孔の清掃、樹脂定着
３）削孔に伴い発生するコンクリート殻の処分</td><td>思川橋、黒川橋</td></tr>
</table>
φａ：コンクリート削孔径（㎜）
</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>特記仕様書　２５－１６－２　仮受ブラケット　種別
仮受ブラケット工の防錆後処置に関する記載を修正</td></tr>
</table>

対象	特記仕様書　２５－１６－３　仮受ブラケット工　仮受ブラケット工の細部に関する事項
誤	（４）　仮受ブラケットの設置、撤去 　仮受ブラケット設置、撤去とは、設計図書と監督員の指示に従い、主桁のこう上、降下を行う油圧ジャッキ据付けに必要となる仮受ブラケットを設置箇所まで揚重、アンカーボルトにて固定し取付けることをいう。 　また支承取替完了後、設置とは逆の手順で撤去を行い、各高架下に仮置きするものとする。仮受けブラケット撤去後のアンカーボルトの頭部は撤去するものとする。切断後の断面塗装に関する費用については、監督員と協議を行い決定するものとする。 　仮受ブラケット部材の設置に際しては、構造物施工管理要領Ⅲ－５－１－３「支承取替えの施工」の規定に従う他、周辺の既設構造物を損傷させないよう細心の注意を払って施工を行わなければならない。
正	（４）　仮受ブラケットの設置、撤去 　仮受ブラケット設置、撤去とは、設計図書と監督員の指示に従い、主桁のこう上、降下を行う油圧ジャッキ据付けに必要となる仮受ブラケットを設置箇所まで揚重、アンカーボルトにて固定し取付けることをいう。 　また支承取替完了後、設置とは逆の手順で撤去を行い、各高架下に仮置きするものとする。仮受ブラケット部材の設置に際しては、構造物施工管理要領Ⅲ－５－１－３「支承取替えの施工」の規定に従う他、周辺の既設構造物を損傷させないよう細心の注意を払って施工を行わなければならない。
備考	特記仕様書　２５－１６－３　仮受ブラケット工の細部に関する事項 仮受ブラケット工に関する記載を修正

対象	特記仕様書　２５－１６－５　仮受ブラケット工　支払
誤	２５－１６－５　支払 仮受ブラケットの支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、それぞれ１t当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う芯出し調整工、仮受ブラケットを設置するコンクリート面のチッピング、不陸調整用樹脂パテ材の施工、仮受ブラケットのアンカーボルトの製作・防せい・輸送、仮受ブラケットアンカーボルトの挿入、固定、仮受ブラケットの設置、支承取り換え後の仮受ブラケットの撤去、処分、仮受ブラケット撤去後のアンカーボルト頭部の切断、防せいの施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。 仮受ブラケットアンカー工の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、それぞれ１m当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行うアンカー削孔、孔の清掃、樹脂定着、コンクリート塊の運搬・処分等アンカー工の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。
正	２５－１６－５　支払 仮受ブラケットの支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、それぞれ１t当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、芯出し調整工、仮受ブラケットを設置するコンクリート面のチッピング、不陸調整用樹脂パテ材の施工、仮受ブラケットのアンカーボルトの製作・防せい・輸送、仮受ブラケットアンカーボルトの挿入、固定、仮受ブラケットの設置、支承取替後の仮受ブラケットの撤去、処分の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。 仮受ブラケットアンカー工の支払は、前項の規定に従って検測された数量に対し、それぞれ１m当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行うアンカー削孔、孔の清掃、樹脂定着、コンクリート塊の運搬・処分等アンカー工の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。
備考	特記仕様書　２５－１６－５　仮受ブラケット工　支払 含まれる費用を修正

対象	特記仕様書　２５－２０－３　上部工補強工　作業内容

誤

２５－２０－３　作業内容

単価表の項目	作業内容
上部工補強工	１）上部工補強部材の製作・塗装・輸送・取り卸し ２）上部工補強部材取付に伴う既設桁部への高力ボルト接合部現場孔明工 ３）上部工補強部材の架設 ４）上部工補強部材の高力ボルトの本締作業及びピンテール仕上げ ５）上部工補強部材を設置する範囲の既存塗膜除去 ６）現場塗装 【高力ボルト接合部及び現場溶接部（熱影響部以外）】 【高力ボルト頭部及び現場溶接部（熱影響部）】

正

２５－２０－３　作業内容

単価表の項目	作業内容
上部工補強工	１）上部工補強部材の製作・塗装・輸送・取り卸し ２）上部工補強部材を設置する範囲の既存塗膜除去（芯出し調整工） ３）上部工補強部材取付に伴う既設桁部への高力ボルト接合部現場孔明工 ４）上部工補強部材の架設 ５）上部工補強部材の高力ボルトの本締作業及びピンテール仕上げ ６）現場塗装 【高力ボルト接合部及び現場溶接部（熱影響部以外）】 【高力ボルト頭部及び現場溶接部（熱影響部）】

備考	特記仕様書　２５－２０－３　上部工補強工　作業内容 芯出し調整工の追記 作業内容の記載順の変更

対象	特記仕様書　２５－２０－１１　上部工補強工　塗替塗装の施工
誤	２）施工 支承取替工実施箇所における１種ケレン箇所の塗替塗装について共通仕様書１７－４－３「施工」に下記を追加する。 塗膜剥離剤塗布（1kg/㎡）・塗膜除去を行う回数は１回を想定している。なお、塗膜剥離剤塗布・塗膜除去回数に変更が生じた場合の費用は監督員と受注者で協議し定めるものとする。 なお、実施にあたっては、現地における剥離状況の確認を行い、剥離剤の使用量及び除去回数等、塗膜除去工について変更する必要があると監督員が認めて工法等の変更を指示した場合、受注者はその指示に従うものとし、請負代金額の変更が必要と認められるときは、監督員と受注者とで協議するものとする。なお、施工に先立ち当該塗料の成分把握のための調査を実施するものとし、これに要する費用については、監督員と受注者とで協議し定めるものとする。 また、旧塗膜にＰＣＢが含有することが確認された場合は、各都道府県の環境部局に確認の上、処理方法について監督員と受注者とで協議し定めるものとする。
正	２）施工 上部工補強工実施箇所における１種ケレン箇所の塗替塗装について共通仕様書１７－４－３「施工」に下記を追加する。 塗膜剥離剤塗布（1kg/㎡）・塗膜除去を行う回数は１回を想定している。なお、塗膜剥離剤塗布・塗膜除去回数に変更が生じた場合の費用は監督員と受注者で協議し定めるものとする。 なお、実施にあたっては、現地における剥離状況の確認を行い、剥離剤の使用量及び除去回数等、塗膜除去工について変更する必要があると監督員が認めて工法等の変更を指示した場合、受注者はその指示に従うものとし、請負代金額の変更が必要と認められるときは、監督員と受注者とで協議するものとする。なお、施工に先立ち当該塗料の成分把握のための調査を実施するものとし、これに要する費用については、監督員と受注者とで協議し定めるものとする。 また、旧塗膜にＰＣＢが含有することが確認された場合は、各都道府県の環境部局に確認の上、処理方法について監督員と受注者とで協議し定めるものとする。
備考	特記仕様書　２５－２０－１１　上部工補強工　塗替塗装の施工 施工対象構造物名の修正

対象	特記仕様書　２５－２０－１４　上部工補強工　支払
誤	２５－２０－１４　支払 上部工補強工の支払は、前項の規定に従って検測した数量に対し、１ｔ当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う上部工補強部材の製作・塗装・輸送・取り卸し、高力ボルト接合部現場孔明工、上部工補強部材の架設、高力ボルトの本締め作業及びピンテール仕上げ、上部工補強工設置範囲の素地調整及び湿潤化による既設塗膜除去、現場塗装等上部工補強工の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。 単価表の項目　　数量の単位 特－（８）　上部工補強工　　ｔ
正	２５－２０－１４　支払 上部工補強工の支払は、前項の規定に従って検測した数量に対し、１ｔ当たりの契約単価で行うものとする。この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う上部工補強部材の製作・塗装・輸送・取り卸し、上部工補強工設置範囲の素地調整及び湿潤化による既設塗膜除去・芯出し調整、高力ボルト接合部現場孔明工、上部工補強部材の架設、高力ボルトの本締め作業及びピンテール仕上げ、現場塗装等上部工補強工の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする。
備考	特記仕様書　２５－２０－１４　上部工補強工　支払 芯出し調整工の追記 支払い記載順番の修正

対象	設計図　数量総括表（その３）（4/6）
誤	

数 量 総 括 表（その3）

4 ／ 6

橋梁名称	上り線／下り線	名称及び測点	NO	項目	(41)	(42)	(43)	(44)	(45)	(46)	(47)	(48)	(49)	(50)	(51)	(52)	(53)	(54)	(55)	(56)	(57)	(58)	(59)	(60)
					17-(12)					17-(13)								17-(18)	17-(34)					
					段差防止構造M					横変位拘束構造M								耐震補強用コンクリート表面処理工	支承取替工					
			区分	細部項目	アンカー工 φ26・250	アンカー工 φ29・295	アンカー工 φ32・340	アンカー工 φ32・410	アンカー φ35・385	A	B	C	D	E	アンカー工 Aφ51・625	アンカー工 Bφ51・625	アンカー工 Aφ61・775		E－1	E－2	E－3	E－4	E－5	E－6
																			E(0)-4050-1758(Mov)	E(0)-4050-1821(Mov)	E(0)-4250-4347(Fix)	E(0)-1750-1106(Mov)	E(0)-1300-980(Mov)	E(0)-3200-1694(Fix)
				単位	本	本	本	本	本	基	基	基	基	基	本	本	本	㎡	基	基	基	基	基	基
思川橋	上り線	A1橋台							120															
		P1橋脚																73.7	5					
		P2橋脚																67.2	5					
		P3橋脚																31.1						
		P4橋脚											4			24		62.9						
		P5橋脚																						
		A2橋台												4		24								
		計							120				4	4		48		234.9	10					
	下り線	A1橋台							120															
		P1橋脚																72.8						
		P2橋脚																66.7						
		P3橋脚																31.5						
		P4橋脚											4			24		61.7						
		P5橋脚																						
		A2橋台												4		24								
		計							120				4	4		48		232.7						
	合計								240				8	8		96		467.6	10					
黒川橋	上り線	A1橋台																						
		P1橋脚																110.1						
		P2橋脚																18.3						
		P3橋脚																113.4						
		P4橋脚																						
		P5橋脚																109.6						
		A2橋台																						
		計																351.4						
	下り線	A1橋台																						
		P1橋脚																109.9						
		P2橋脚																18.3						
		P3橋脚																106.6						
		P4橋脚																						
		P5橋脚																108.4						
		A2橋台																						
		計																343.2						
	合計																	694.6						
吹上橋	上り線	A1橋台					192			4							80							
		P1橋脚						448																
		A2橋台					192			4							80							
		計					384	448		8							160							
	下り線	A1橋台					192			4							80							
		P1橋脚						448																
		A2橋台					192			4							80							
		計					384	448		8							160							
	合計						768	896		16							320							
木村橋	上り線	A1橋台					240					4					100							
		P1橋脚					480																	
		A2橋台	272										4			60								
		計	272				720					4	4			60	100							
	下り線	A1橋台					240					4					100							
		P1橋脚						528																
		A2橋台			240								4			60								
		計			240	528						4	4			60	100							
	合計		272		240	960	528					8	8			120	200							
全体　総合計			272		240	1,728	1,424	240		16	8	8	8	8	120	96	520	1,162.2	10					

		109.6
		351.4
		109.9
		18.3
		106.6
		108.4
		343.2
		694.6
80		
80		
160		
80		
80		
160		
320		
100		
100		
100		
100		
200		
520	1,162.2	10

正	

数 量 総 括 表（その3）

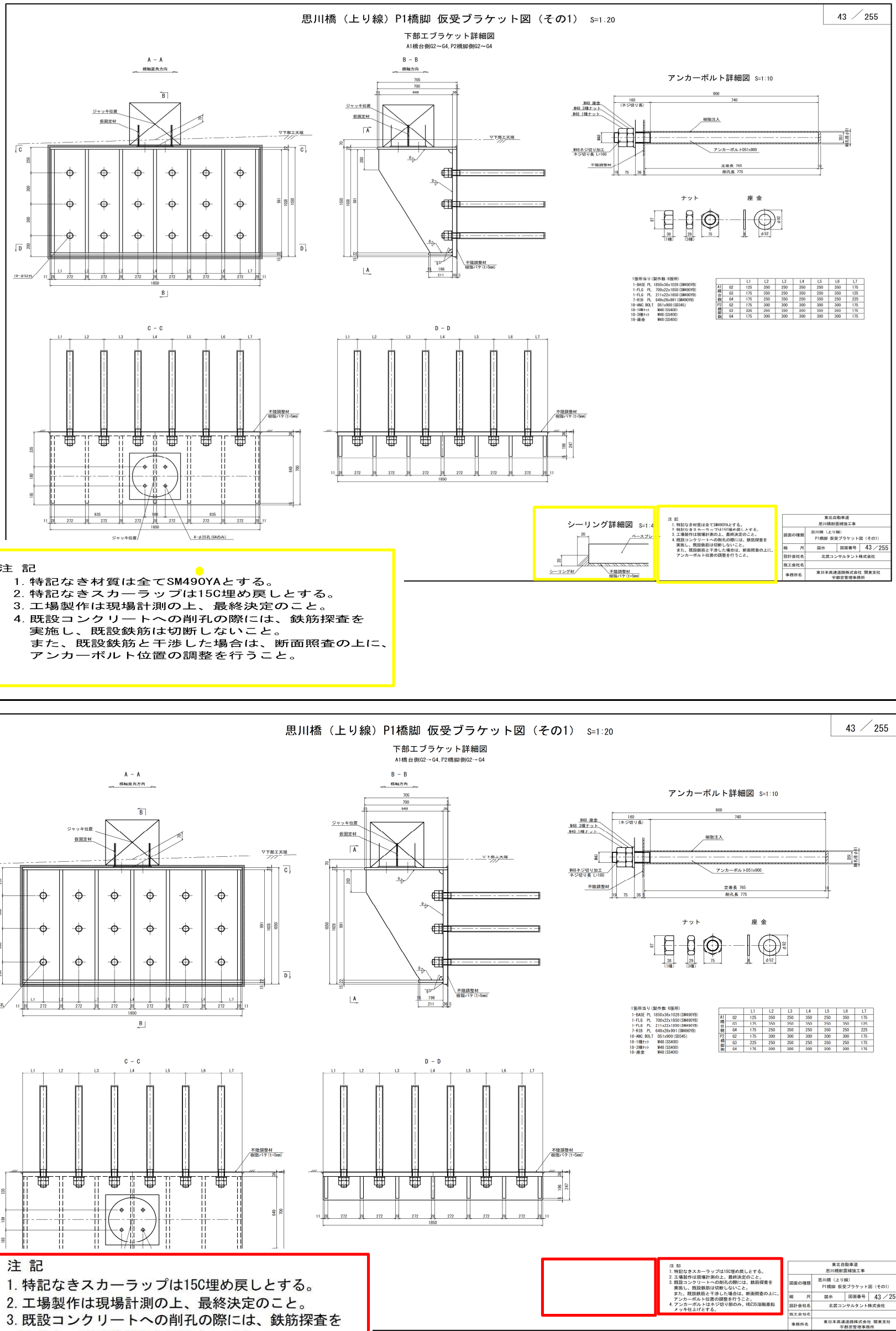
4 ／ 6

橋梁名称	上り線／下り線	名称及び測点	NO	項目	(41)	(42)	(43)	(44)	(45)	(46)	(47)	(48)	(49)	(50)	(51)	(52)	(53)	(54)	(55)	(56)	(57)	(58)	(59)	(60)
					17-(12)					17-(13)								17-(18)	17-(34)					
					段差防止構造M					横変位拘束構造M								耐震補強用コンクリート表面処理工	支承取替工					
			区分	細部項目	アンカー工 φ26・250	アンカー工 φ29・295	アンカー工 φ32・340	アンカー工 φ32・410	アンカー φ35・385	A	B	C	D	E	アンカー工 Aφ51・625	アンカー工 Bφ51・625	アンカー工 Aφ61・775		E－1	E－2	E－3	E－4	E－5	E－6
																			E(0)-4050-1758(Mov)	E(0)-4050-1821(Mov)	E(0)-4250-4347(Fix)	E(0)-1750-1106(Mov)	E(0)-1300-980(Mov)	E(0)-3200-1694(Fix)
				単位	本	本	本	本	本	基	基	基	基	基	本	本	本	㎡	基	基	基	基	基	基
思川橋	上り線	A1橋台							120															
		P1橋脚																73.7	5					
		P2橋脚																67.2	5					
		P3橋脚																31.1						
		P4橋脚											4			24		62.9						
		P5橋脚																						
		A2橋台												4		24								
		計							120				4	4		48		234.9	10					
	下り線	A1橋台							120															
		P1橋脚																72.8						
		P2橋脚																66.7						
		P3橋脚																31.5						
		P4橋脚											4			24		61.7						
		P5橋脚																						
		A2橋台												4		24								
		計							120				4	4		48		232.7						
	合計								240				8	8		96		467.6	10					
黒川橋	上り線	A1橋台																						
		P1橋脚																110.1						
		P2橋脚																18.3						
		P3橋脚																113.4						
		P4橋脚																						
		P5橋脚																109.0						
		A2橋台																						
		計																350.8						
	下り線	A1橋台																						
		P1橋脚																109.9						
		P2橋脚																18.3						
		P3橋脚																106.6						
		P4橋脚																						
		P5橋脚																108.4						
		A2橋台																						
		計																343.2						
	合計																	694.0						
吹上橋	上り線	A1橋台					192			4							80							
		P1橋脚						448																
		A2橋台					192			4							80							
		計					384	448		8							160							
	下り線	A1橋台					192			4							80							
		P1橋脚						448																
		A2橋台					192			4							80							
		計					384	448		8							160							
	合計						768	896		16							320							
木村橋	上り線	A1橋台					240					4					100							
		P1橋脚					480																	
		A2橋台	272										4			60								
		計	272				720					4	4			60	100							
	下り線	A1橋台					240					4					100							
		P1橋脚						528																
		A2橋台			240								4			60								
		計			240	528						4	4			60	100							
	合計		272		240	960	528					8	8			120	200							
全体　総合計			272		240	1,728	1,424	240		16	8	8	8	8	120	96	520	1,161.6	10					

		109.0
		350.8
		109.9
		18.3
		106.6
		108.4
		343.2
		694.0
80		
80		
160		
80		
80		
160		
320		
100		
100		
100		
100		
200		
520	1,161.6	10

備考	数量総括表の誤り（Ｐ５橋脚の数量 109.6→109.0）を修正

対象	設計図　思川橋（上り線）Ｐ1橋脚 仮受ブラケット図（その1）（43/255）
誤	
正	
備考	注記欄「1.仮受ブラケットの材質」のSM490YAを削除 アンカーボルトの溶融亜鉛メッキを修正 　シーリング詳細図の削除

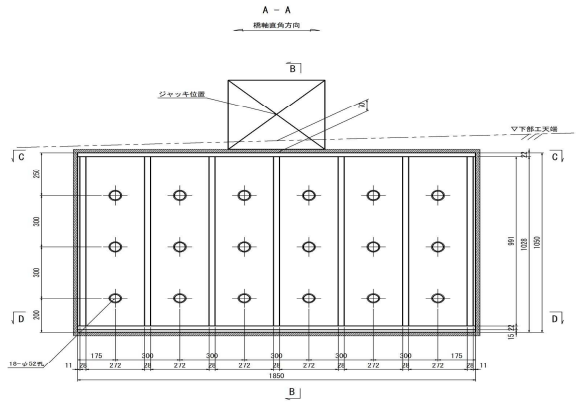


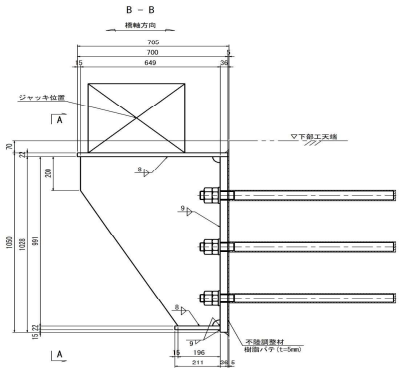
対象	設計図　思川橋（上り線）Ｐ1橋脚 仮受ブラケット図（その2）（44/255）
誤	

思川橋（上り線）P1橋脚 仮受ブラケット図（その2） S=1:20

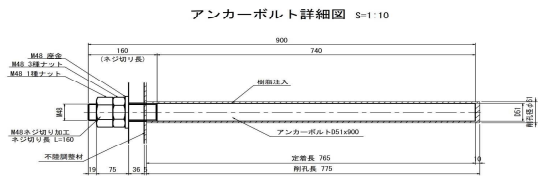
44 ／ 255

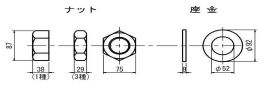
下部工ブラケット詳細図
A1橋台側G1



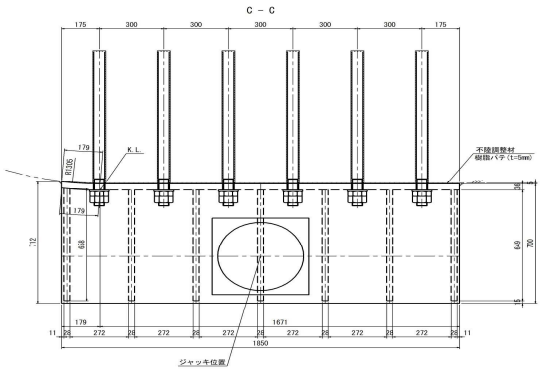


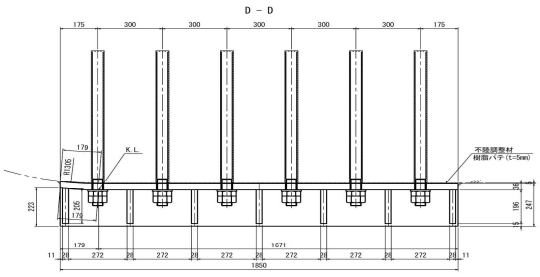
アンカーボルト詳細図 S=1:10



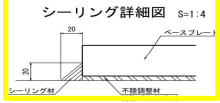


1箇所当り（製作数：1箇所）
1-BASE PL 1851x36x1028 (SM490YB)
1-FLG PL 712x22x1850 (SM490YB)
1-FLG PL 223x22x1850 (SM490YB)
6-RIB PL 649x28x991 (SM490YB)
1-RIB PL 658x28x991 (SM490YB)
18-ANC BOLT D51x900 (SD345)
18-1種ナット M48 (SS400)
18-3種ナット M48 (SS400)
18-座金 M48 (SS400)





シーリング詳細図 S=1:4



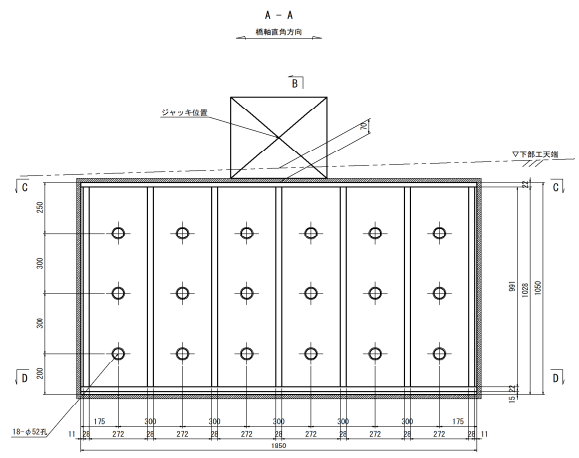
注 記
1. 特記なき材質は全てSM490YAとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。

東北自動車道	思川橋耐震補強工事
図面の種類	思川橋（上り線）P1橋脚 仮受ブラケット図（その2）
縮尺	図示
図面番号	44／255
設計会社名	北武コンサルタント株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 宇都宮管理事務所

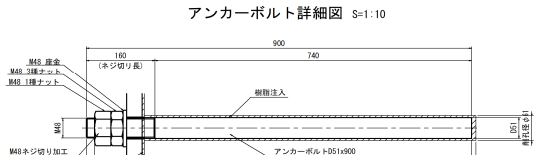
思川橋（上り線）P1橋脚 仮受ブラケット図（その2） S=1:20

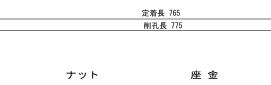
44 ／ 255

下部工ブラケット詳細図
A1橋台側G1

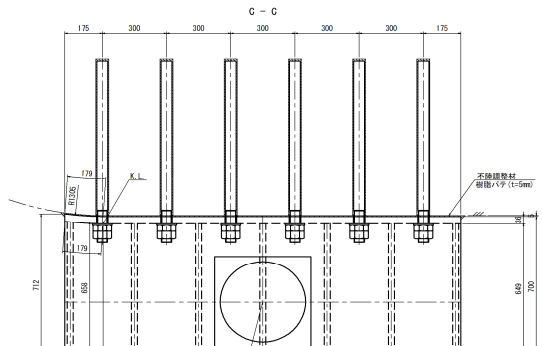


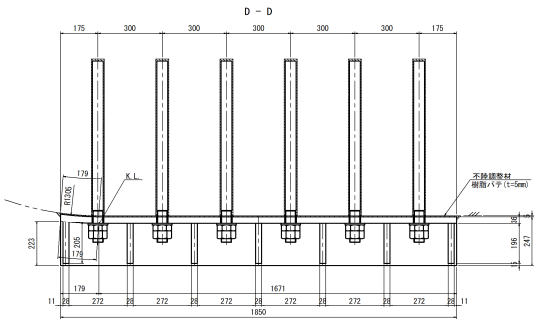
アンカーボルト詳細図 S=1:10





1箇所当り（製作数：1箇所）
1-BASE PL 1851x36x1028 (SM490YB)
1-FLG PL 712x22x1850 (SM490YB)
1-FLG PL 223x22x1850 (SM490YB)
6-RIB PL 649x28x991 (SM490YB)
1-RIB PL 658x28x991 (SM490YB)
18-ANC BOLT D51x900 (SD345)
18-1種ナット M48 (SS400)
18-3種ナット M48 (SS400)
18-座金 M48 (SS400)



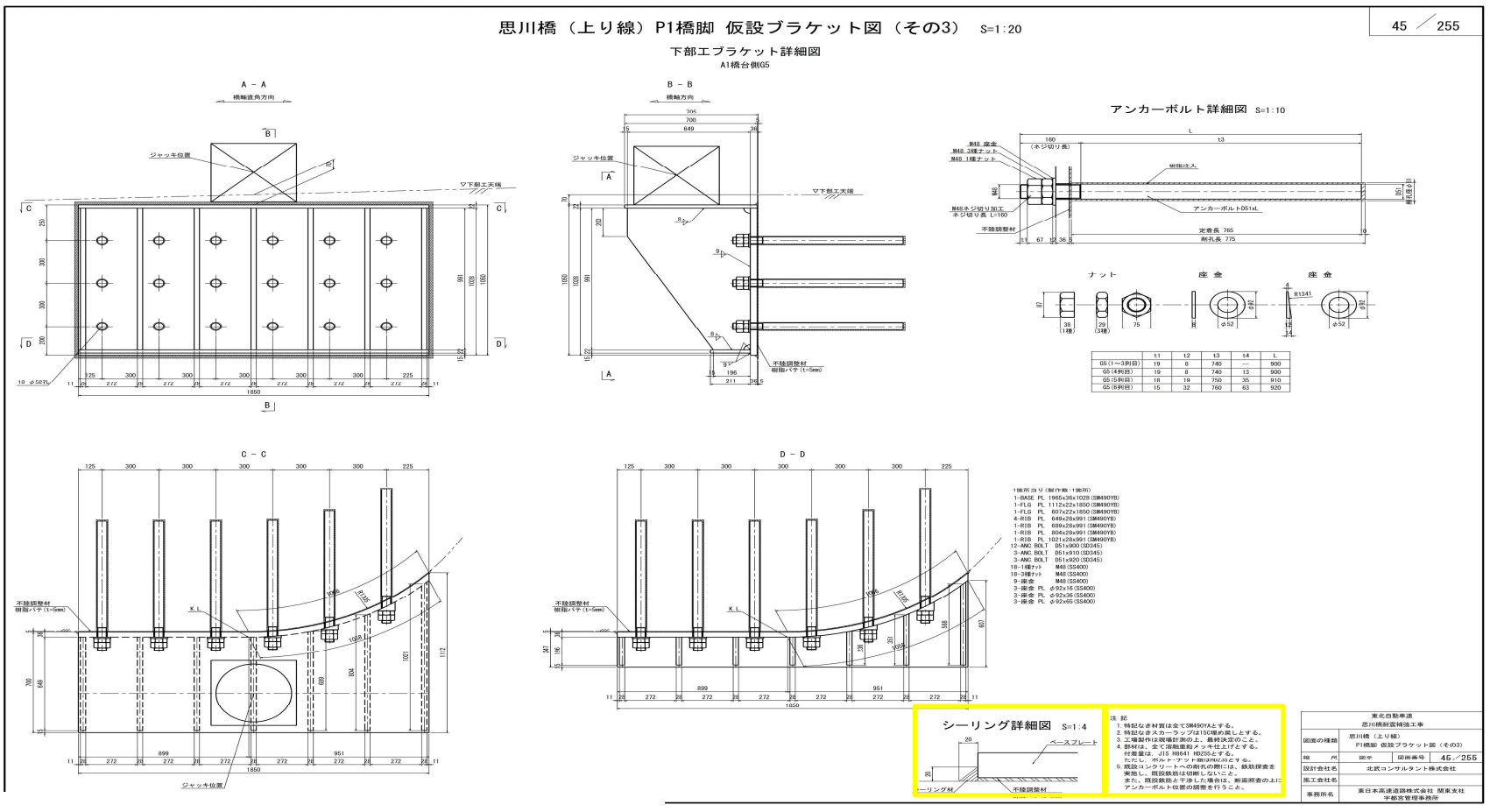
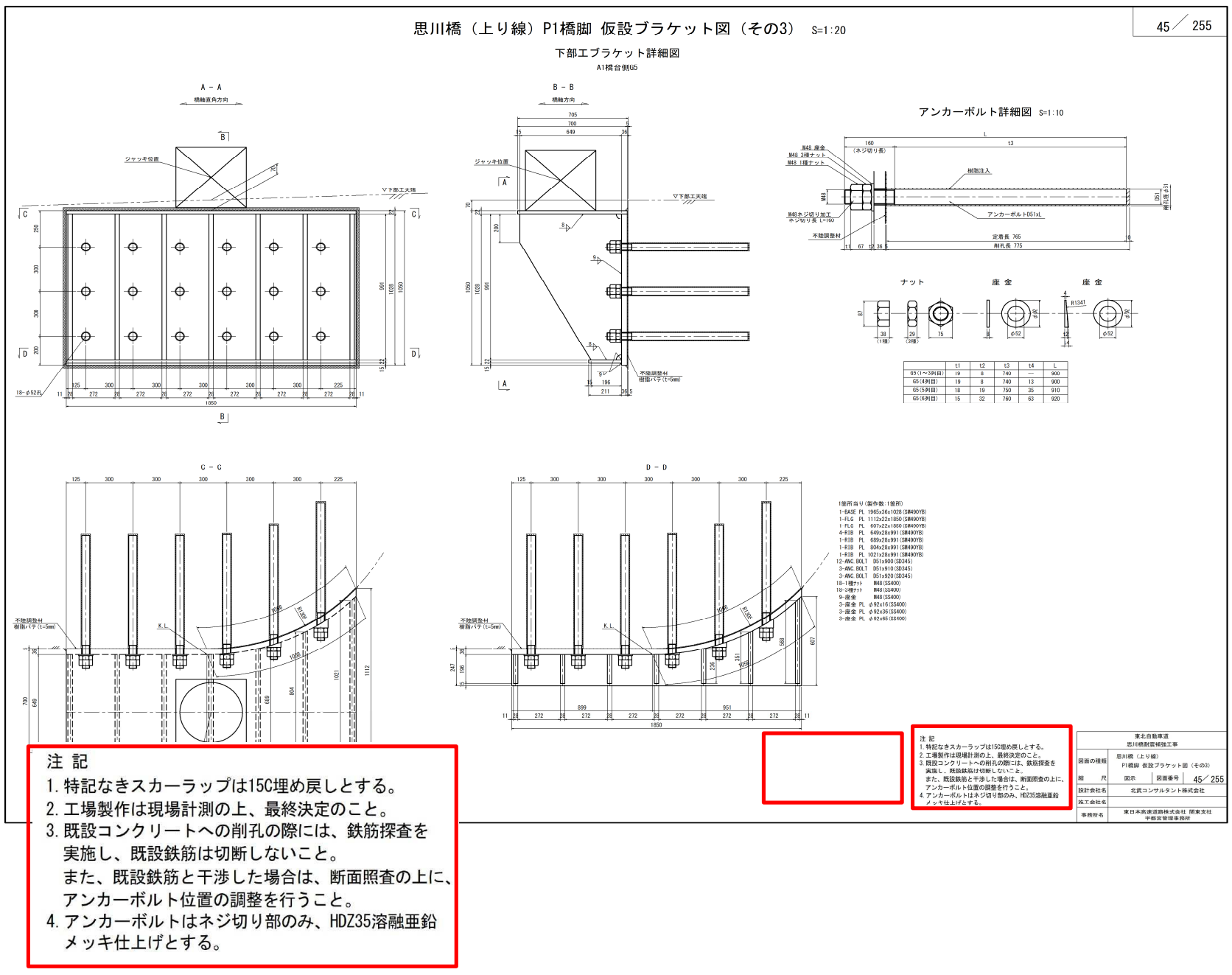


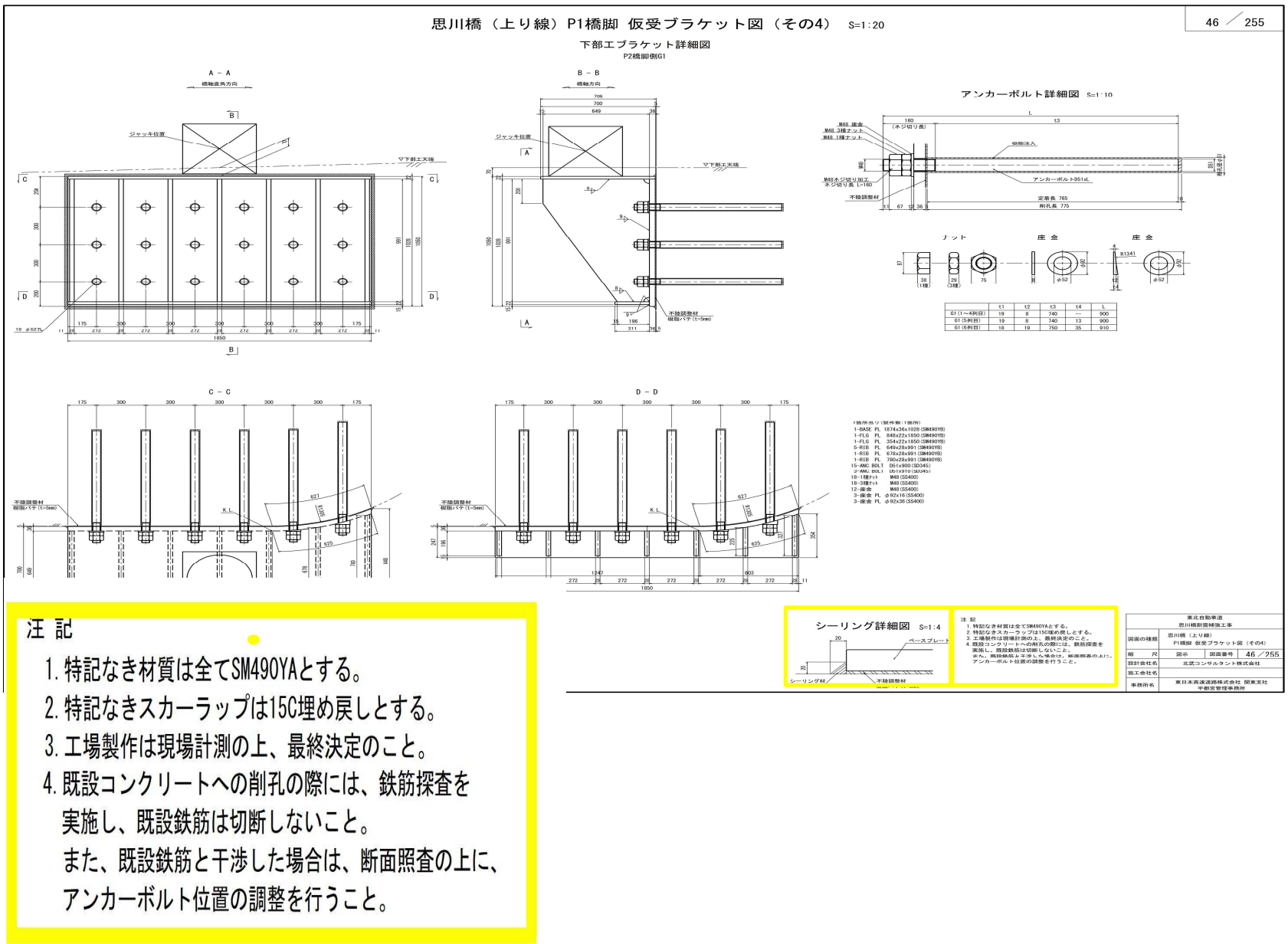
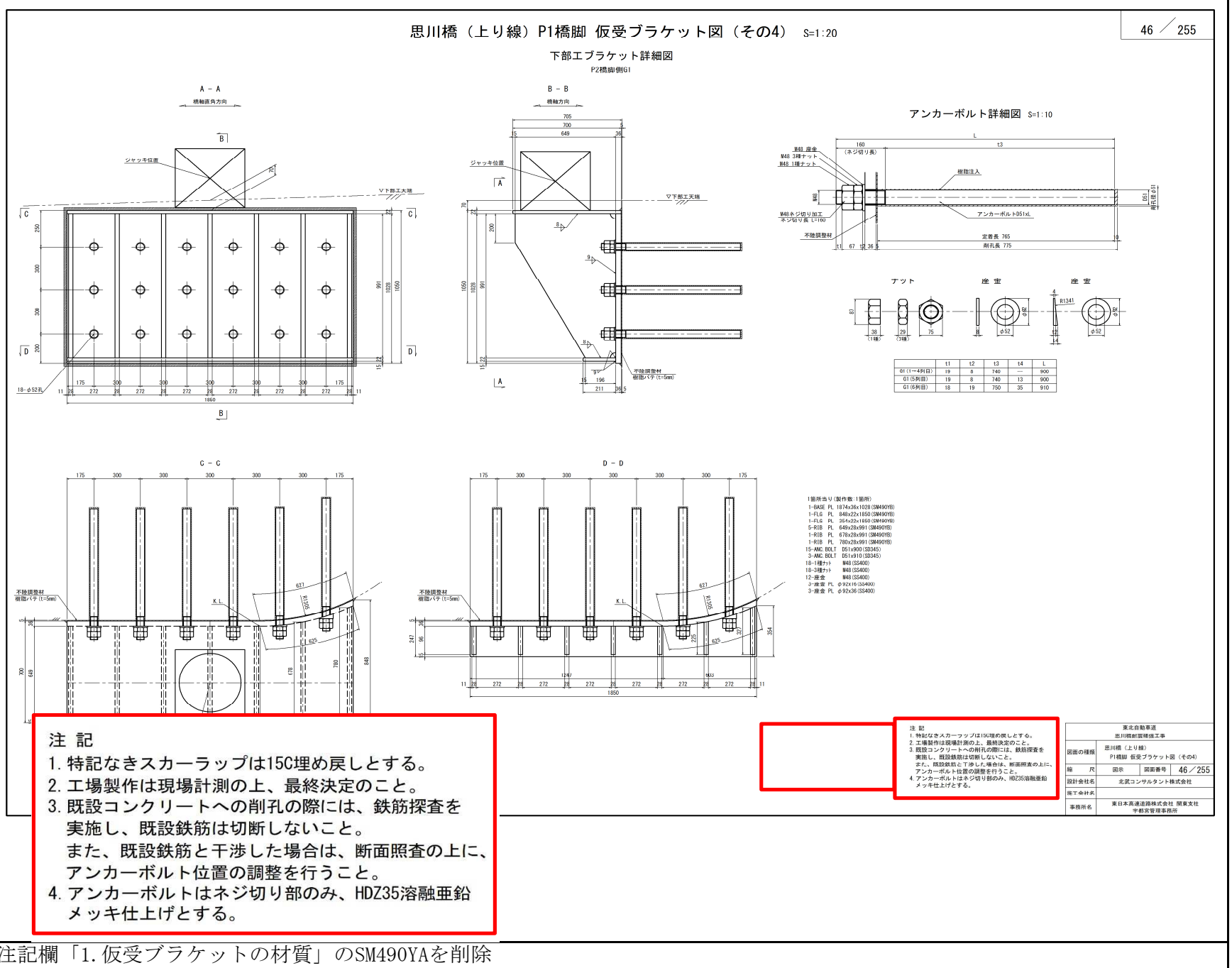
注 記
1. 特記なき材質は全てSM490YAとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

注 記
1. 特記なき材質は全てSM490YAとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

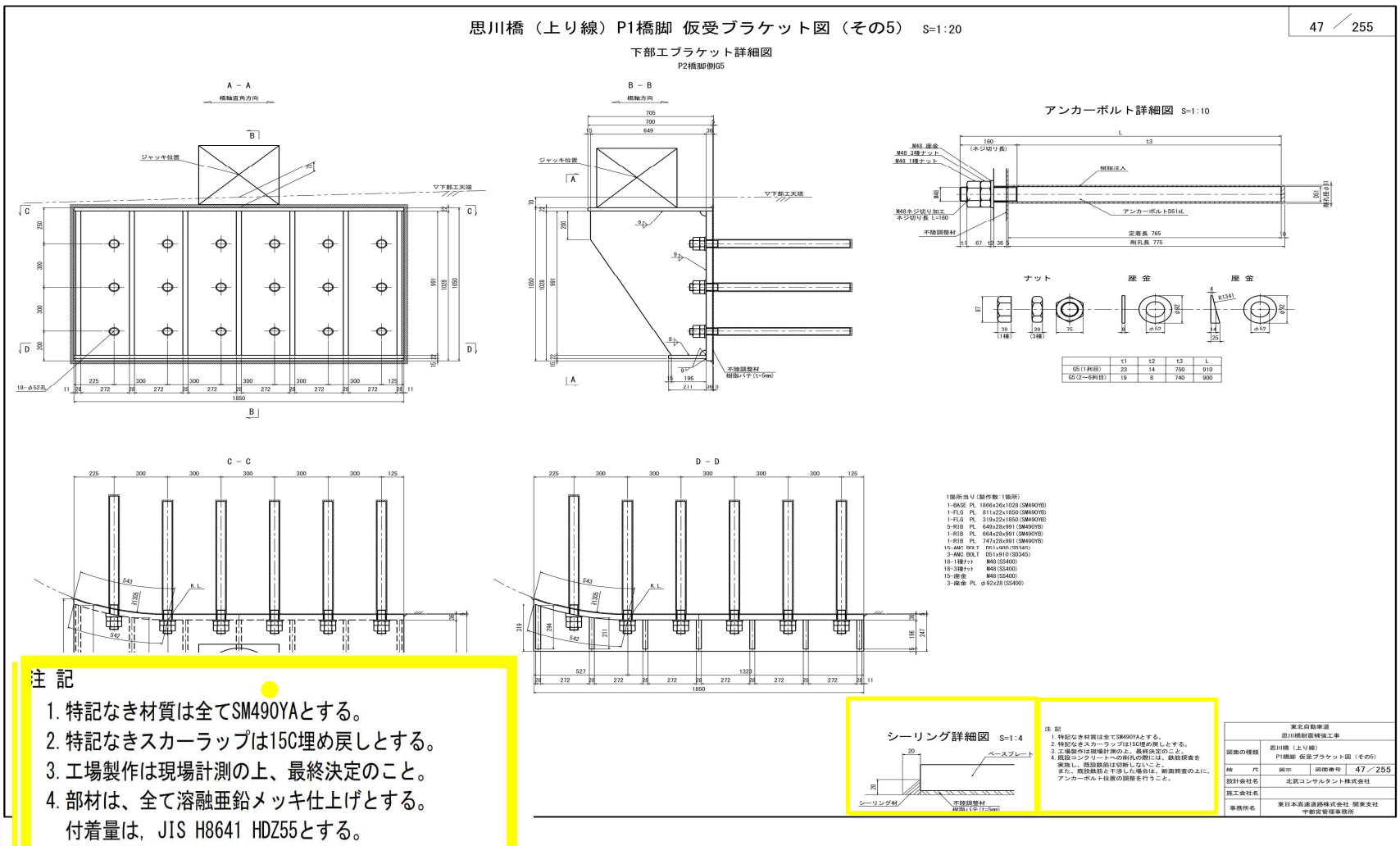
東北自動車道	思川橋耐震補強工事
図面の種類	思川橋（上り線）P1橋脚 仮受ブラケット図（その2）
縮尺	図示
図面番号	44／255
設計会社名	北武コンサルタント株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 宇都宮管理事務所

備考	注記欄「1.仮受ブラケットの材質」のSM490YAを削除 アンカーボルトの溶融メッキを修正 シーリング詳細図の削除

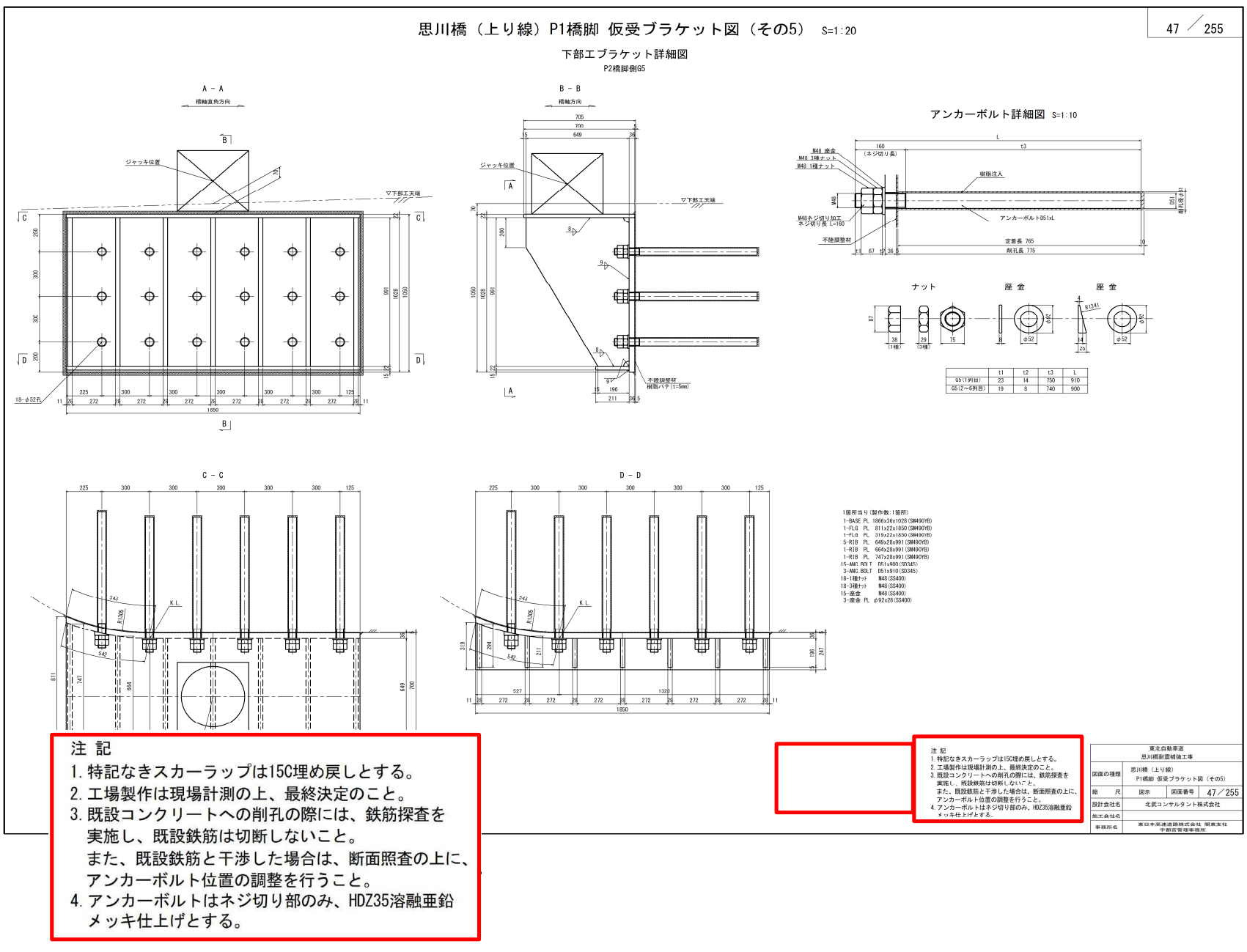
対象	設計図　思川橋（上り線）P1橋脚 仮受ブラケット図（その3）（45/255）
誤	
正	
備考	注記欄「1.仮受ブラケットの材質」のSM490YAを削除 溶融亜鉛メッキに関する記載を削除 4.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　「シーリング詳細図」を削除

対象	設計図　思川橋（上り線）Ｐ1橋脚 仮受ブラケット図（その4）（46/255）
誤	
正	
備考	注記欄「1.仮受ブラケットの材質」のSM490YAを削除 「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記 シーリング詳細図の削除

対象	設計図　思川橋（上り線）Ｐ1橋脚 仮受ブラケット図（その5）（47/255）
誤	

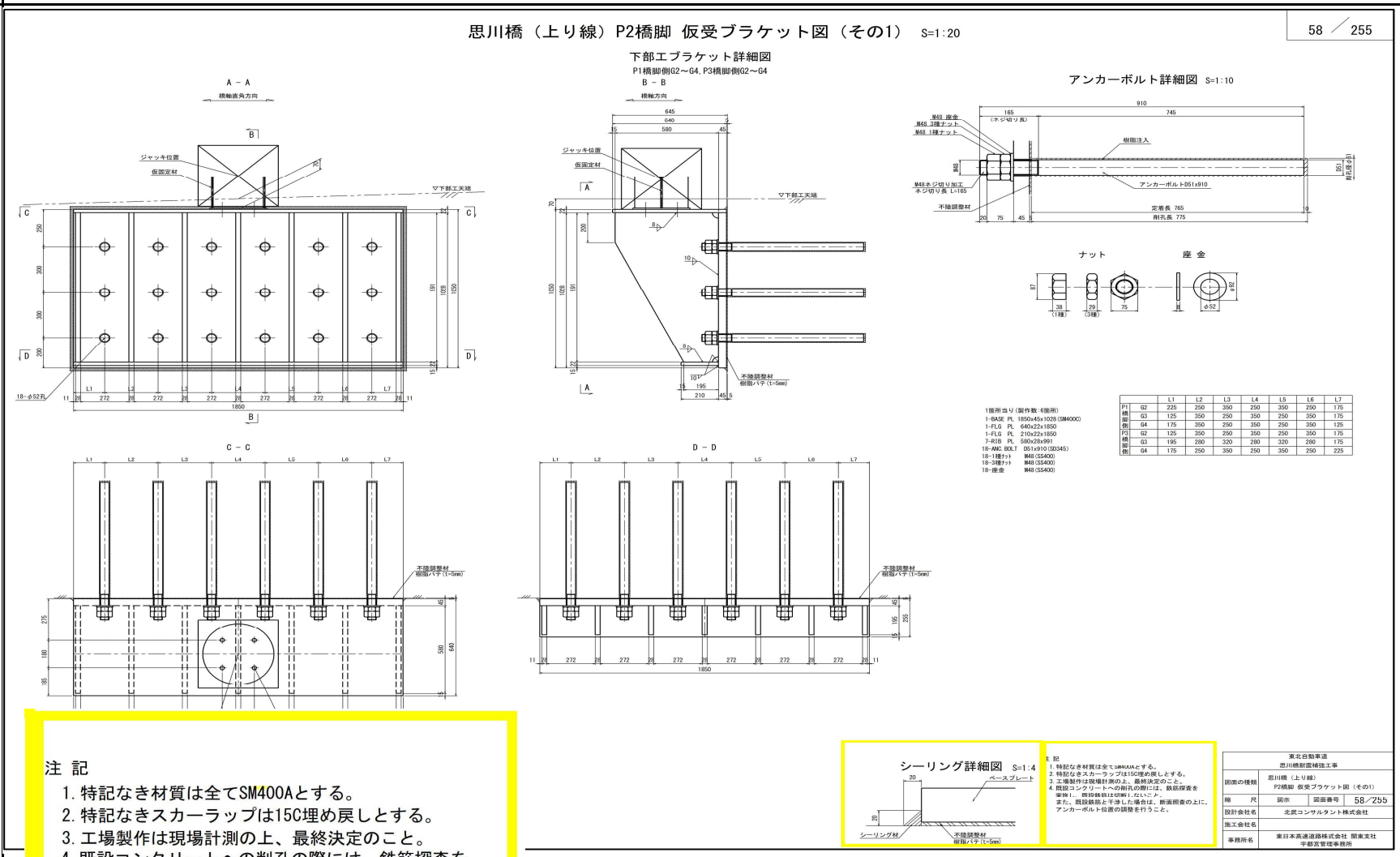


正	



備考	注記欄「1.仮受ブラケットの材質」のSM490YAを削除 「4.溶融亜鉛メッキ」を削除 「4.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　「シーリング詳細図」を削除

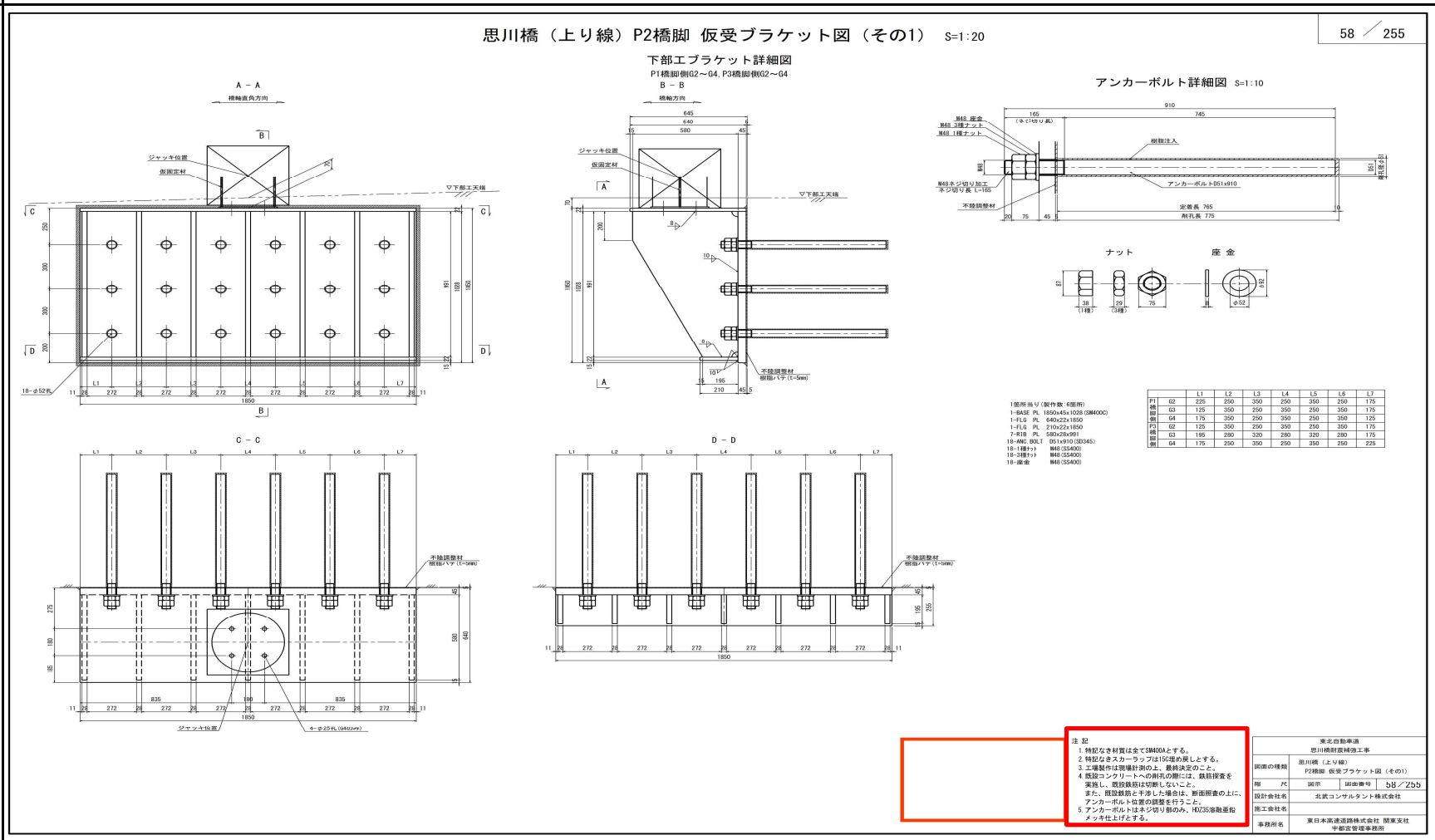
対象	設計図　思川橋（上り線）Ｐ2橋脚 仮受ブラケット図（その1）（58/255）
誤	



注 記

1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を
実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、
アンカーボルト位置の調整を行うこと。

正	



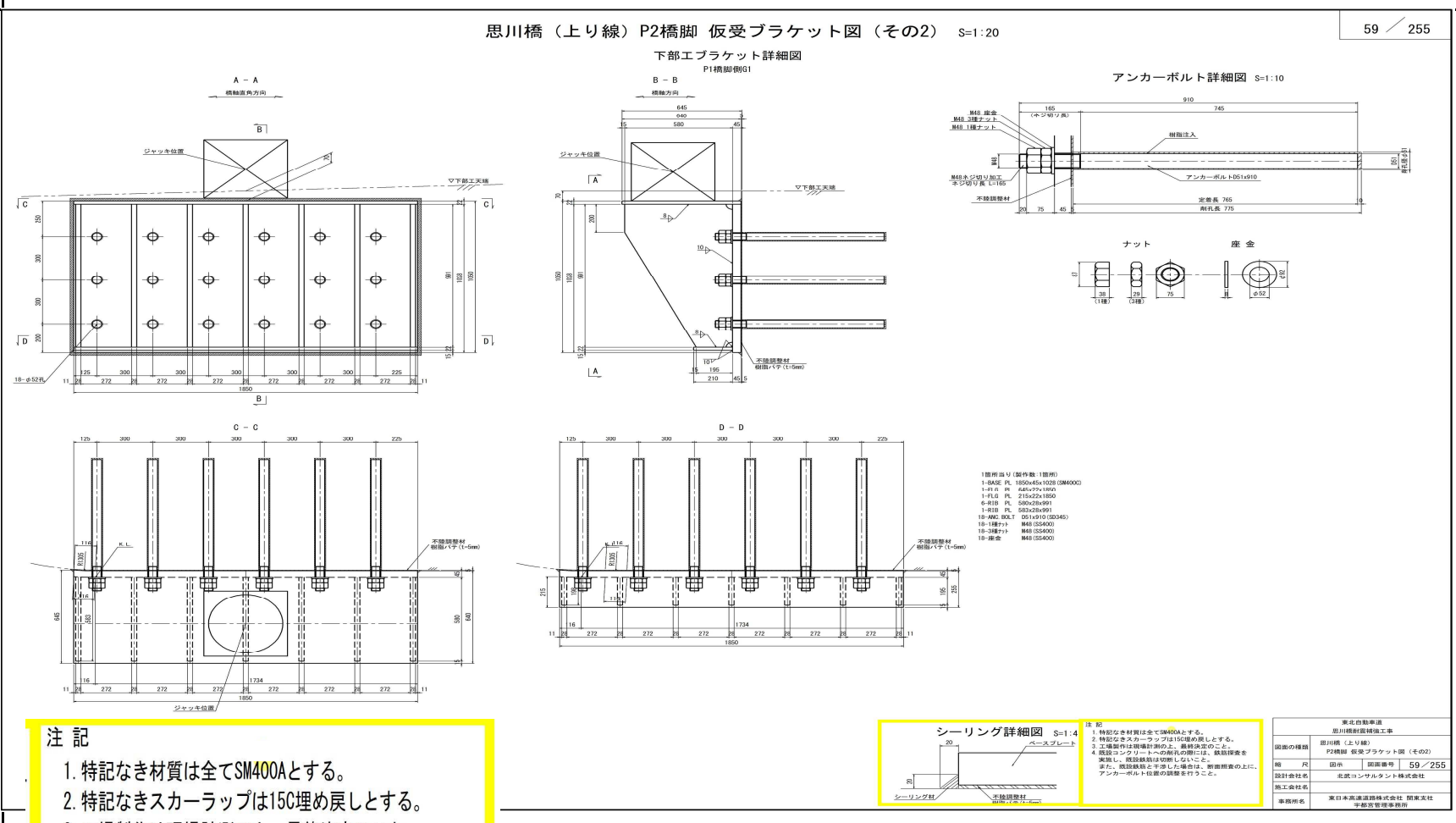
注 記

1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を
実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、
アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛
メッキ仕上げとする。

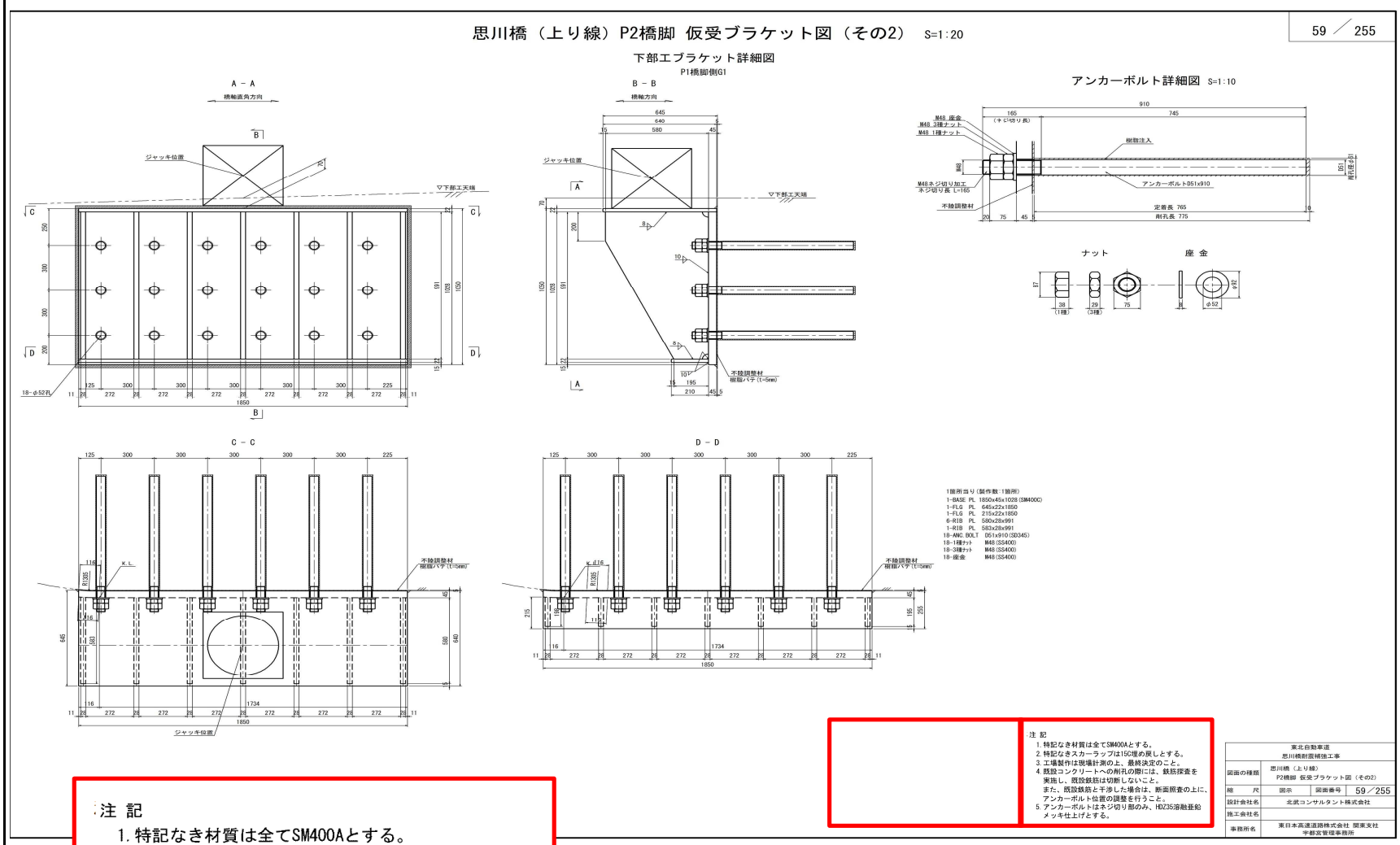
備考	「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記 シーリング詳細図の削除

対象	設計図　思川橋（上り線）Ｐ2橋脚 仮受ブラケット図（その2）（59/255）
誤	
正	
備考	「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記 シーリング詳細図の削除

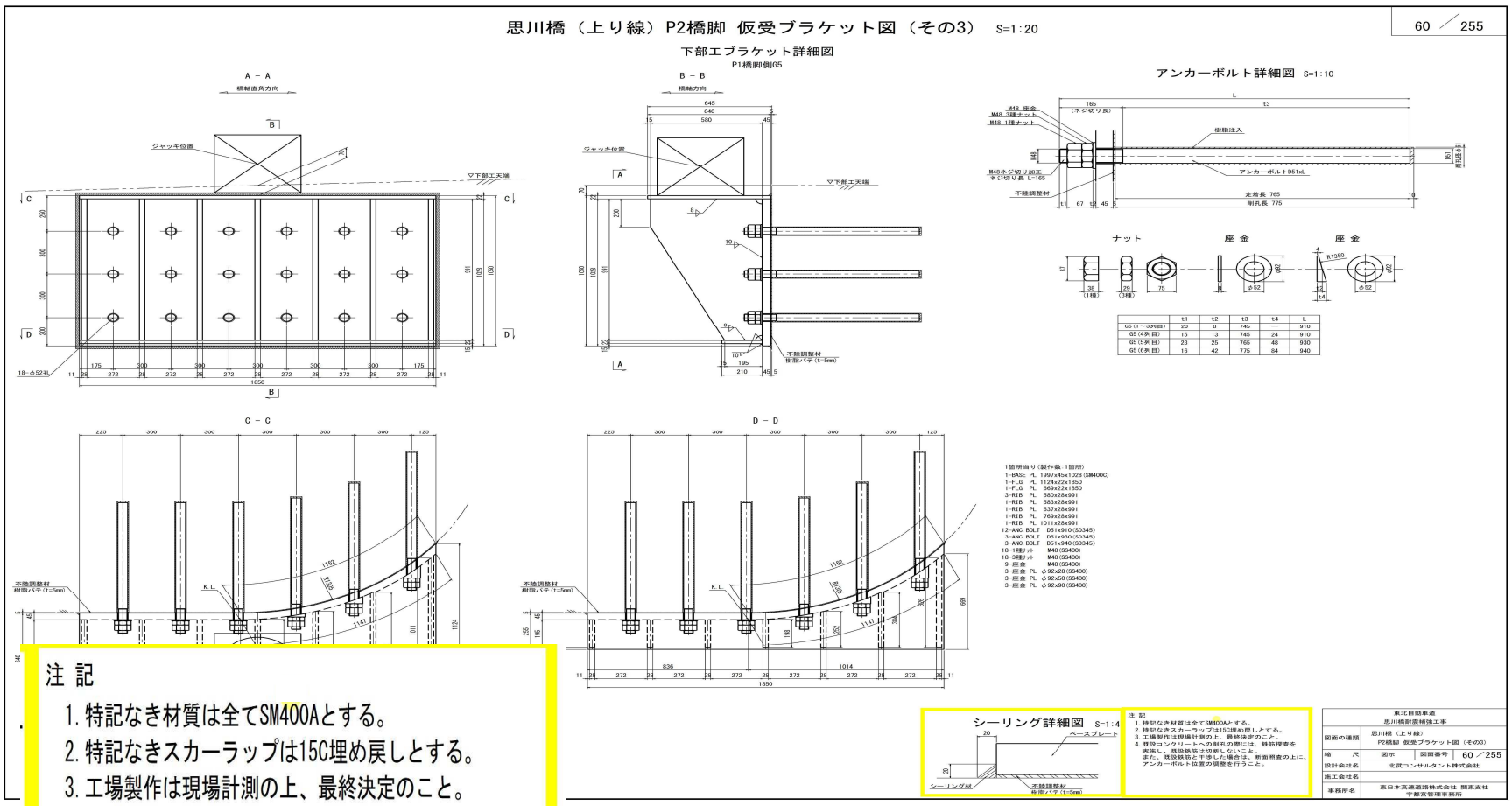
誤

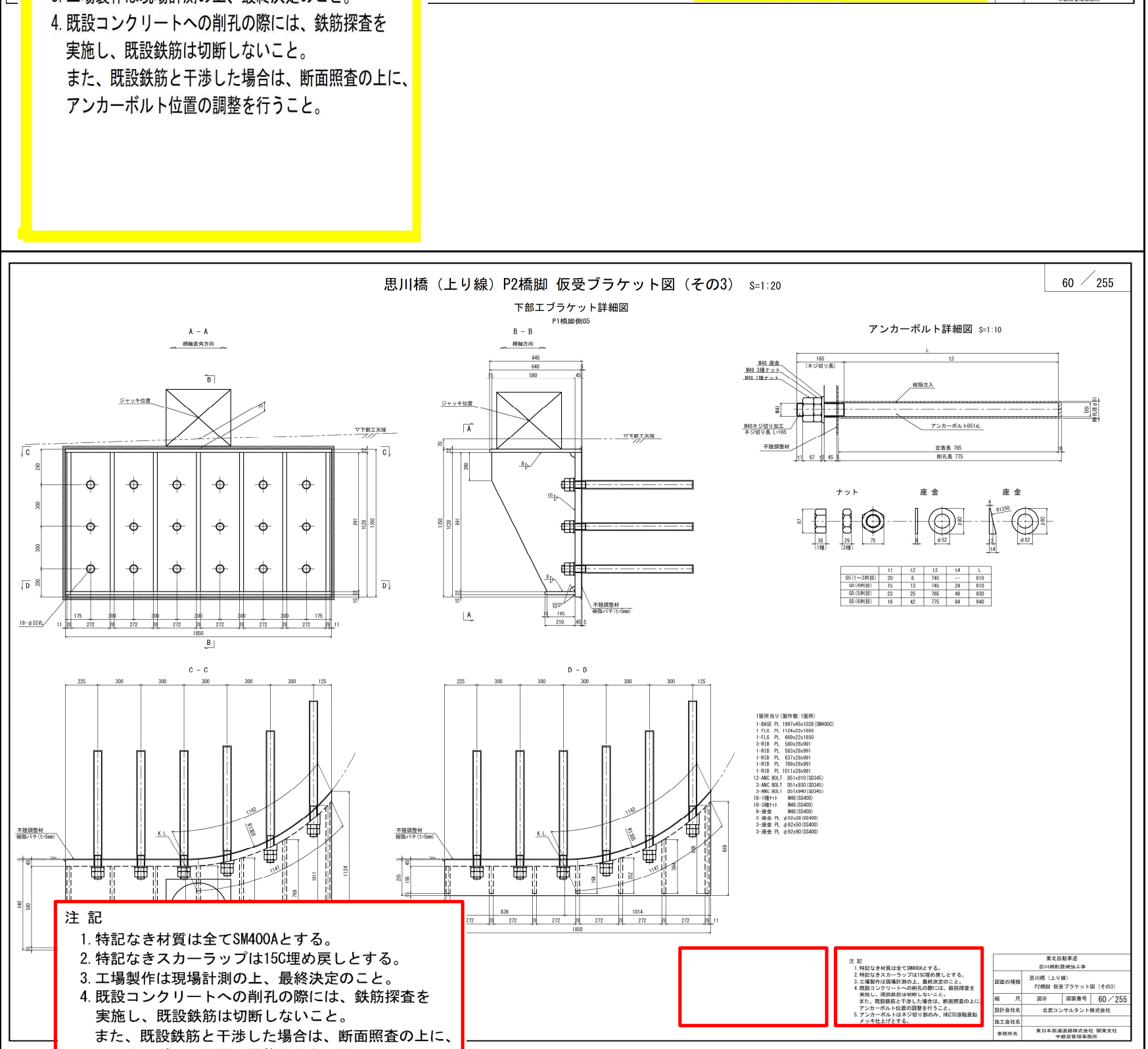


正

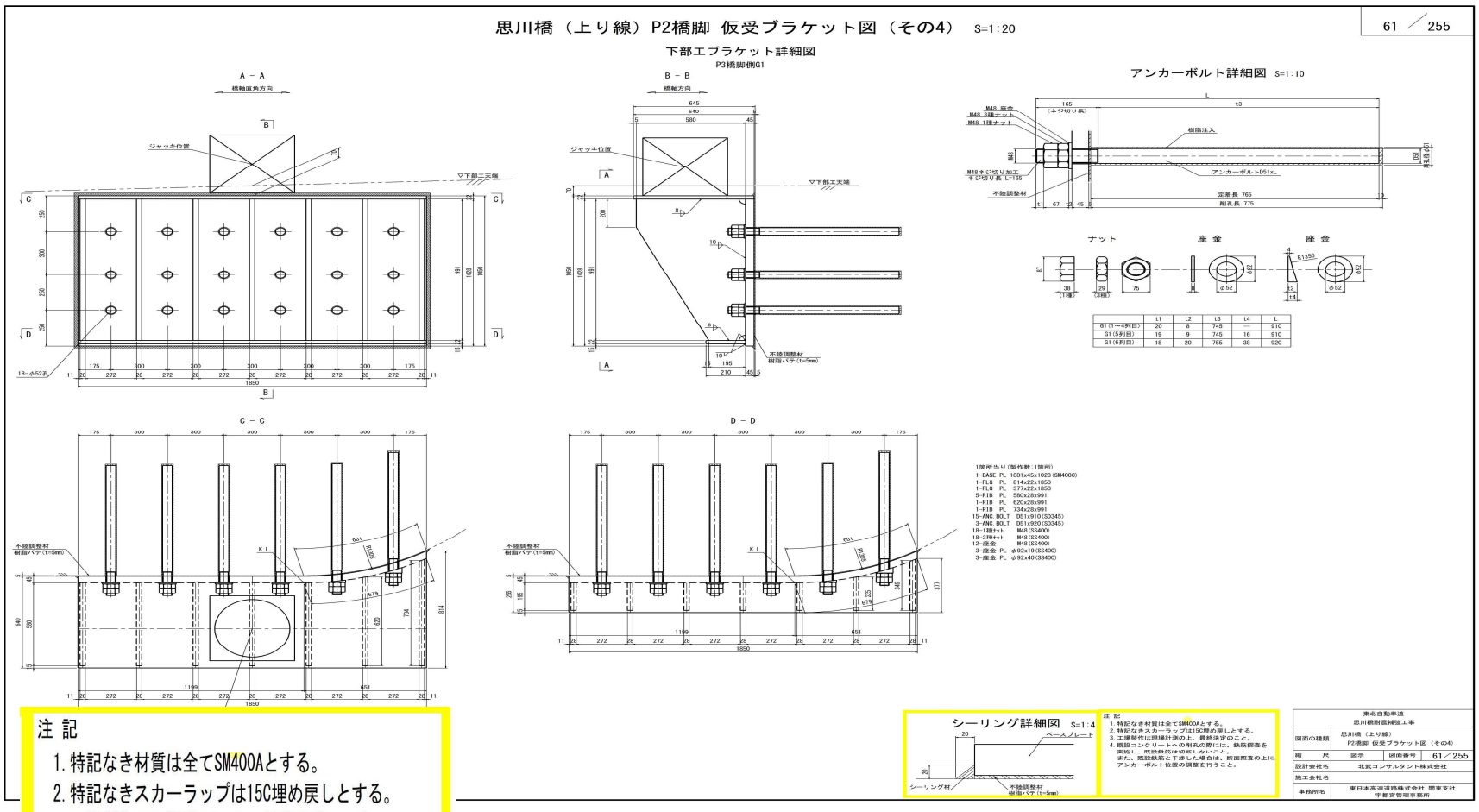


対象	設計図　思川橋（上り線）Ｐ2橋脚 仮受ブラケット図（その3）（60/255）
誤	
正	
備考	「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記 シーリング詳細図の削除

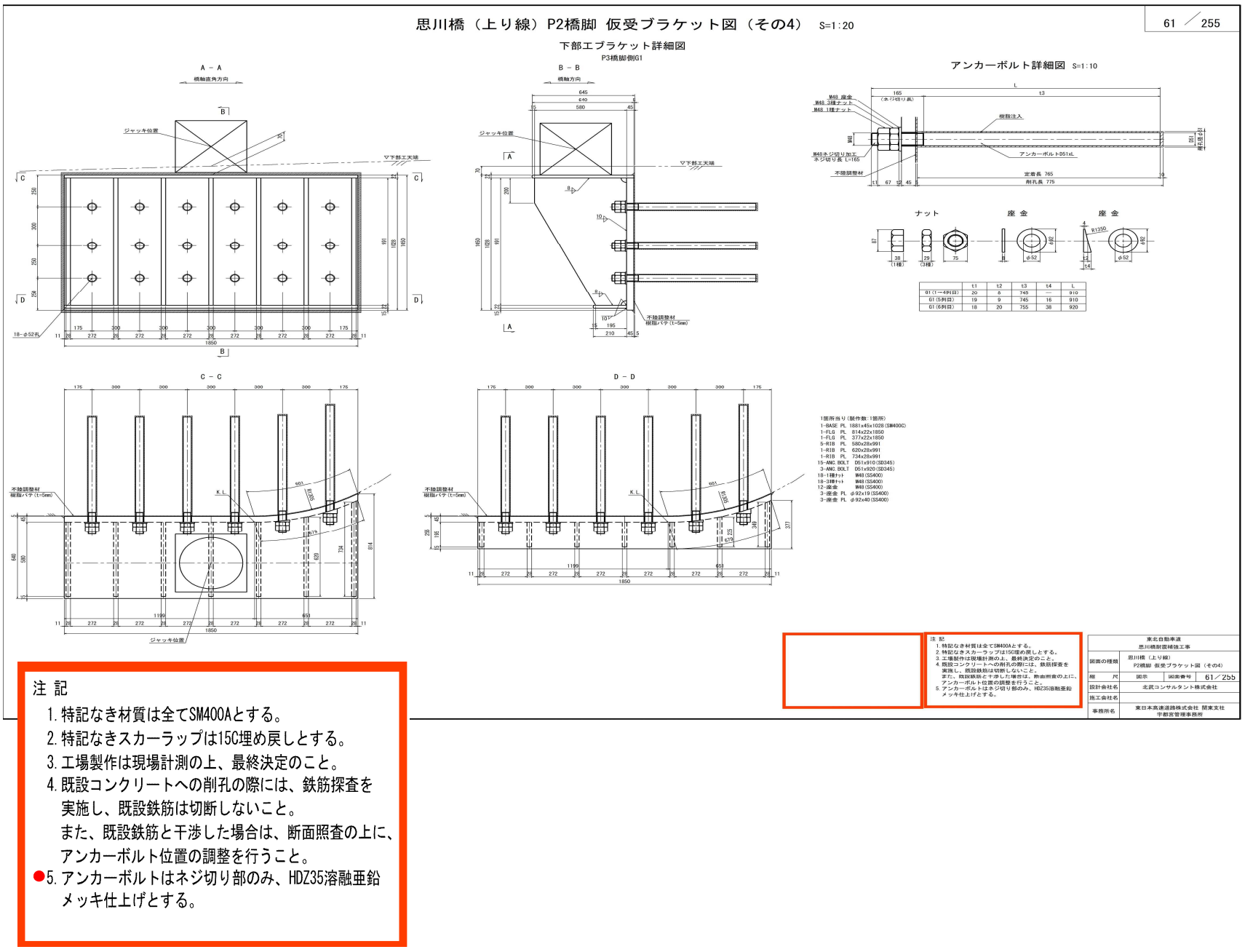




対象	設計図　思川橋（上り線）Ｐ2橋脚 仮受ブラケット図（その4）(61/255)
誤	

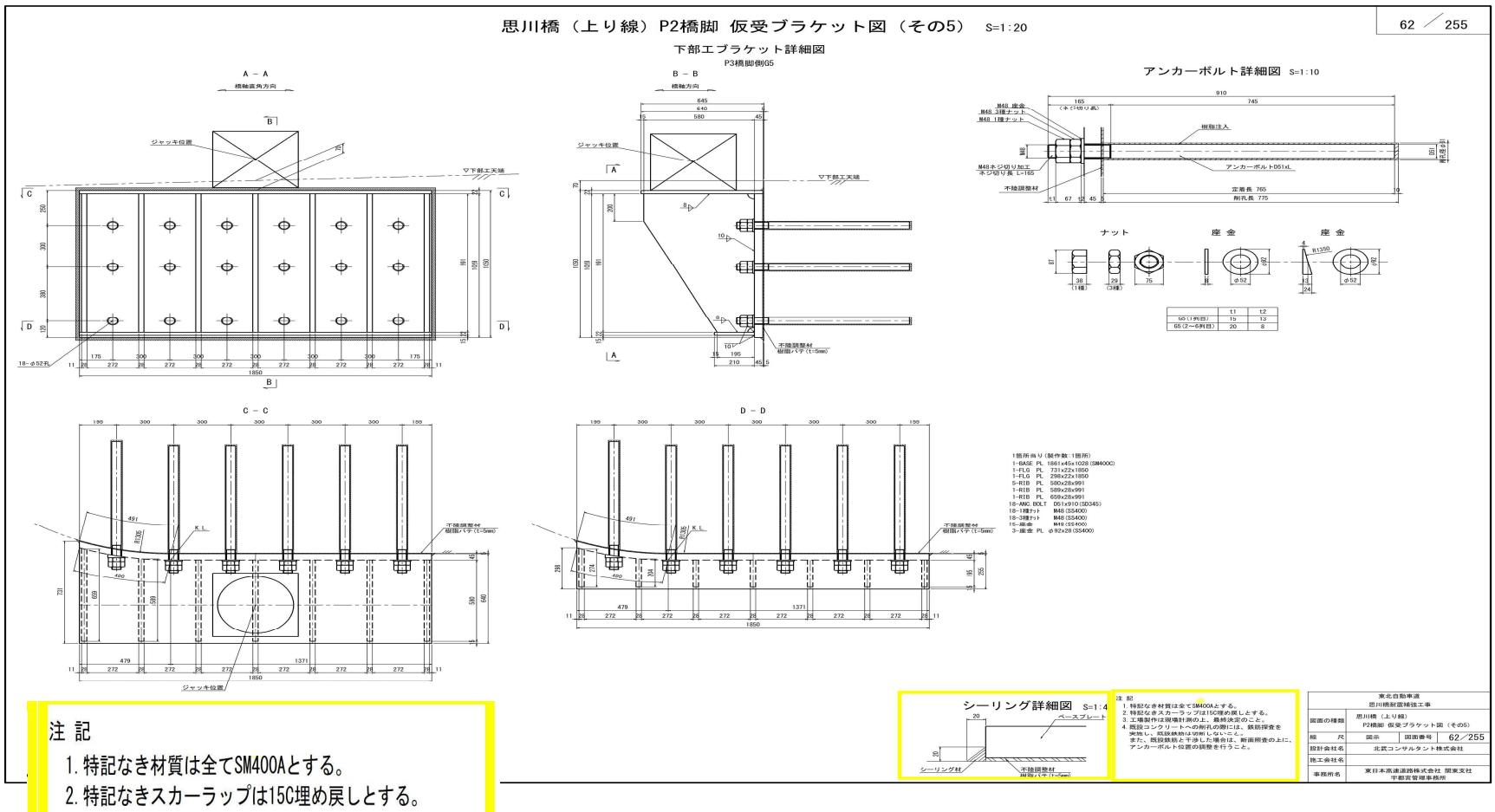


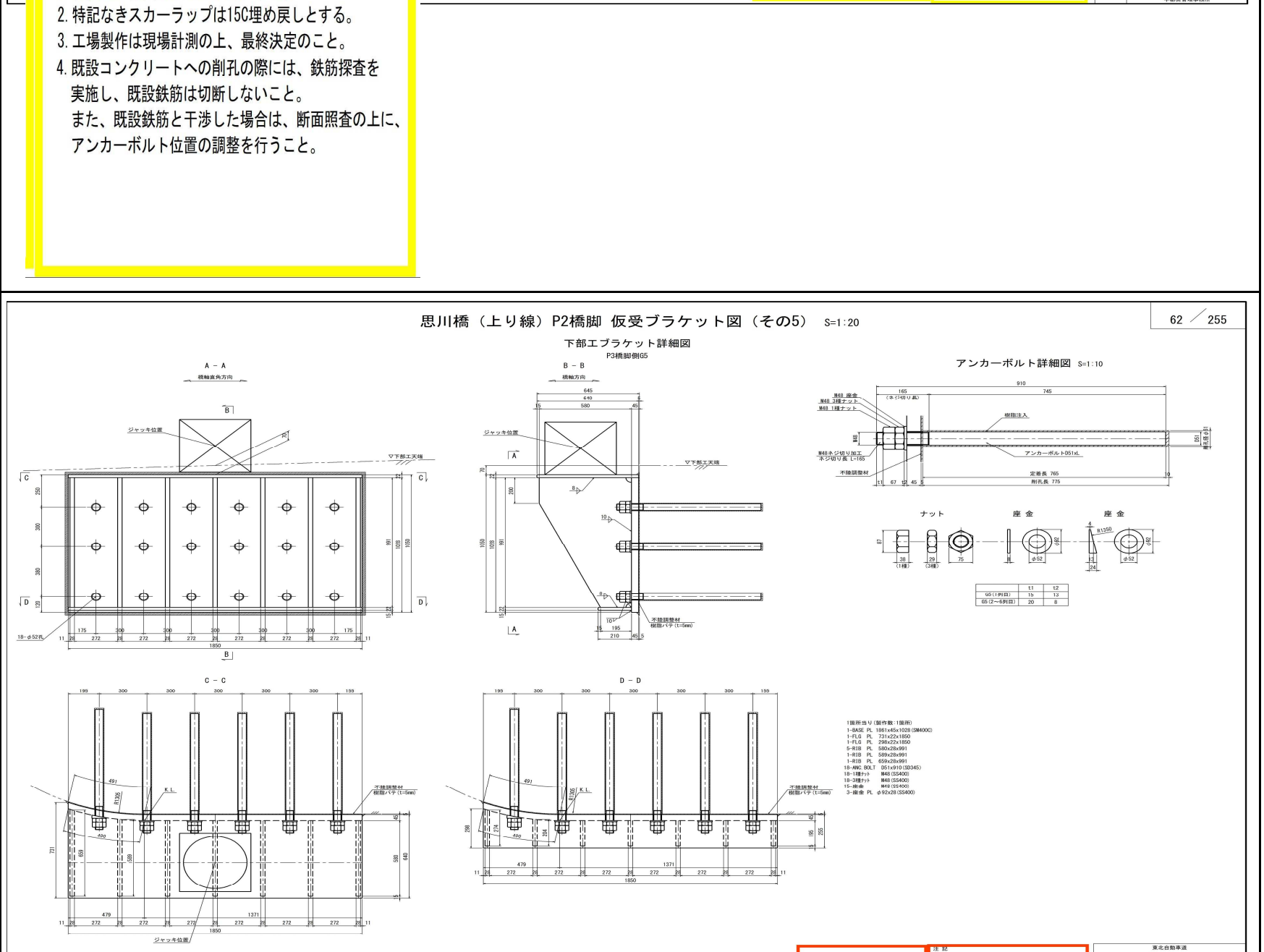
正	



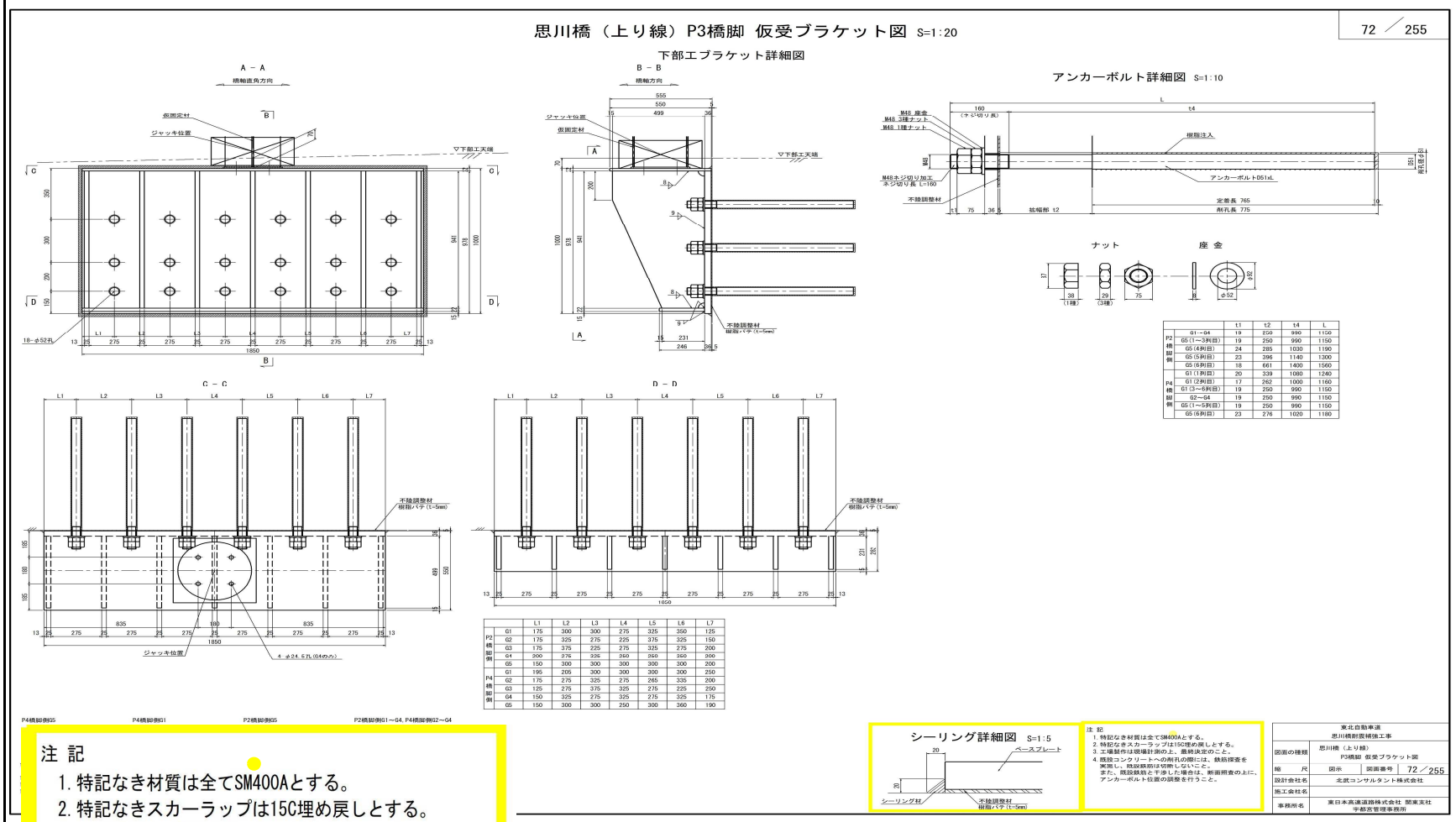
備考	「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記 シーリング詳細図の削除

対象	設計図　思川橋（上り線）Ｐ2橋脚 仮受ブラケット図（その5）(62/255)
誤	
正	
備考	「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記 シーリング詳細図の削除

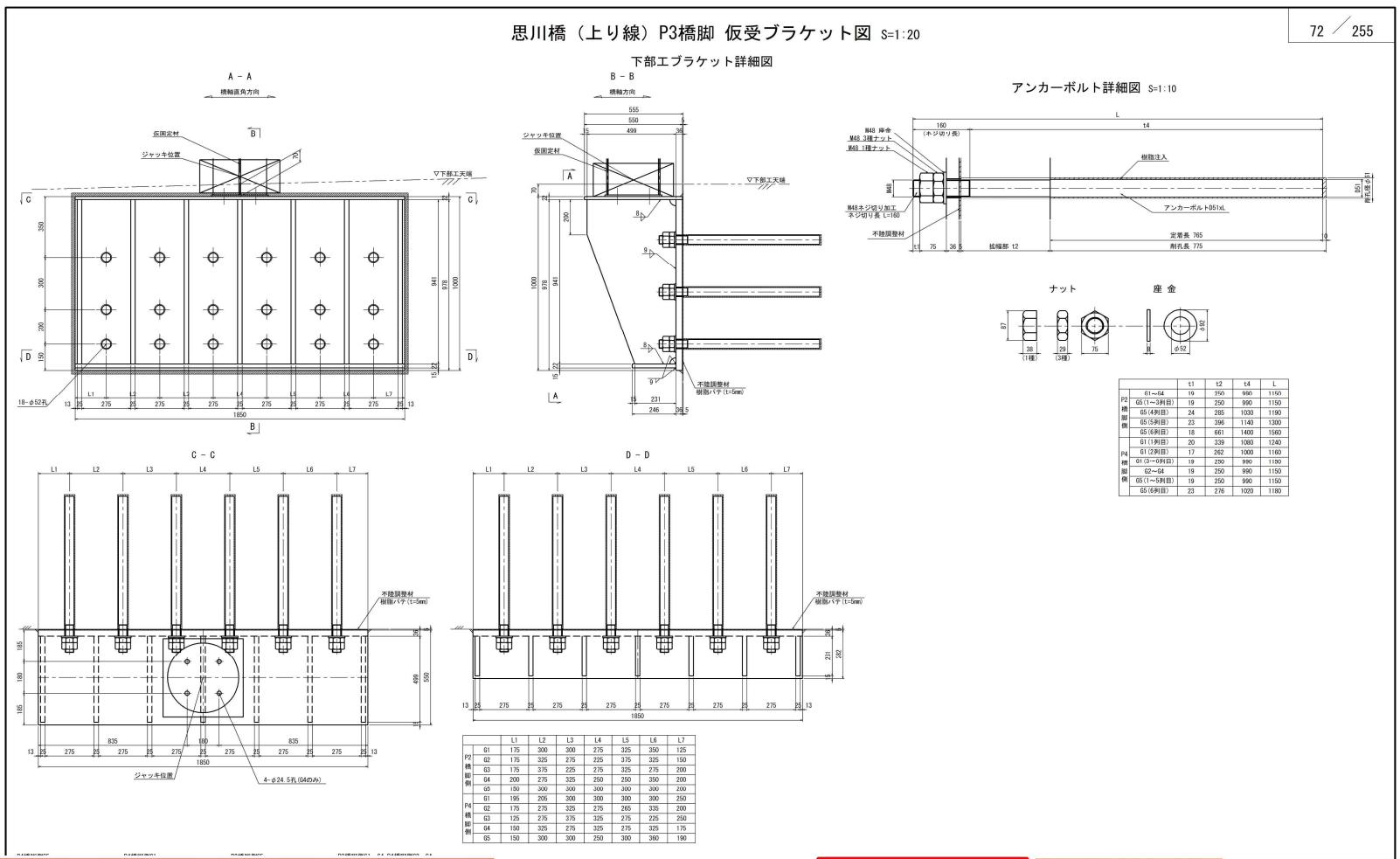




対象	設計図　思川橋（上り線）Ｐ3橋脚 仮受ブラケット図（72/255）
誤	

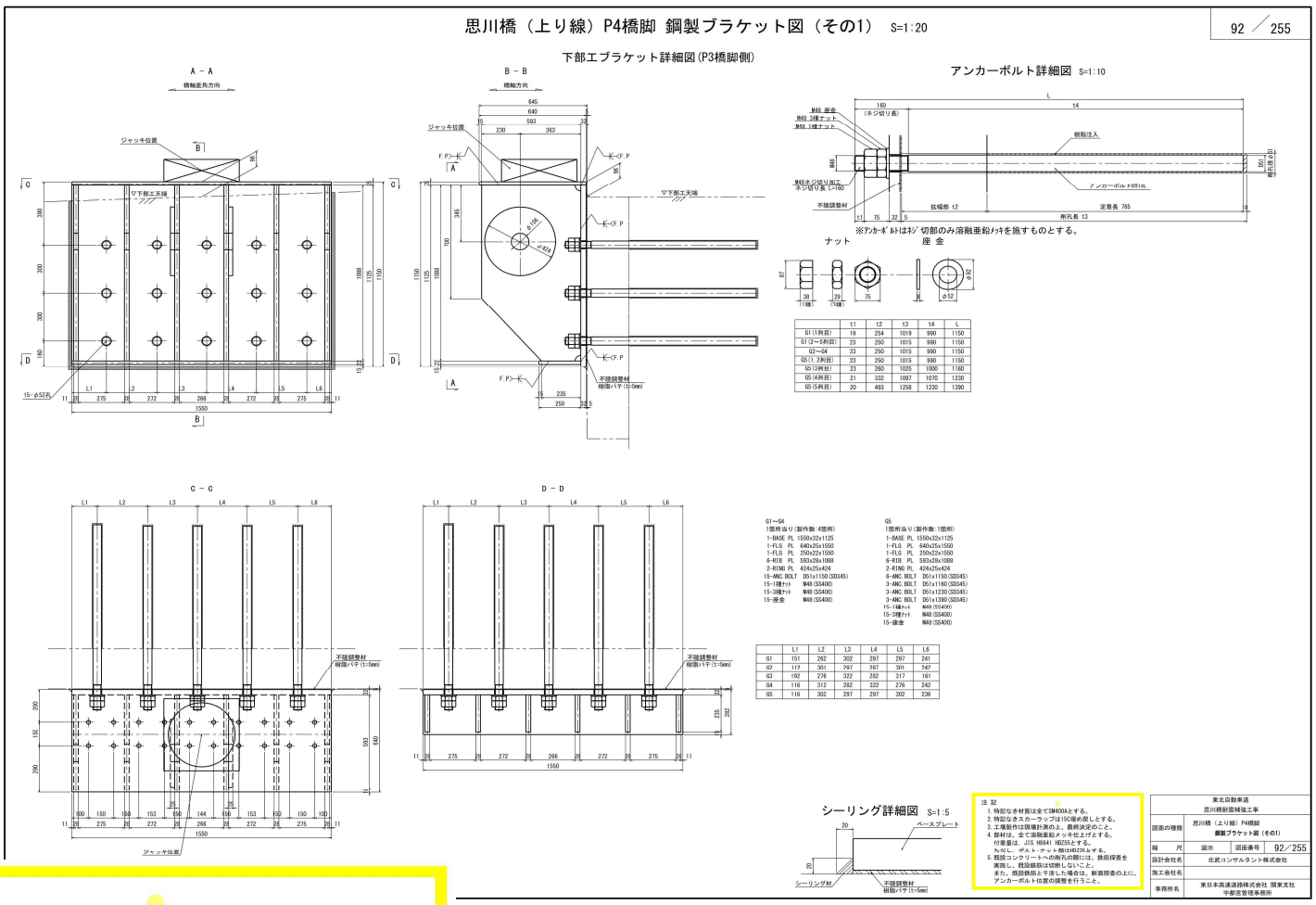


正	



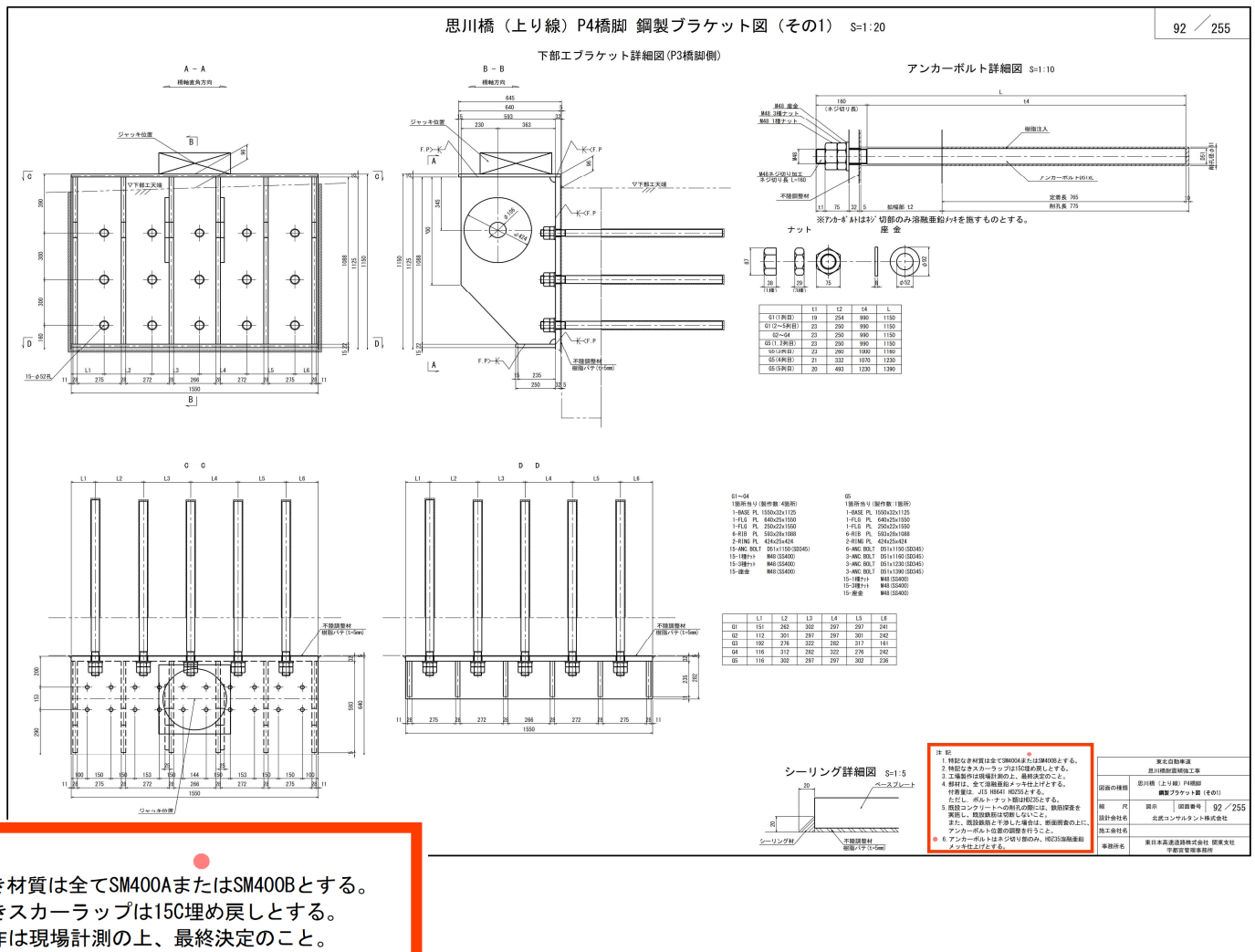
備考	注記欄「1.仮受ブラケットの特記なき材質」をSM400A⇒SM400AまたはSM400Bに修正 「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記 シーリング詳細図の削除

対象	設計図　思川橋（上り線）Ｐ４（Ｐ３橋脚側）橋脚 鋼製ブラケット図（その１）（92/255）
誤	



注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
付着量は，JIS H8641 HDZ55とする。
ただし，ボルト･ナット類はHDZ35とする。
5. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を
実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、
アンカーボルト位置の調整を行うこと。

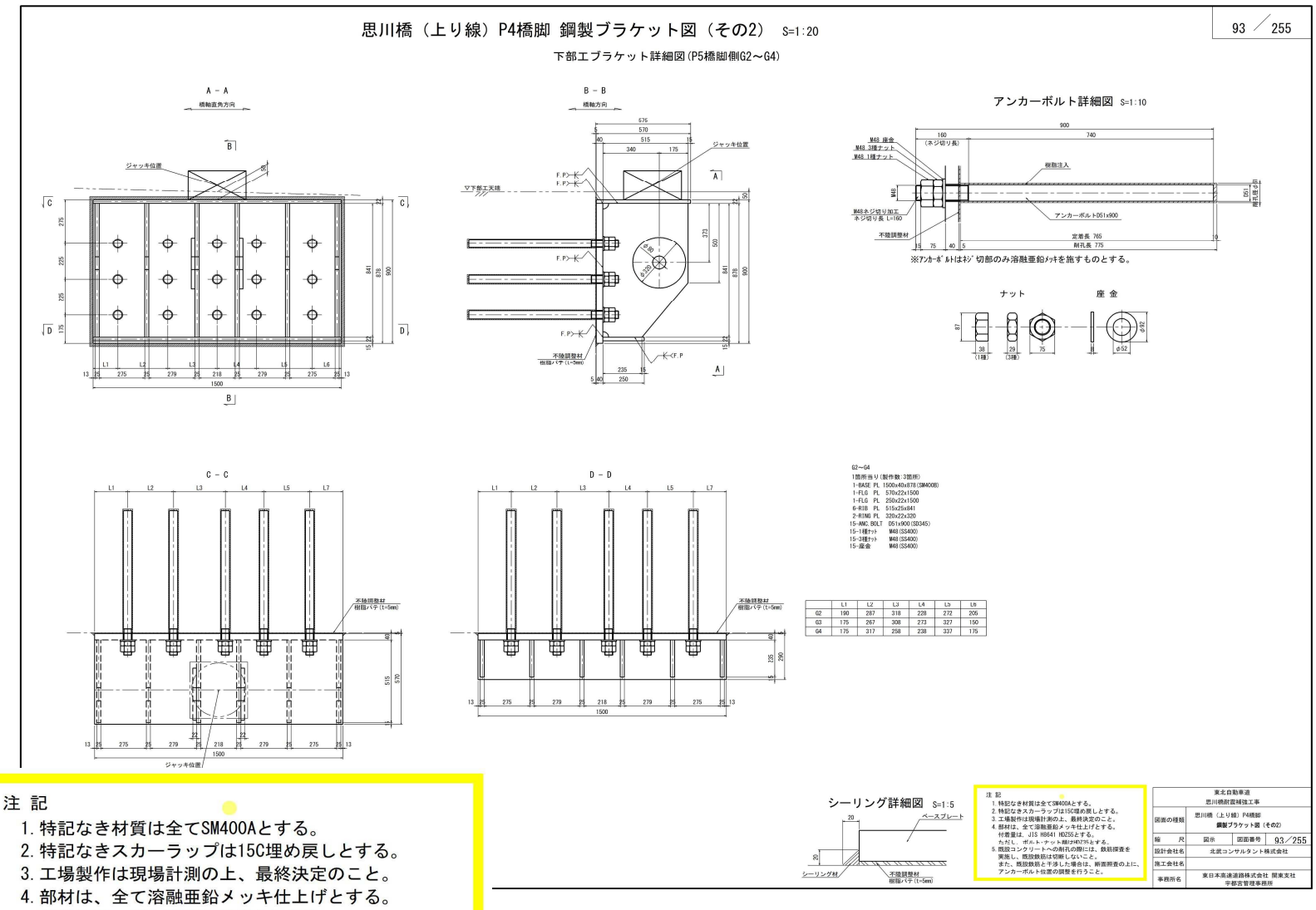
正	



注 記
1. 特記なき材質は全てSM400AまたはSM400Bとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
付着量は，JIS H8641 HDZ55とする。
ただし，ボルト･ナット類はHDZ35とする。
5. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を
実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、
アンカーボルト位置の調整を行うこと。
6. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛
メッキ仕上げとする。

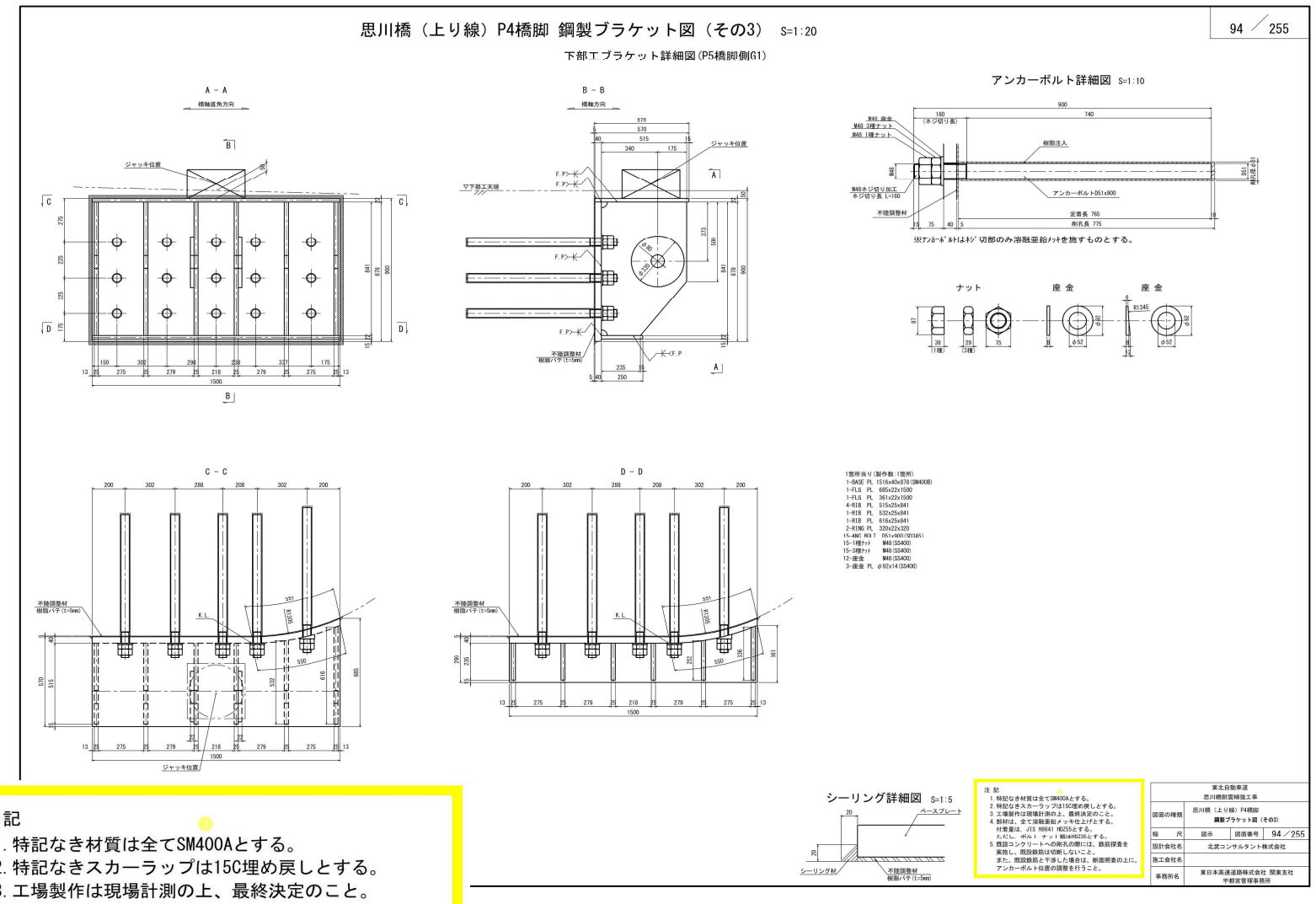
備考	注記欄「1.仮受ブラケットの特記なき材質」をSM400A⇒SM400AまたはSM400Bに修正　「6.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記

対象	設計図　思川橋（上り線）Ｐ４（Ｐ５橋脚側）橋脚 鋼製ブラケット図（その２）（93/255）
誤	
正	
備考	注記欄「1.仮受ブラケットの特記なき材質」をSM400A⇒SM400AまたはSM400Bに修正　「6.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記

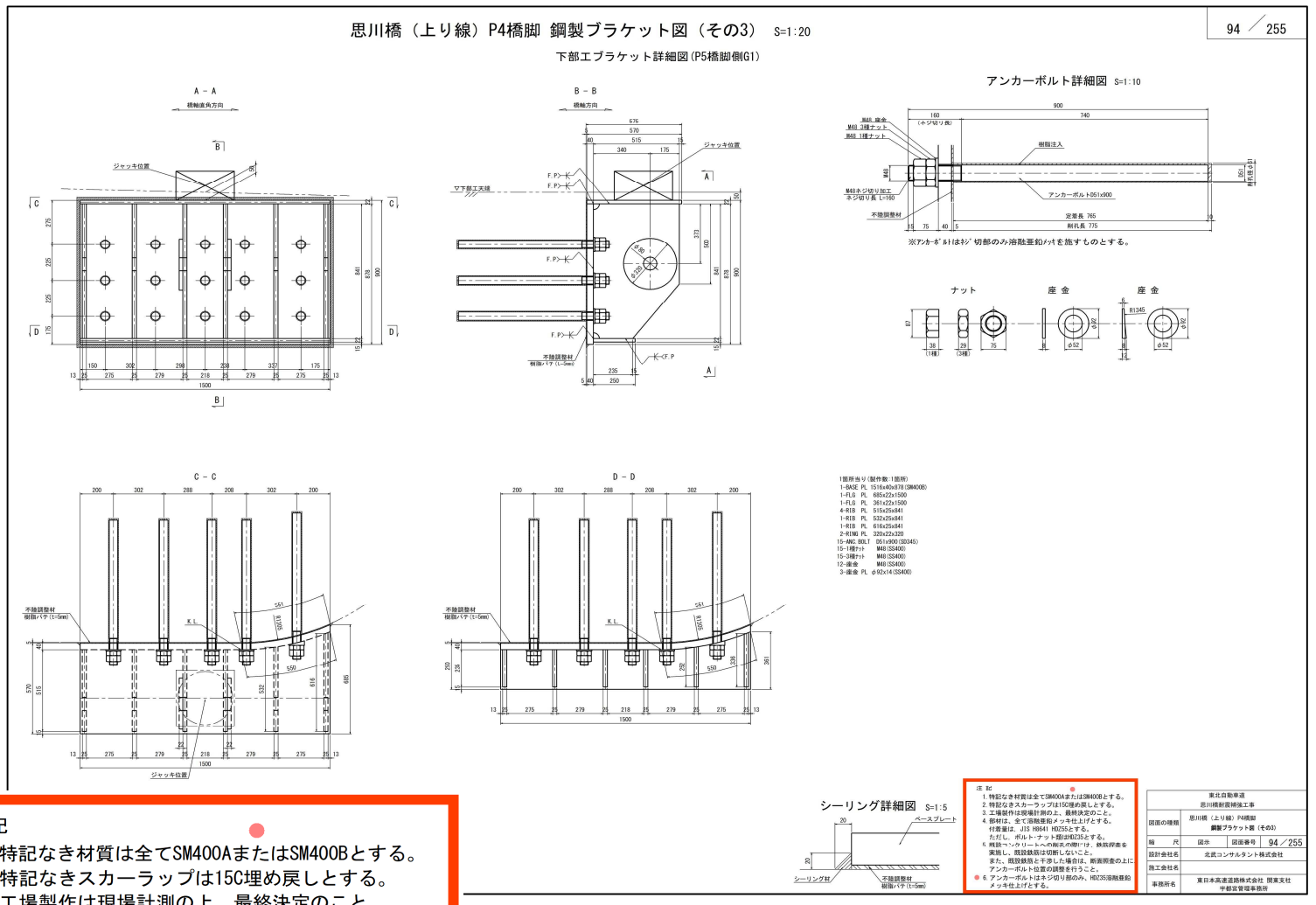


対象	設計図　思川橋（上り線）Ｐ４（Ｐ５橋脚側）橋脚 鋼製ブラケット図（その３）（94/255）
誤	
正	
備考	注記欄「1.仮受ブラケットの特記なき材質」をSM400A⇒SM400AまたはSM400Bに修正　「6.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記

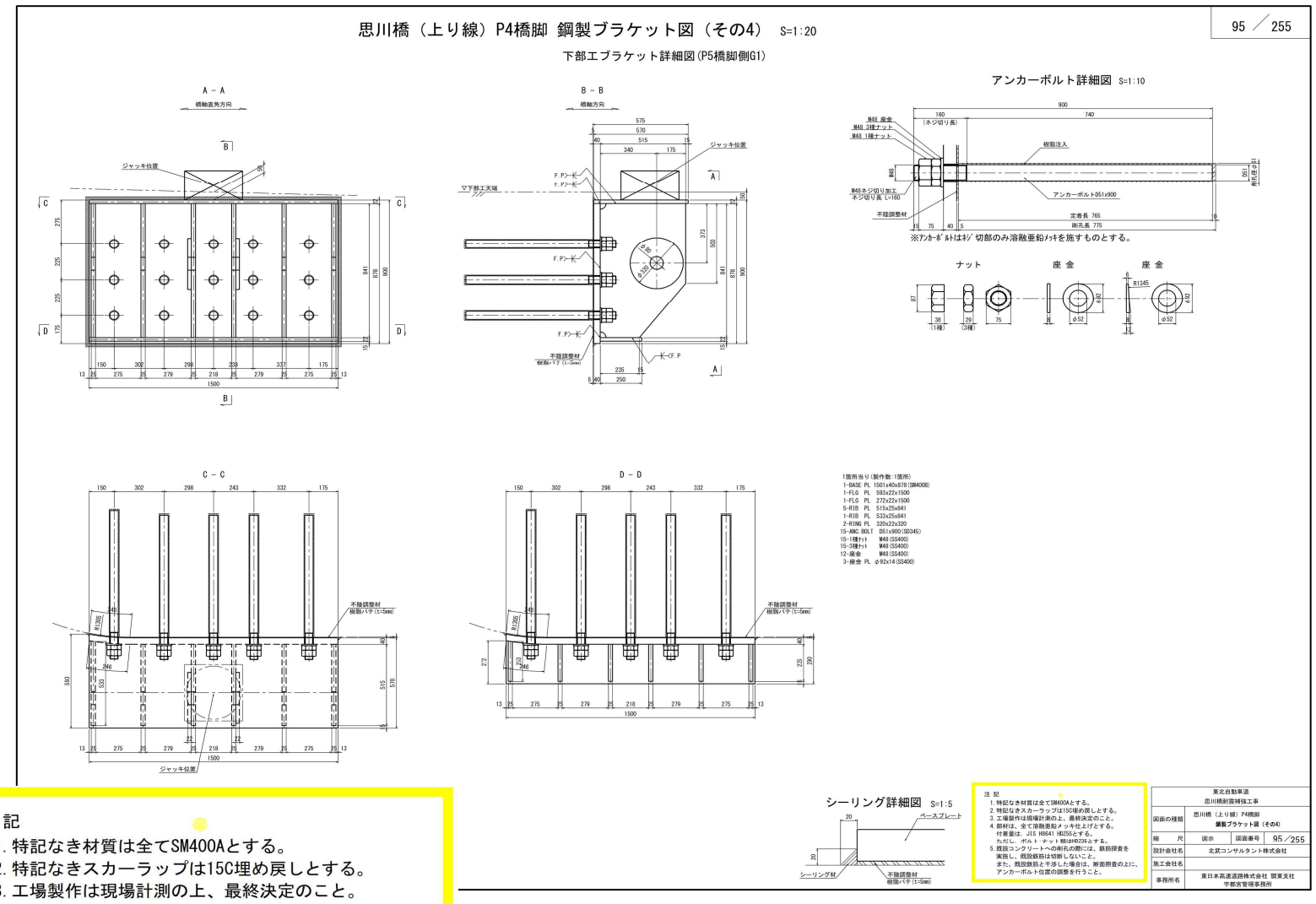
誤



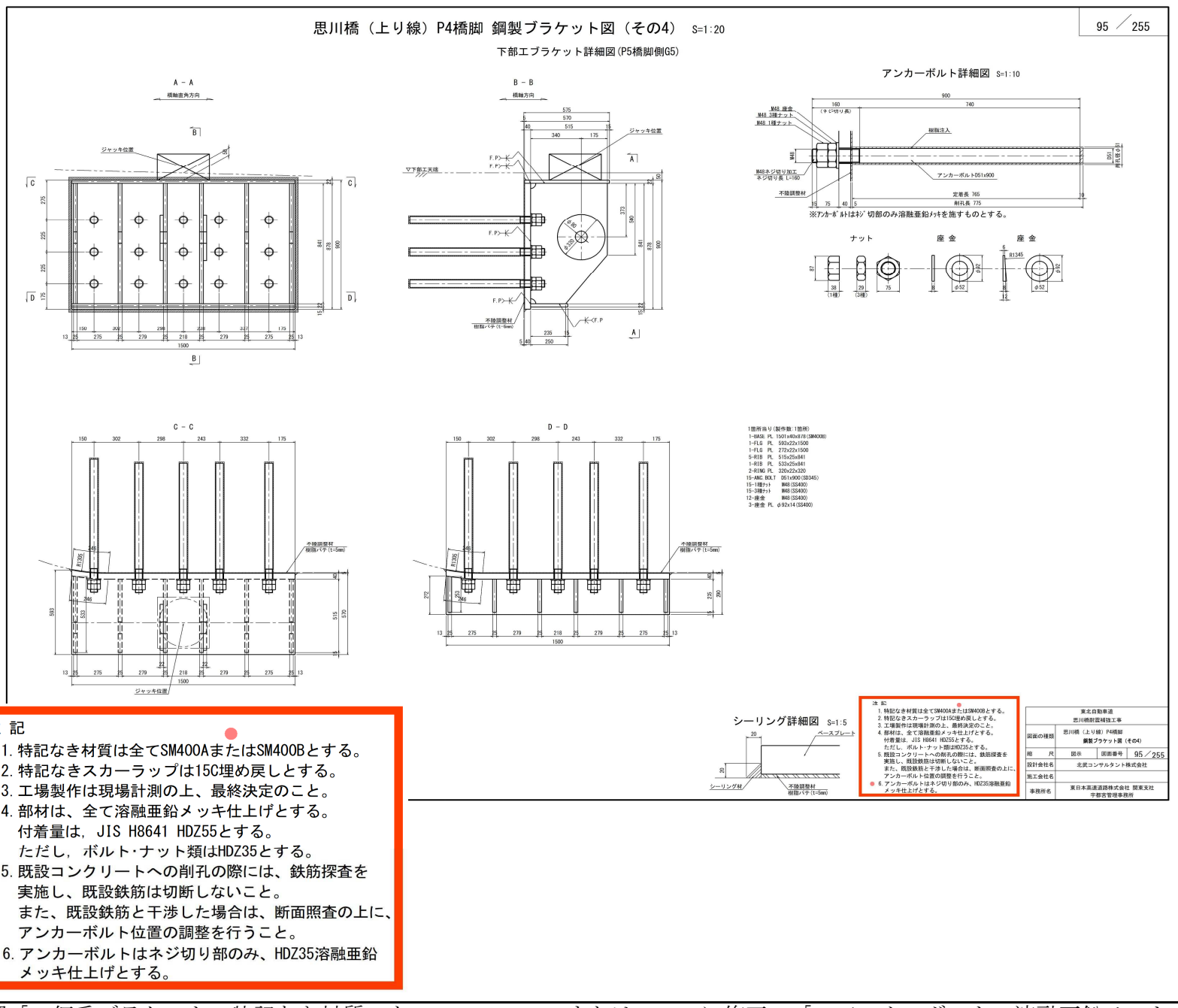
正



対象	設計図　思川橋（上り線）Ｐ４橋脚 鋼製ブラケット図（その４）（95/255）
誤	

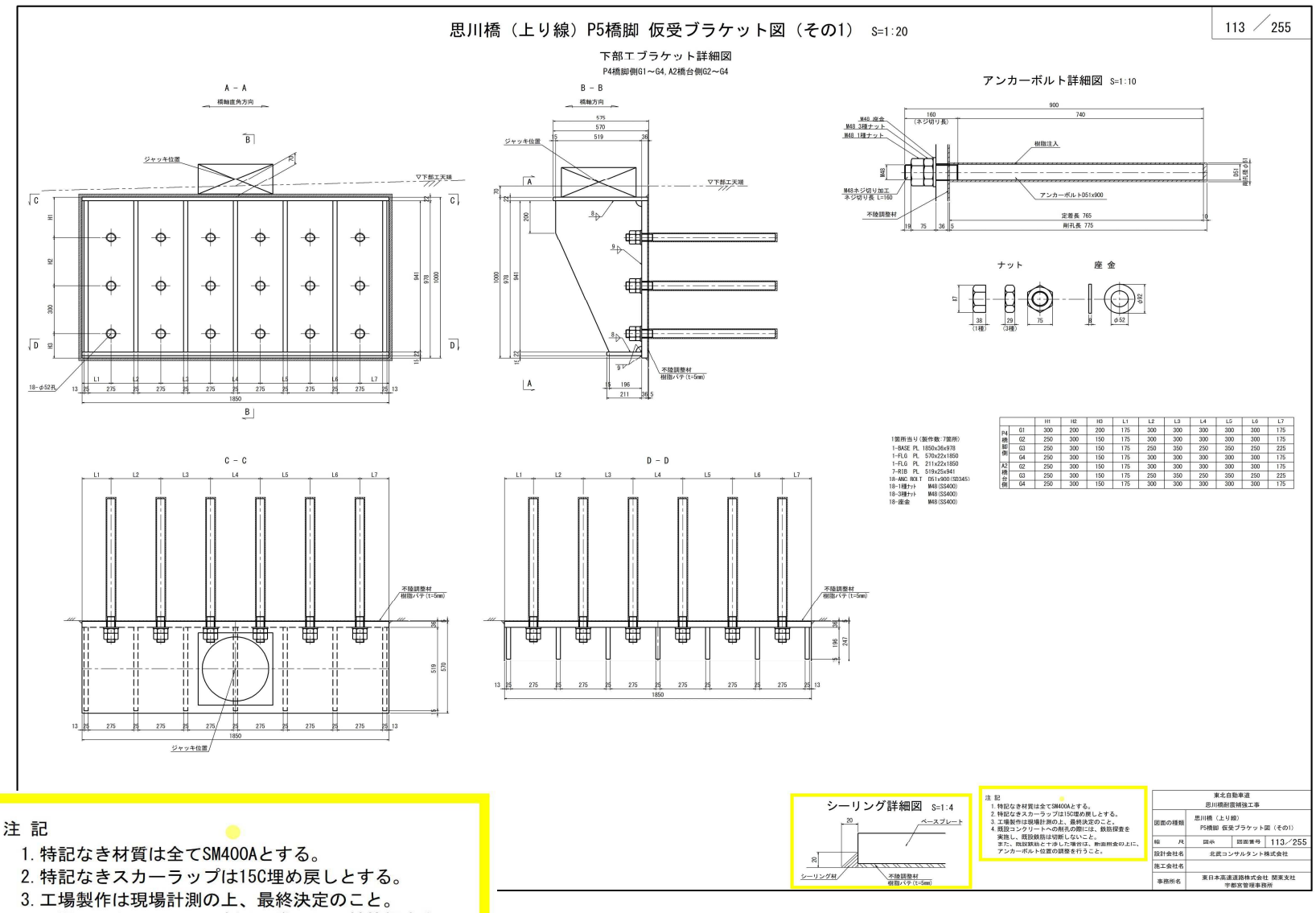


正	



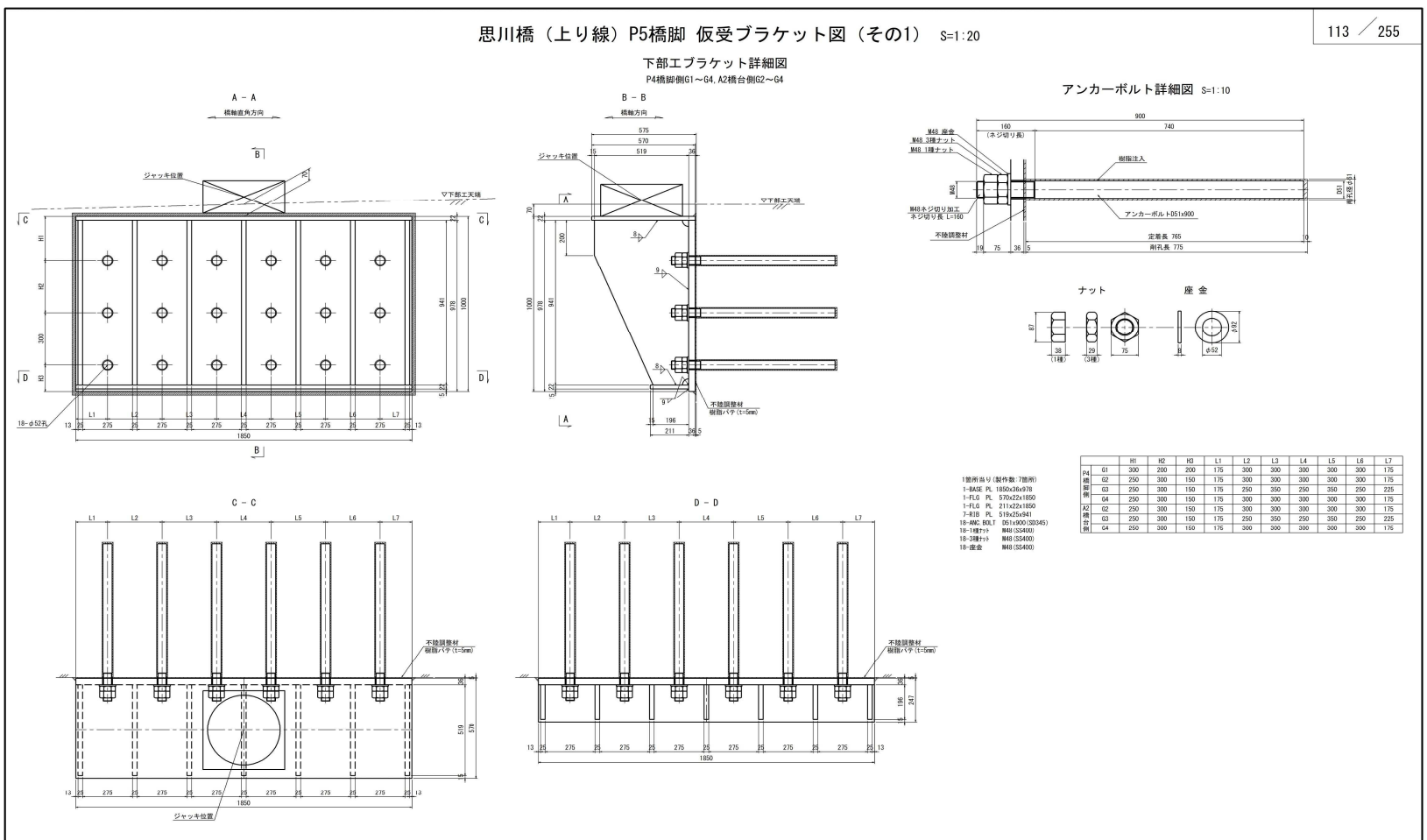
備考	注記欄「1.仮受ブラケットの特記なき材質」をSM400A⇒SM400AまたはSM400Bに修正　「6.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記

対象	設計図　思川橋（上り線）Ｐ5橋脚 仮受ブラケット図（その1）（113/255）
誤	



注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。

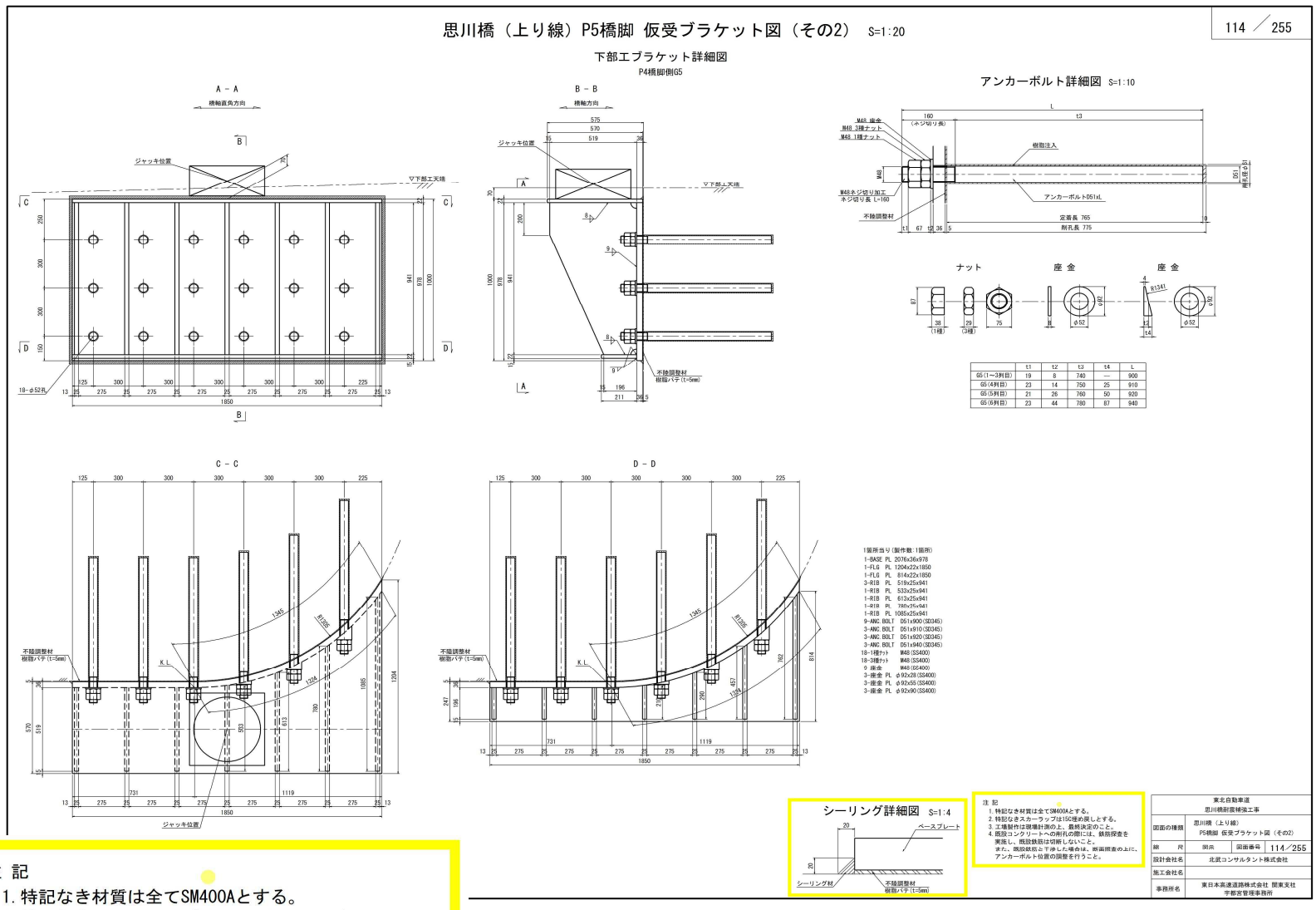
正	



注 記
1. 特記なき材質は全てSM400AまたはSM400Bとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

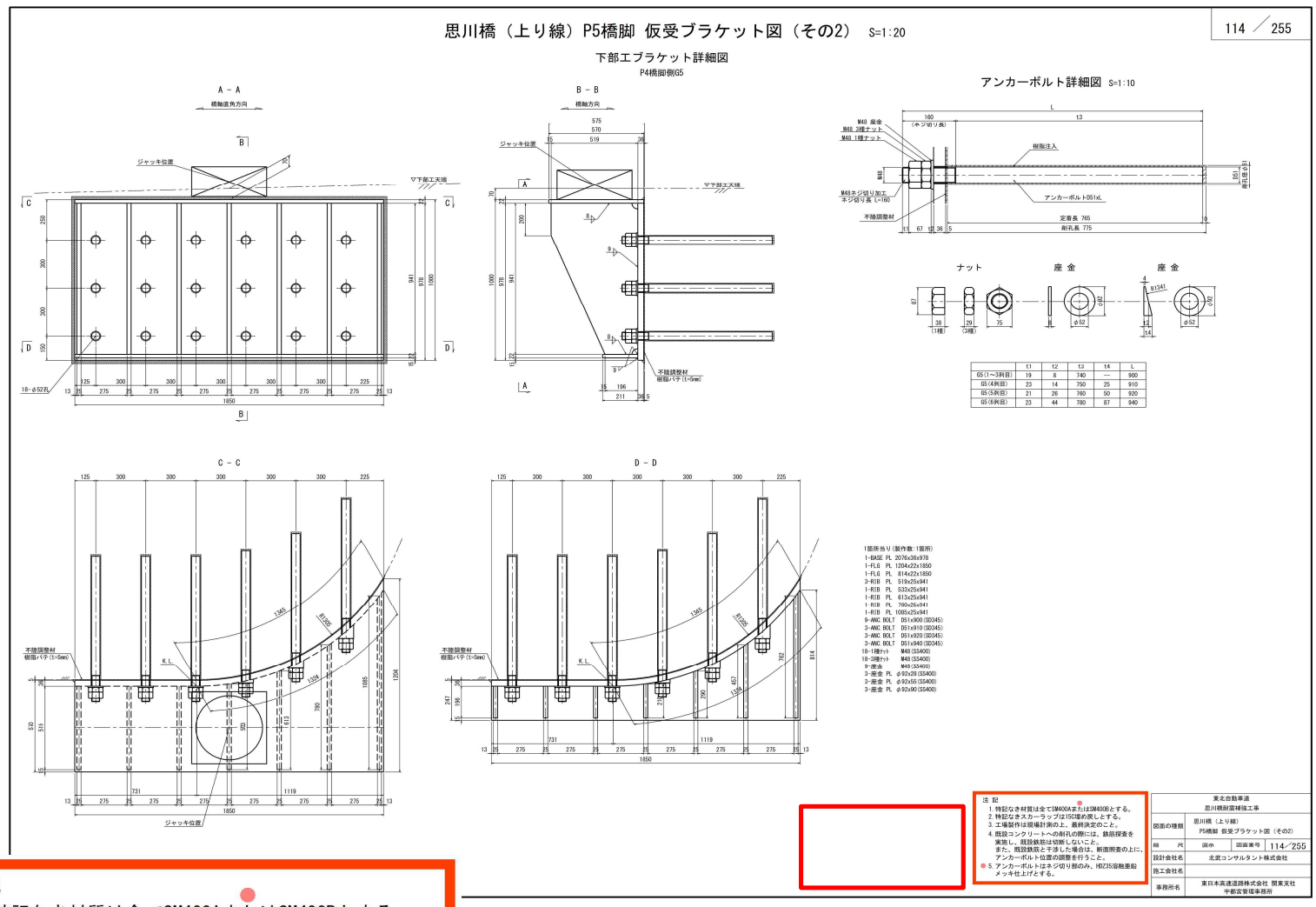
備考	注記欄「1.仮受ブラケットの特記なき材質」をSM400A⇒SM400AまたはSM400Bに修正　「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記 シーリング詳細図の削除

対象	設計図　思川橋（上り線）Ｐ5橋脚 仮受ブラケット図（その2）（114/255）
誤	



注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。

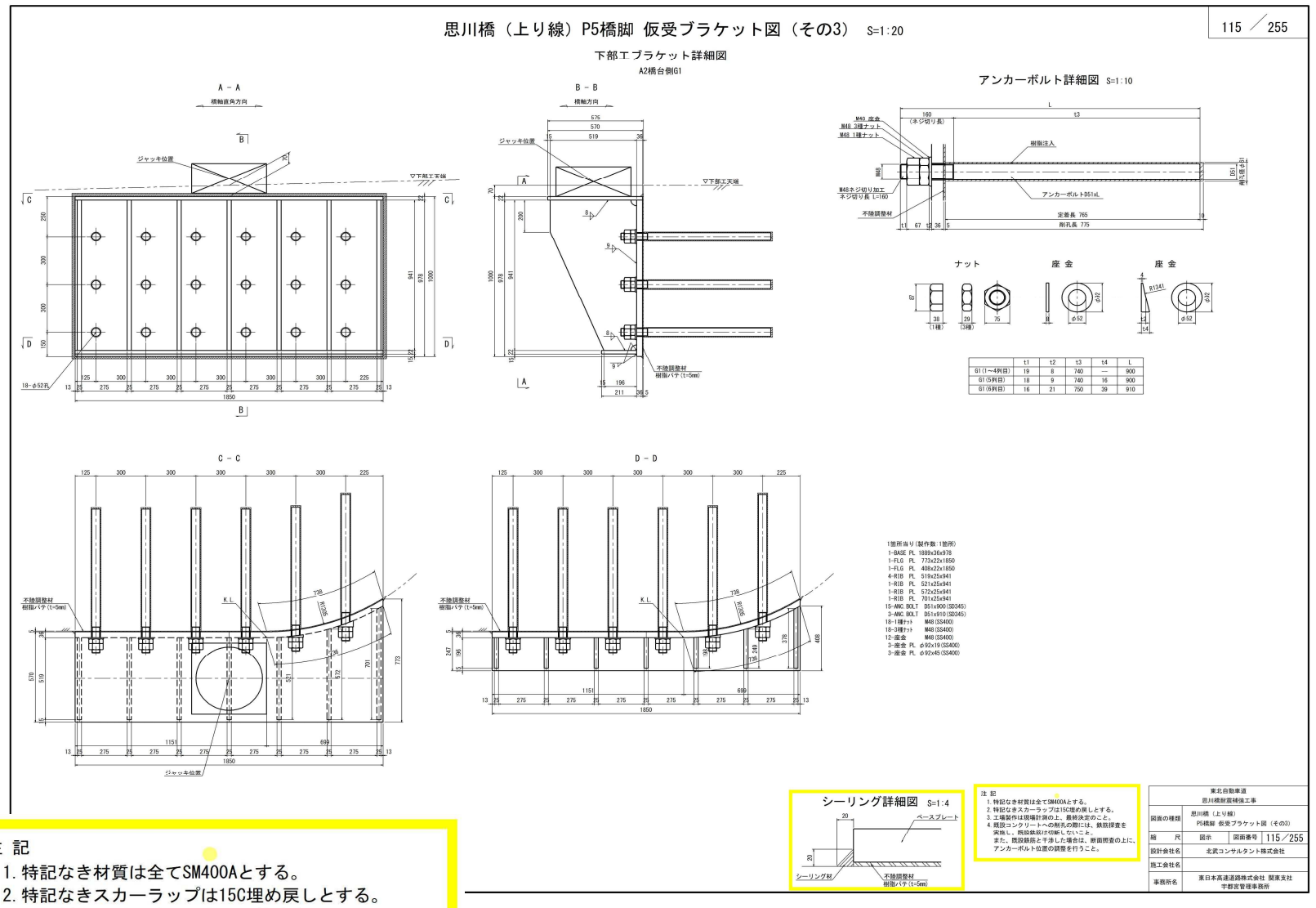
正	



注 記
1. 特記なき材質は全てSM400AまたはSM400Bとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

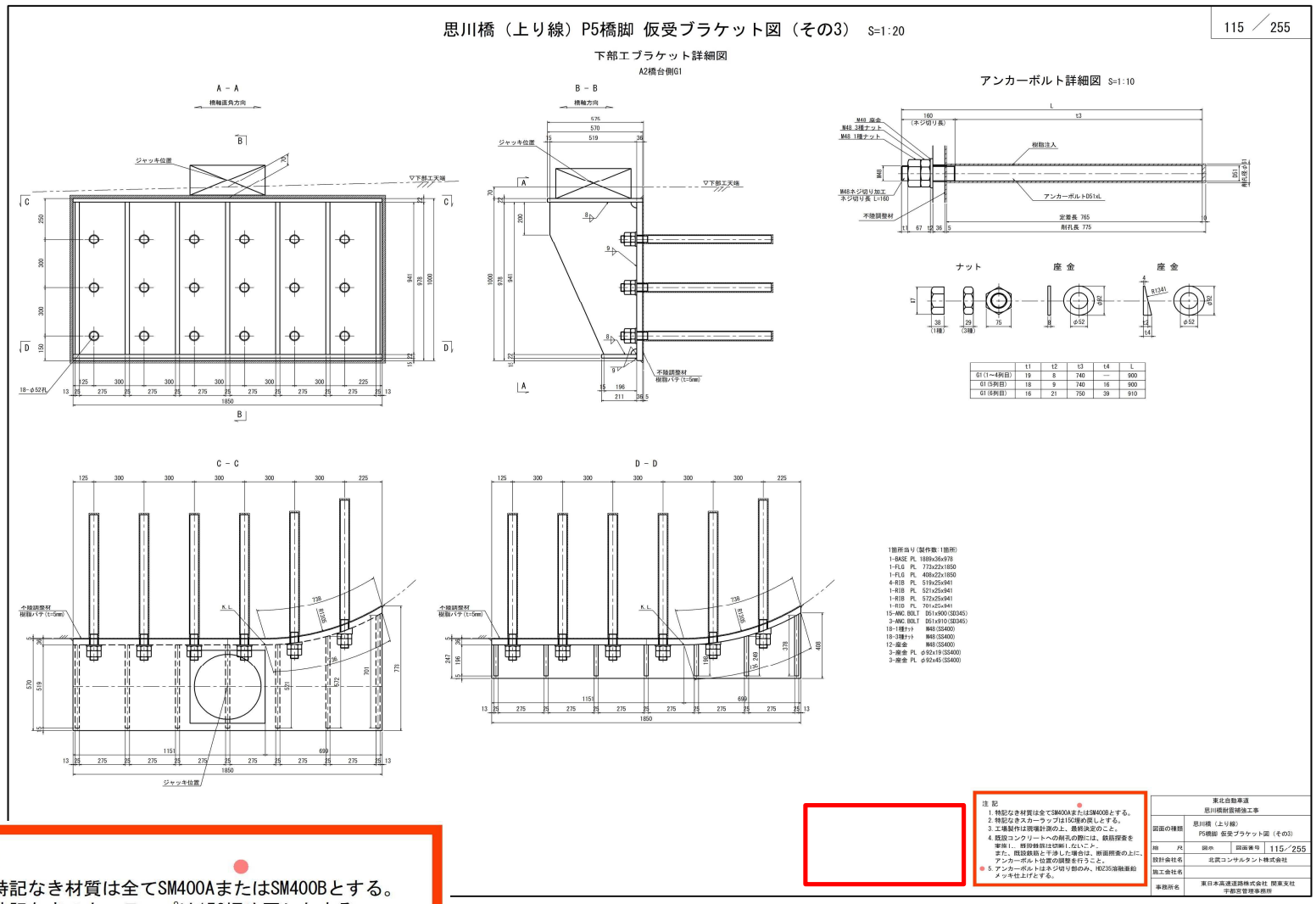
備考	注記欄「1.仮受ブラケットの特記なき材質」をSM400A⇒SM400AまたはSM400Bに修正　「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記 シーリング詳細図の削除

対象	設計図　思川橋（上り線）Ｐ5橋脚 仮受ブラケット図（その3）（115/255）
誤	



注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を
実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、
アンカーボルト位置の調整を行うこと。

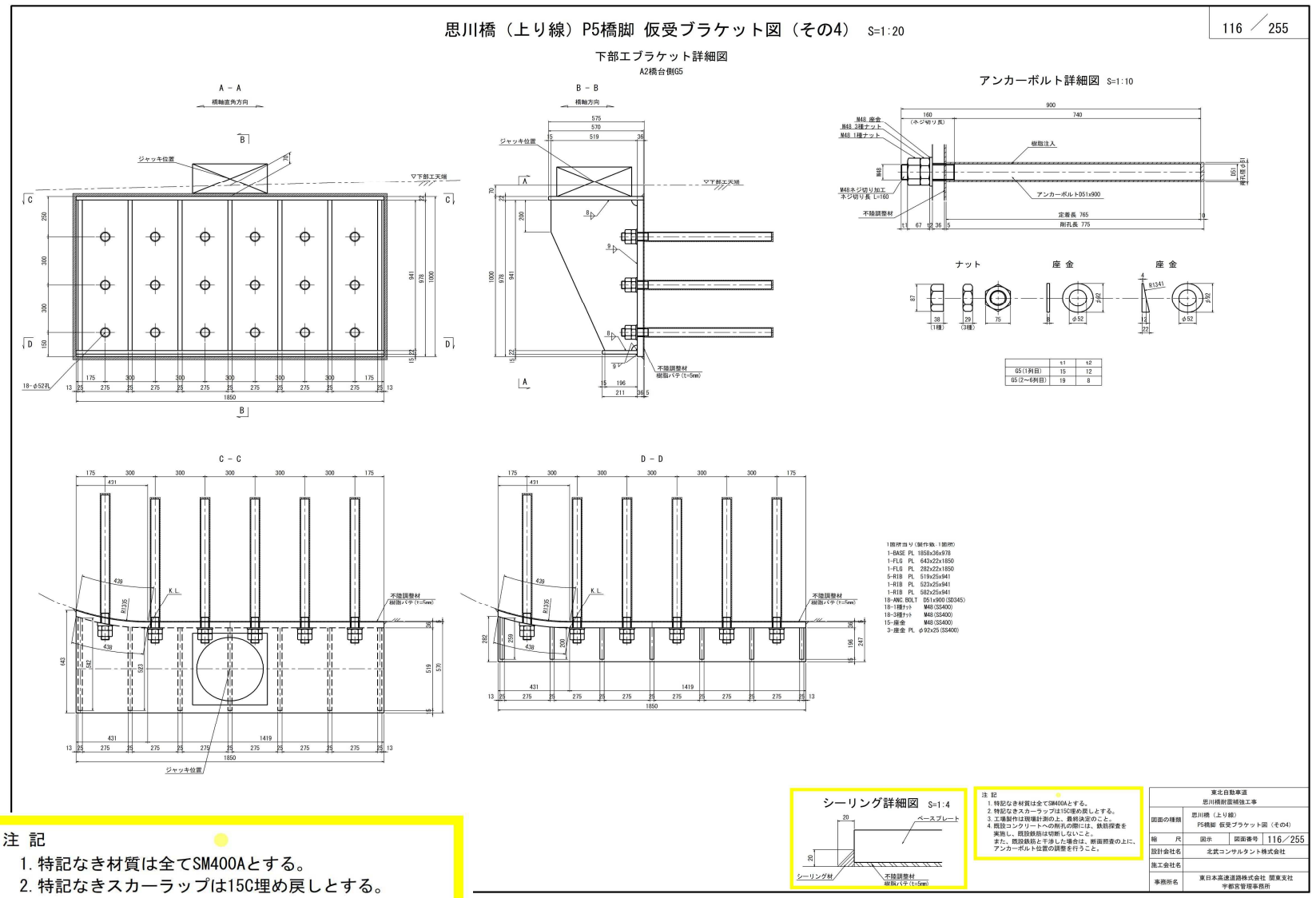
正	



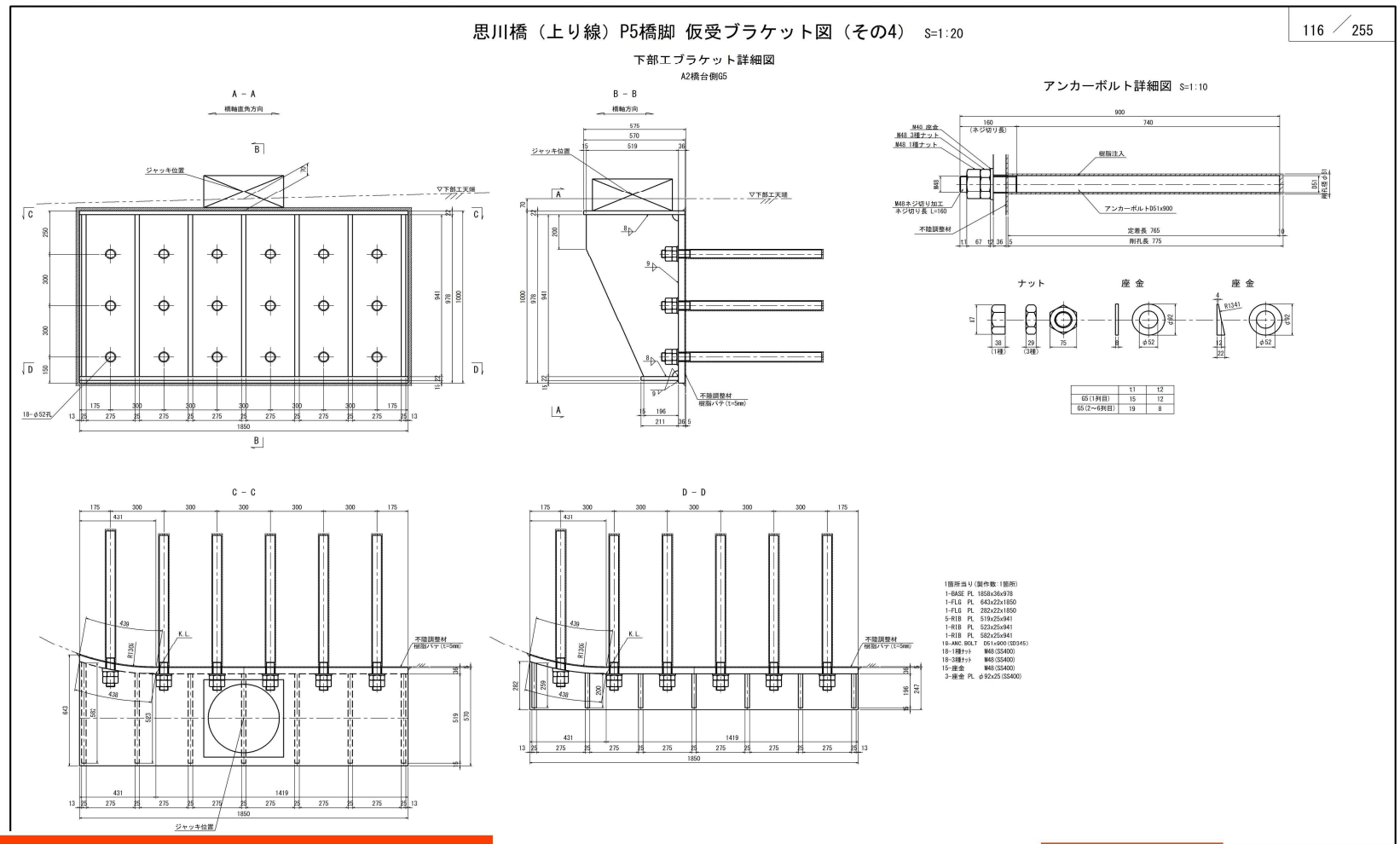
注 記
1. 特記なき材質は全てSM400AまたはSM400Bとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を
実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、
アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛
メッキ仕上げとする。

備考	注記欄「1.仮受ブラケットの特記なき材質」をSM400A⇒SM400AまたはSM400Bに修正　「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記 シーリング詳細図の削除

対象	設計図　思川橋（上り線）Ｐ5橋脚 仮受ブラケット図（その4）（116/255）
誤	

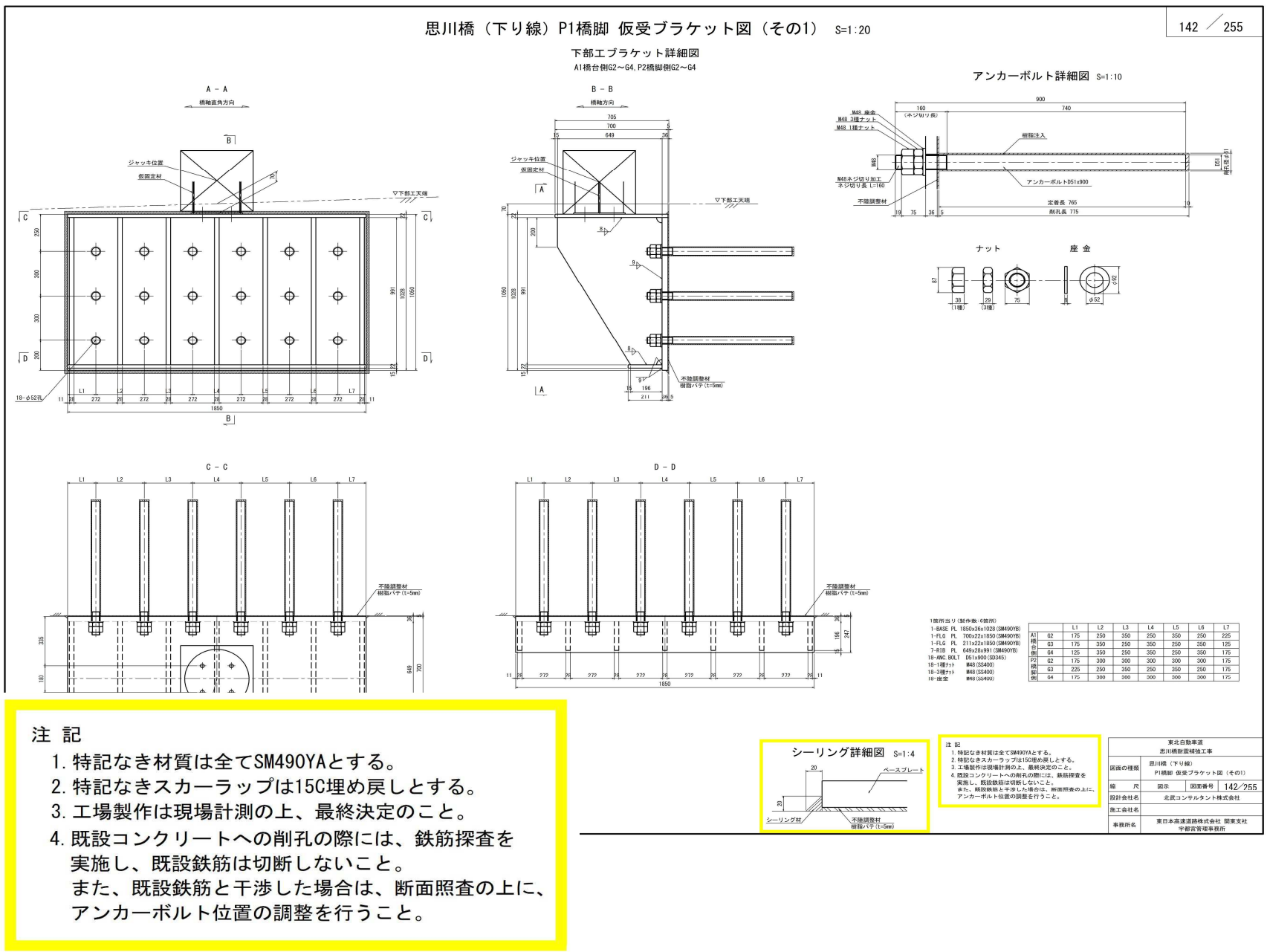


正	



備考	注記欄「1.仮受ブラケットの特記なき材質」をSM400A⇒SM400AまたはSM400Bに修正　「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記 シーリング詳細図の削除

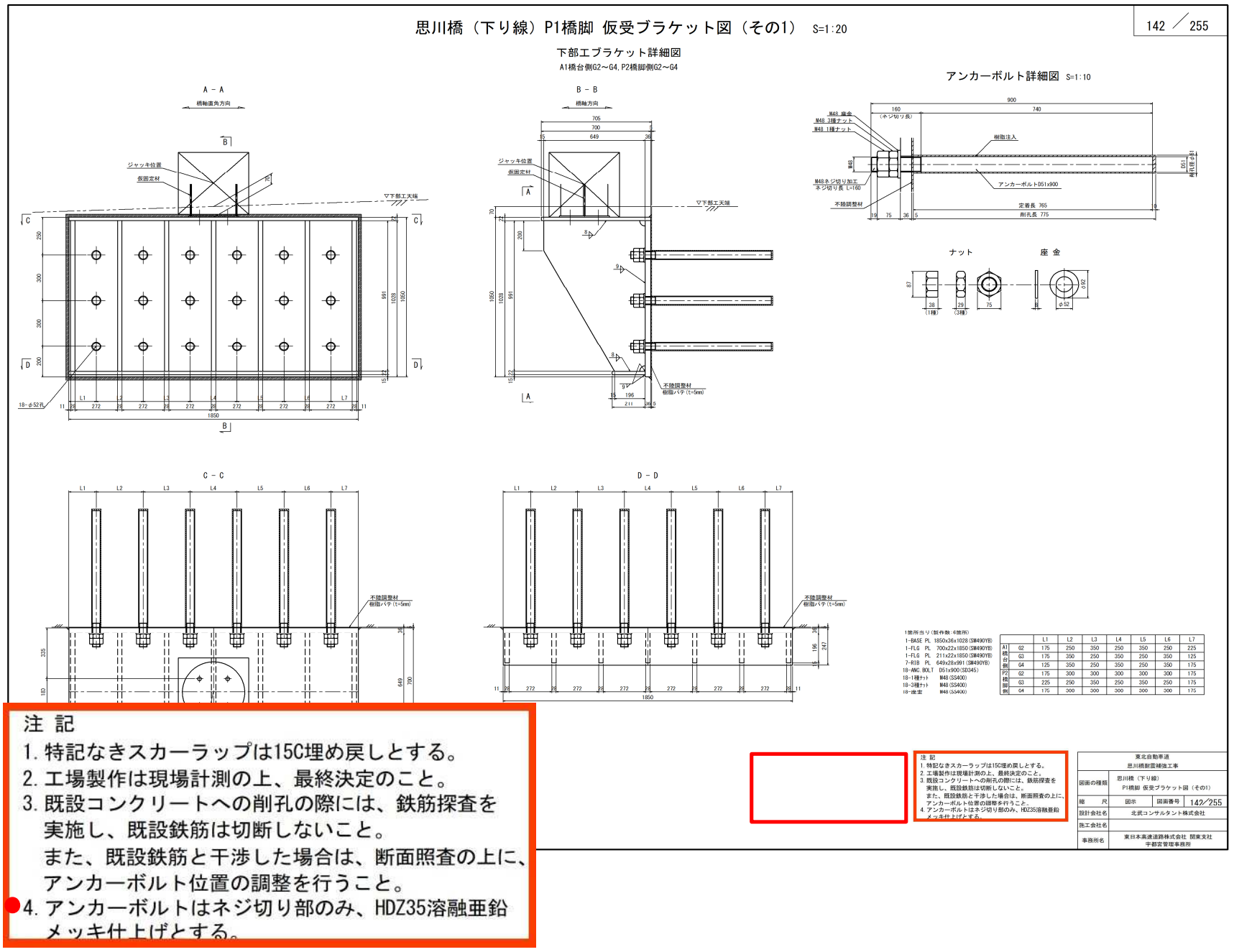
対象	設計図　思川橋（下り線）Ｐ1橋脚　仮受ブラケット図（その１）（142/255）
誤	



注 記

1. 特記なき材質は全てSM490YAとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を
実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、
アンカーボルト位置の調整を行うこと。

正	

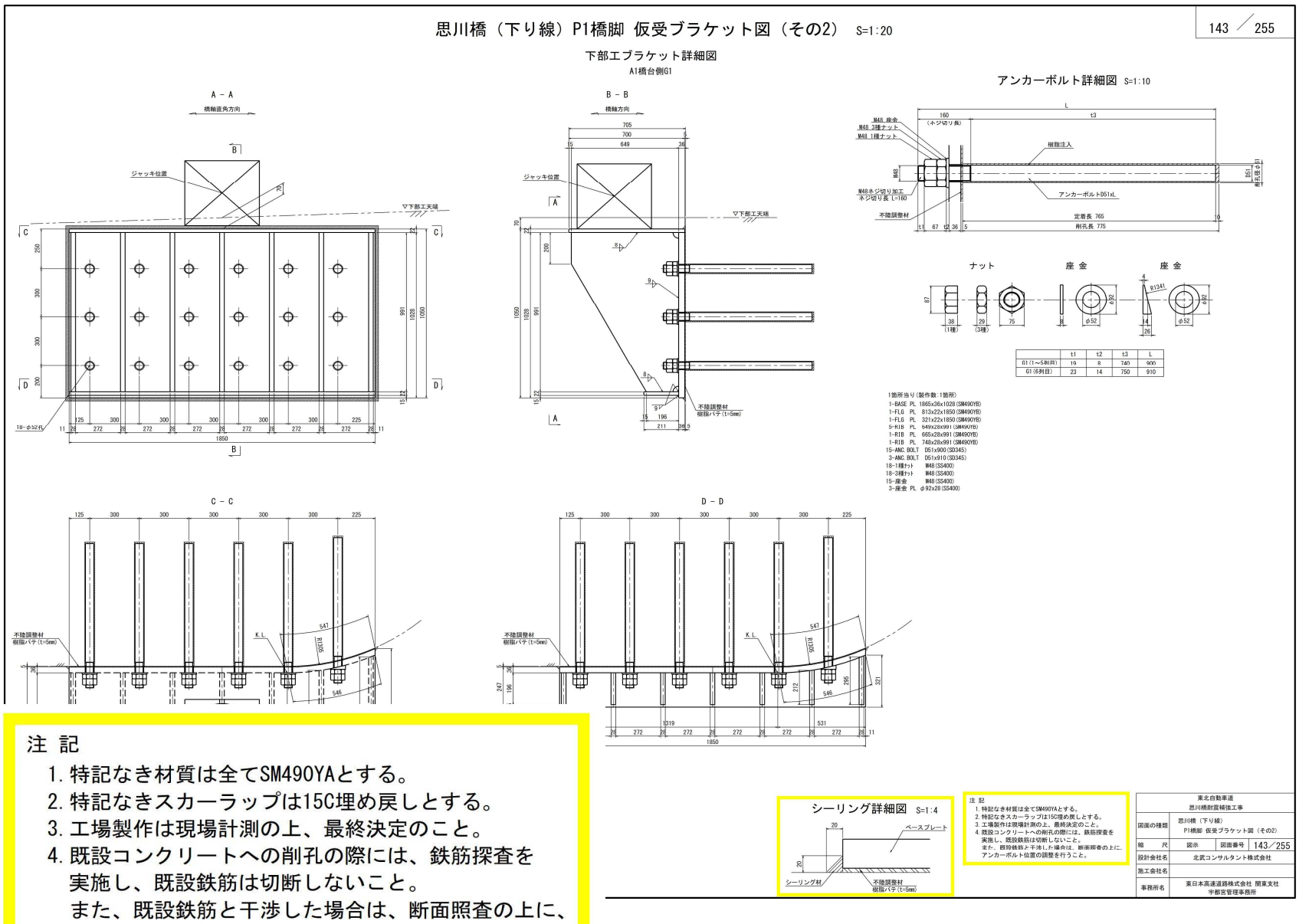


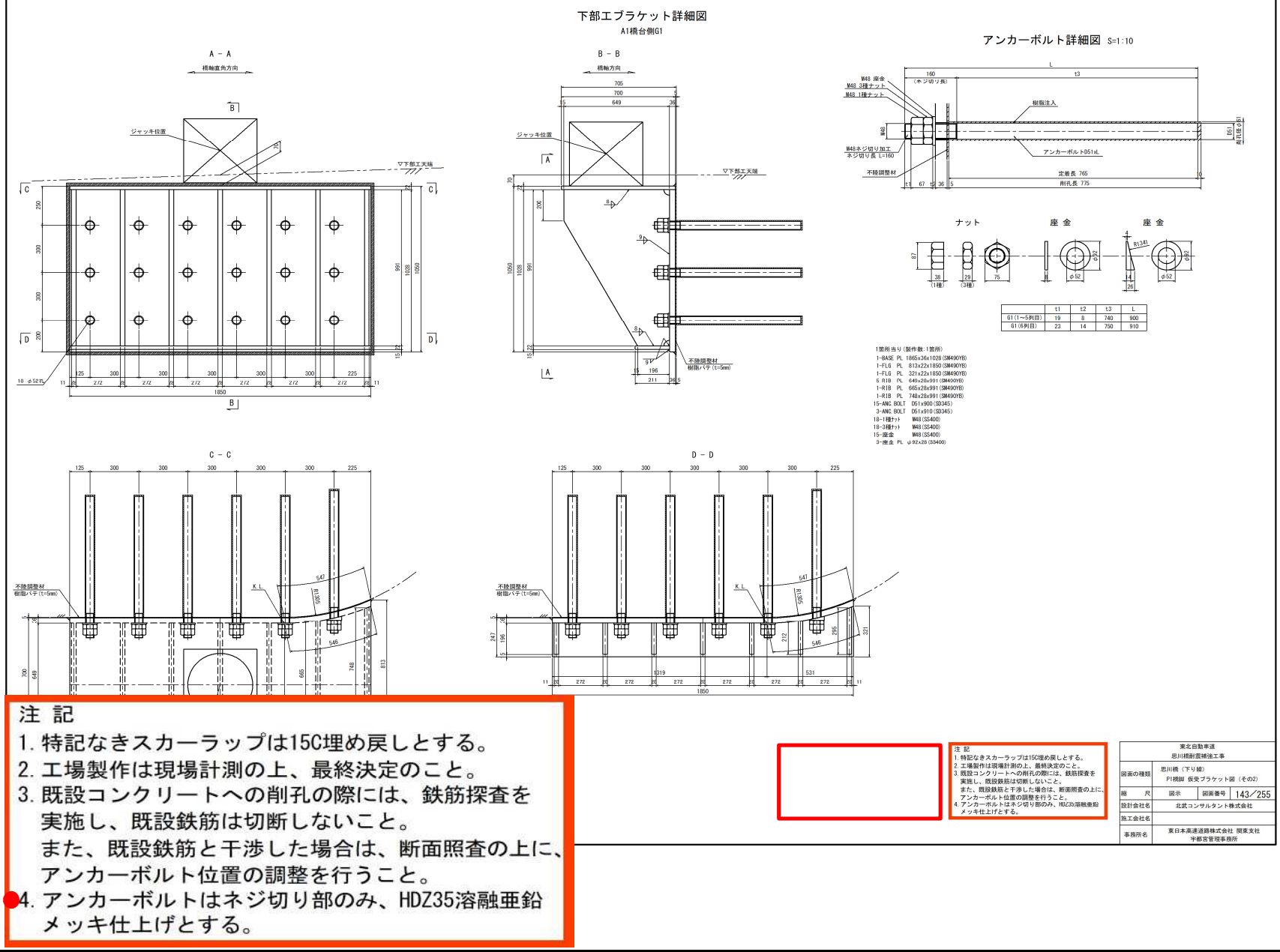
注 記

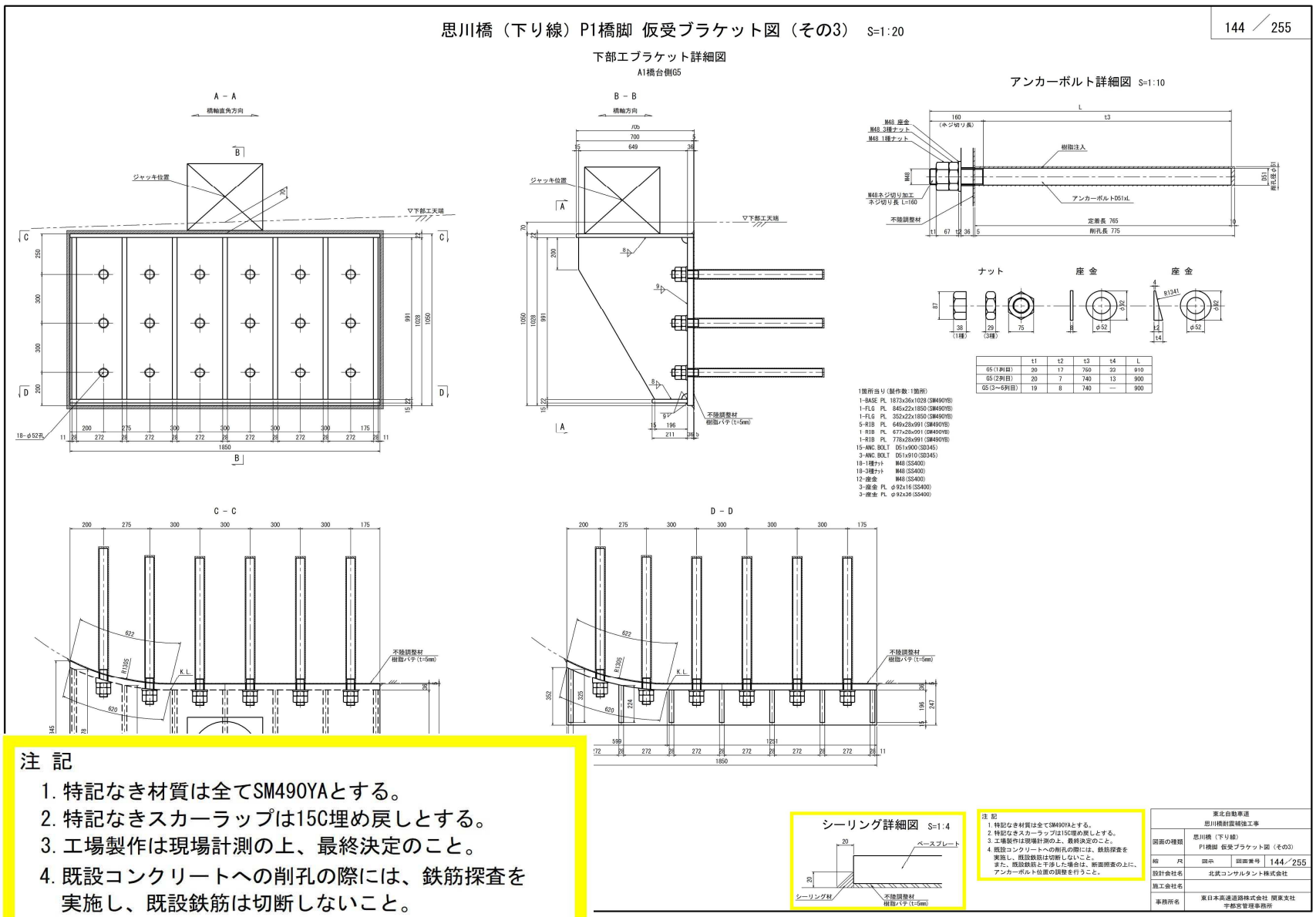
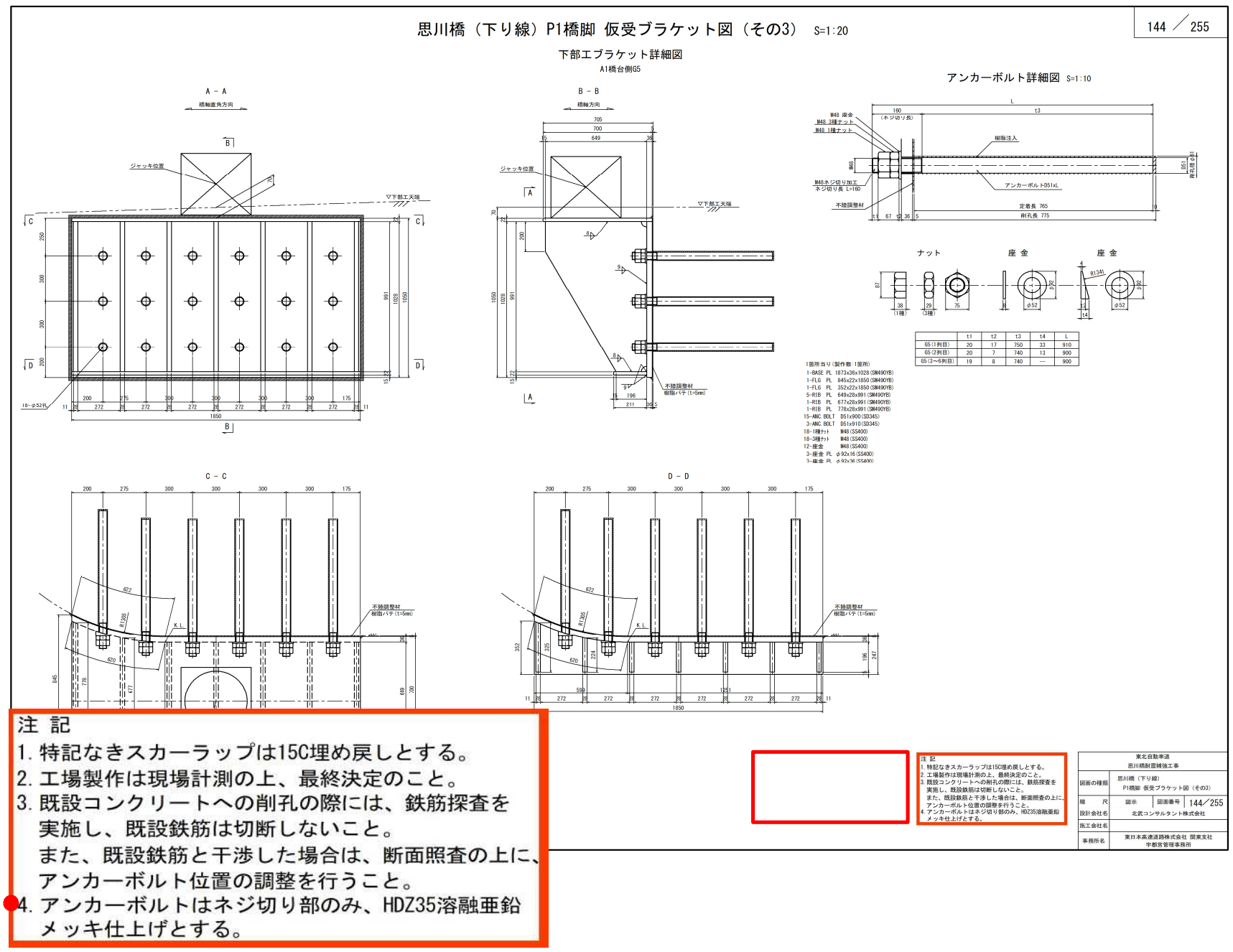
1. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
2. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
3. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を
実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、
アンカーボルト位置の調整を行うこと。
4. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛
メッキ仕上げとする。

備考	注記欄「1.特記なき材質は・・・」を削除　「4.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　シーリング詳細図の削除

対象	設計図　思川橋（下り線）Ｐ1橋脚　仮受ブラケット図（その２）（143/255）
誤	
正	
備考	注記欄「1.特記なき材質は・・・」を削除　「4.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　シーリング詳細図の削除

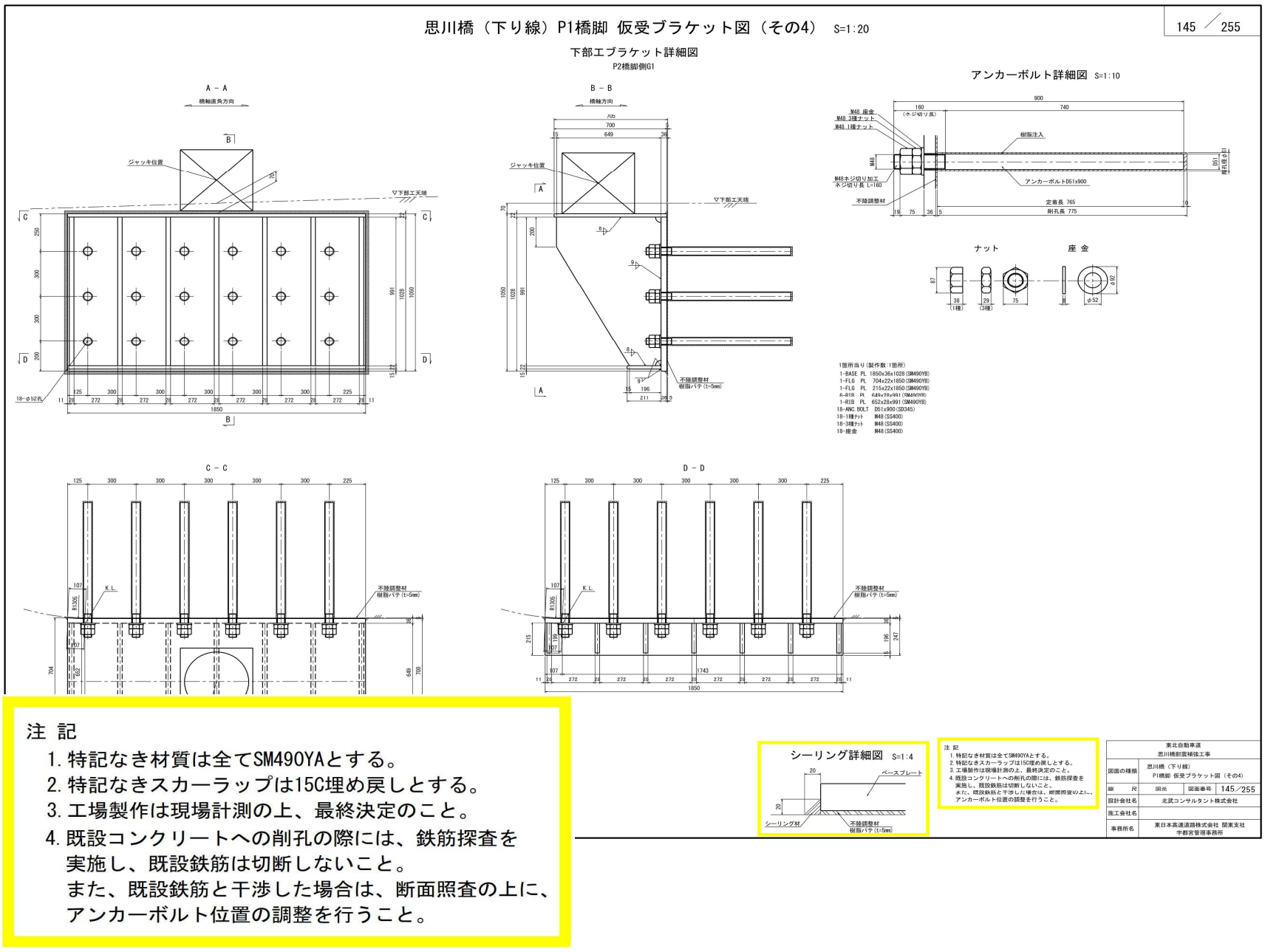




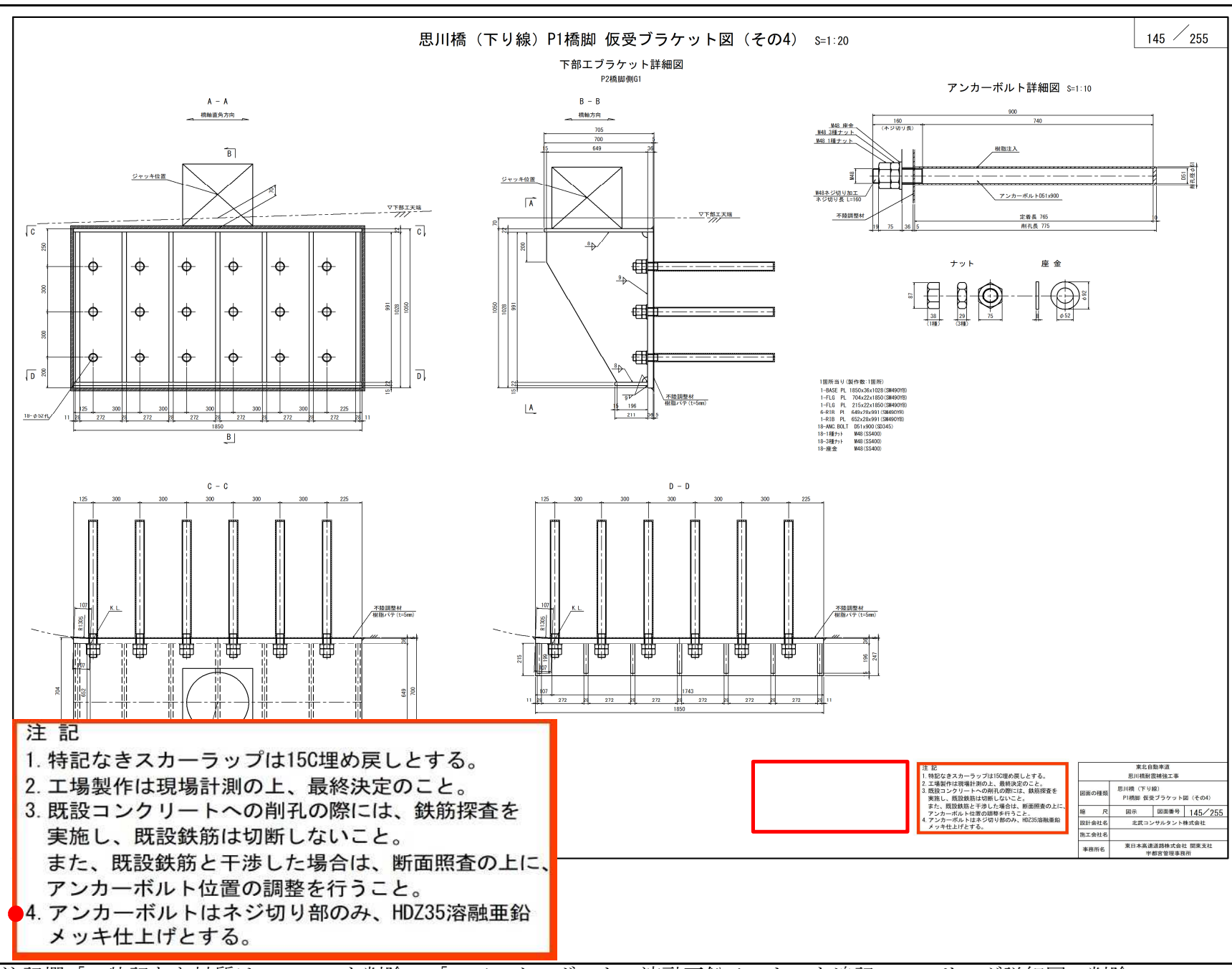
対象	設計図　思川橋（下り線）Ｐ1橋脚　仮受ブラケット図（その３）（144/255）
誤	
正	
備考	注記欄「1.特記なき材質は・・・」を削除　「4.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　シーリング詳細図の削除

対象	設計図　思川橋（下り線）Ｐ1橋脚　仮受ブラケット図（その４）（145/255）
誤	
正	
備考	注記欄「1.特記なき材質は・・・」を削除　「4.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　シーリング詳細図の削除

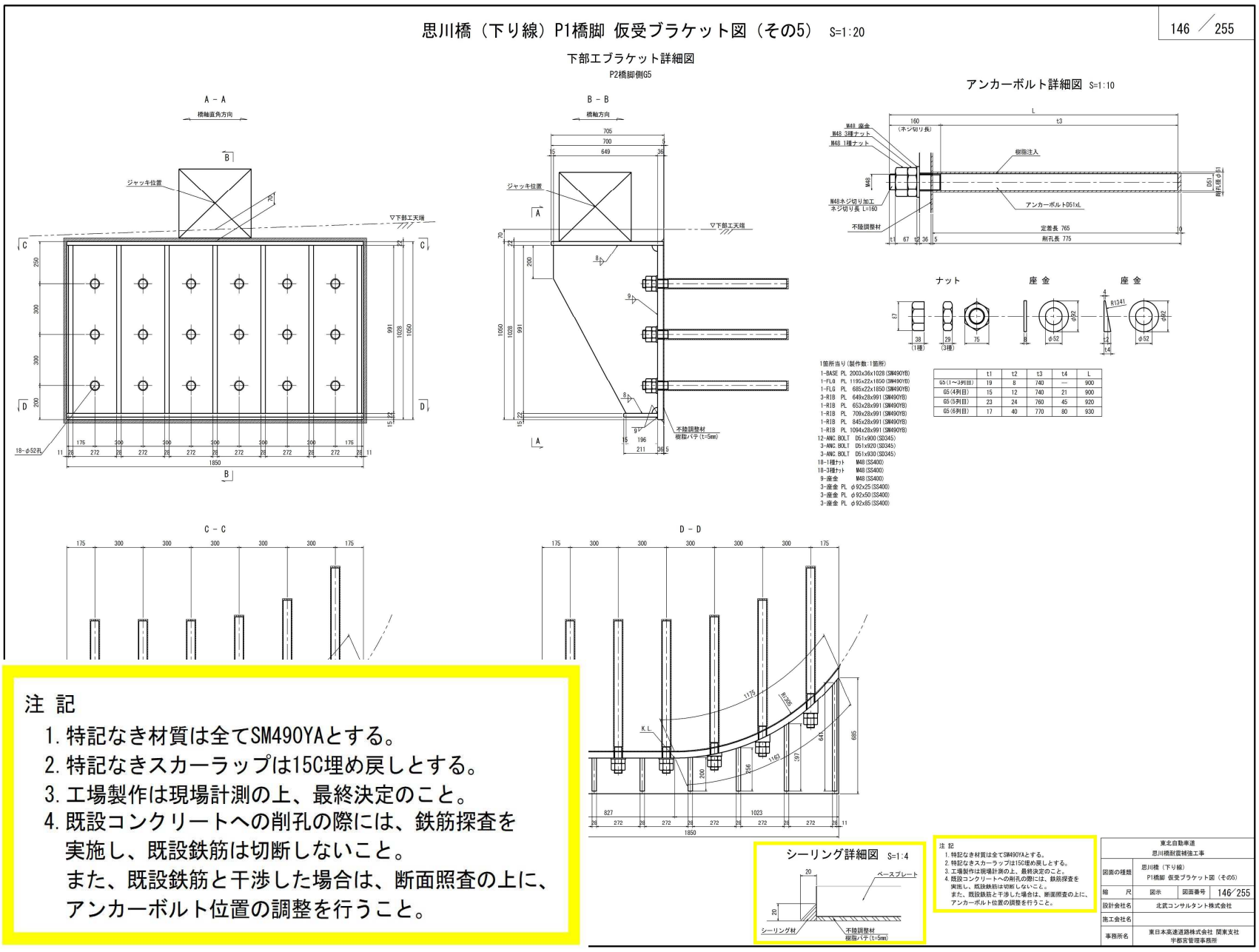
誤



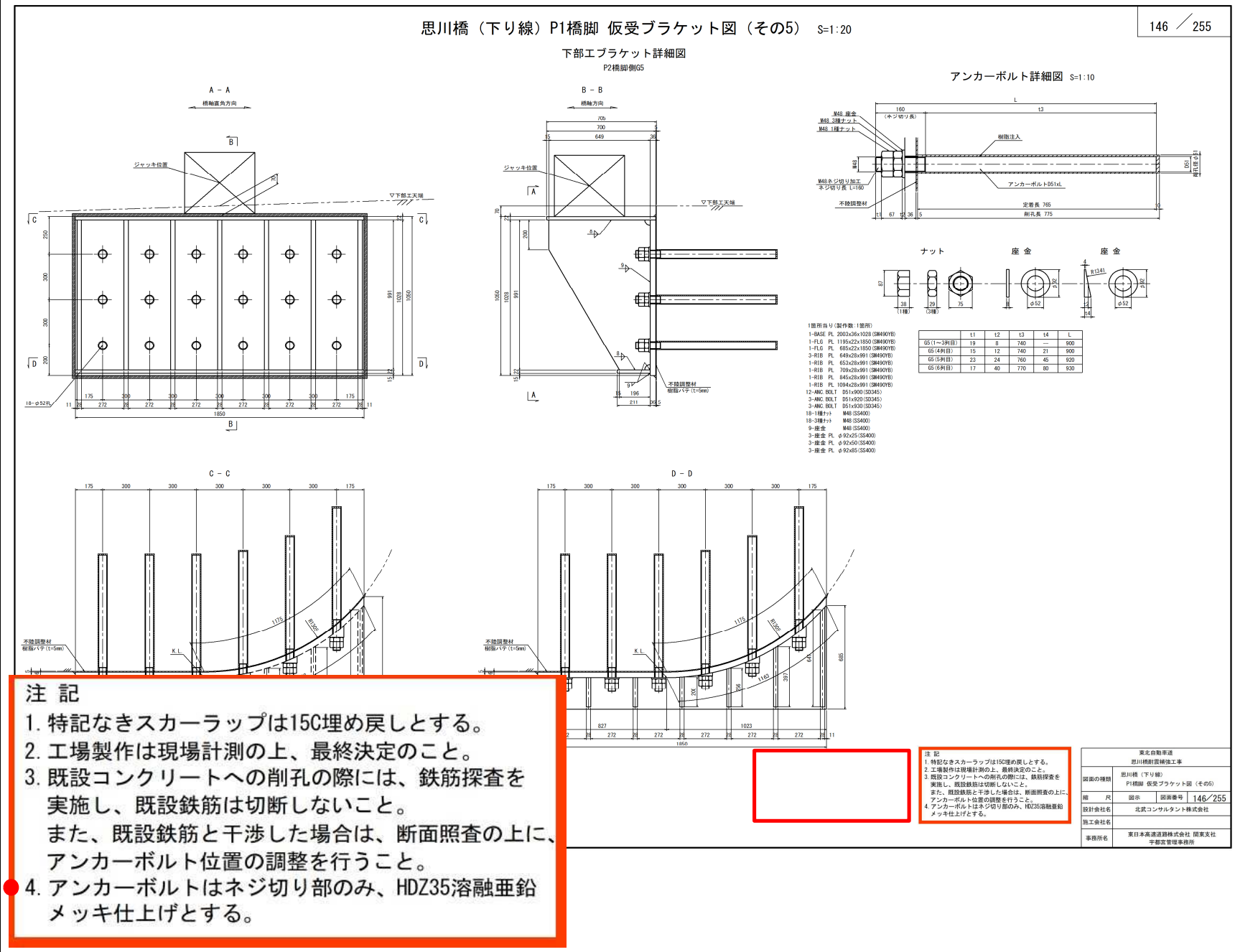
正



対象	設計図　思川橋（下り線）Ｐ1橋脚　仮受ブラケット図（その５）（146/255）
誤	

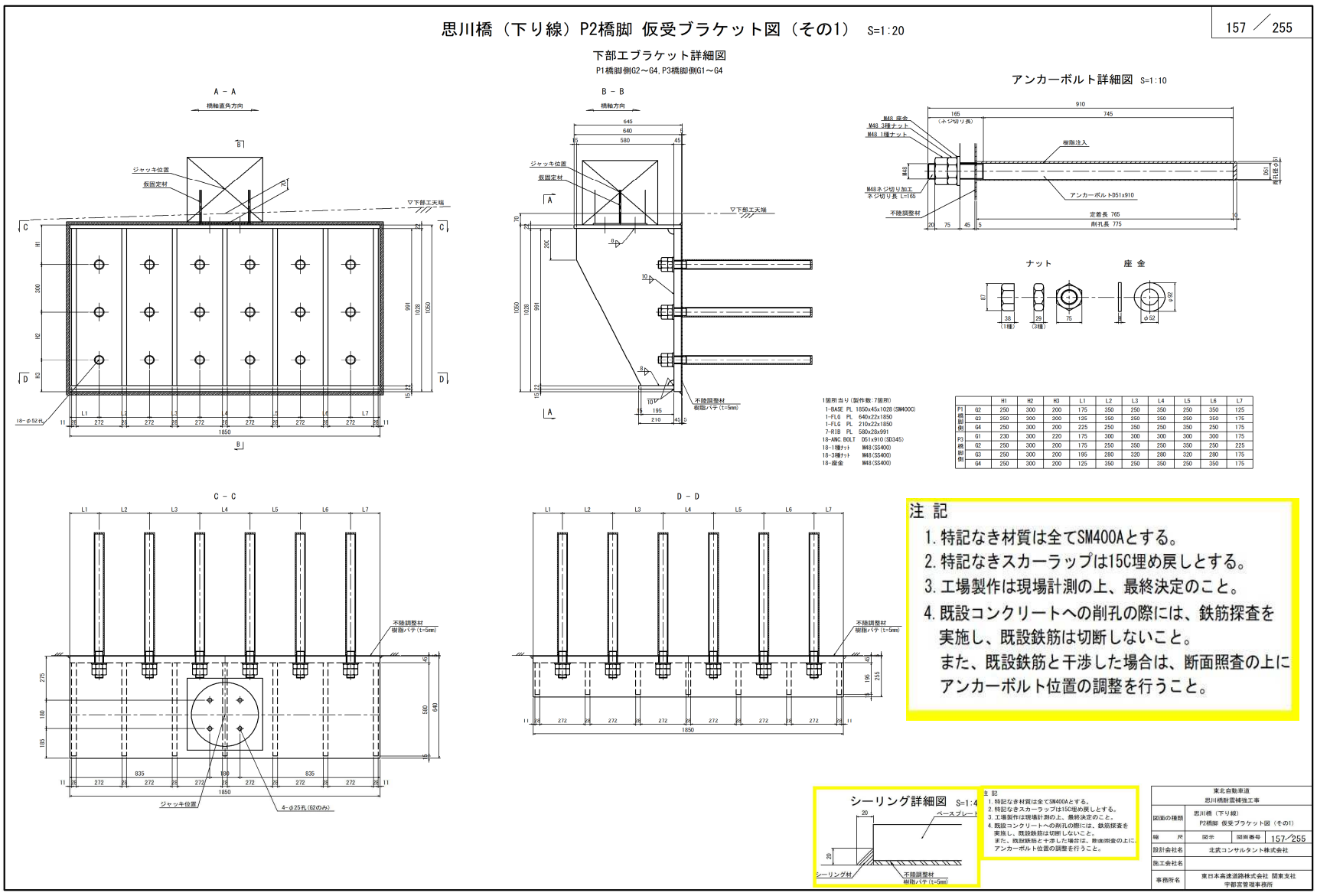


正	

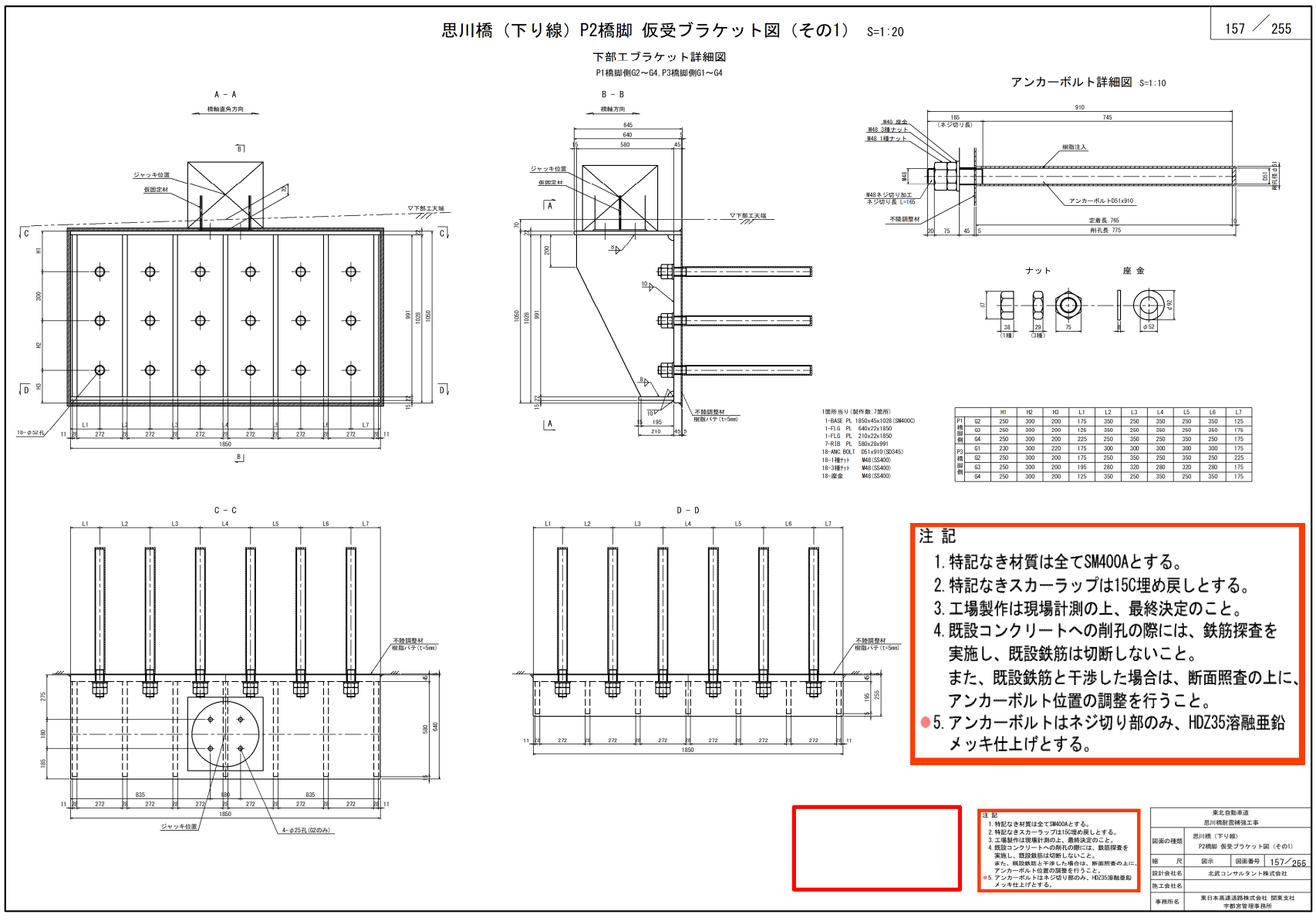


備考	注記欄「1.特記なき材質は・・・」を削除　「4.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　シーリング詳細図の削除

対象	設計図　思川橋（下り線）Ｐ２橋脚 仮受ブラケット図（その１）（157/255）
誤	



正	



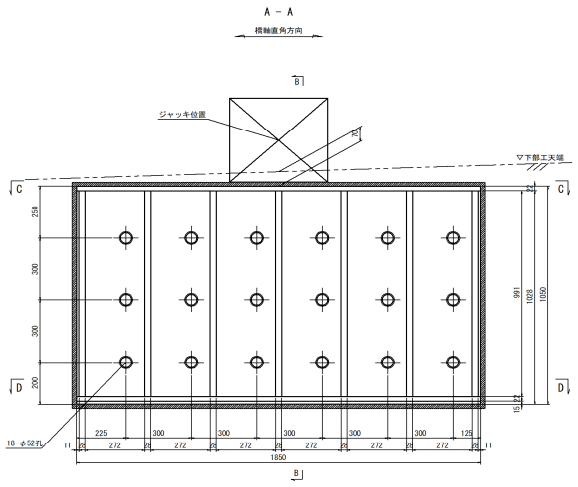
備考	注記欄「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　「シーリング詳細図」の削除

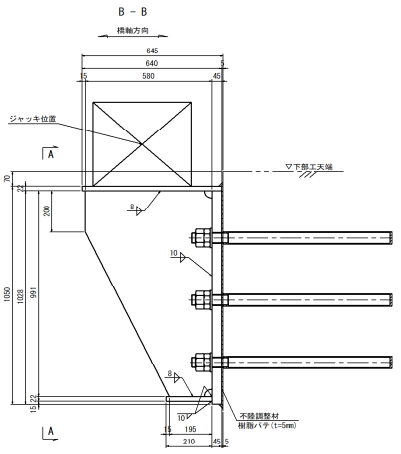
対象	設計図　思川橋（下り線）Ｐ２橋脚 仮受ブラケット図（その２）（158/255）
誤	

思川橋（下り線）P2橋脚 仮受ブラケット図（その2） S=1:20

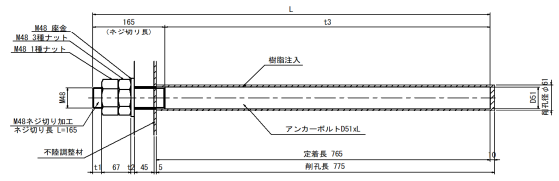
158 ／ 255

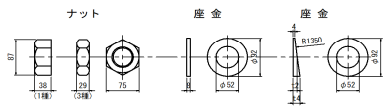
下部工ブラケット詳細図
P1橋脚側G1





アンカーボルト詳細図 S=1:10



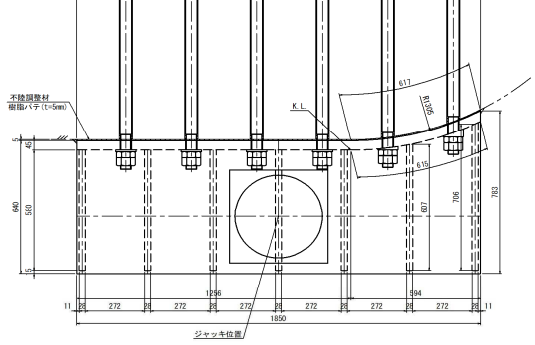


1箇所当り（製作数：1箇所）

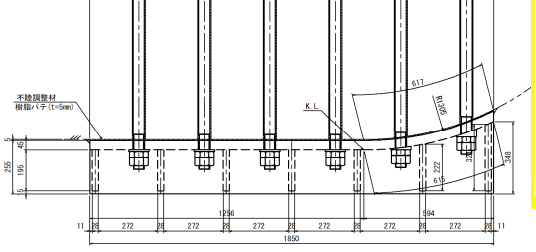
1-BASE PL	1873x45x1028(SM400C)
1-FLG PL	783x22x1850
1-FLG PL	348x22x1850
5-RIB PL	580x28x991
1-RIB PL	607x28x991
1-RIB PL	706x28x991
15-ANC BOLT	D51x910(SD345)
3-ANC BOLT	D51x920(SD345)
18-1種ナット	M48(SS400)
18-3種ナット	M48(SS400)
12-座金	M48(SS400)
3-座金 PL	φ92x19(SS400)
3-座金 PL	φ92x40(SS400)

	t1	t2	t3	t4	L
G1(1～4列目)	20	8	745	—	910
G1(5列目)	19	9	745	16	910
G1(6列目)	18	20	755	38	920

C － C

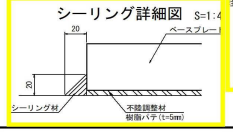


D － D



注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上にアンカーボルト位置の調整を行うこと。

シーリング詳細図 S=1:4



注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上にアンカーボルト位置の調整を行うこと。

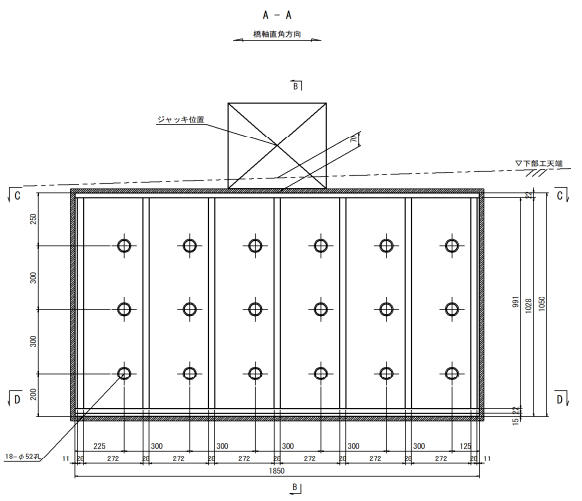
東北自動車道 思川橋耐震補強工事				
図面の種類	思川橋（下り線） P2橋脚 仮受ブラケット図（その2）			
縮尺	図示	図面番号	158／255	
設計会社名	北武コンサルタント株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 宇都宮管理事務所			

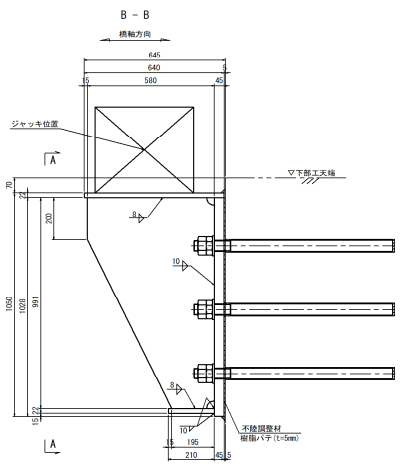
正	

思川橋（下り線）P2橋脚 仮受ブラケット図（その2） S=1:20

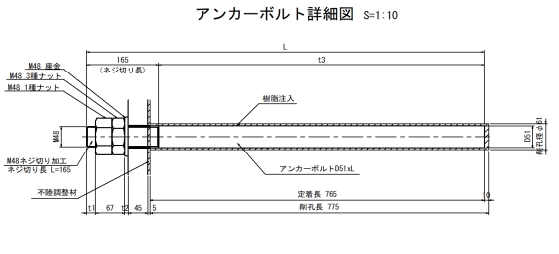
158 ／ 255

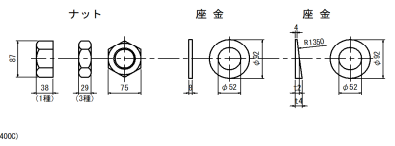
下部工ブラケット詳細図
P1橋脚側G1





アンカーボルト詳細図 S=1:10



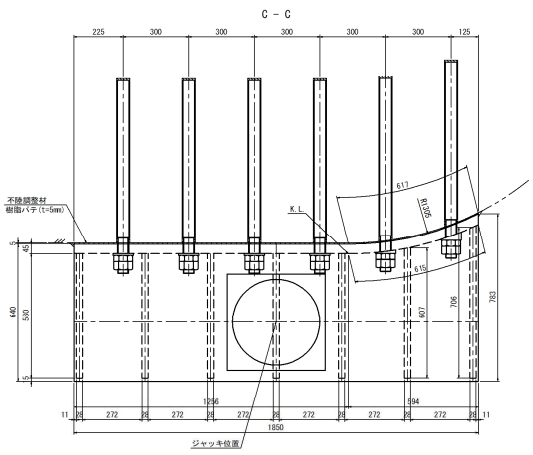


1箇所当り（製作数：1箇所）

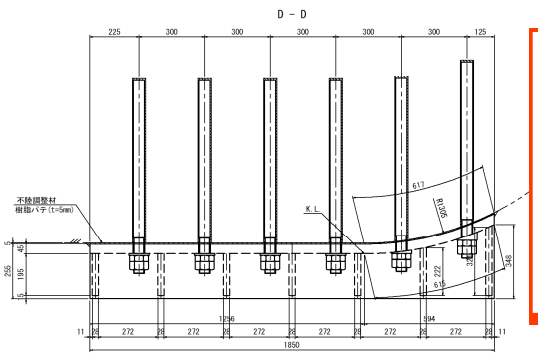
1-BASE PL	1873x45x1028(SM400C)
1-FLG PL	783x22x1850
1-FLG PL	348x22x1850
5-RIB PL	580x28x991
1-RIB PL	607x28x991
1-RIB PL	706x28x991
15-ANC BOLT	D51x910(SD345)
3-ANC BOLT	D51x920(SD345)
18-1種ナット	M48(SS400)
18-3種ナット	M48(SS400)
12-座金	M48(SS400)
3-座金 PL	φ92x19(SS400)
3-座金 PL	φ92x40(SS400)

	t1	t2	t3	t4	L
G1(1～4列目)	20	8	745	—	910
G1(5列目)	19	9	745	16	910
G1(6列目)	18	20	755	38	920

C － C



D － D

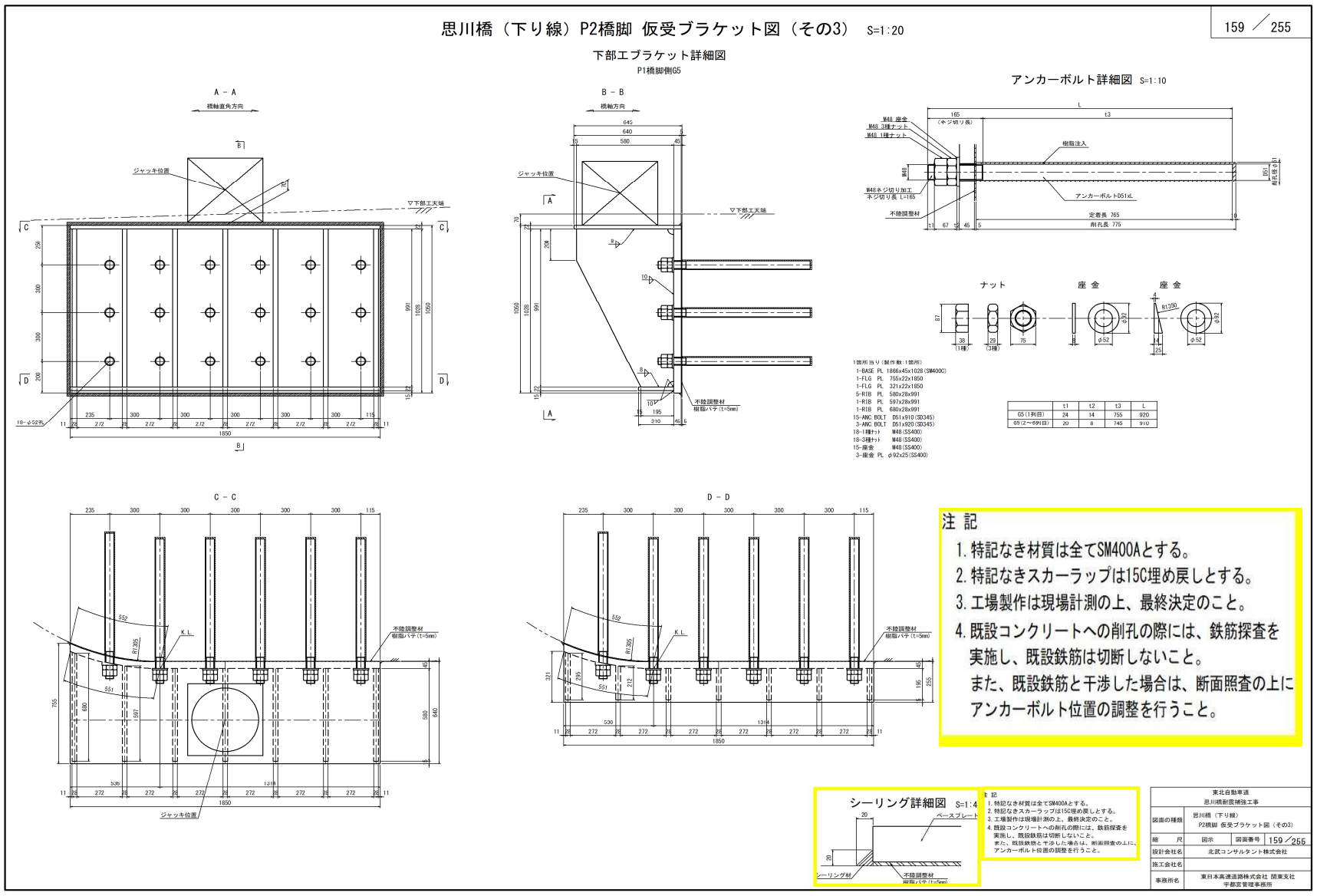
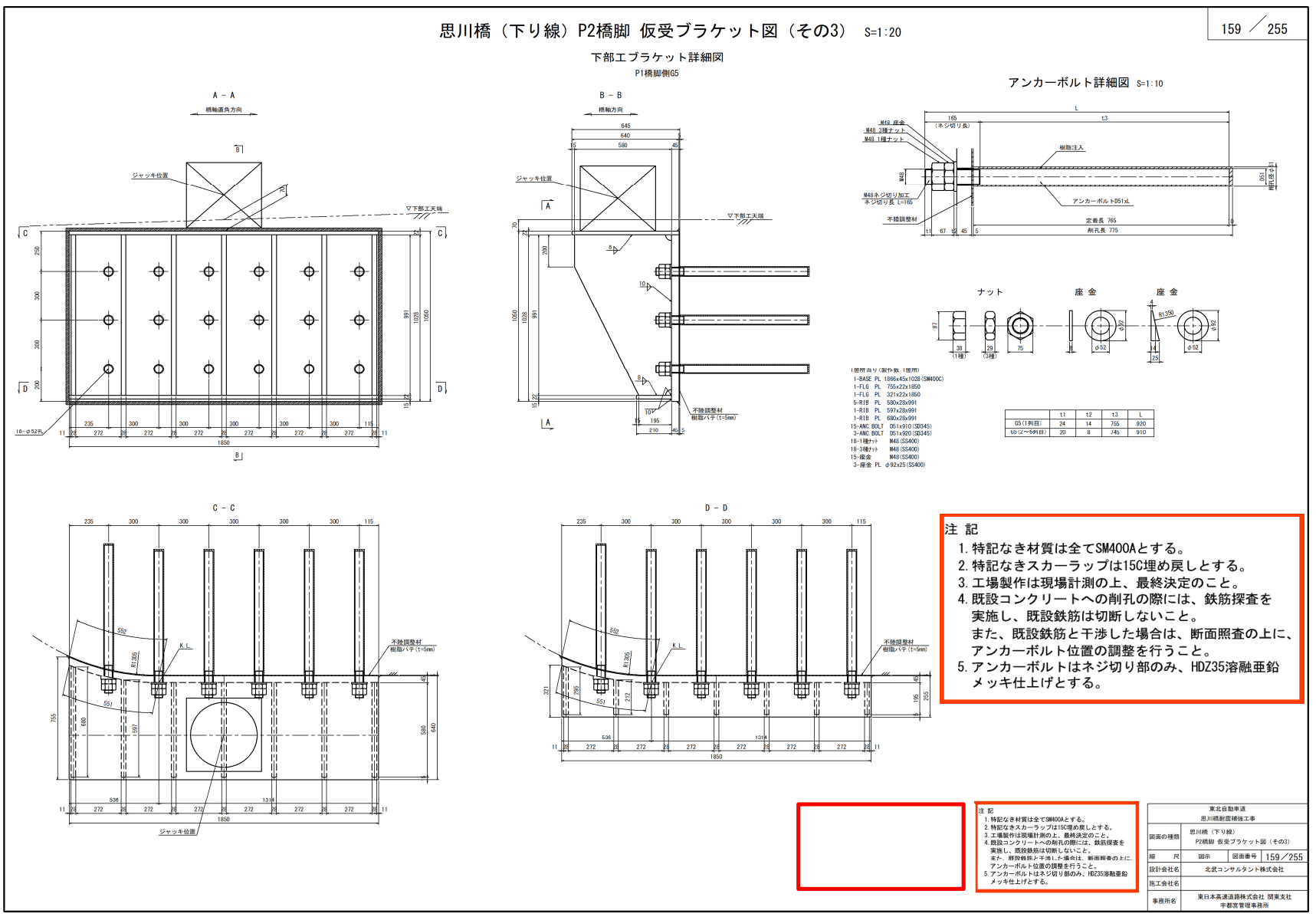


注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

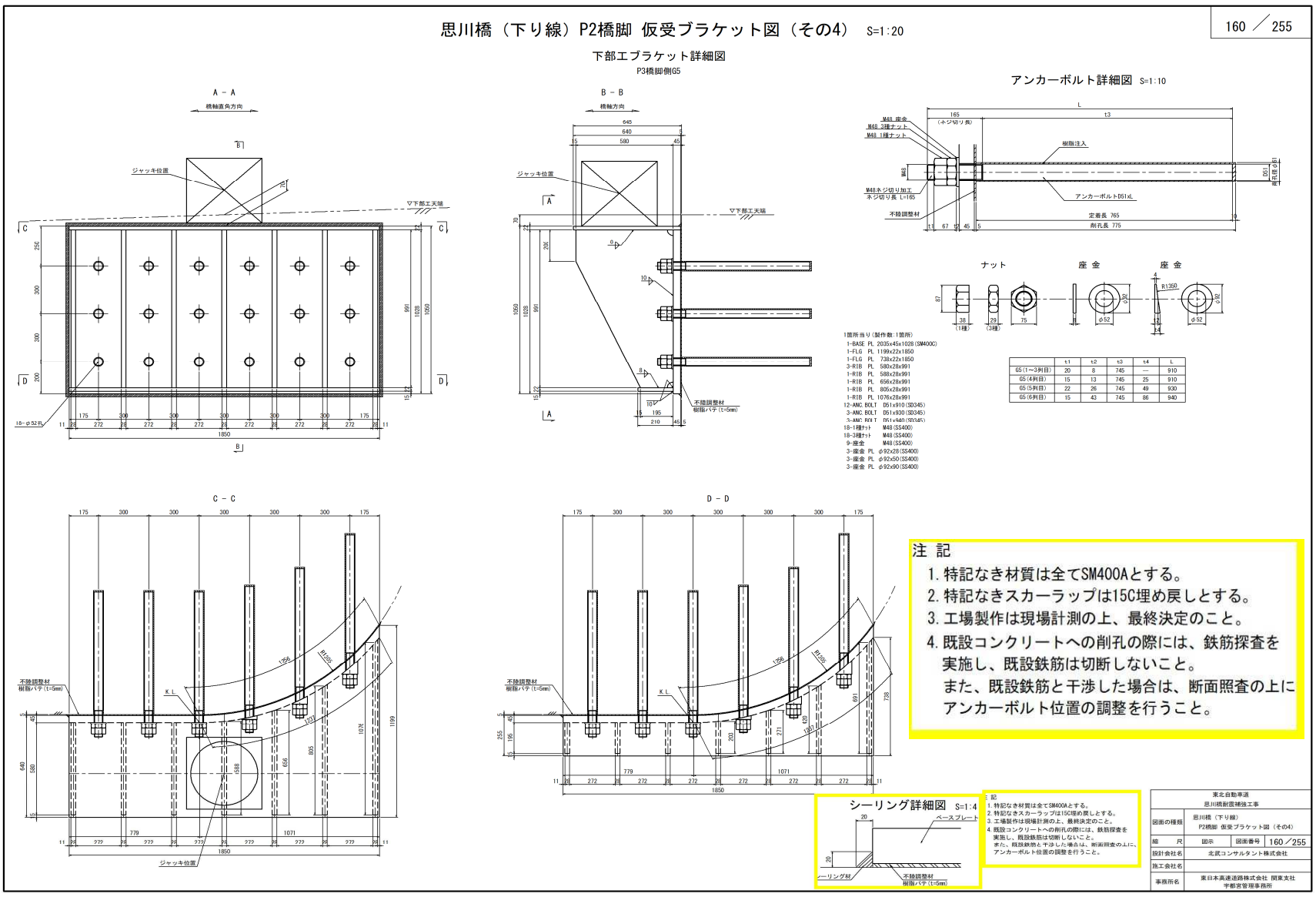
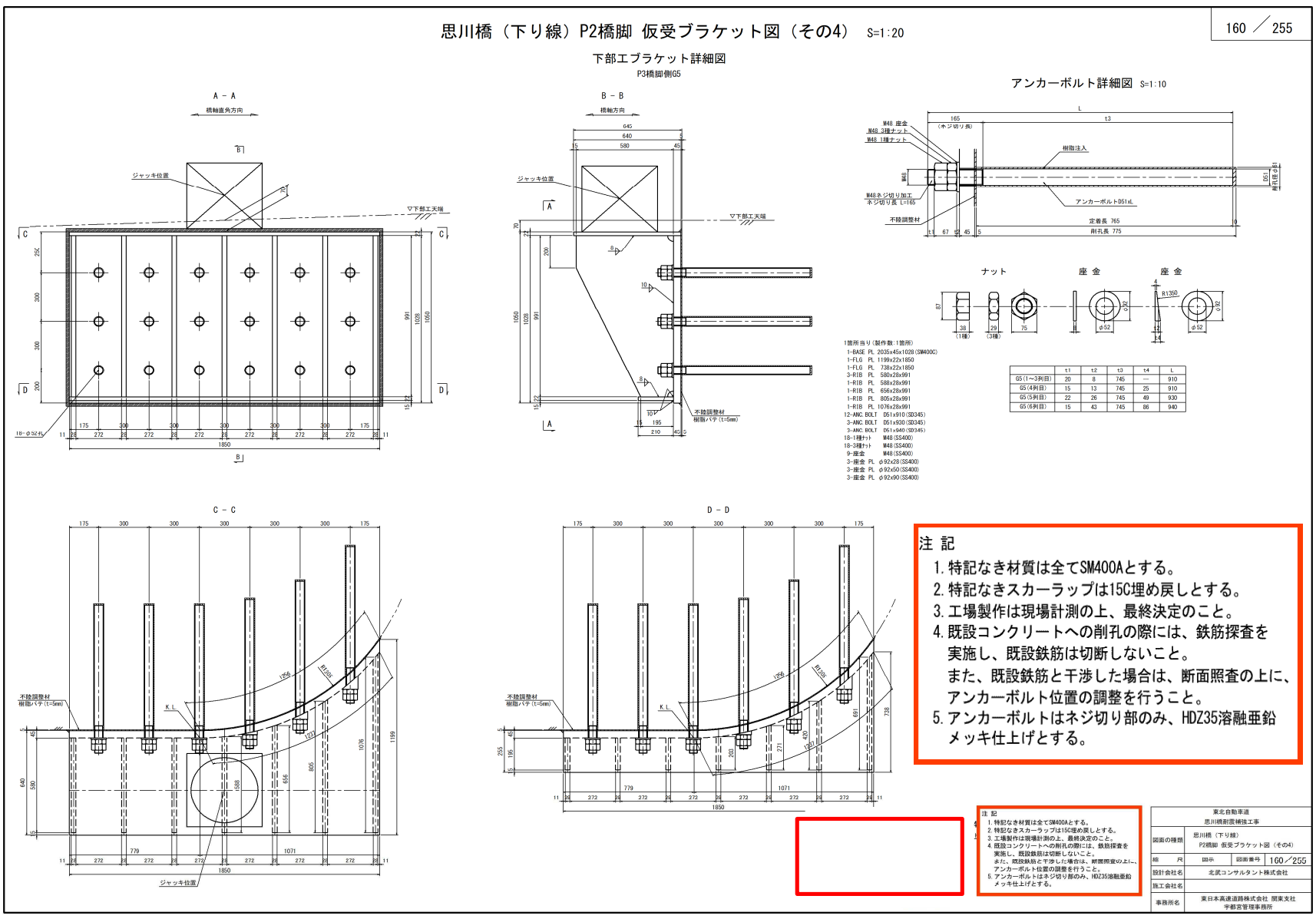
注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

東北自動車道 思川橋耐震補強工事				
図面の種類	思川橋（下り線） P2橋脚 仮受ブラケット図（その2）			
縮尺	図示	図面番号	158／255	
設計会社名	北武コンサルタント株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 宇都宮管理事務所			

備考	注記欄「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　「シーリング詳細図」の削除

対象	設計図　思川橋（下り線）Ｐ２橋脚 仮受ブラケット図（その３）（159/255）
誤	
正	
備考	注記欄「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　「シーリング詳細図」の削除

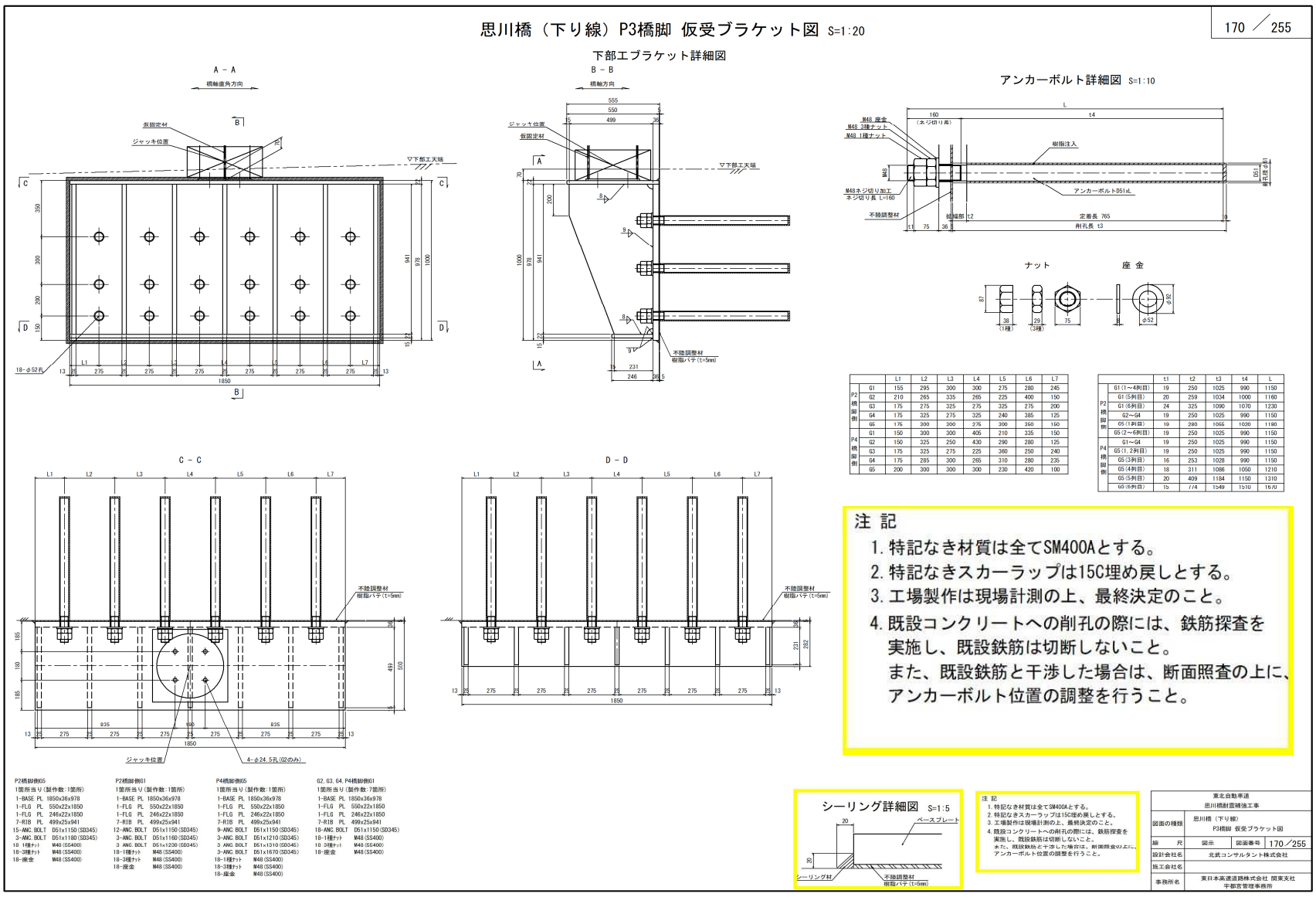
思川橋（下り線）P2橋脚 仮受ブラケット図（その3） S=1:20
159 ／ 255
下部エブラケット詳細図
P1橋脚側G5
アンカーボルト詳細図 S=1:10
注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上にアンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
東北自動車道
思川橋耐震補強工事
図面の種類 思川橋（下り線） P2橋脚 仮受ブラケット図（その3）
縮尺 図示 図面番号 159／255
設計会社名 北武コンサルタント株式会社
施工会社名
事務所名 東日本高速道路株式会社 関東支社 宇都宮管理事務所

対象	設計図　思川橋（下り線）Ｐ２橋脚 仮受ブラケット図（その４）（160/255）
誤	
正	
備考	注記欄「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　「シーリング詳細図」の削除

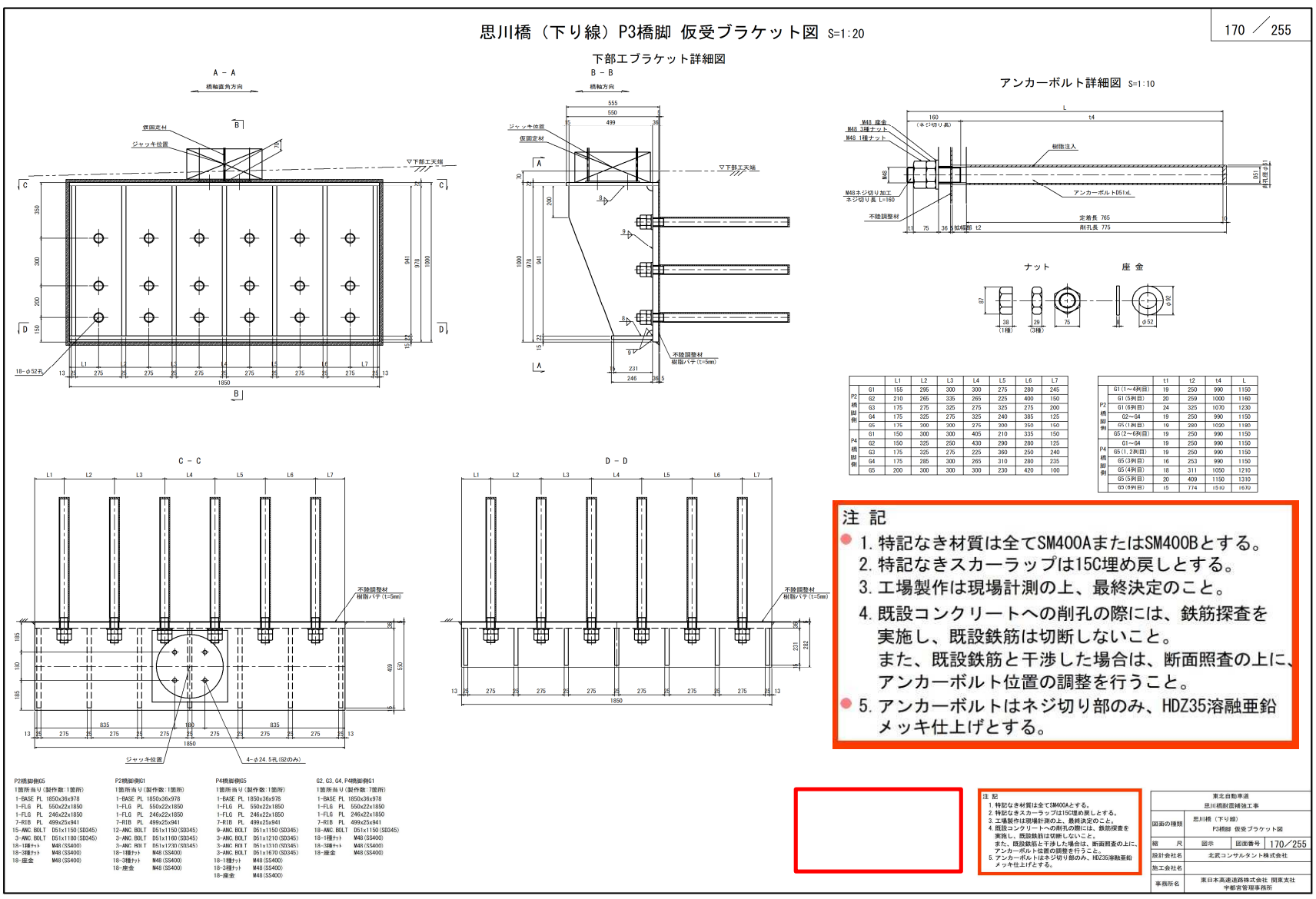
注記欄「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　「シーリング詳細図」の削除

対象	設計図　思川橋（下り線）Ｐ３橋脚 仮受ブラケット図（170/255）
誤	
正	
備考	注記欄「1. 特記なき材質は・・・」をＳM400ＡからＳM400ＡまたはＳM400Ｂとするに変更、「5. アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記、「シーリング詳細図」の削除

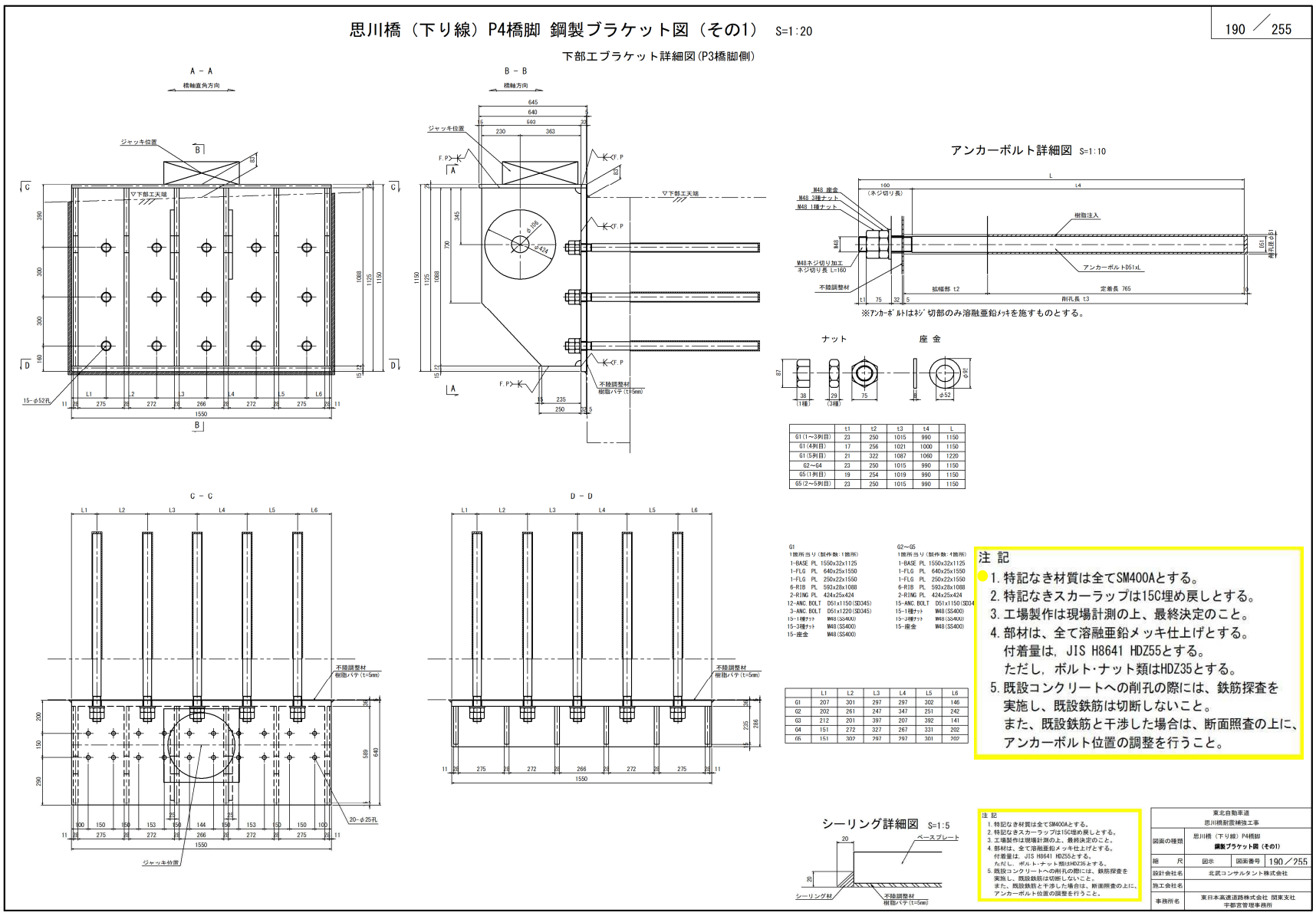
誤



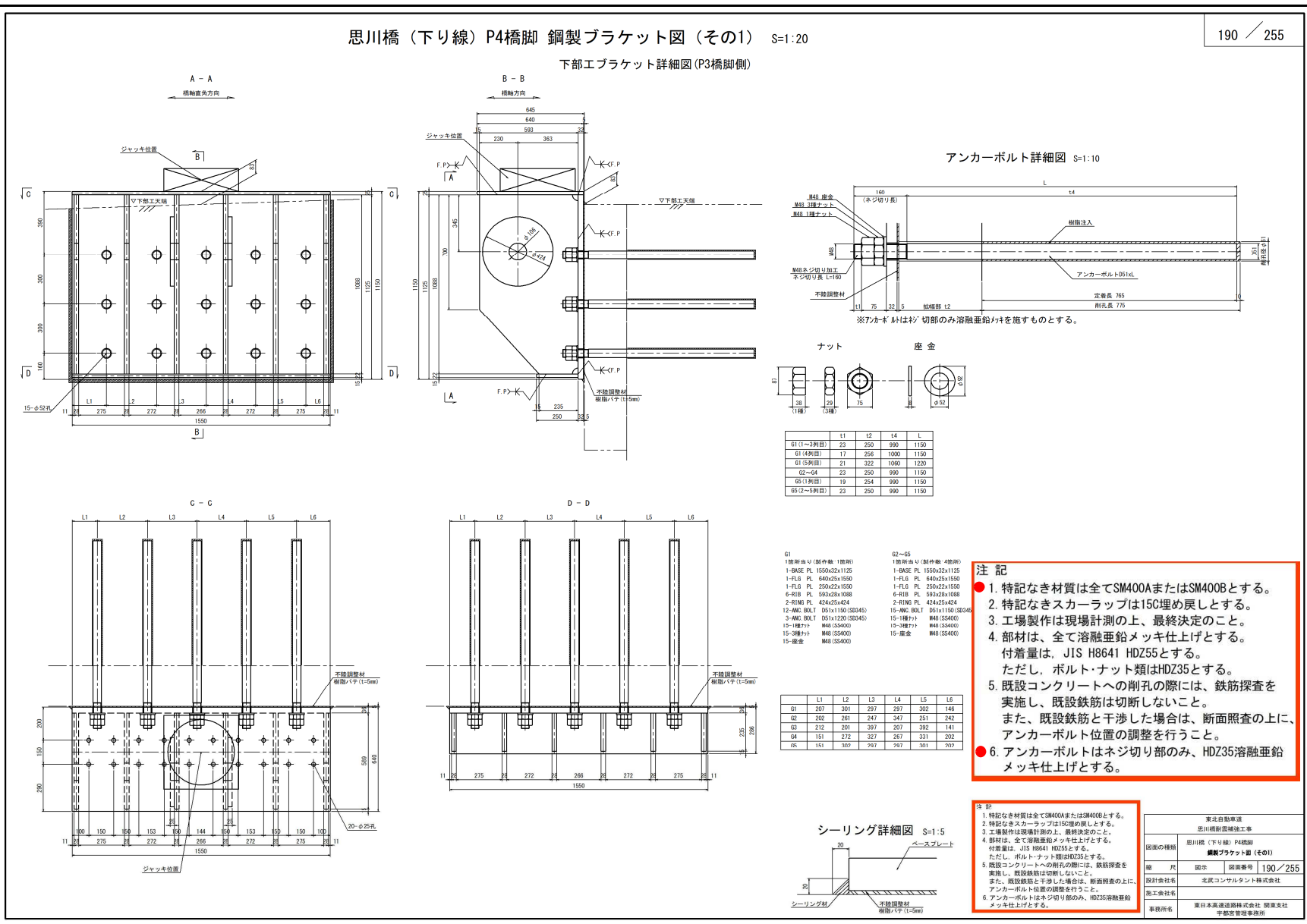
正



対象	設計図　思川橋（下り線）Ｐ４橋脚 仮受ブラケット図（その１）（190/255）
誤	



正	

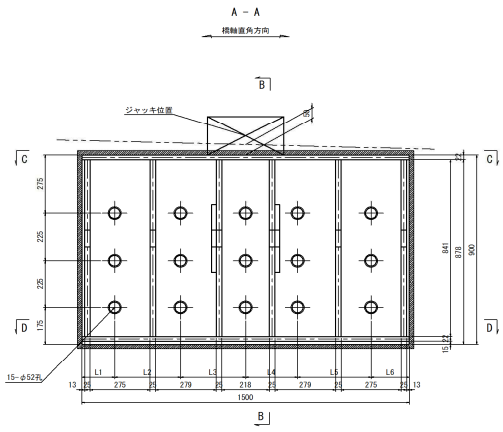


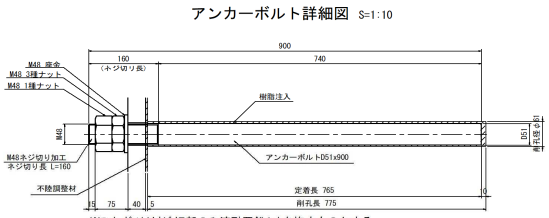
備考	注記欄「1. 特記なき材質は・・・」をＳM400ＡからＳM400ＡまたはＳM400Ｂとするに変更、「5. アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記

対象	設計図　思川橋（下り線）Ｐ４橋脚 仮受ブラケット図（その２）（191/255）
誤	
正	
備考	注記欄「6.アンカーボルトのメッキ仕上げ」の追記

思川橋（下り線）P4橋脚 鋼製ブラケット図（その2） S=1:20

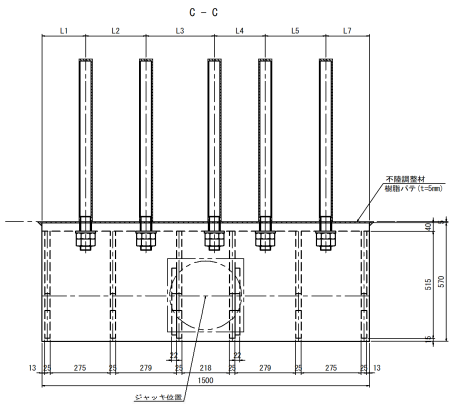
下部工ブラケット詳細図(P5橋脚側G1～G4)

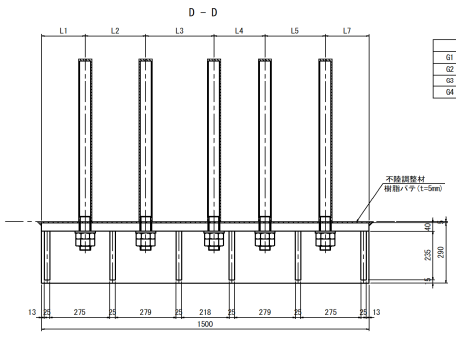




1箇所当り(製作数:4箇所)

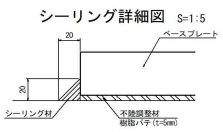
1-BASE	PL	1500x40x878 (SM400B)
1-FLG	PL	570x22x1500
1-FLG	PL	250x22x1500
6-RIB	PL	515x25x841
2-RING	PL	320x22x320
15-ANC BOLT		D51x900 (SD345)
15-1種ナット		M48 (SS400)
15-3種ナット		M48 (SS400)
15-座金		M48 (SS400)





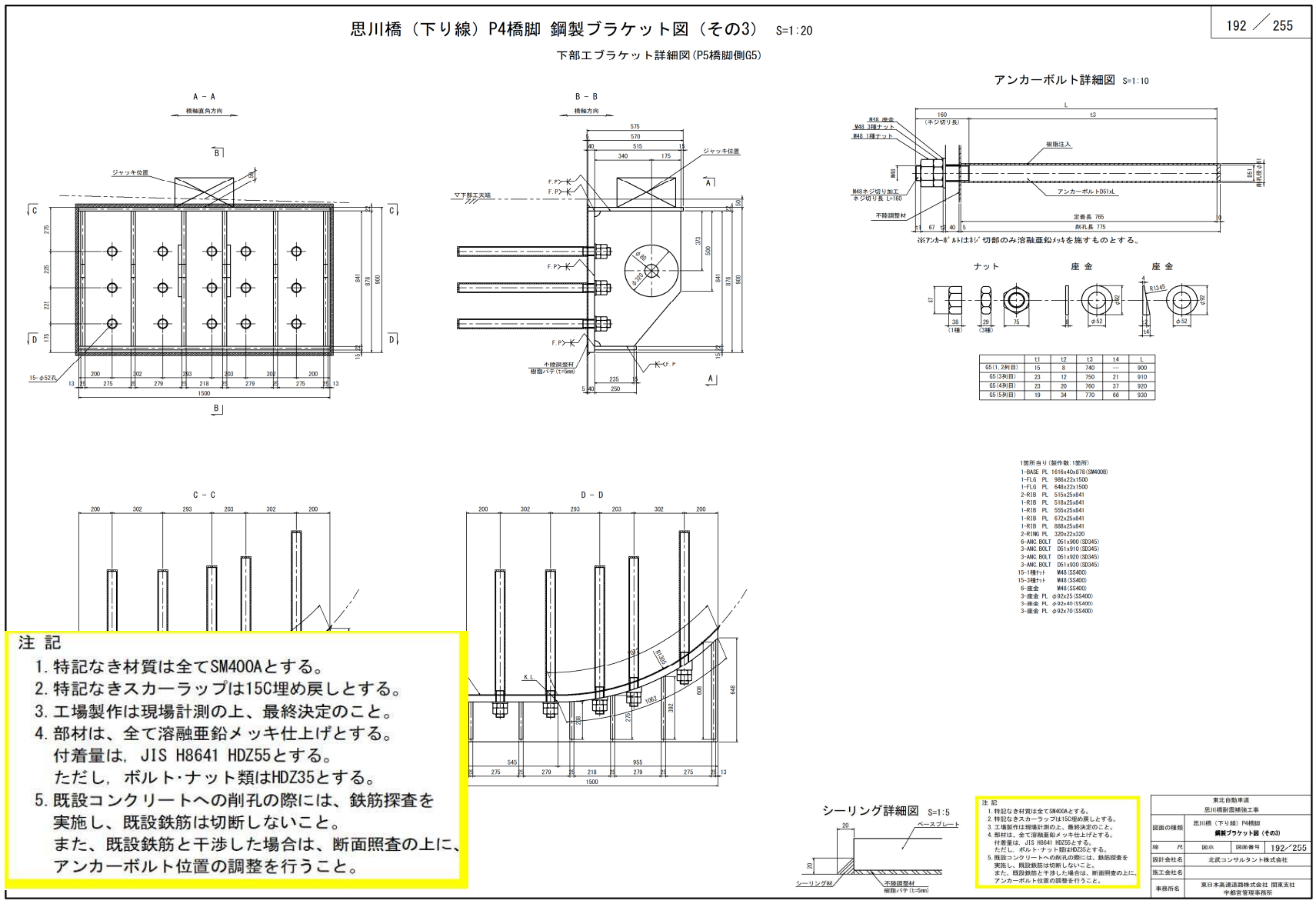
	L1	L2	L3	L4	L5	L6
G1	150	302	298	238	337	175
G2	175	327	248	248	327	175
G3	175	277	298	273	327	160
G4	200	277	313	233	277	200

注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
付着量は，JIS H8641 HDZ55とする。
ただし，ボルト･ナット類はHDZ35とする。
5. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
6. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

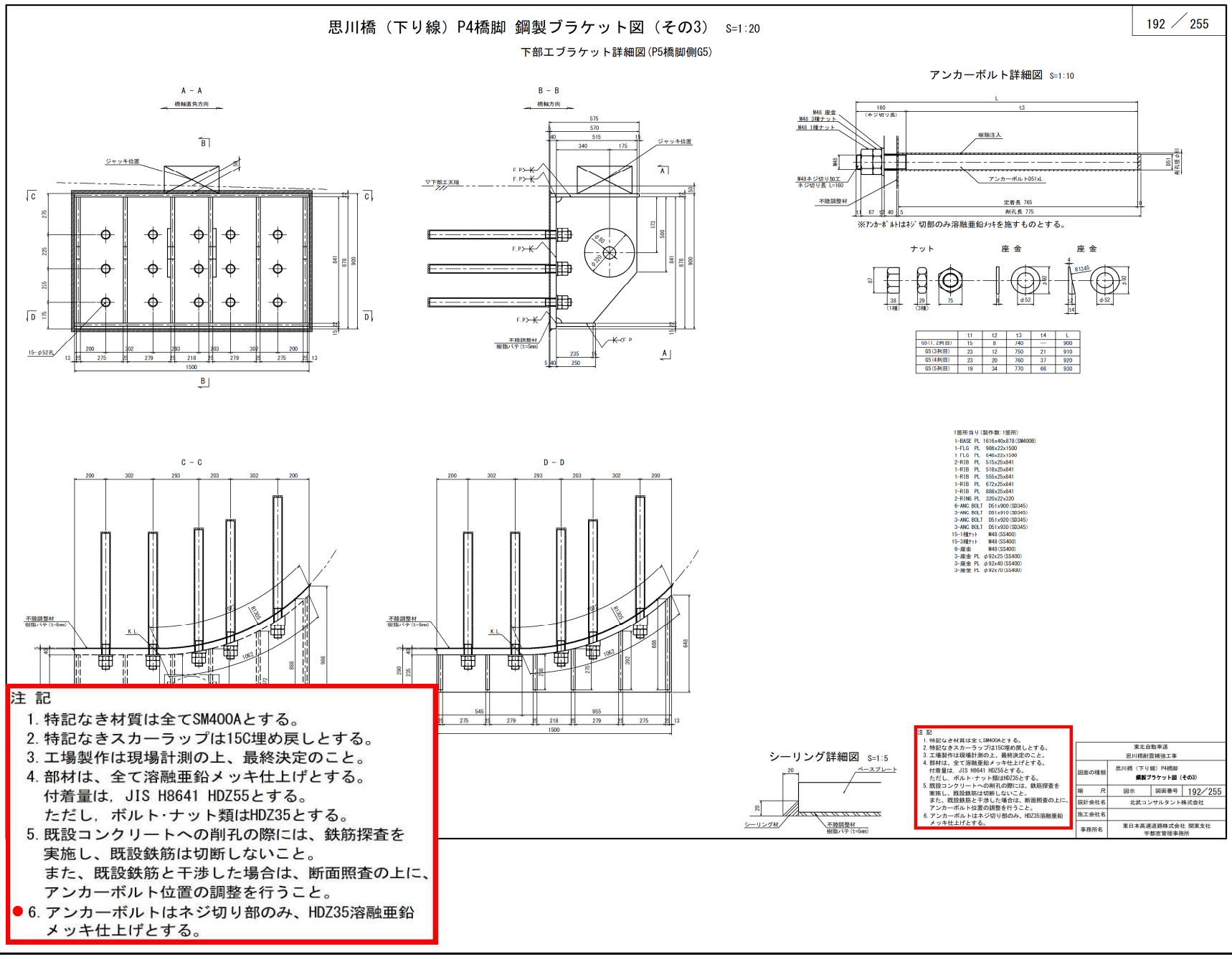


東北自動車道	思川橋耐震補強工事
図面の種類	思川橋（下り線）P4橋脚 鋼製ブラケット図（その2）
縮尺	図示
図面番号	191／255
設計会社名	北武コンサルタント株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 宇都宮管理事務所

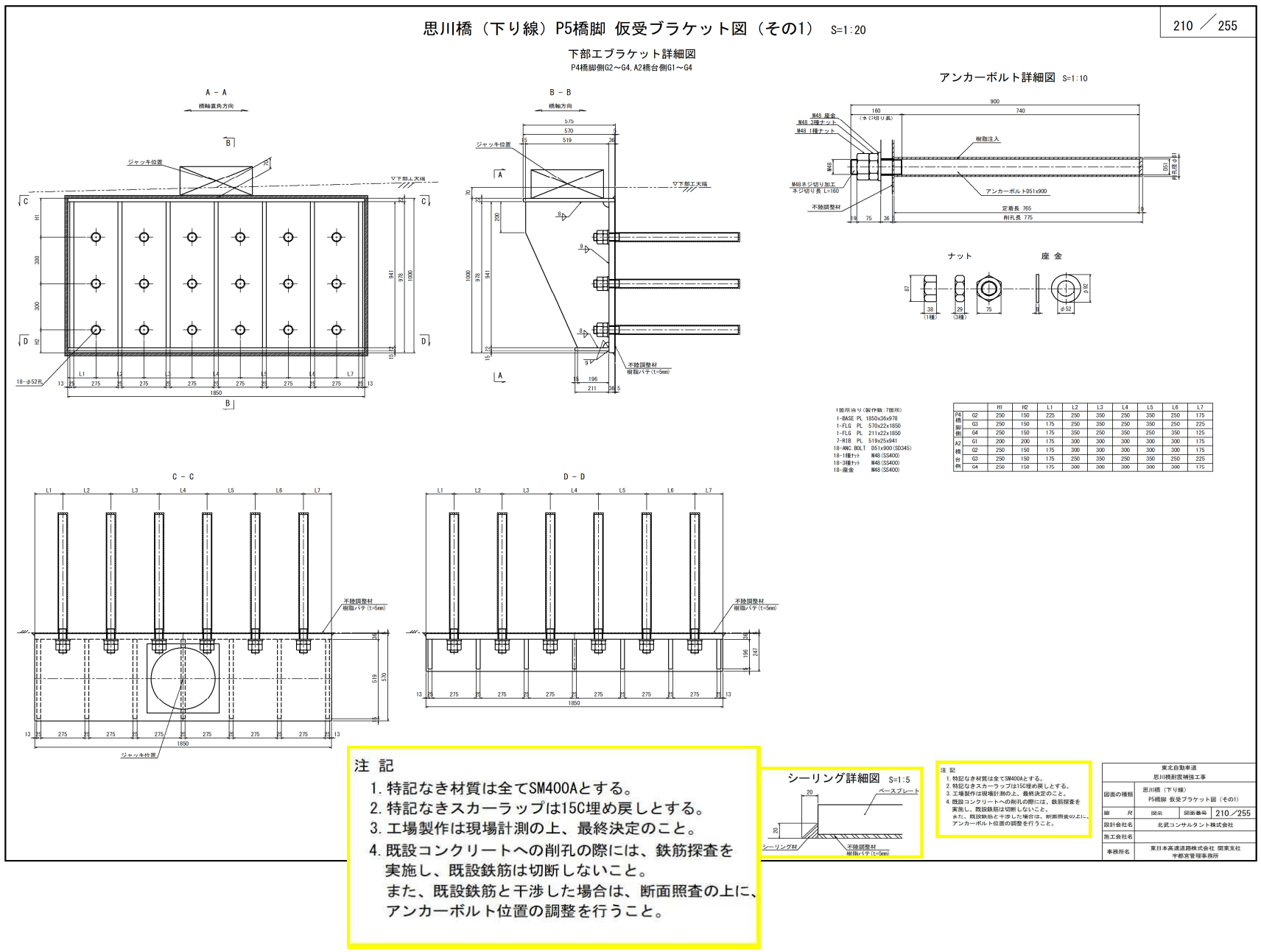
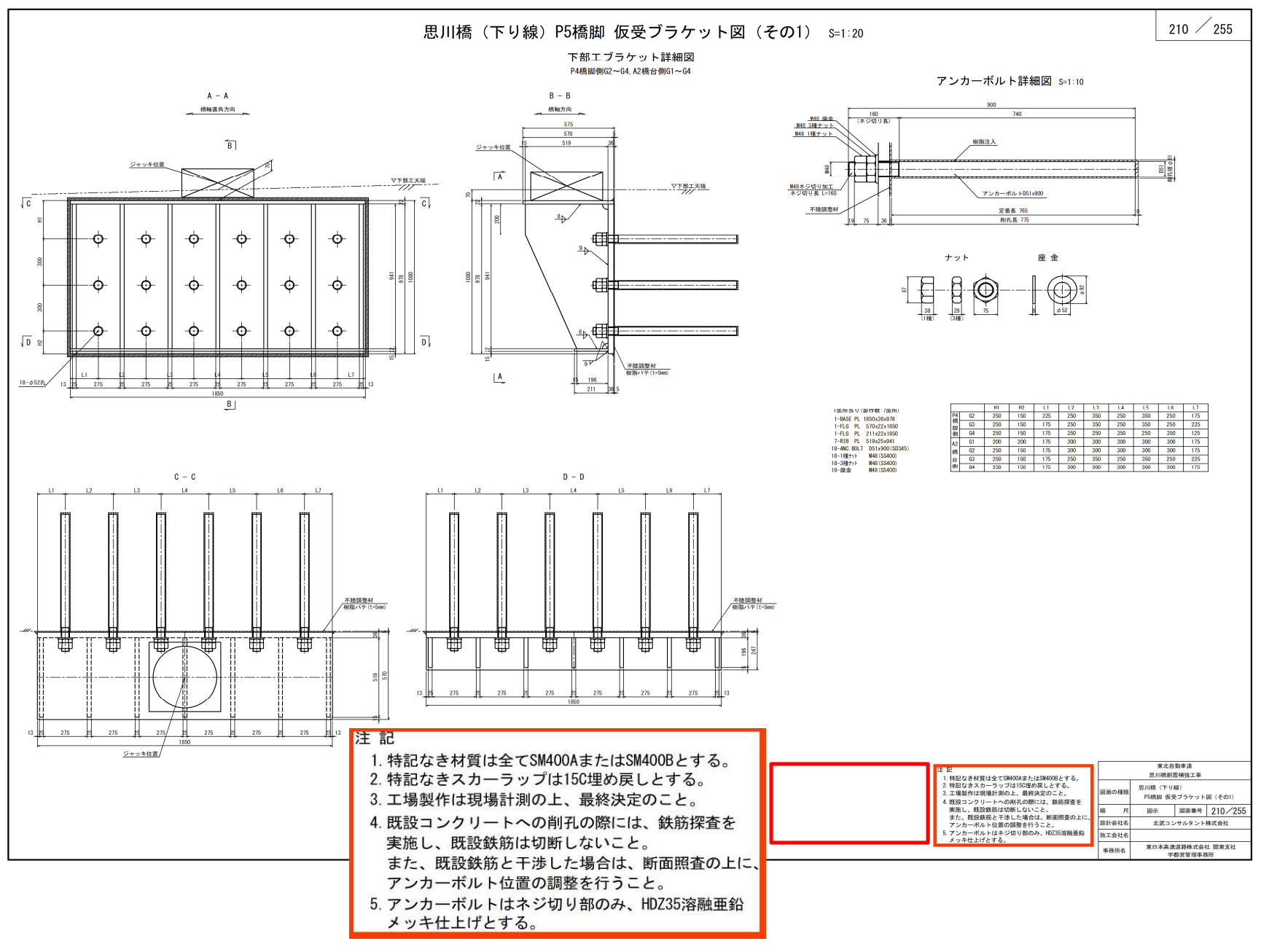
対象	設計図　思川橋（下り線）Ｐ４橋脚 仮受ブラケット図（その３）（192/255）
誤	



正	



備考	注記欄「6.アンカーボルトのメッキ仕上げ」の追記

対象	設計図　思川橋（下り線）Ｐ５橋脚 仮受ブラケット図（その１）（210/255）
誤	
正	
備考	注記欄「1. 特記なき材質は・・・」をＳＭ400ＡからＳＭ400ＡまたはＳＭ400Ｂとするに変更、「5. アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記

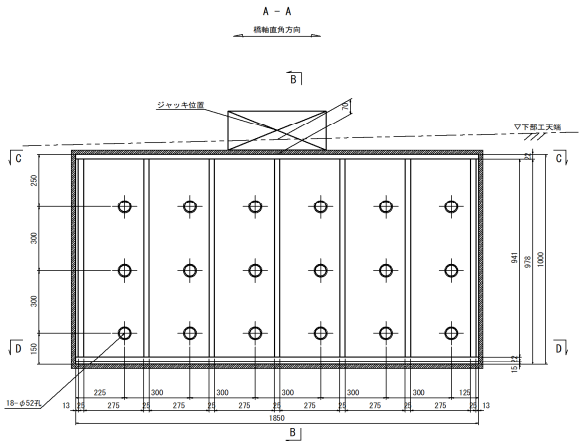
		H1	H2	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7
P4橋脚側	G2	250	150	225	250	350	250	350	250	175
	G3	250	150	175	250	350	250	350	250	225
	G4	250	150	175	350	250	350	250	350	125
A2橋台側	G1	200	200	175	300	300	300	300	300	175
	G2	250	150	175	300	300	300	300	300	175
	G3	250	150	175	250	350	250	350	250	225
	G4	250	150	175	300	300	300	300	300	175

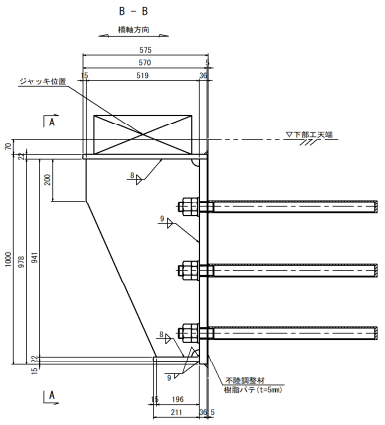
対象	設計図　思川橋（下り線）Ｐ５橋脚 仮受ブラケット図（その２）（211/255）
誤	
正	
備考	注記欄「1. 特記なき材質は・・・」をＳＭ400ＡからＳＭ400ＡまたはＳＭ400Ｂとするに変更、「5. アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記

思川橋（下り線）P5橋脚 仮受ブラケット図（その2） S=1:20

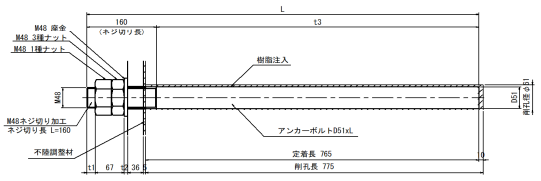
211 ／ 255

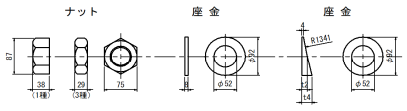
下部工ブラケット詳細図
P4橋脚側G1





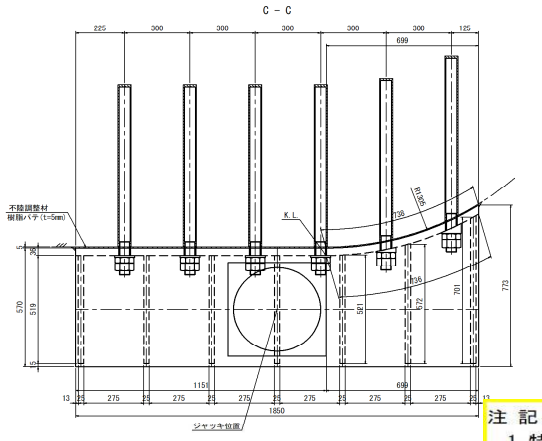
アンカーボルト詳細図 S=1:10



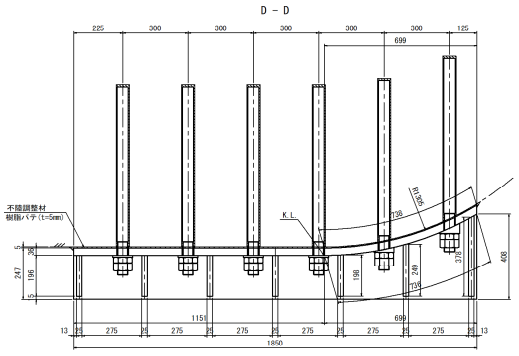


	t1	t2	t3	t4	L
G1(1→4列目)	19	8	740	—	900
G1(5列目)	24	13	750	23	910
G1(6列目)	22	25	760	48	920

C － C



D － D

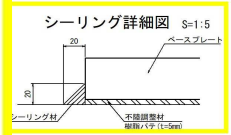


1箇所当り（製作数：1箇所）

1-BASE	PL	1889x36x978
1-FLG	PL	773x22x1850
1-FLG	PL	408x22x1850
4-RIB	PL	519x25x941
1-RIB	PL	521x25x941
1-RIB	PL	572x25x941
1-RIB	PL	701x25x941
12-ANC BOLT		D51x900(SD345)
3-ANC BOLT		D51x910(SD345)
3-ANC BOLT		D51x920(SD345)
18-1種ナット		M48(SS400)
18-3種ナット		M48(SS400)
12-座金		M48(SS400)
3-座金	PL	φ92x25(SS400)
3-座金	PL	φ92x50(SS400)

注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
付着量は，JIS H8641 HDZ55とする。
ただし，ボルト･ナット類はHDZ35とする。
5. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。

シーリング詳細図 S=1:5



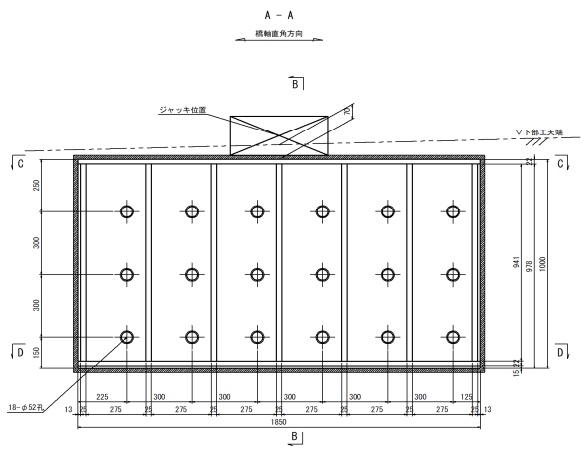
注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
付着量は，JIS H8641 HDZ55とする。
ただし，ボルト･ナット類はHDZ35とする。
5. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。

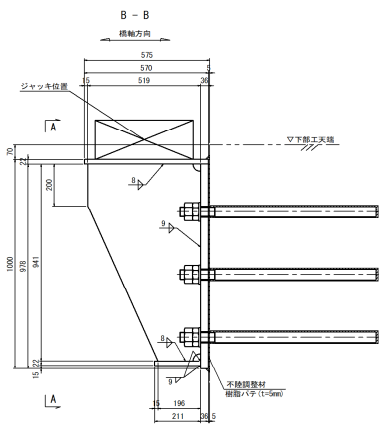
東北自動車道 思川橋耐震補強工事	
図面の種類	思川橋（下り線） P5橋脚 仮受ブラケット図（その2）
縮尺	図示
図面番号	211／255
設計会社名	北武コンサルタント株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 宇都宮管理事務所

思川橋（下り線）P5橋脚 仮受ブラケット図（その2） S=1:20

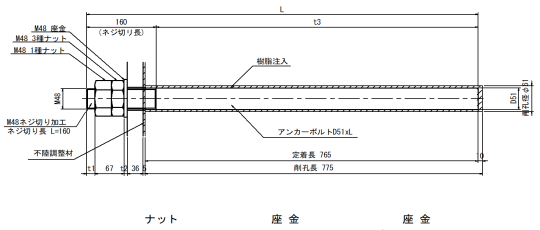
211 ／ 255

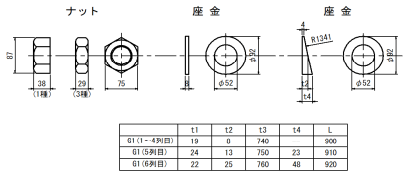
下部工ブラケット詳細図
P4橋脚側G1





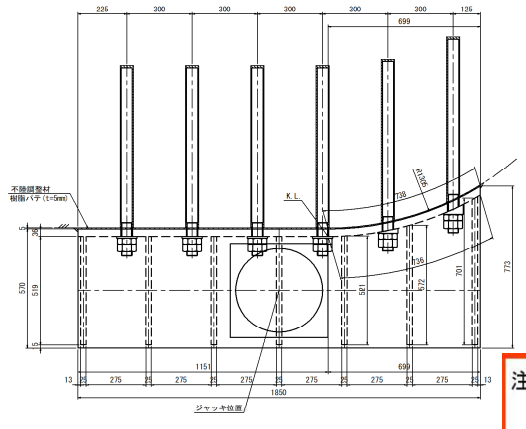
アンカーボルト詳細図 S=1:10



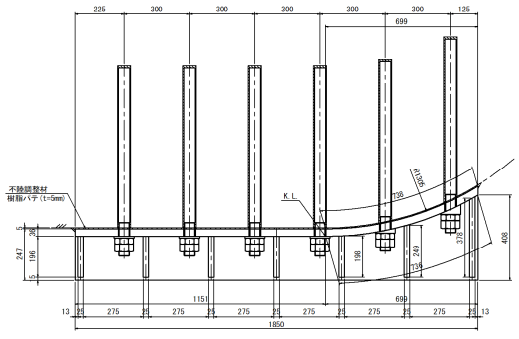


	t1	t2	t3	t4	L
G1(1－4列目)	19	8	740	—	900
G1(5列目)	24	13	750	23	910
G1(6列目)	22	25	760	48	920

C － C



D － D



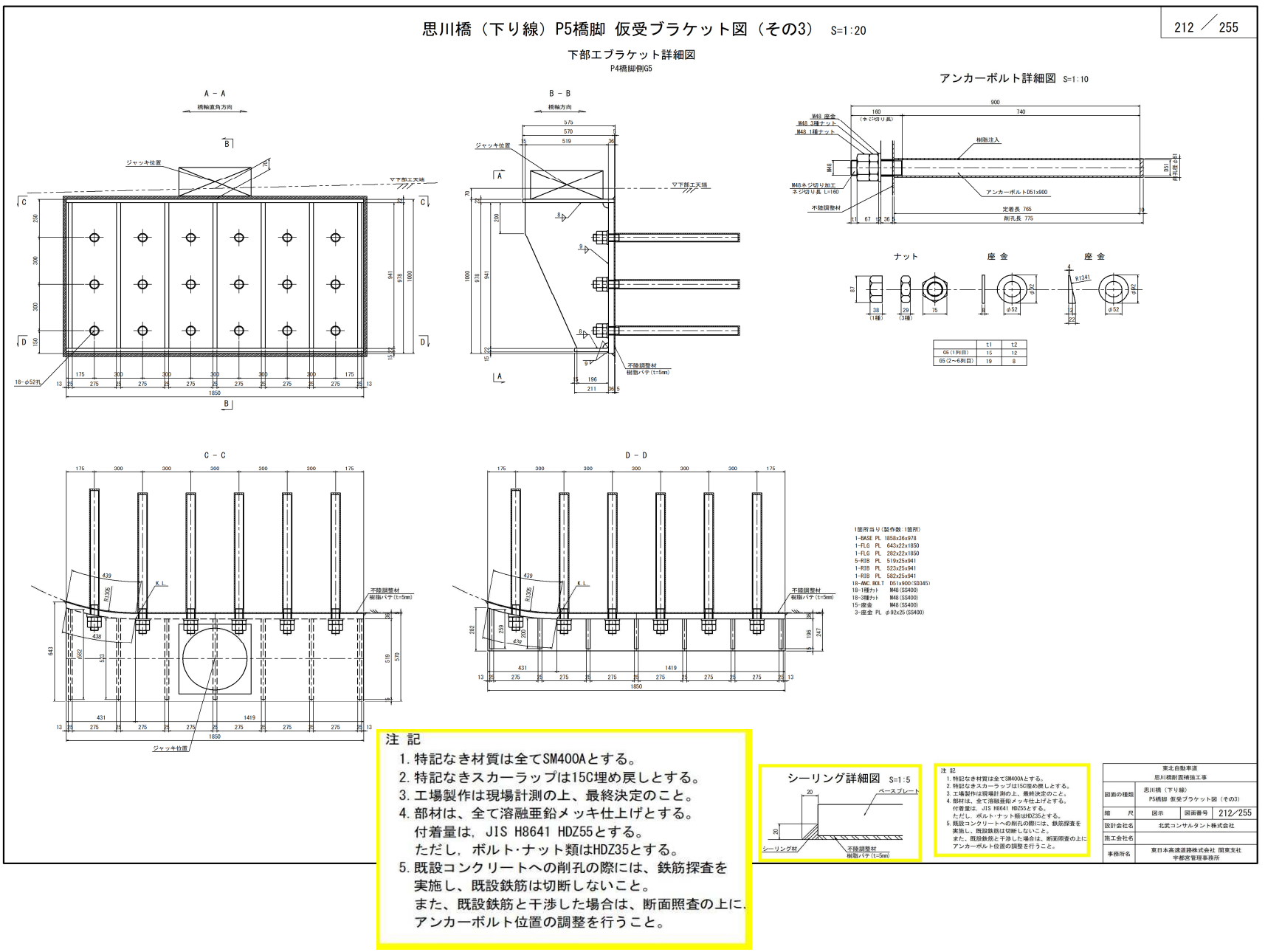
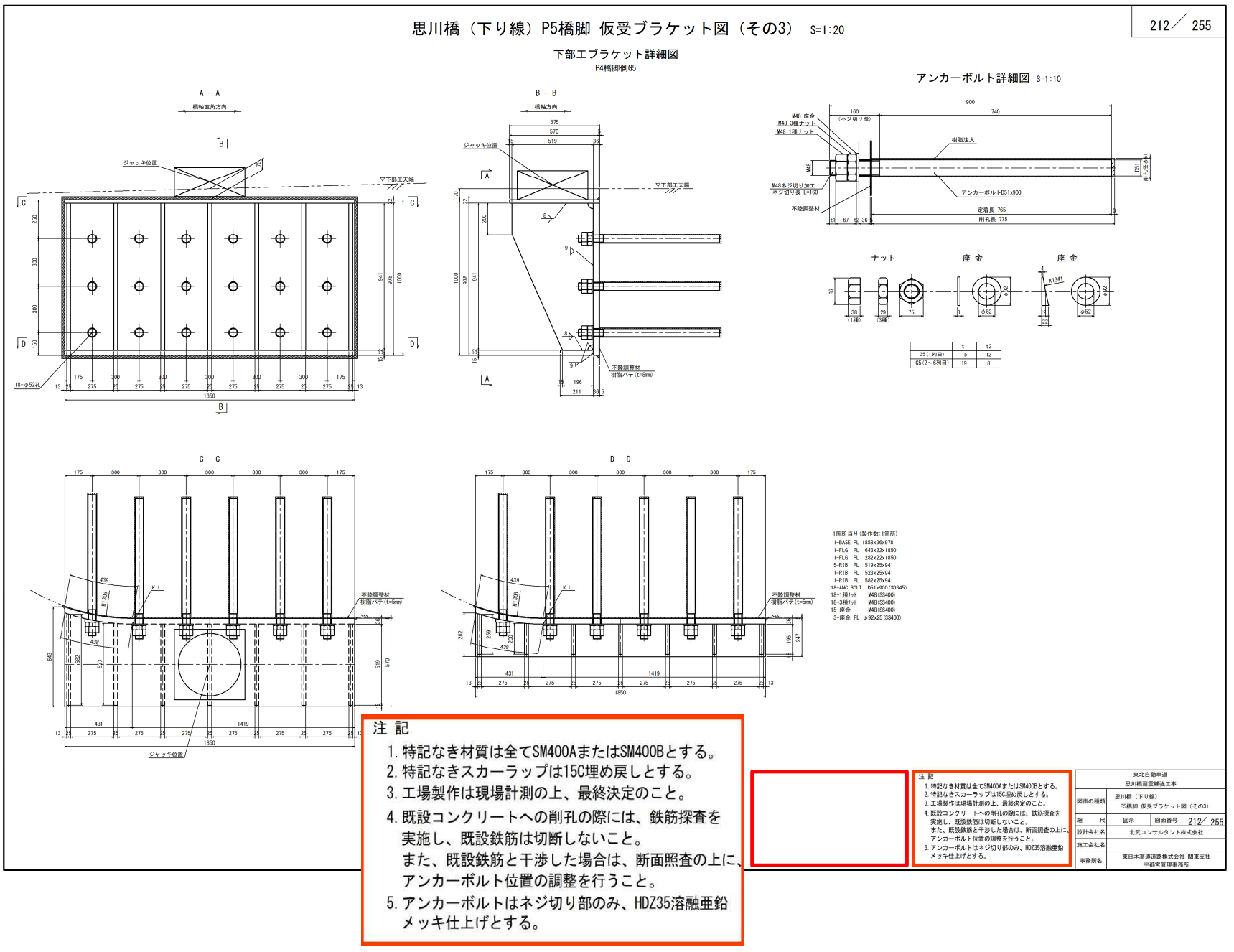
1箇所当り（製作数：1箇所）

1-BASE	PL	1889x36x978
1-FLG	PL	773x22x1850
1-FLG	PL	408x22x1850
4-RIB	PL	519x25x941
1-RIB	PL	521x25x941
1-RIB	PL	572x25x941
1-RIB	PL	701x25x941
12-ANC BOLT		D51x900(SD345)
3-ANC BOLT		D51x910(SD345)
3-ANC BOLT		D51x920(SD345)
18-1種ナット		M48(SS400)
18-3種ナット		M48(SS400)
12-座金		M48(SS400)
3-座金	PL	φ92x25(SS400)
3-座金	PL	φ92x50(SS400)

注 記
1. 特記なき材質は全てSM400AまたはSM400Bとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

注 記
1. 特記なき材質は全てSM400AまたはSM400Bとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

東北自動車道 思川橋耐震補強工事	
図面の種類	思川橋（下り線） P5橋脚 仮受ブラケット図（その2）
縮尺	図示
図面番号	211／ 255
設計会社名	北武コンサルタント株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 宇都宮管理事務所

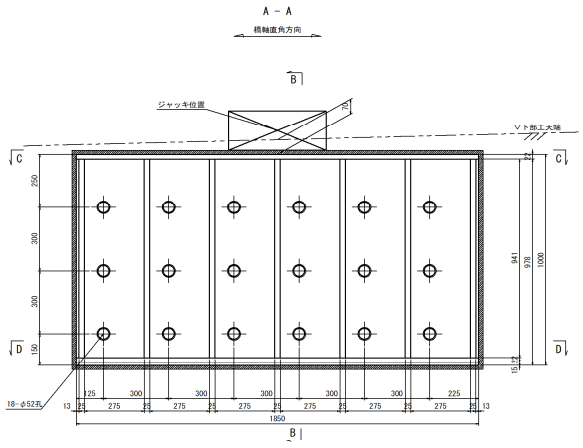
対象	設計図　思川橋（下り線）Ｐ５橋脚 仮受ブラケット図（その３）（212/255）
誤	
正	
備考	注記欄「1. 特記なき材質は・・・」をＳM400ＡからＳM400ＡまたはＳM400Ｂとするに変更、「5. アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記

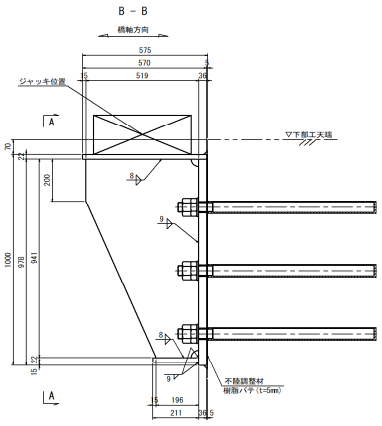
対象	設計図　思川橋（下り線）Ｐ５橋脚 仮受ブラケット図（その４）（213/255）
誤	
正	
備考	「特記なき材質は…」をSM400AからSM400AまたはSM400Bに変更 注記欄「4.メッキ仕上げ」の削除、「5.アンカーボルトのメッキ仕上げ」の追記及びシーリング詳細図の削除

思川橋（下り線）P5橋脚 仮受ブラケット図（その4） S=1:20

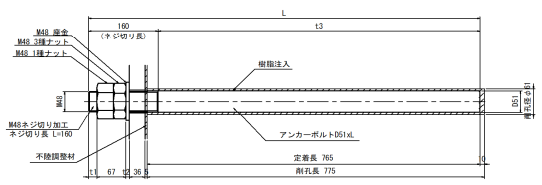
213 ／ 255

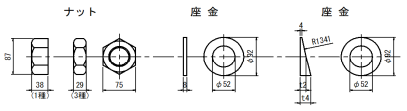
下部工ブラケット詳細図
P4橋脚側G5



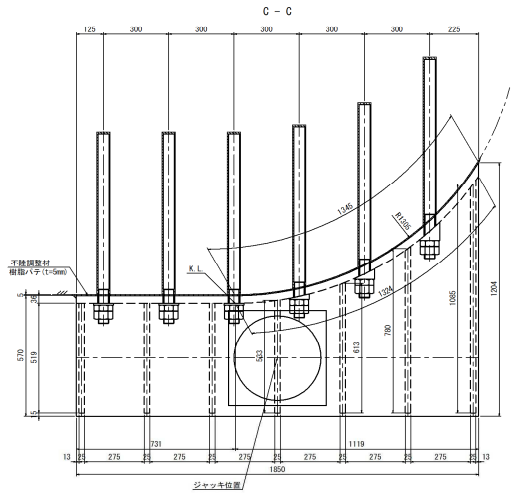


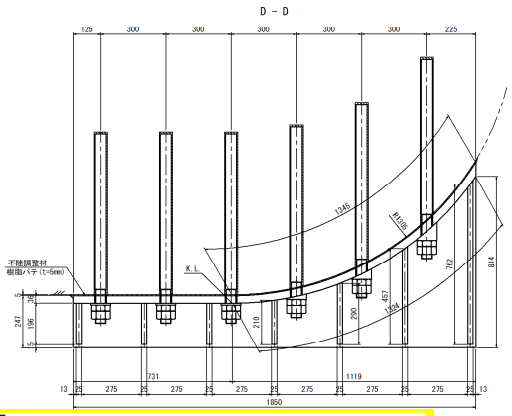
アンカーボルト詳細図 S=1:10





	t1	t2	t3	t4	L
G5（1～3列目）	19	8	740	—	900
G5（4列目）	23	14	750	25	910
G5（5列目）	21	26	760	50	920
G5（6列目）	24	43	780	86	940

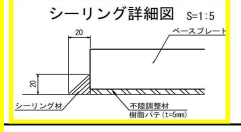




1箇所当り（製作数：1箇所）
1-BASE PL 2076x36x978
1-FLG PL 1204x22x1850
1-FLG PL 814x22x1850
3-RIB PL 519x25x941
1-RIB PL 533x25x941
1-RIB PL 613x25x941
1-RIB PL 780x25x941
1-RIB PL 1085x25x941
9-ANC.BOLT D51x900(SD345)
3-ANC.BOLT D51x910(SD345)
3-ANC.BOLT D51x920(SD345)
3-ANC.BOLT D51x940(SD345)
18-1種ﾅｯﾄ M48(SS400)
18-3種ﾅｯﾄ M48(SS400)
9-座金 M48(SS400)
3-座金 PL φ92x28(SS400)
3-座金 PL φ92x55(SS400)
3-座金 PL φ92x90(SS400)

注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
   付着量は，JIS H8641 HDZ55とする。
   ただし，ボルト･ナット類はHDZ35とする。
5. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
   また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。

シーリング詳細図 S=1:5



注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
   付着量は，JIS H8641 HDZ55とする。
   ただし，ボルト･ナット類はHDZ35とする。
5. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
   また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。

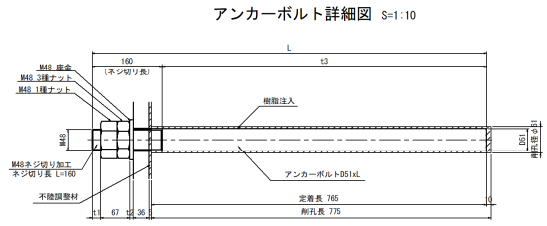
東北自動車道 思川橋耐震補強工事	
図面の種類	思川橋（下り線） P5橋脚 仮受ブラケット図（その4）
縮尺	図示
図面番号	213／255
設計会社名	北武コンサルタント株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 宇都宮管理事務所

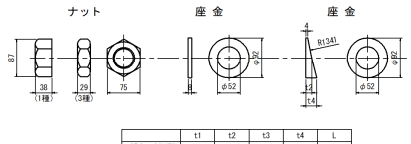
思川橋（下り線）P5橋脚 仮受ブラケット図（その4） S=1:20

213 ／ 255

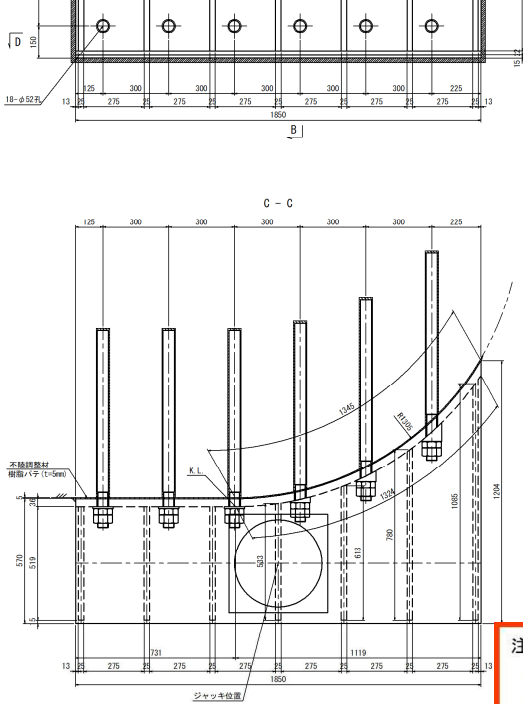
下部工ブラケット詳細図
P4橋脚側G5

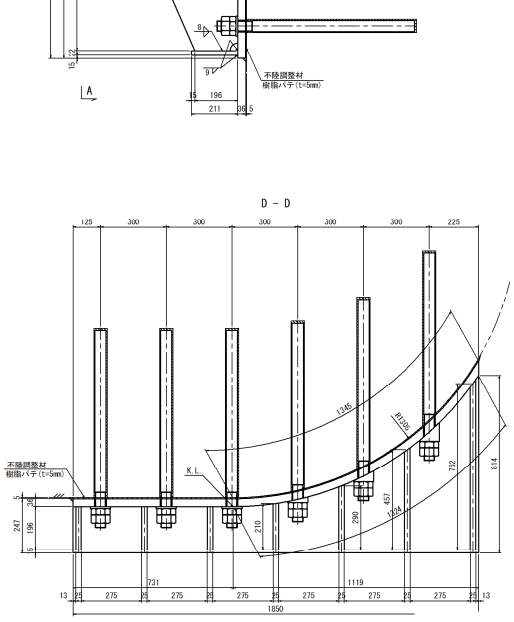
アンカーボルト詳細図 S=1:10





	t1	t2	t3	t4	L
G5（1～3列目）	19	8	740	—	900
G5（4列目）	23	14	750	25	910
G5（5列目）	21	26	760	50	920
G5（6列目）	24	43	780	86	940





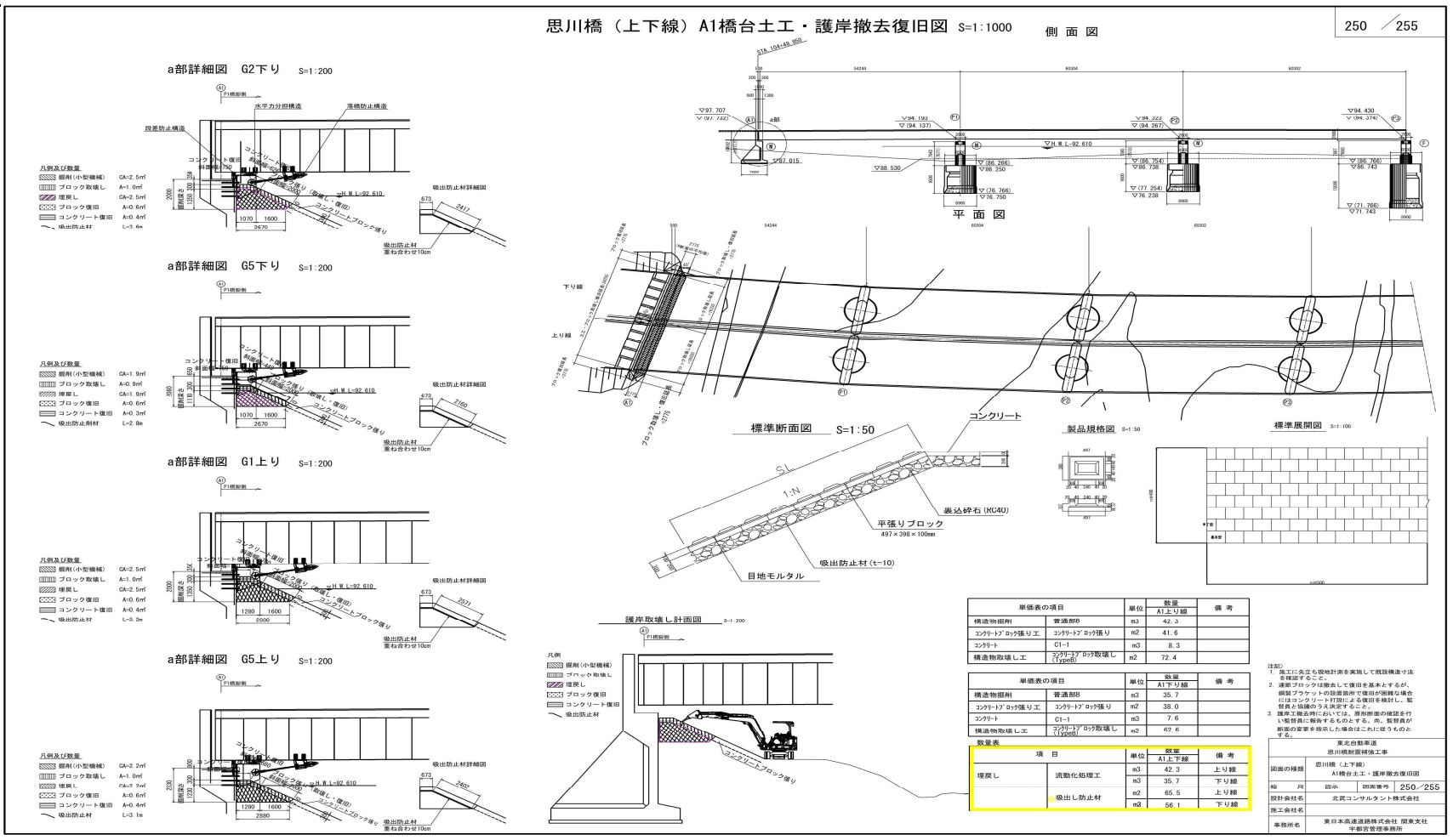
1箇所当り（製作数：1箇所）
1-BASE PL 2076x36x978
1-FLG PL 1204x22x1850
1-FLG PL 814x22x1850
3-RIB PL 519x25x941
1-RIB PL 533x25x941
1-RIB PL 613x25x941
1-RIB PL 780x25x941
1-RIB PL 1085x25x941
9-ANC.BOLT D51x900(SD345)
3-ANC.BOLT D51x910(SD345)
3-ANC.BOLT D51x920(SD345)
3-ANC.BOLT D51x940(SD345)
18-1種ﾅｯﾄ M48(SS400)
18-3種ﾅｯﾄ M48(SS400)
9-座金 M48(SS400)
3-座金 PL φ92x28(SS400)
3-座金 PL φ92x55(SS400)
3-座金 PL φ92x90(SS400)

注 記
1. 特記なき材質は全てSM400AまたはSM400Bとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
   また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

注 記
1. 特記なき材質は全てSM400AまたはSM400Bとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋の戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
   また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトのネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

東北自動車道 思川橋耐震補強工事	
図面の種類	思川橋（下り線） P5橋脚 仮受ブラケット図（その4）
縮尺	図示
図面番号	213／255
設計会社名	北武コンサルタント株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 宇都宮管理事務所

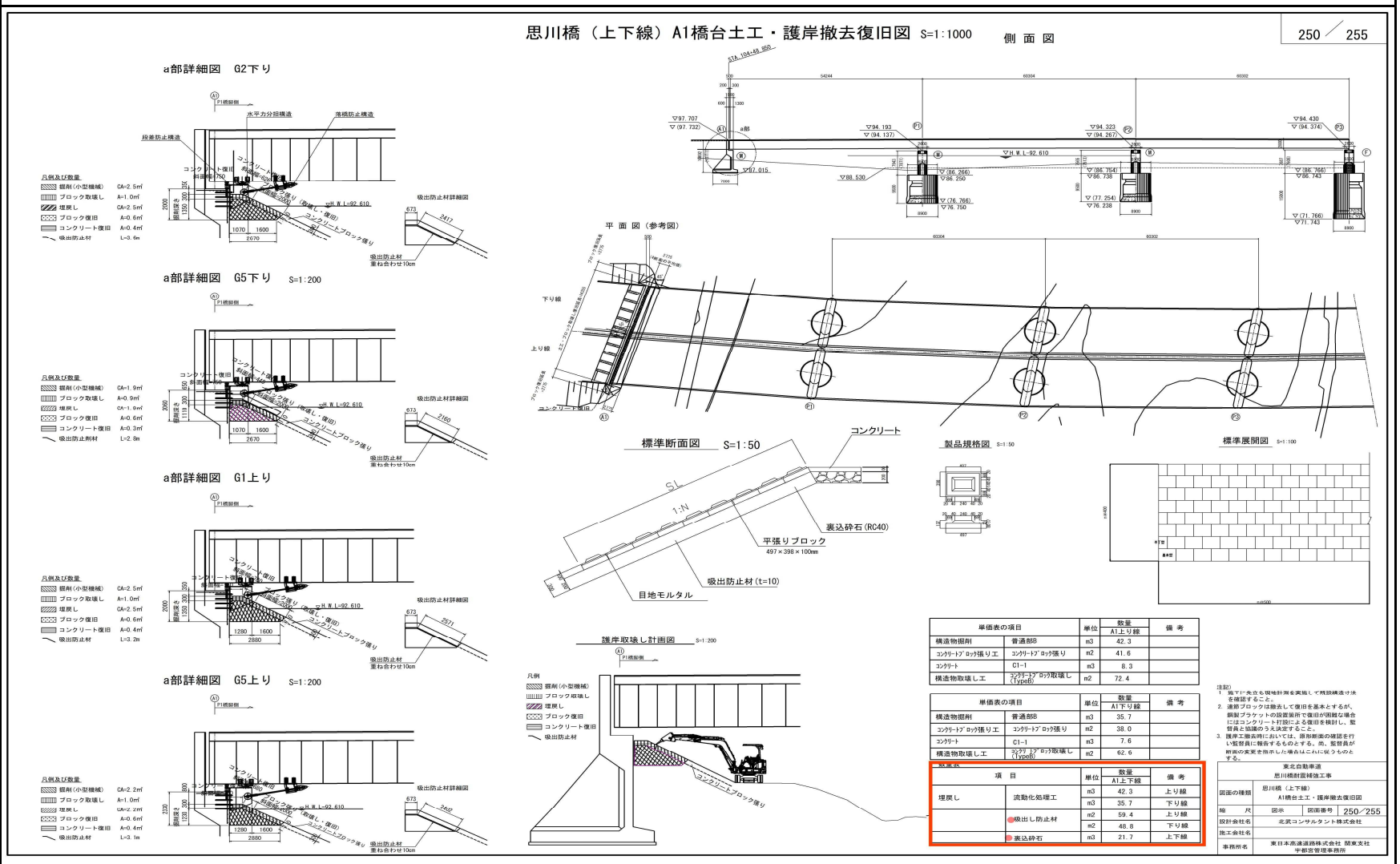
対象	設計図　思川橋（下り線）A1橋台土工・護岸撤去復旧図（250/255）
誤	



数量表

項　目		単位	数量 A1上下線	備　考
埋戻し	流動化処理工	m3	42.3	上り線
		m3	35.7	下り線
	吸出し防止材	m2	65.5	上り線
		m2	56.1	下り線

正	



数量表

項　目		単位	数量 A1上下線	備　考
埋戻し	流動化処理工	m3	42.3	上り線
		m3	35.7	下り線
	吸出し防止材	m2	59.4	上り線
		m2	48.8	下り線
	裏込砕石	m3	21.7	上下線

備考	数量表の訂正（吸出防止材数量、裏込砕石数量追記）

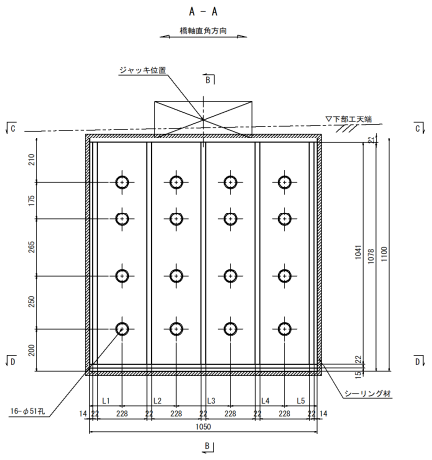
対象	設計図　黒川橋（上り線）Ｐ１橋脚 仮受ブラケット図（その１）（41/189）
誤	
正	
備考	注記欄「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　「シーリング詳細図」の削除

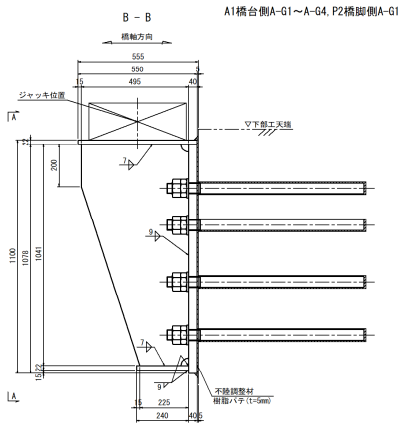
黒川橋（上り線）P1橋脚 仮受ブラケット図（その1） S=1:20

41 ／ 189

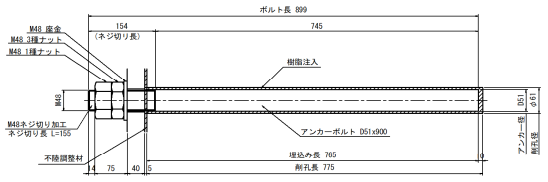
下部工ブラケット詳細図

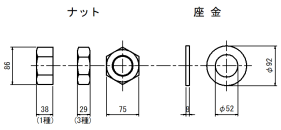
A1橋台側A-G1～A-G4, P2橋脚側A-G1～A-G4

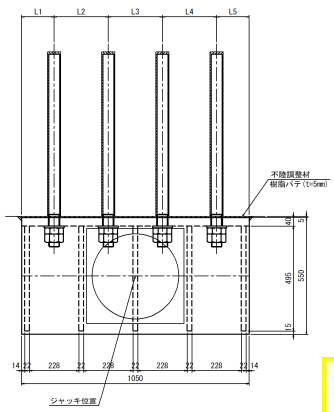


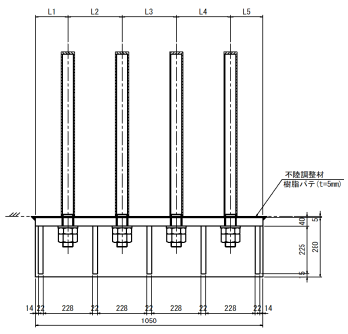


アンカーボルト詳細図 S=1:10



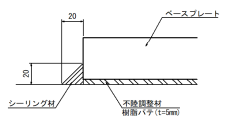






		L1	L2	L3	L4	L5
A1橋台側	A-G1	115	285	215	285	150
	A-G2	115	285	250	250	150
	A-G3	150	250	215	285	150
	A-G4	115	285	250	250	150
P2橋脚側	A-G1	175	225	275	215	160
	A-G2	150	240	285	225	150
	A-G3	175	225	250	240	160
	A-G4	150	240	285	225	150

シーリング詳細図 S=1:4

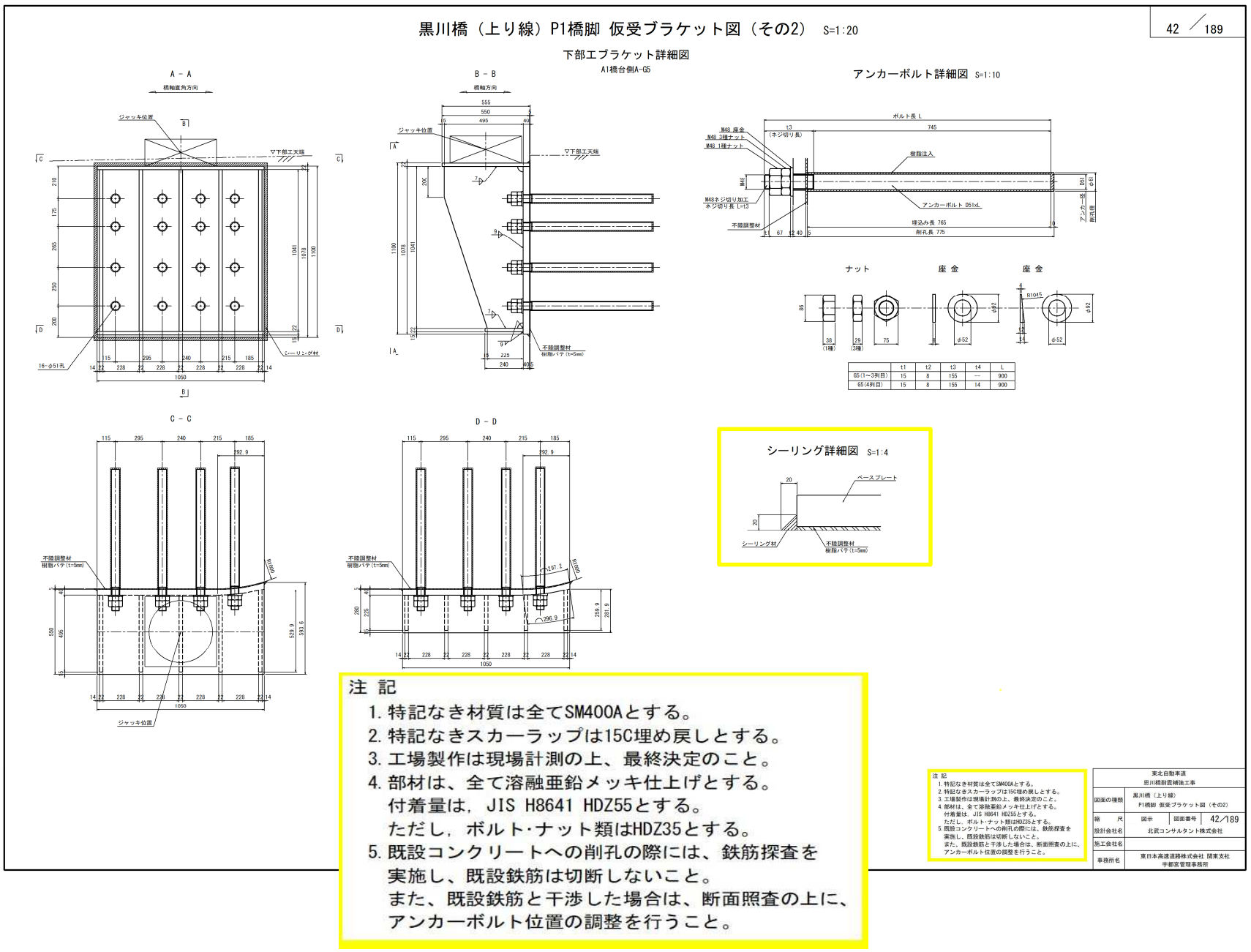


注 記

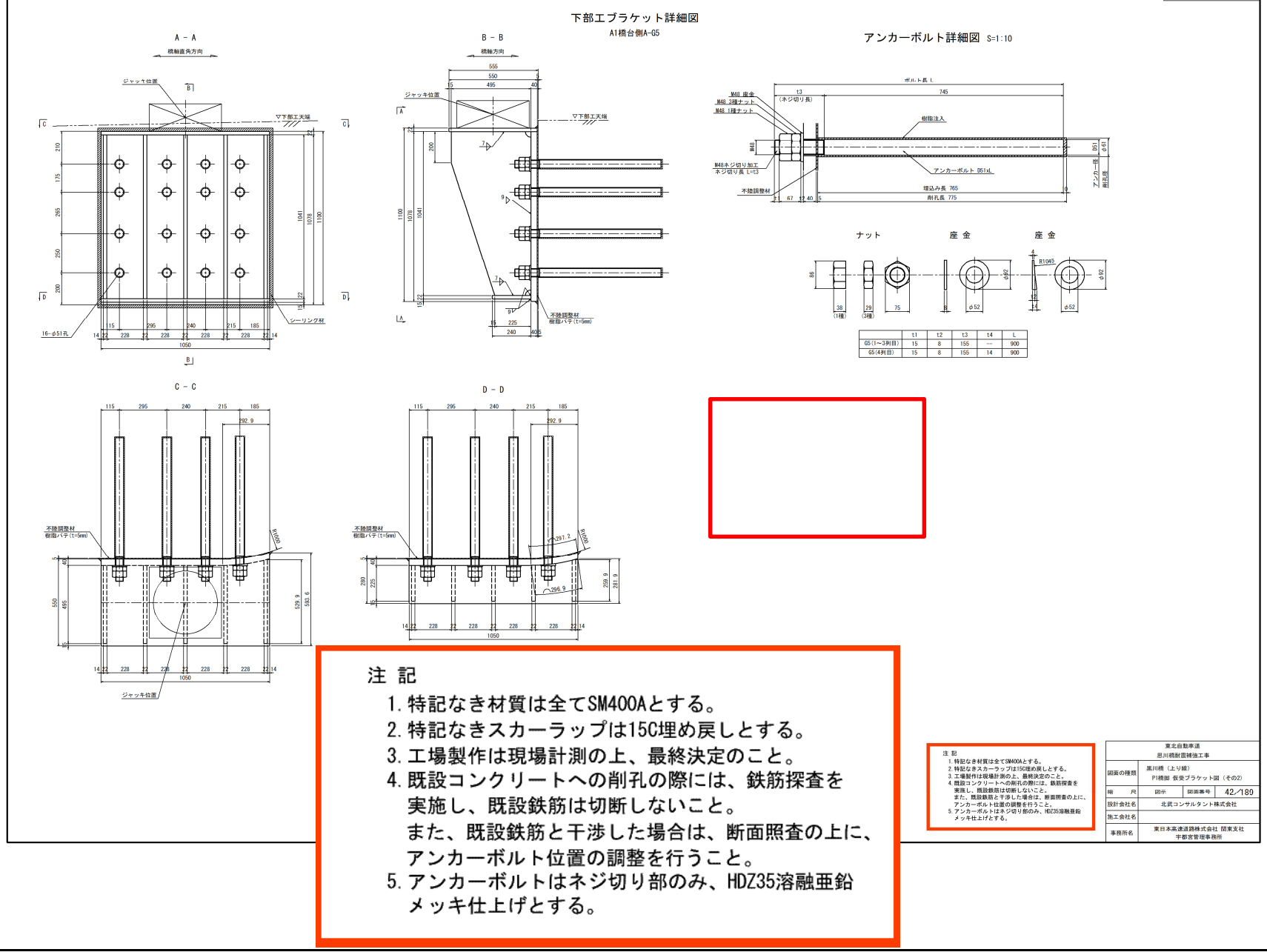
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
   また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

東北自動車道	思川橋耐震補強工事
図面の種類	黒川橋（上り線） P1橋脚 仮受ブラケット図（その1）
縮尺	図示
図面番号	41／189
設計会社名	北武コンサルタント株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 宇都宮管理事務所

対象	設計図　黒川橋（上り線）Ｐ１橋脚 仮受ブラケット図（その２）（42/189）
誤	

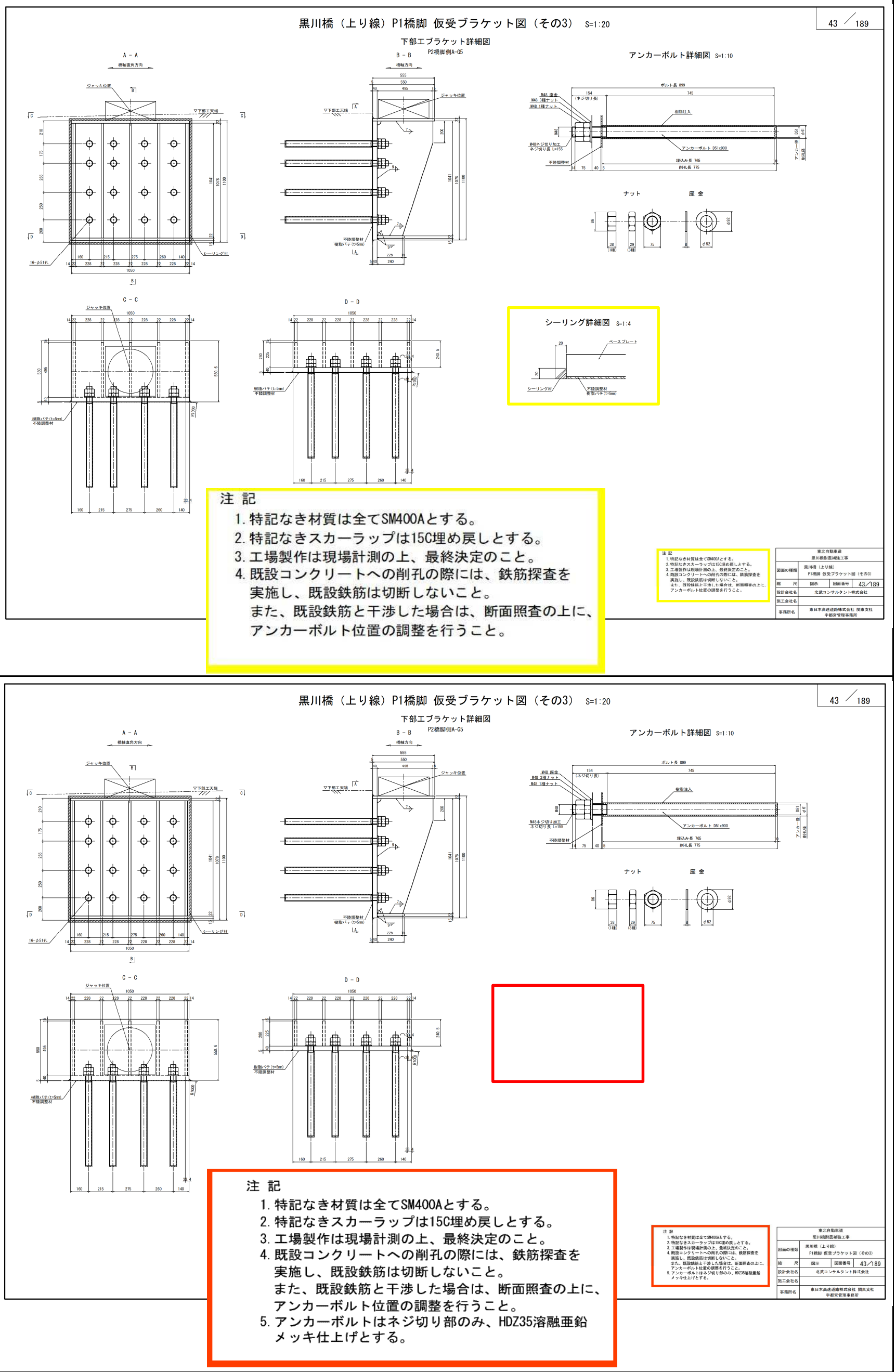


正

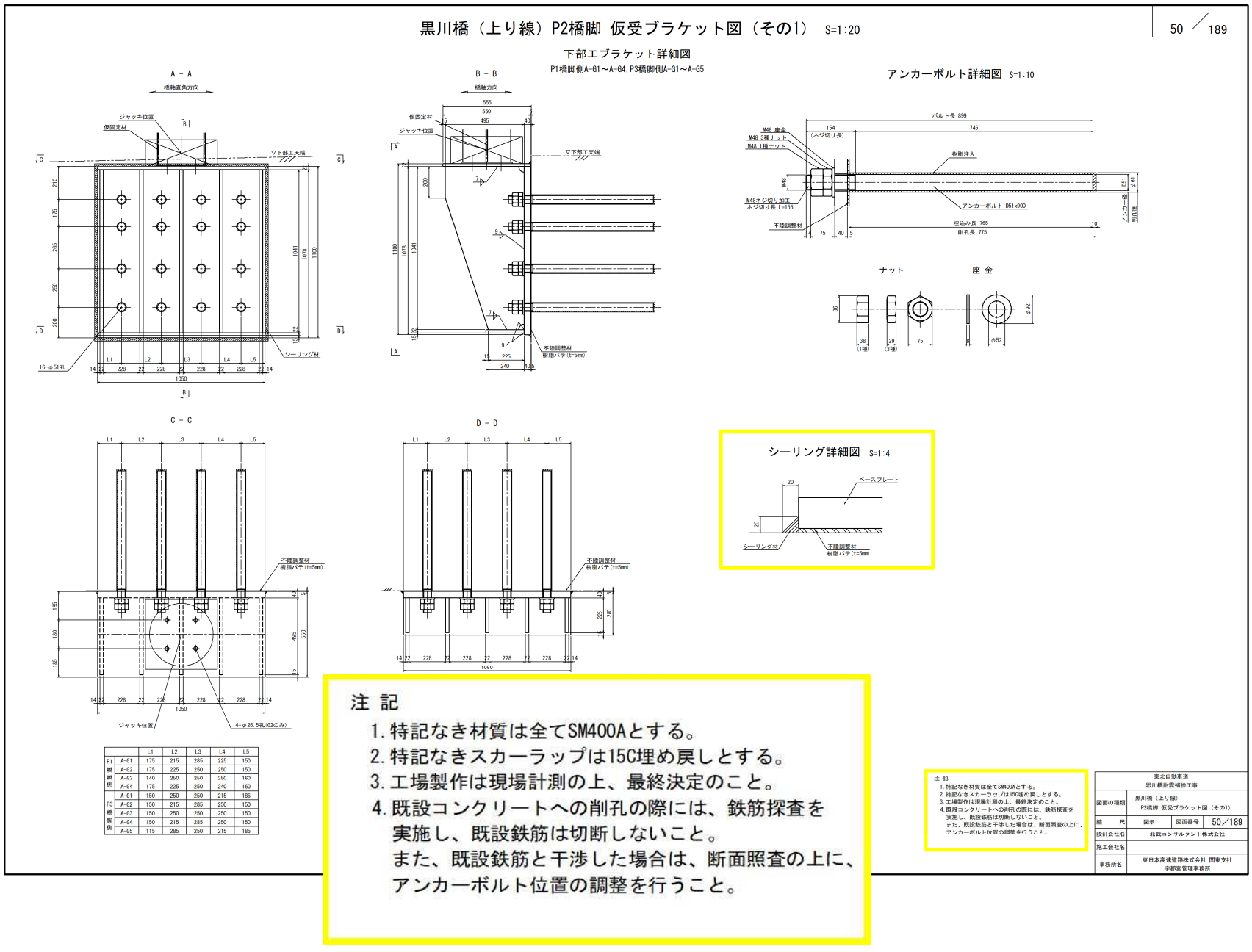


備考	注記欄「4.溶融亜鉛メッキ」の削除「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　「シーリング詳細図」の削除

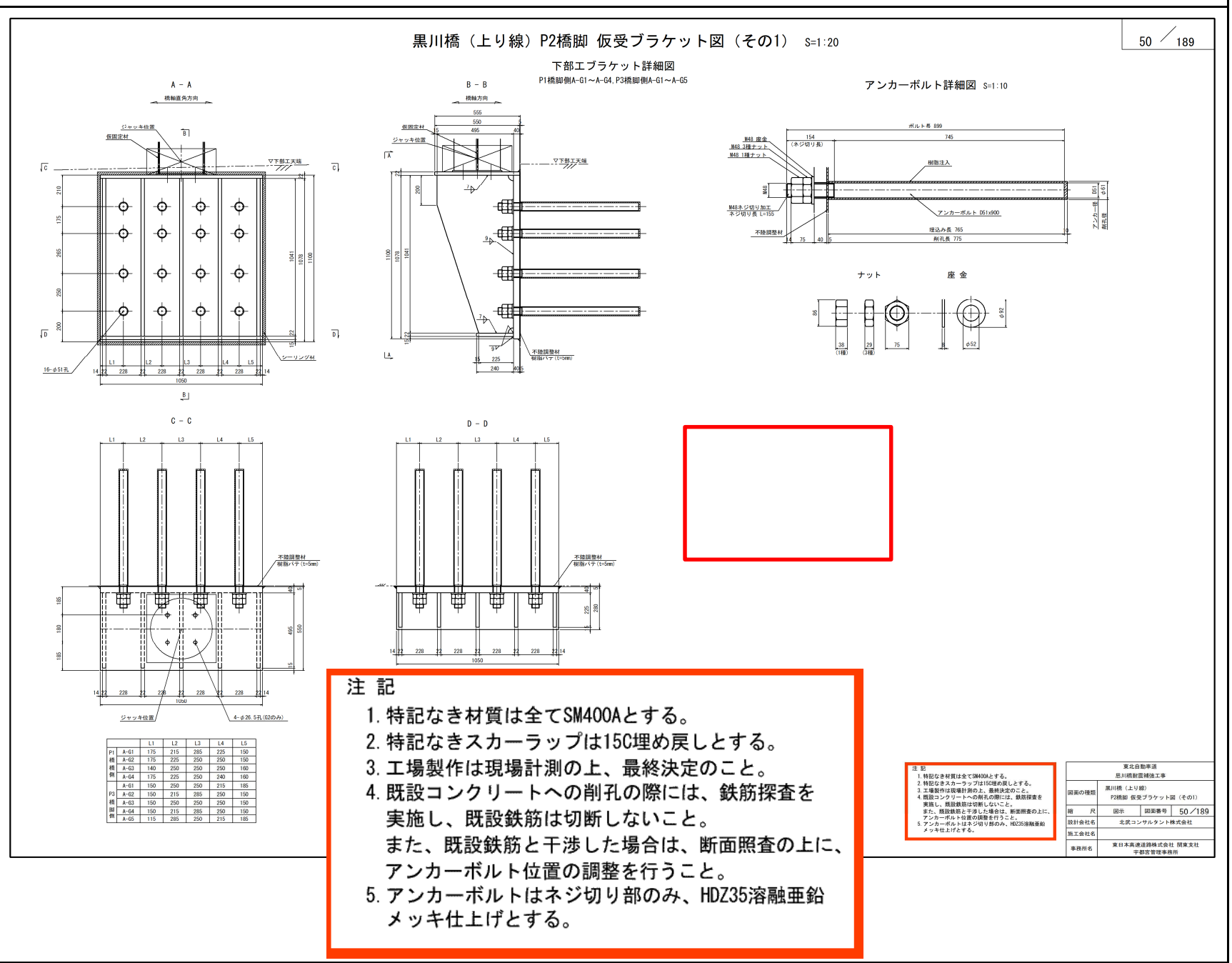
対象	設計図　黒川橋（上り線）Ｐ１橋脚 仮受ブラケット図（その３）（43/189）
誤	
正	
備考	注記欄「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　「シーリング詳細図」の削除



対象	設計図　黒川橋（上り線）Ｐ２橋脚 仮受ブラケット図（その１）（50/189）
誤	

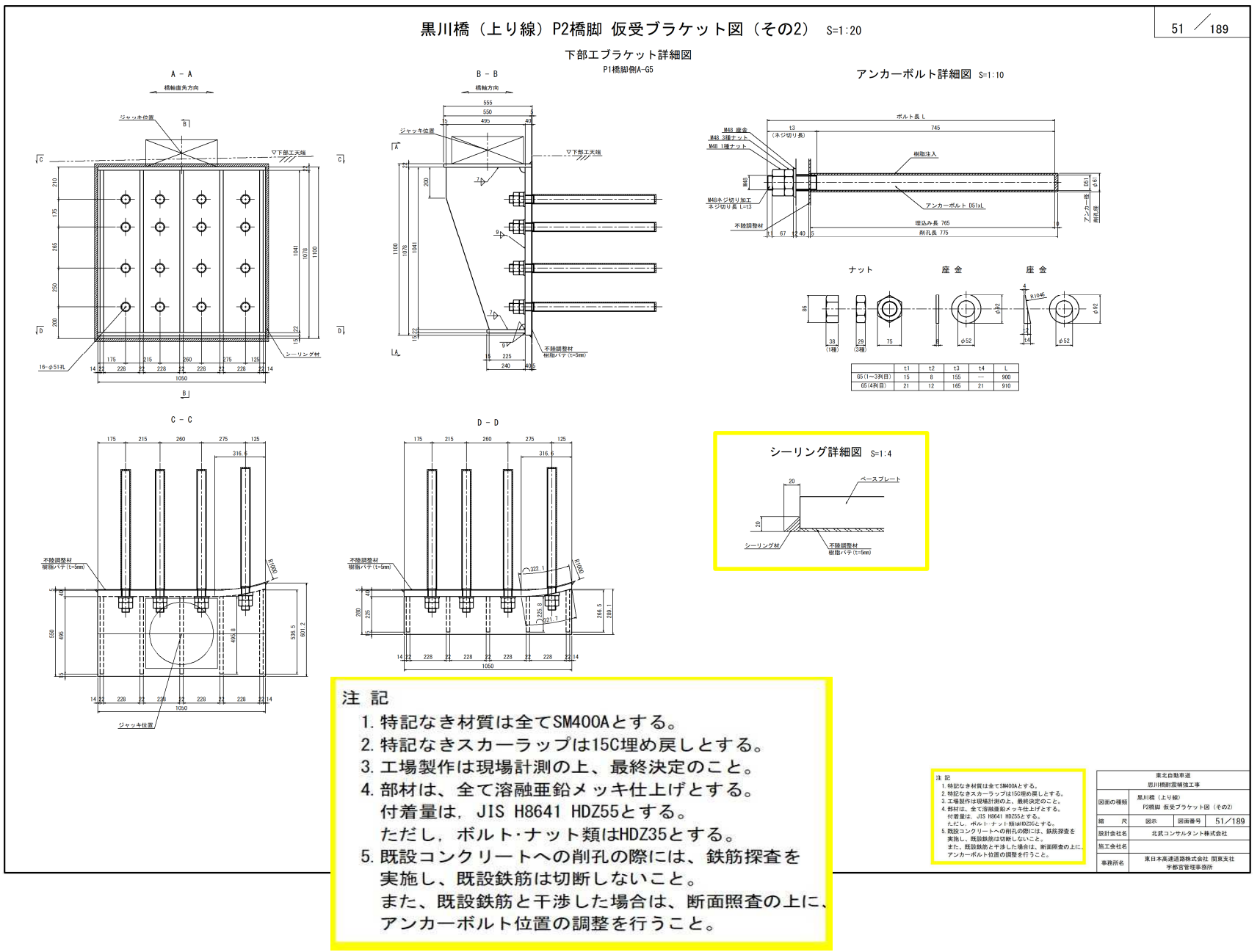


正	

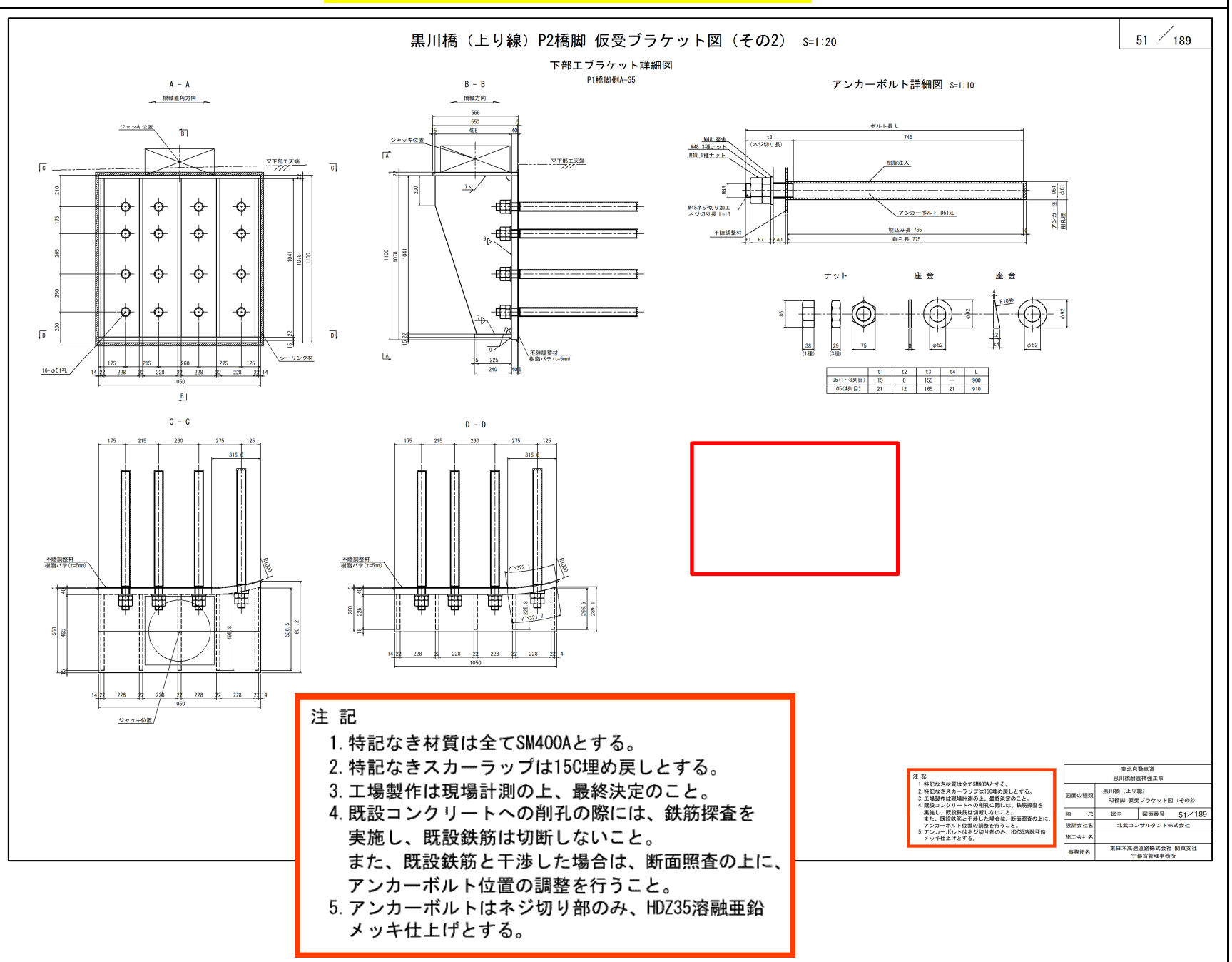


備考	注記欄「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　「シーリング詳細図」の削除

対象	設計図　黒川橋（上り線）Ｐ２橋脚 仮受ブラケット図（その２）（51/189）
誤	



正	



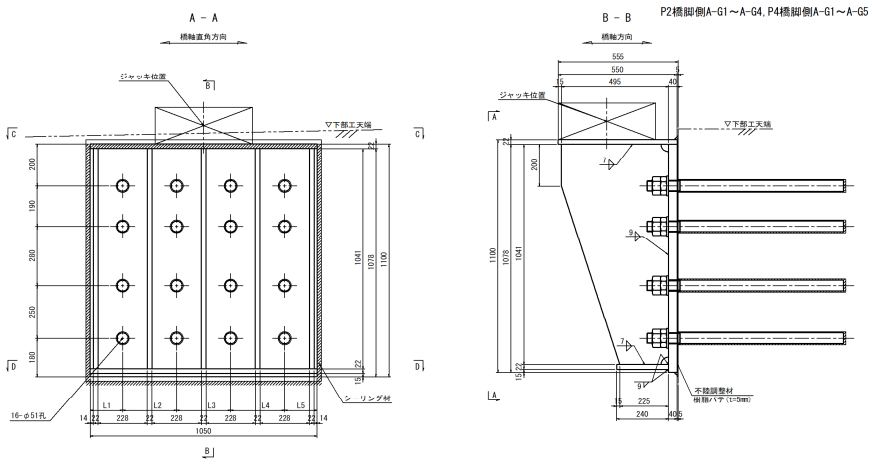
備考	注記欄「4.溶融亜鉛メッキ」の削除「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　　「シーリング詳細図」の削除

対象	設計図　黒川橋（上り線）Ｐ３橋脚 仮受ブラケット図（その１）（65/189）
誤	
正	
備考	注記欄「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　「シーリング詳細図」の削除

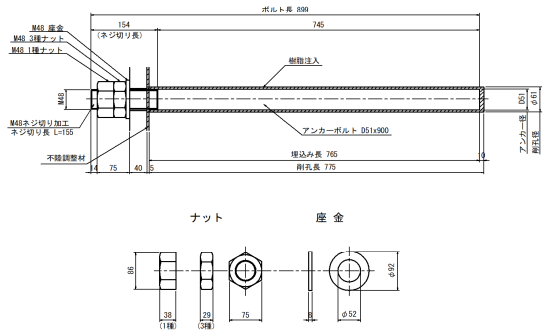
黒川橋（上り線）P3橋脚 仮受ブラケット図（その1） S=1:20

65 ／ 189

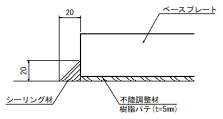
下部工ブラケット詳細図
P2橋脚側A-G1～A-G4, P4橋脚側A-G1～A-G5



アンカーボルト詳細図 S=1:10



シーリング詳細図 S=1:4



		L1	L2	L3	L4	L5
P2橋橋側	A-G1	150	300	200	250	150
	A-G2	150	250	250	300	100
	A-G3	150	300	200	250	150
	A-G4	150	250	250	300	100
P4橋脚側	A-G1	150	240	240	300	120
	A-G2	130	290	230	250	150
	A-G3	150	230	250	290	130
	A-G4	130	300	220	250	150
	A-G5	180	200	250	300	120

注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。

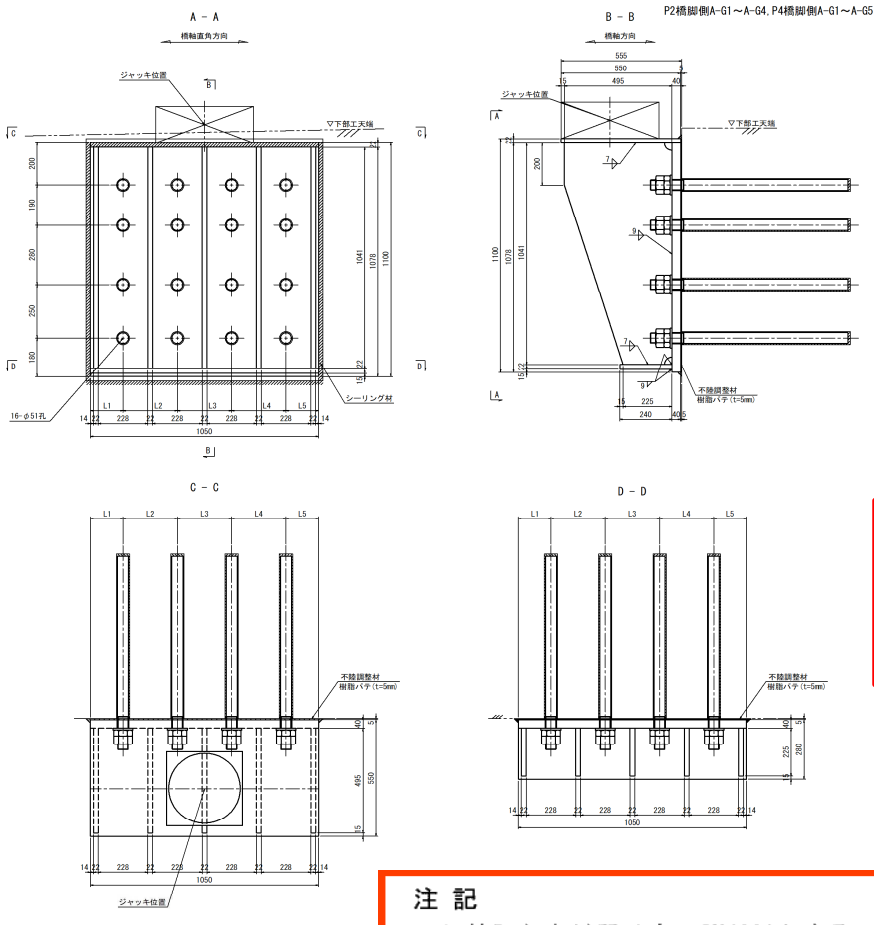
注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。

東北自動車道	恩川橋耐震補強工事
図面の種類	黒川橋（上り線） P3橋脚 仮受ブラケット図（その1）
縮尺	図示
図面番号	65／189
設計会社名	北武コンサルタント株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 宇都宮管理事務所

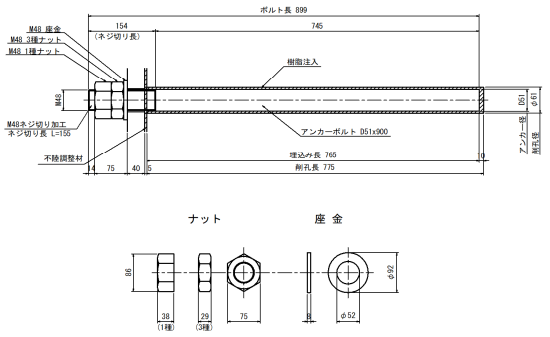
黒川橋（上り線）P3橋脚 仮受ブラケット図（その1） S=1:20

65 ／ 189

下部工ブラケット詳細図
P2橋脚側A-G1～A-G4, P4橋脚側A-G1～A-G5



アンカーボルト詳細図 S=1:10



		L1	L2	L3	L4	L5
P2橋橋側	A-G1	150	300	200	250	150
	A-G2	150	250	250	300	100
	A-G3	150	300	200	250	150
	A-G4	150	250	250	300	100
P4橋脚側	A-G1	150	240	240	300	120
	A-G2	130	290	230	250	150
	A-G3	150	230	250	290	130
	A-G4	130	300	220	250	150
	A-G5	180	200	250	300	120

注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

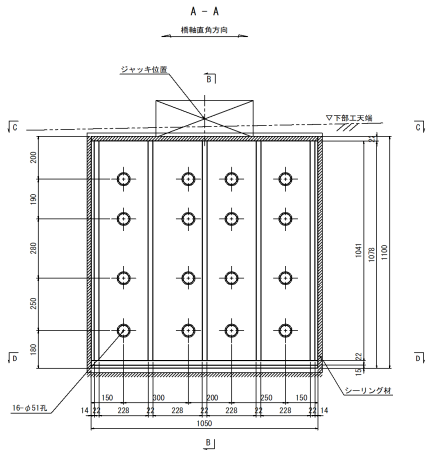
東北自動車道	恩川橋耐震補強工事
図面の種類	黒川橋（上り線） P3橋脚 仮受ブラケット図（その1）
縮尺	図示
図面番号	65／189
設計会社名	北武コンサルタント株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 宇都宮管理事務所

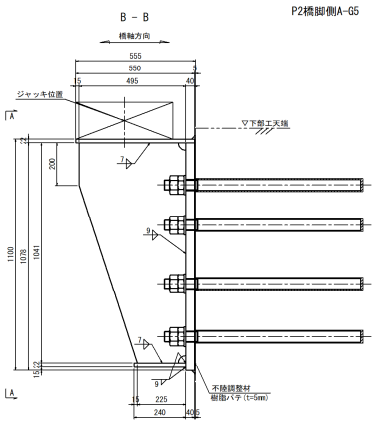
対象	設計図　黒川橋（上り線）Ｐ３橋脚 仮受ブラケット図（その２）（66/189）
誤	
正	
備考	注記欄「4.溶融亜鉛メッキ」の削除「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　　「シーリング詳細図」の削除

黒川橋（上り線）P3橋脚 仮受ブラケット図（その2） S=1:20

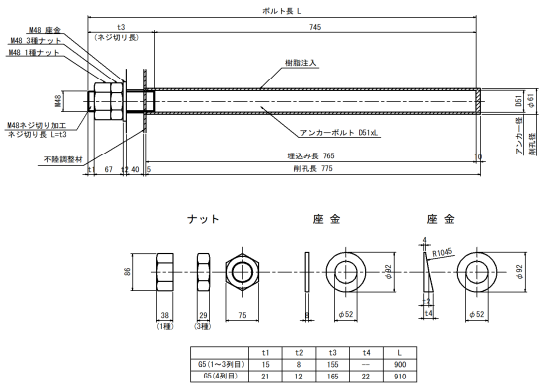
66 ／ 189

下部工ブラケット詳細図
P2橋脚側A-G5

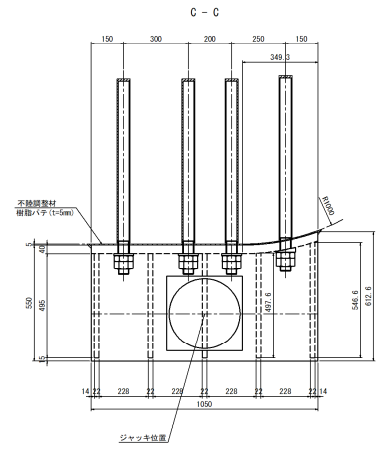


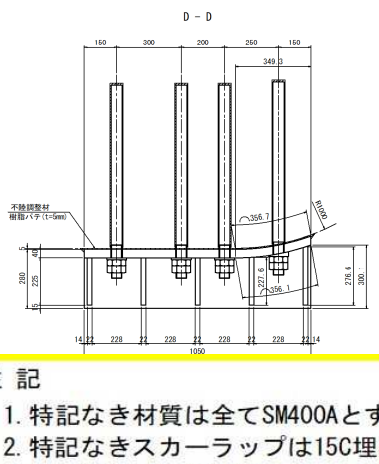


アンカーボルト詳細図 S=1:10

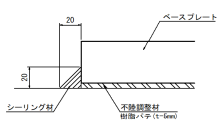


	t1	t2	t3	t4	L
G5(1～3列目)	15	8	155	—	900
G5(4列目)	21	12	165	22	910





シーリング詳細図 S=1:4

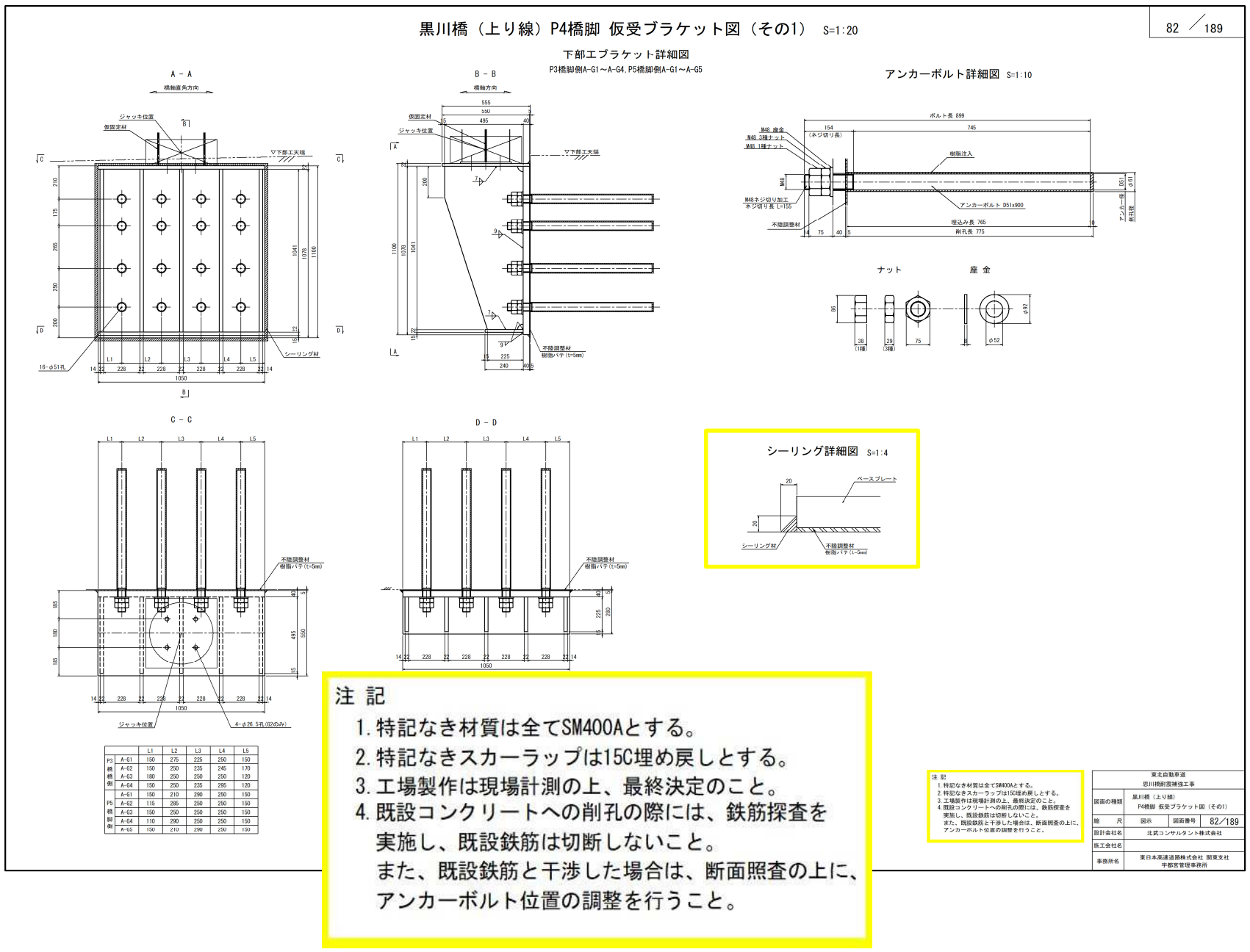


注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
　付着量は，JIS H8641 HDZ55とする。
　ただし，ボルト･ナット類はHDZ35とする。
5. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を
　実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
　また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、
　アンカーボルト位置の調整を行うこと。

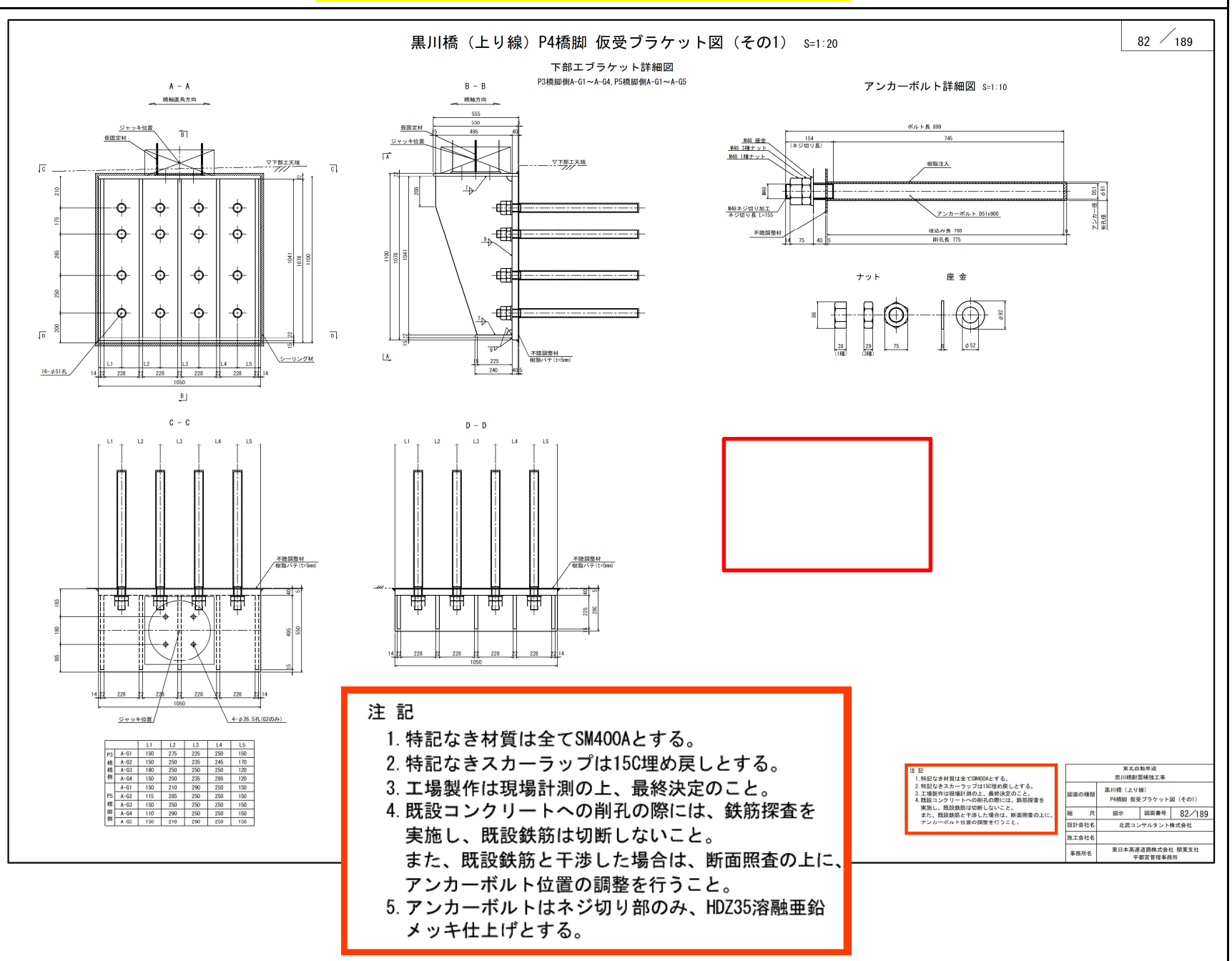
注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を
　実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
　また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、
　アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛
　メッキ仕上げとする。

東北自動車道	思川橋耐震補強工事
図面の種類	黒川橋（上り線） P3橋脚 仮設ブラケット図（その2）
縮尺	図示
図面番号	66／189
設計会社名	北武コンサルタント株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 宇都宮管理事務所

対象	設計図　黒川橋（上り線）Ｐ４橋脚 仮受ブラケット図（その１）（82/189）
誤	



正	



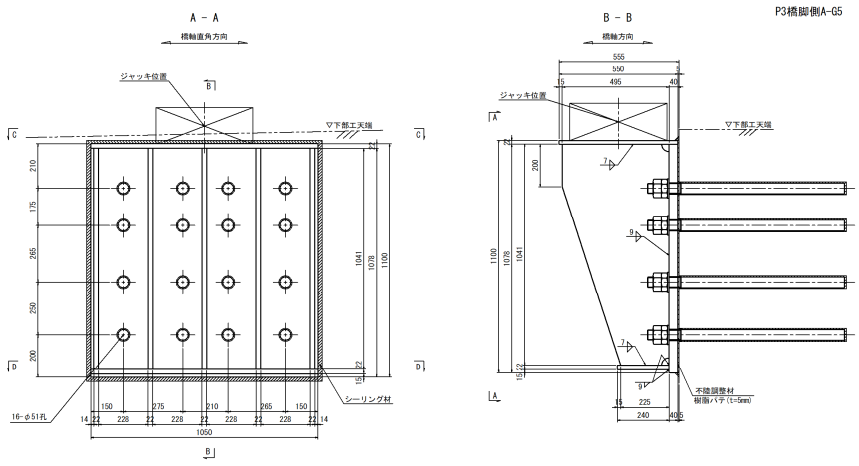
備考	注記欄「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　　「シーリング詳細図」の削除

対象	設計図　黒川橋（上り線）Ｐ４橋脚 仮受ブラケット図（その２）（83/189）
誤	
正	
備考	注記欄「4.溶融亜鉛メッキ」の削除「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　「シーリング詳細図」の削除

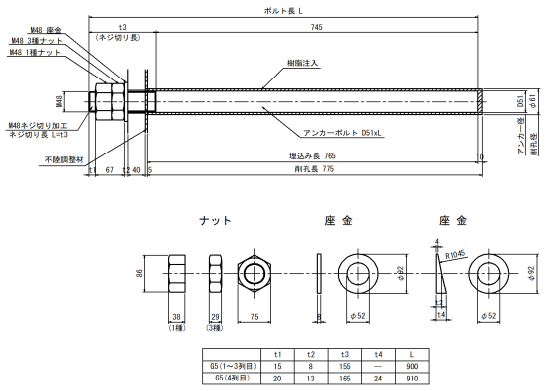
黒川橋（上り線）P4橋脚 仮受ブラケット図（その2） S=1:20

下部工ブラケット詳細図

P3橋脚側A-G5

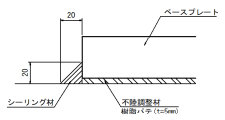


アンカーボルト詳細図 S=1:10



	t1	t2	t3	t4	L
G5(1～3列目)	15	8	155	---	900
G5(4列目)	20	13	165	24	910

シーリング詳細図 S=1:4



注 記

1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
   付着量は，JIS H8641 HDZ55とする。
   ただし，ボルト･ナット類はHDZ35とする。
5. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
   また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。

東北自動車道	思川橋耐震補強工事
図面の種類	黒川橋（上り線） P4橋脚 仮受ブラケット図（その2）
縮尺	図示
図面番号	83／189
設計会社名	北武コンサルタント株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 宇都宮管理事務所

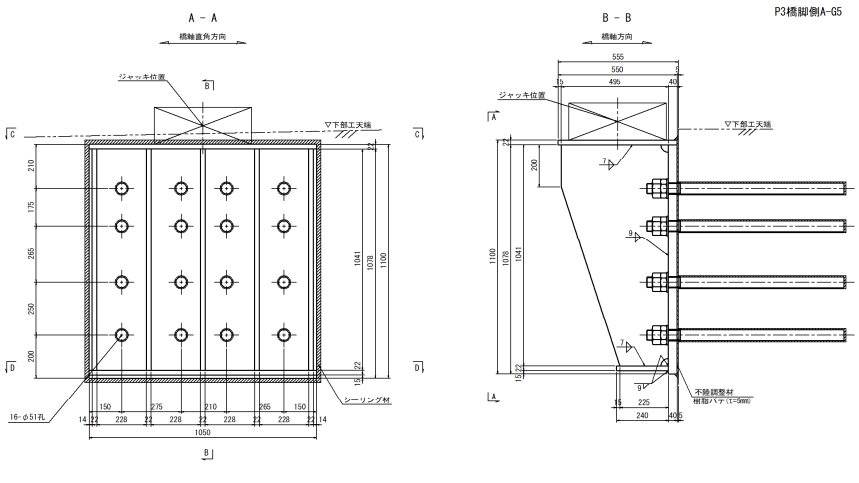
83 ／ 189

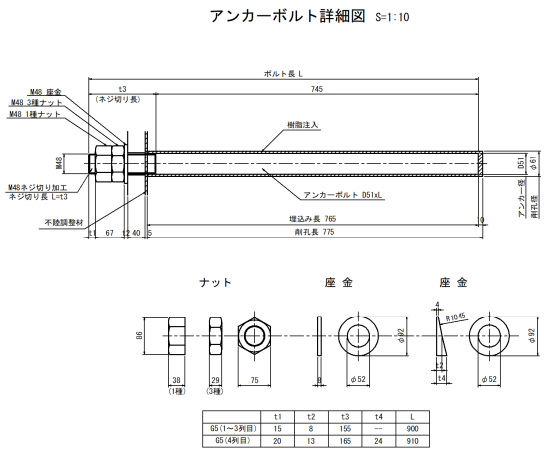
黒川橋（上り線）P4橋脚 仮受ブラケット図（その2） S=1:20

下部工ブラケット詳細図

P3橋脚側A-G5

アンカーボルト詳細図 S=1:10





	t1	t2	t3	t4	L
G5(1～3列目)	15	8	155	---	900
G5(4列目)	20	13	165	24	910

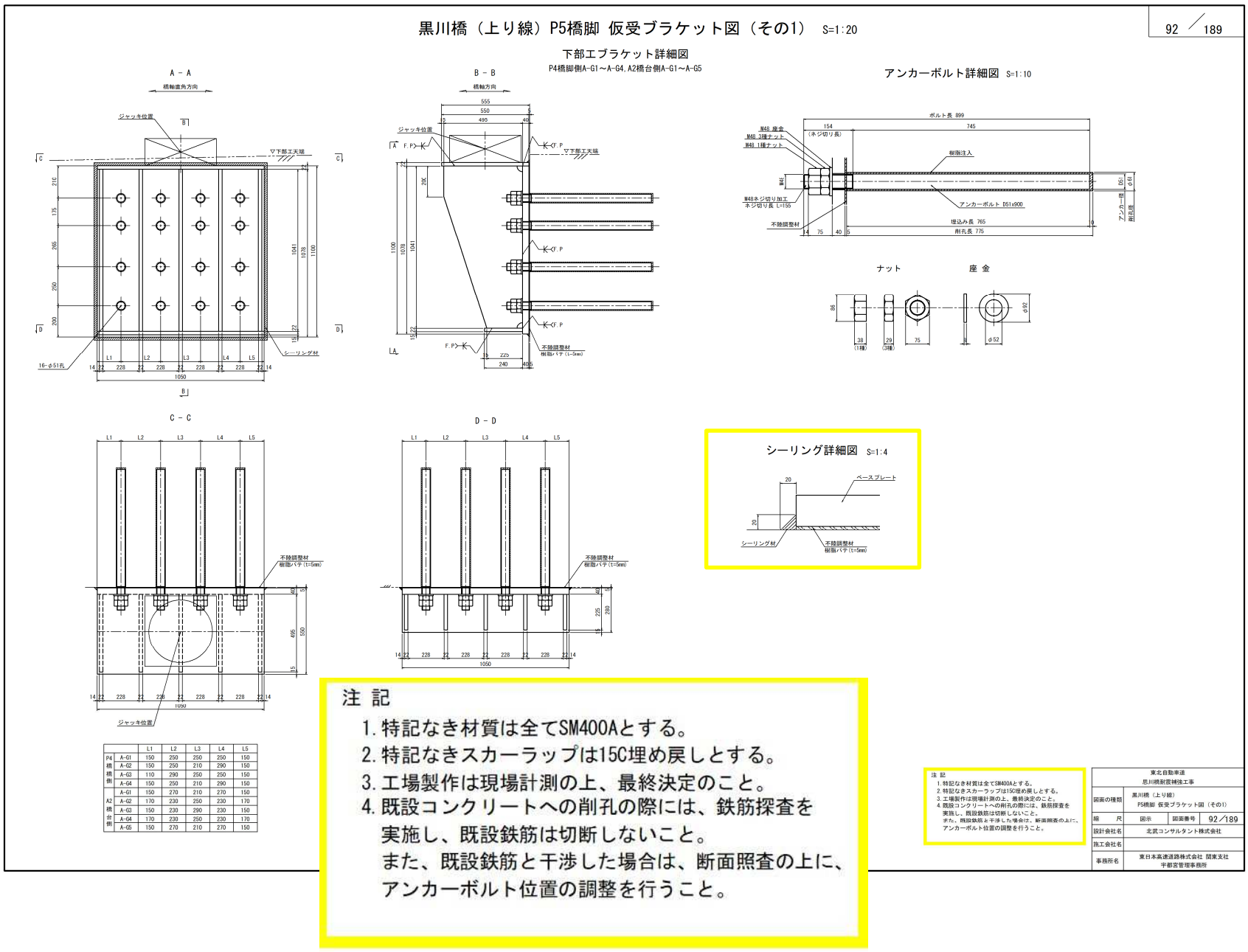
注 記

1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
   また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
   また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

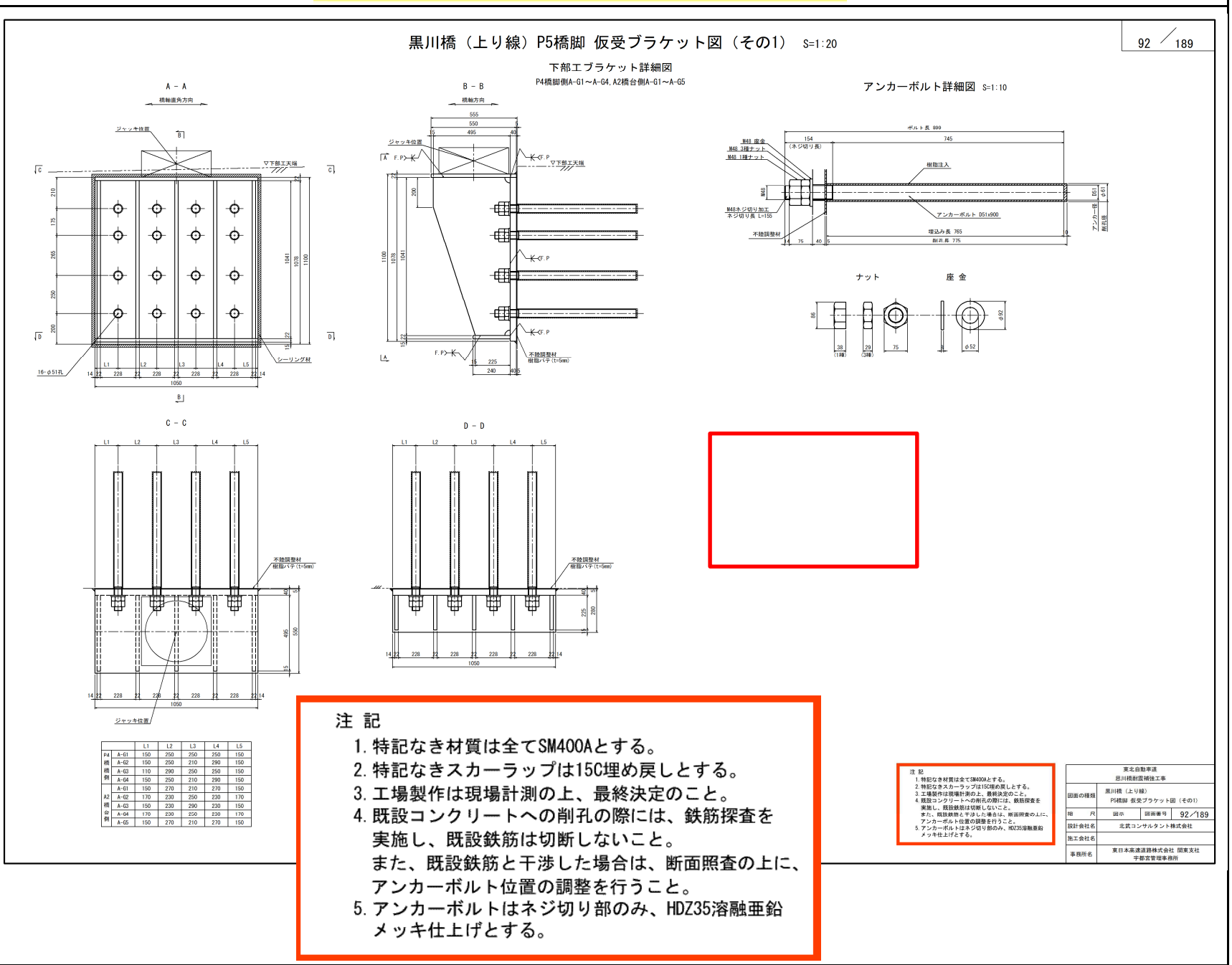
東北自動車道 思川橋耐震補強工事
図面の種類：黒川橋（上り線） P4橋脚 仮受ブラケット図（その2）
縮尺：図示　図面番号：83／189
設計会社名：北武コンサルタント株式会社
施工会社名：
事務所名：東日本高速道路株式会社 関東支社 宇都宮管理事務所

対象	設計図　黒川橋（上り線）Ｐ５橋脚 仮受ブラケット図（その１）（92/189）
誤	



	L1	L2	L3	L4	L5
P4 A-G1	150	250	250	250	150
P4 A-G2	150	250	210	290	150
P4 A-G3	110	290	250	250	150
P4 A-G4	150	250	210	290	150
A2 A-G1	150	270	210	270	150
A2 A-G2	170	230	250	230	170
A2 A-G3	150	230	290	230	150
A2 A-G4	170	230	250	230	170
A2 A-G5	150	270	210	270	150

正



	L1	L2	L3	L4	L5
P4 A-G1	150	250	250	250	150
P4 A-G2	150	250	210	290	150
P4 A-G3	110	290	250	250	150
P4 A-G4	150	250	210	290	150
A2 A-G1	150	270	210	270	150
A2 A-G2	170	230	250	230	170
A2 A-G3	150	230	290	230	150
A2 A-G4	170	230	250	230	170
A2 A-G5	150	270	210	270	150

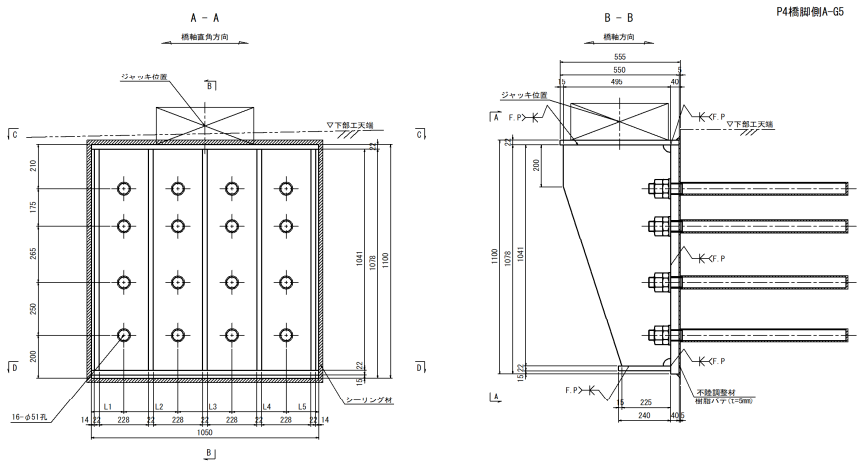
備考	注記欄「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　　「シーリング詳細図」の削除

対象	設計図　黒川橋（上り線）Ｐ５橋脚 仮受ブラケット図（その２）（93/189）
誤	
正	
備考	注記欄「4.溶融亜鉛メッキ」の削除「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　「シーリング詳細図」の削除

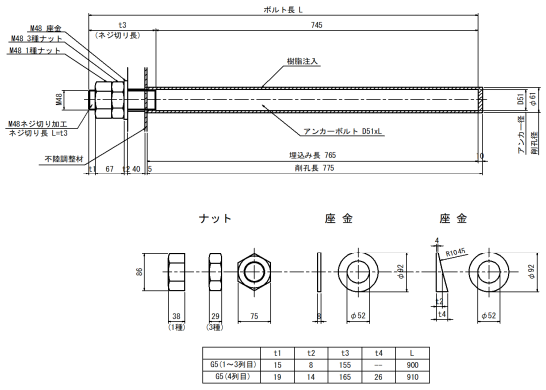
黒川橋（上り線）P5橋脚 仮受ブラケット図（その2） S=1:20

93 ／ 189

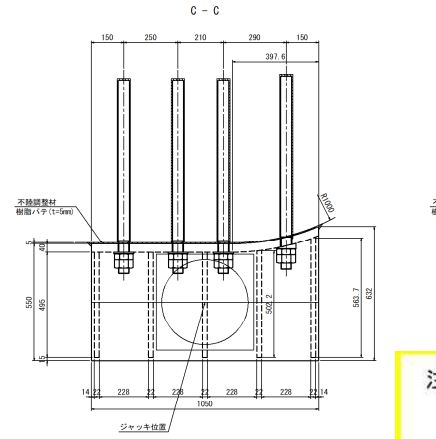
下部工ブラケット詳細図
P4橋脚側A-G5



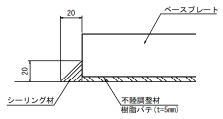
アンカーボルト詳細図 S=1:10



	t1	t2	t3	t4	L
G5(1～3列目)	15	8	155	---	900
G5(4列目)	19	14	165	26	910

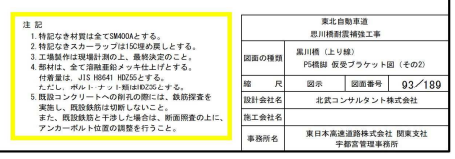


シーリング詳細図 S=1:4



注 記

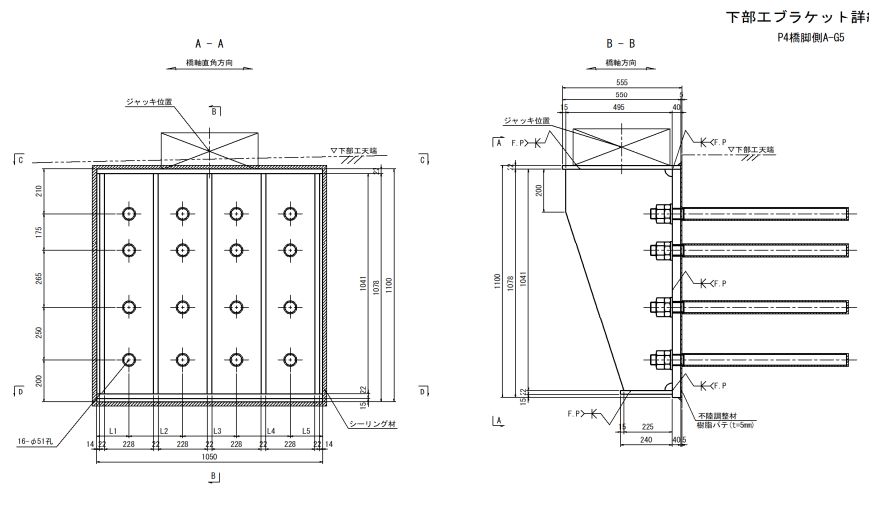
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
   付着量は，JIS H8641 HDZ55とする。
   ただし，ボルト･ナット類はHDZ35とする。
5. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を
   実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
   また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、
   アンカーボルト位置の調整を行うこと。



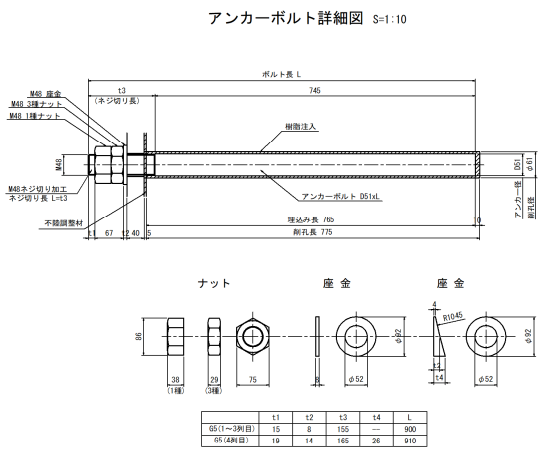
黒川橋（上り線）P5橋脚 仮受ブラケット図（その2） S=1:20

93 ／ 189

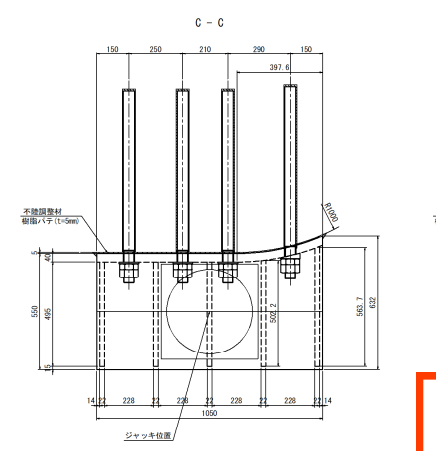
下部工ブラケット詳細図
P4橋脚側A-G5



アンカーボルト詳細図 S=1:10

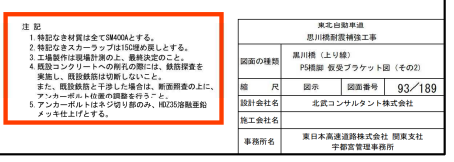


	t1	t2	t3	t4	L
G5(1～3列目)	15	8	155	---	900
G5(4列目)	19	14	165	26	910

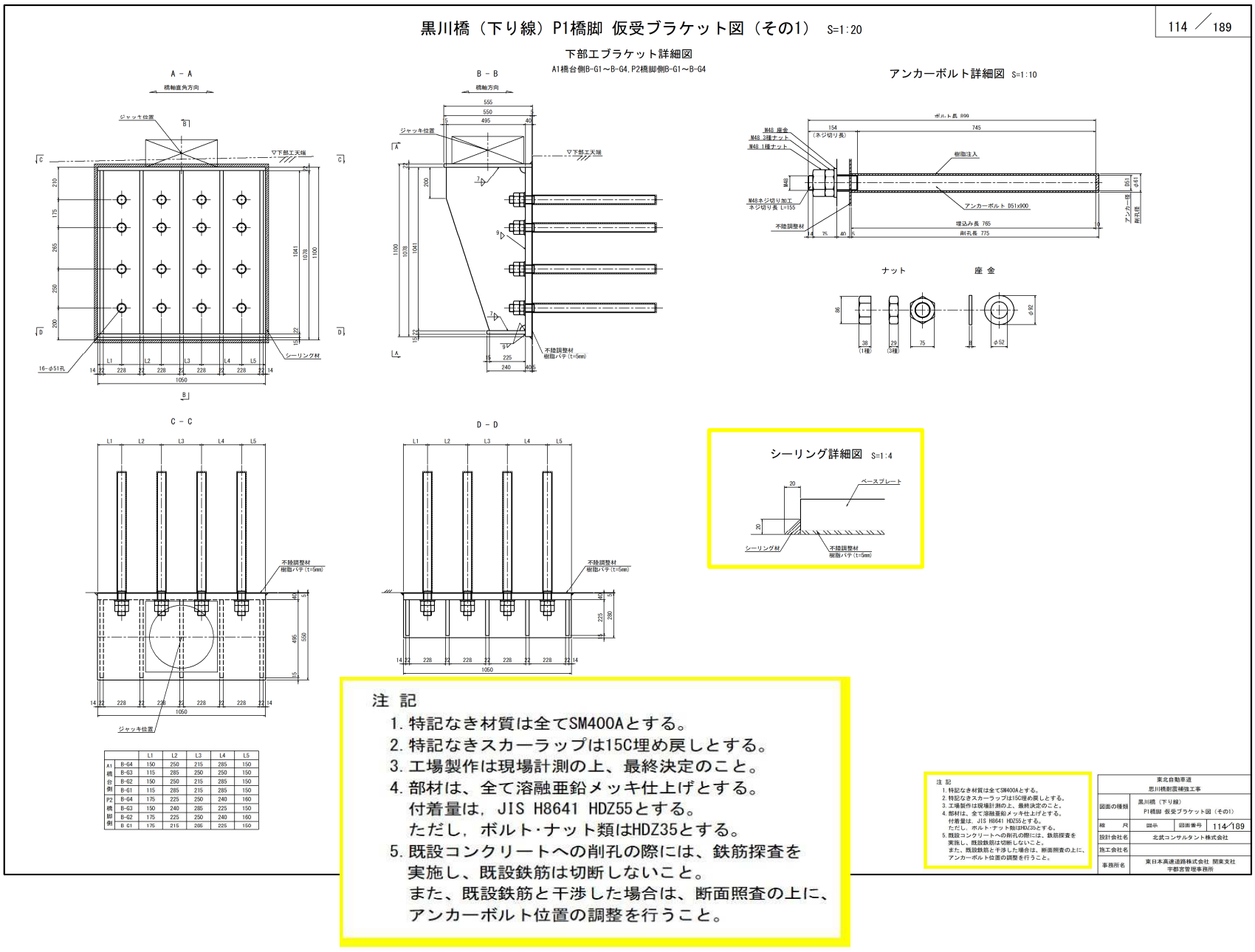


注 記

1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を
   実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
   また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、
   アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛
   メッキ仕上げとする。



対象	設計図　黒川橋（下り線）Ｐ１橋脚 仮受ブラケット図（その１）（114/189）
誤	
正	
備考	注記欄「4.溶融亜鉛メッキ」の削除「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　「シーリング詳細図」の削除



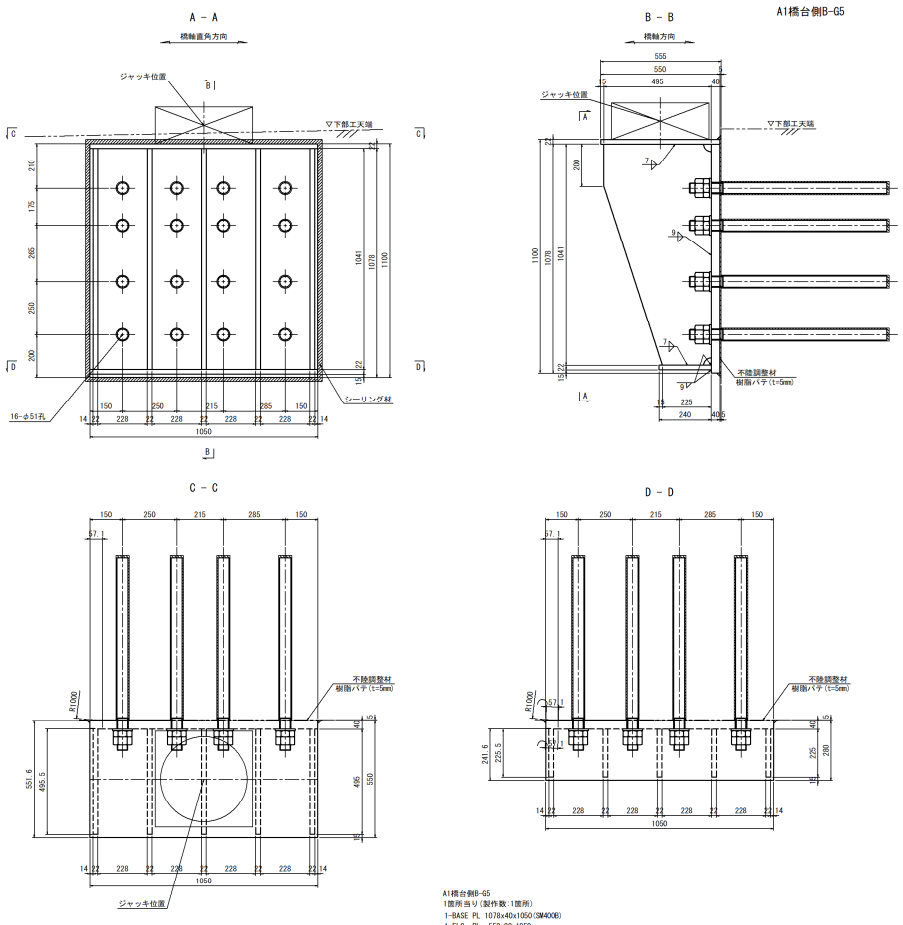
対象	設計図　黒川橋（下り線）Ｐ１橋脚 仮受ブラケット図（その２）（115/189）
誤	
正	
備考	「シーリング詳細図」の削除、注記欄の追記

黒川橋（下り線）P1橋脚 仮受ブラケット図（その2） S=1:20

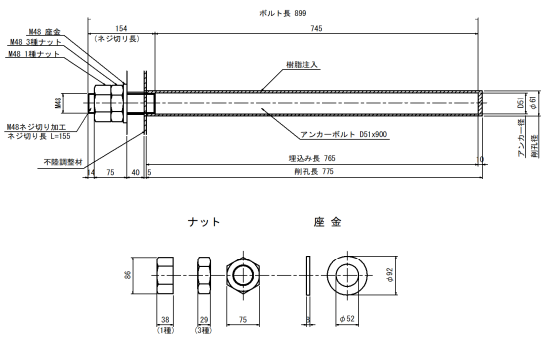
115 ／ 189

下部工ブラケット詳細図

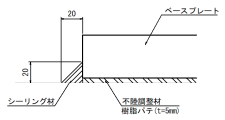
A1橋台側B-G5



アンカーボルト詳細図 S=1:10



シーリング詳細図 S=1:4



A1橋台側B-G5
1箇所当り(製作数:1箇所)
1-BASE PL 1078x40x1050(SM400B)
1-FLG PL 552x22x1050
1-FLG PL 242x22x1050
4-RIB PL 495x22x1041
1-RIB PL 496x22x1041
16-ANC.BOLT D51x900(SD345)
16-1種ﾅｯﾄ M48(SS400)
16-3種ﾅｯﾄ M48(SS400)
16-座金 M48(SS400)

東北自動車道 思川橋耐震補強工事			
図面の種類	黒川橋（下り線） P1橋脚 仮受ブラケット図（その2）		
縮　尺	図示	図面番号	115／189
設計会社名	北武コンサルタント株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 宇都宮管理事務所		

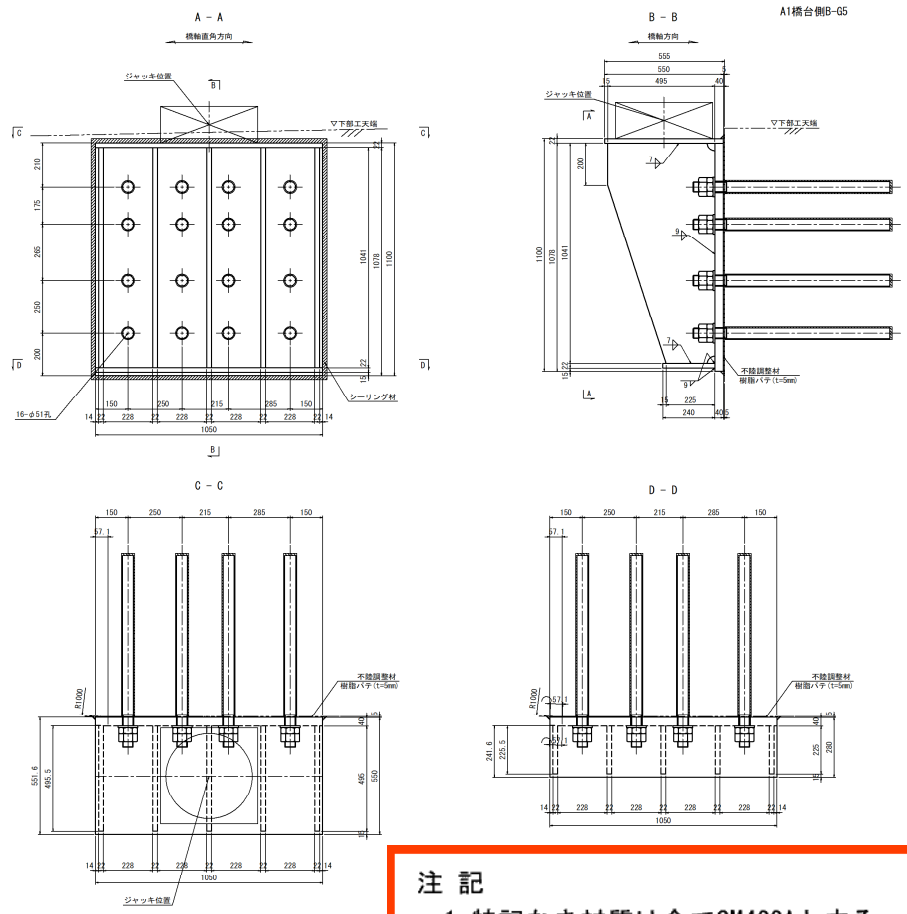
黒川橋（下り線）P1橋脚 仮受ブラケット図（その2） S=1:20

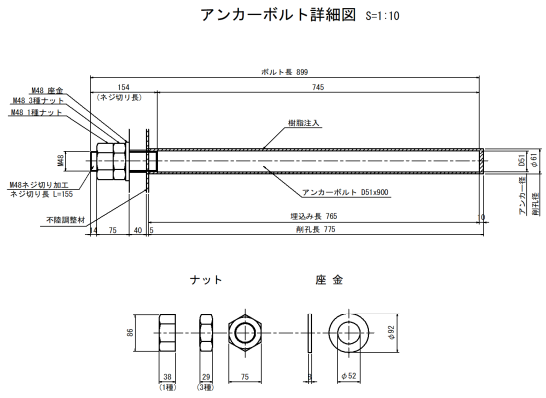
115 ／ 189

下部工ブラケット詳細図

A1橋台側B-G5

アンカーボルト詳細図 S=1:10





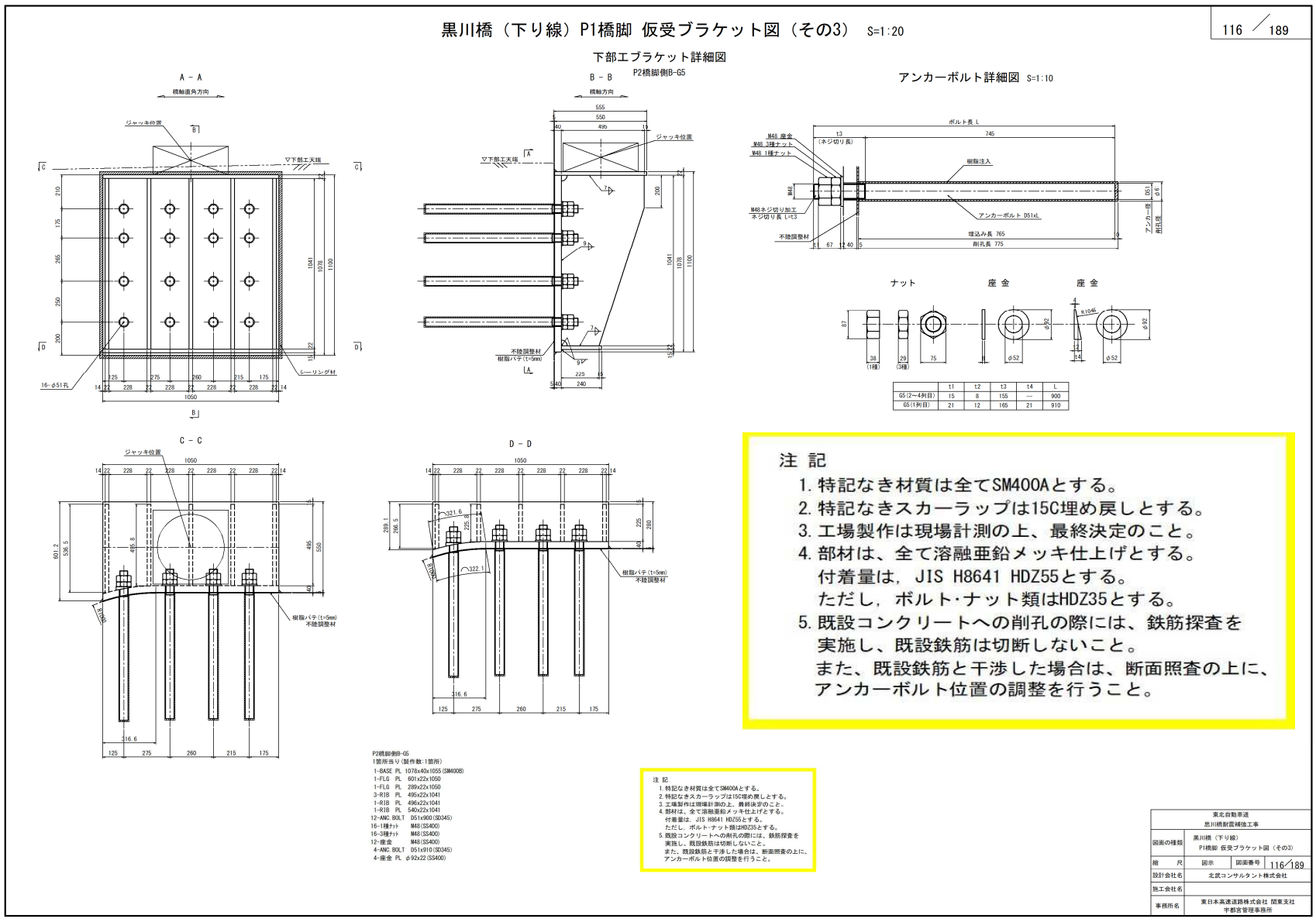
注 記

1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
   また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

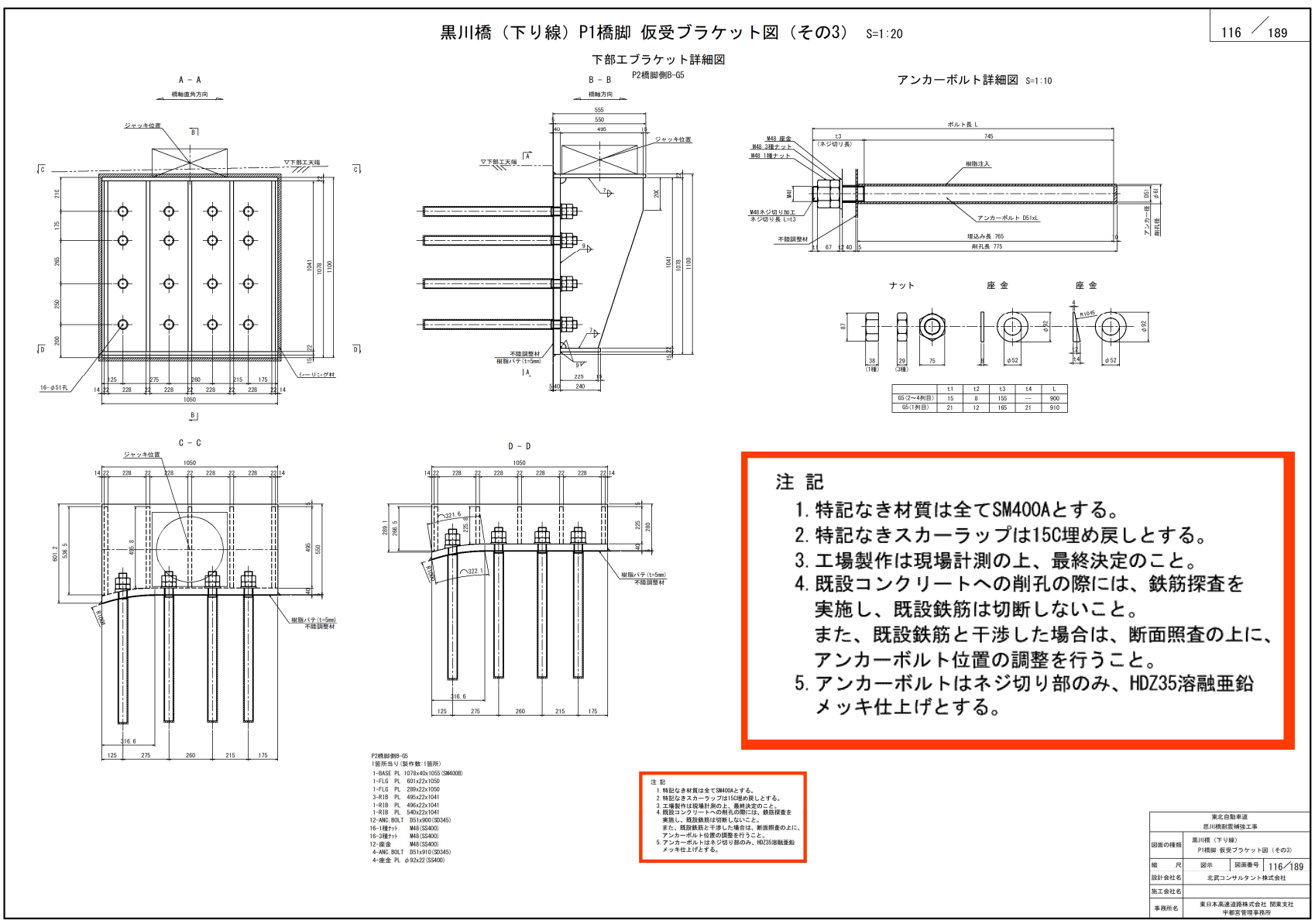
注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
   また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

東北自動車道 思川橋耐震補強工事			
図面の種類	黒川橋（下り線） P1橋脚 仮受ブラケット図（その2）		
縮　尺	図示	図面番号	115／189
設計会社名	北武コンサルタント株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 宇都宮管理事務所		

対象	設計図　黒川橋（下り線）Ｐ１橋脚 仮受ブラケット図（その３）（116/189）
誤	



正	



備考	注記欄「4.溶融亜鉛メッキ」の削除「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記

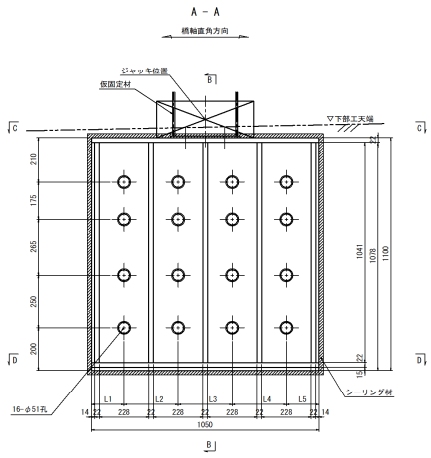
対象	設計図　黒川橋（下り線）Ｐ２橋脚 仮受ブラケット図（その１）（123/189）
誤	
正	
備考	注記欄「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　　「シーリング詳細図」の削除

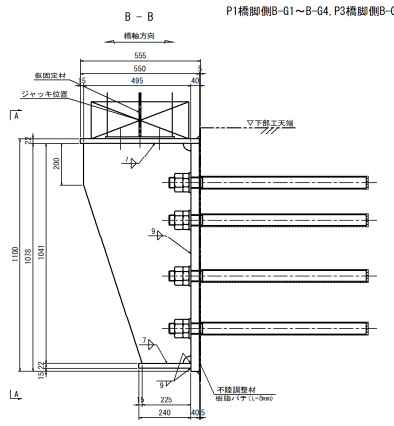
黒川橋（下り線）P2橋脚 仮受ブラケット図（その1） S=1:20

123 / 189

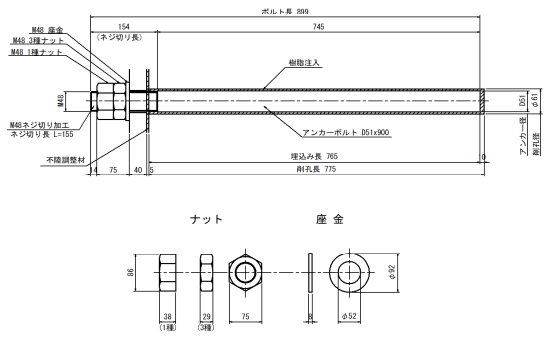
下部工ブラケット詳細図

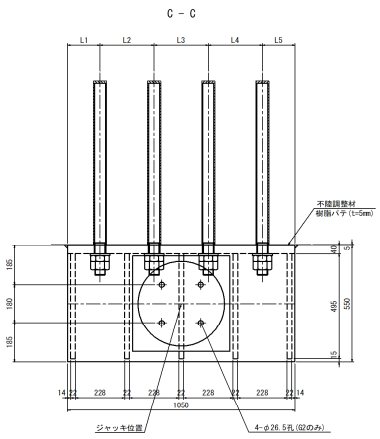
P1橋脚側B-G1～B-G4, P3橋脚側B-G1～B-G4

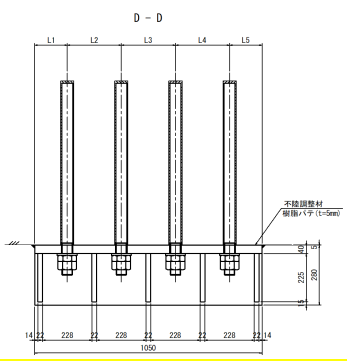




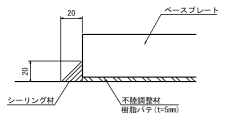
アンカーボルト詳細図 S=1:10







シーリング詳細図 S=1:4



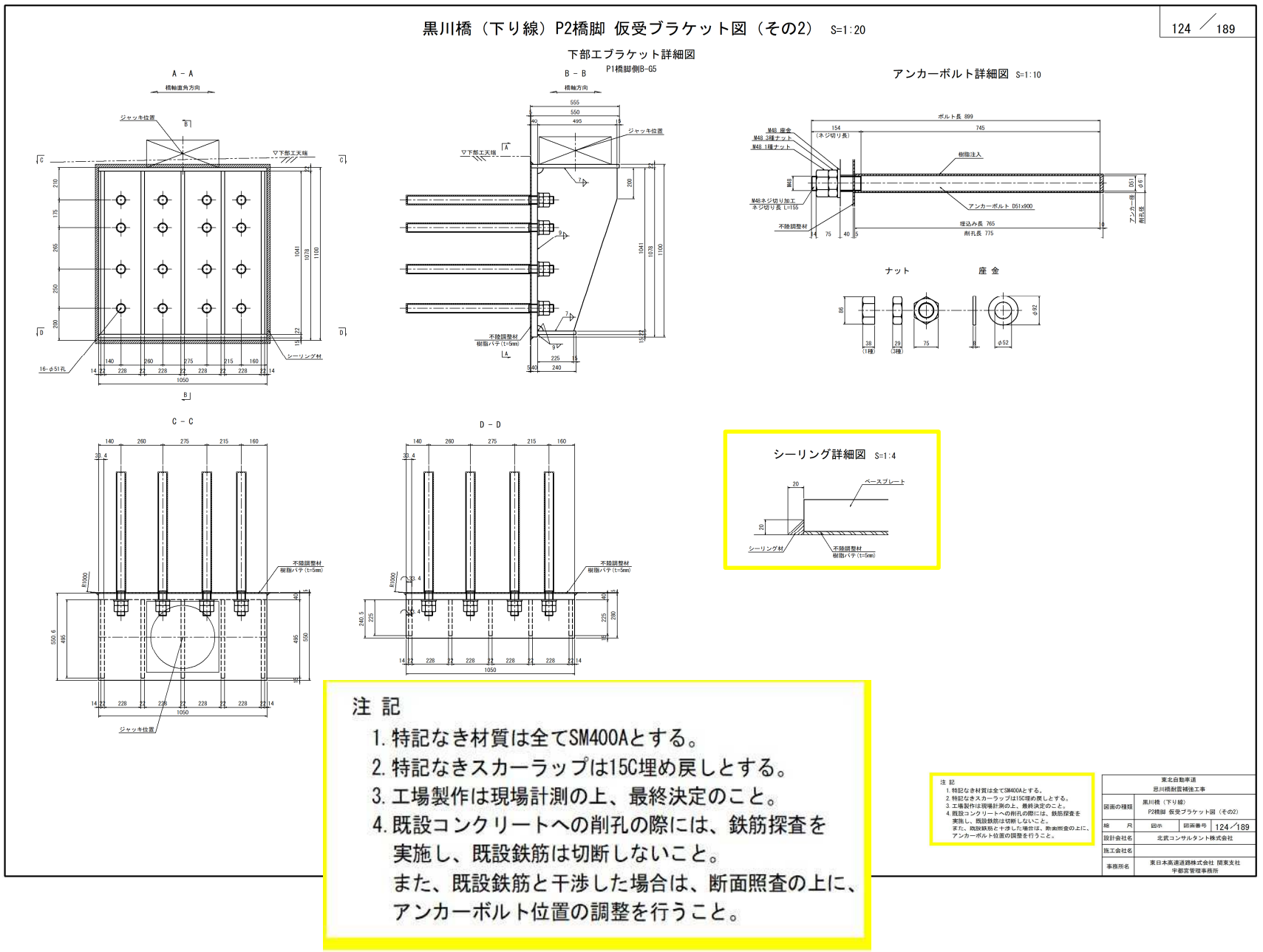
		L1	L2	L3	L4	L5
P1橋橋側	B-G4	150	240	285	225	150
	B-G3	190	250	250	250	150
	B-G2	150	240	285	225	150
	B-G1	175	225	275	215	160
P3橋脚側	B-G5	150	215	285	250	150
	B-G4	150	250	250	215	185
	B-G3	115	250	250	250	185
	B-G2	150	250	250	250	150
	B-G1	150	215	285	250	150

注 記

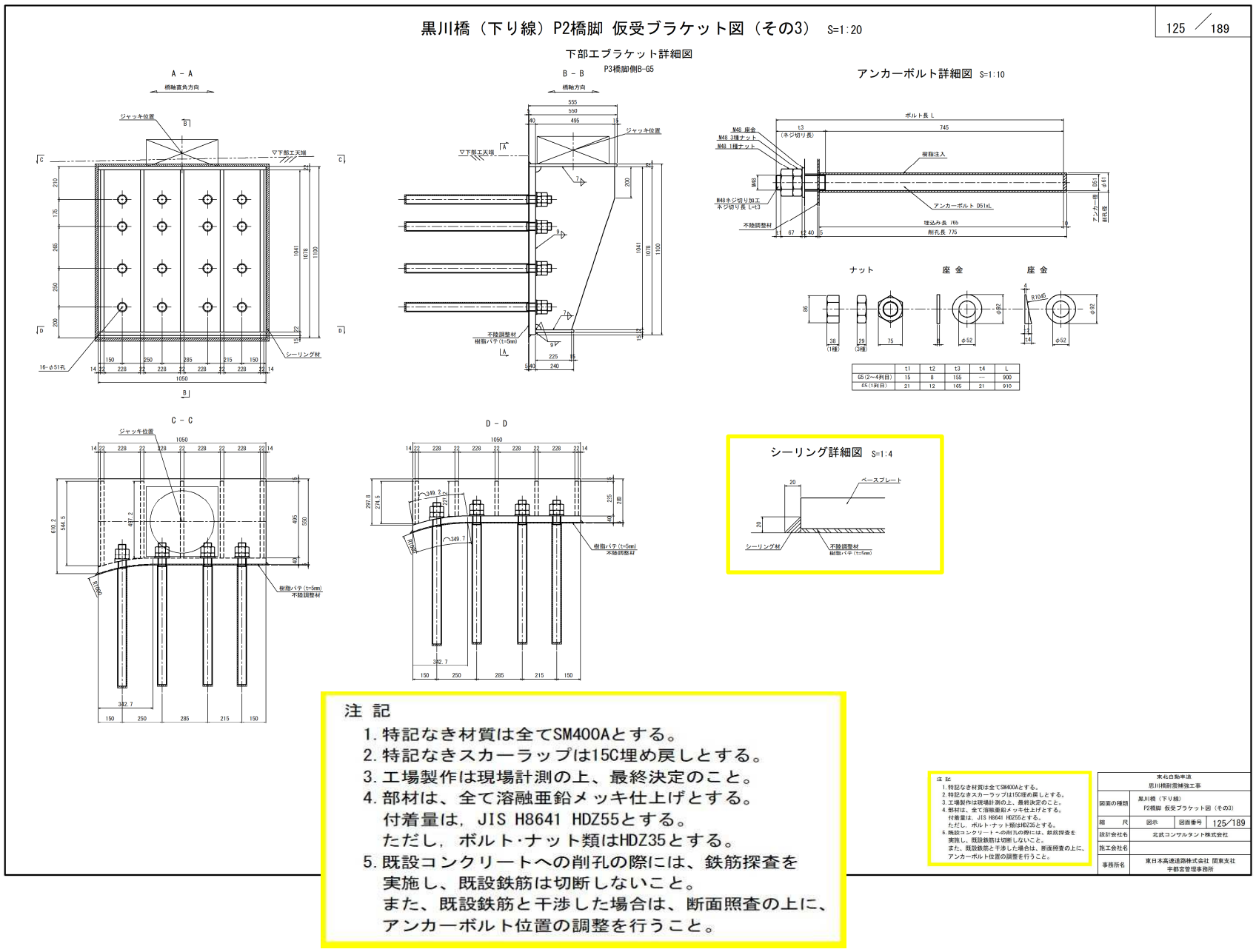
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
   また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

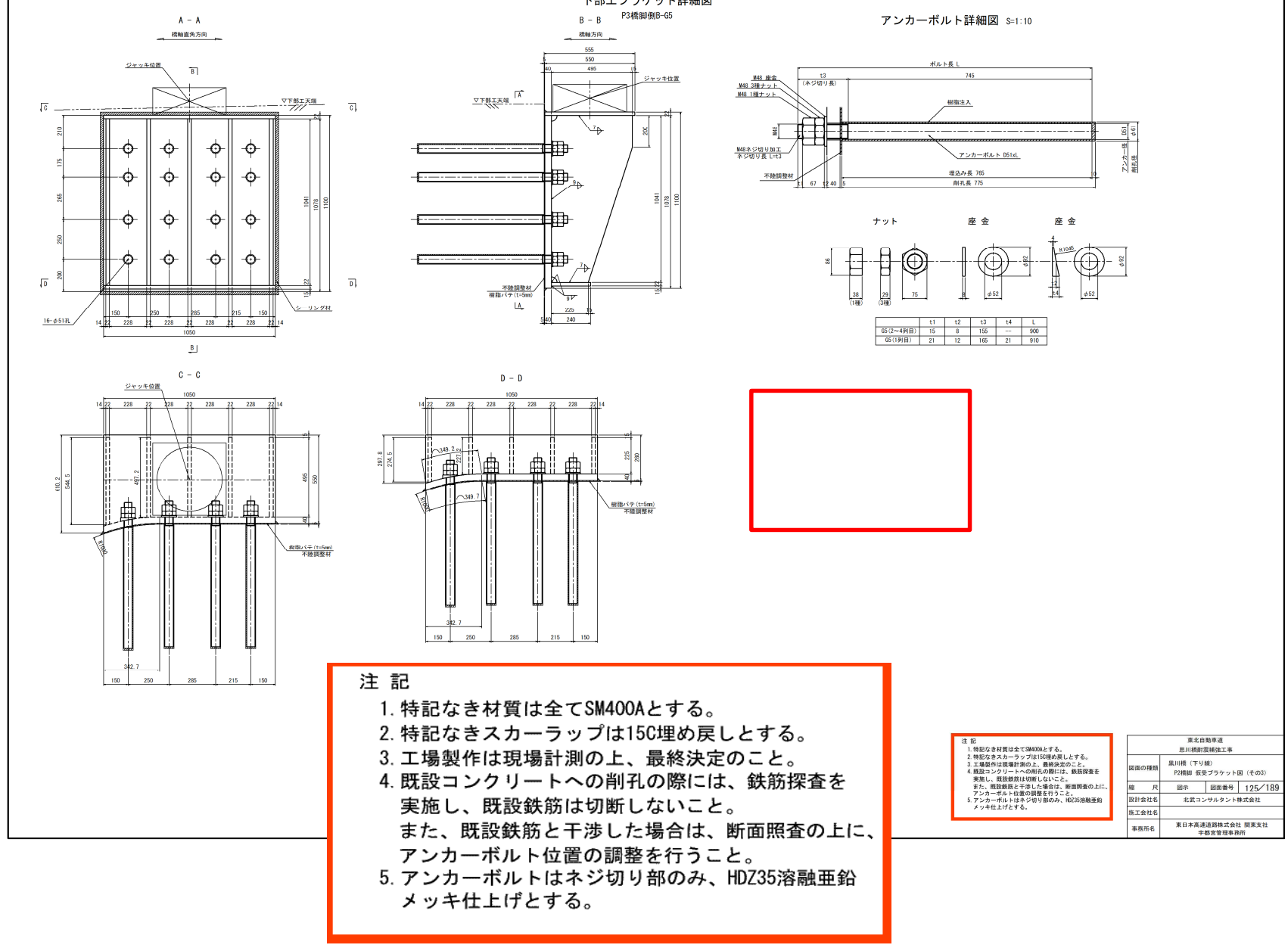
東北自動車道	黒川橋耐震補強工事
図面の種類	黒川橋（下り線） P2橋脚 仮受ブラケット図（その1）
縮尺	図示
図面番号	123/189
設計会社名	北武コンサルタント株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 宇都宮管理事務所

対象	設計図　黒川橋（下り線）Ｐ２橋脚 仮受ブラケット図（その２）（124/189）
誤	
正	
備考	注記欄「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　「シーリング詳細図」の削除



対象	設計図　黒川橋（下り線）Ｐ２橋脚 仮受ブラケット図（その３）（125/189）
誤	
正	
備考	注記欄「4.溶融亜鉛メッキ」の削除「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　「シーリング詳細図」の削除

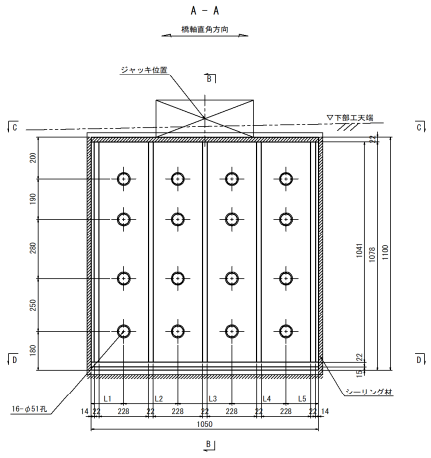


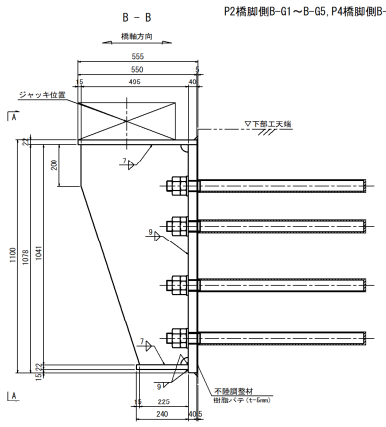


対象	設計図　黒川橋（下り線）Ｐ３橋脚 仮受ブラケット図（その１）（139/189）
誤	
正	
備考	注記欄「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　「シーリング詳細図」の削除

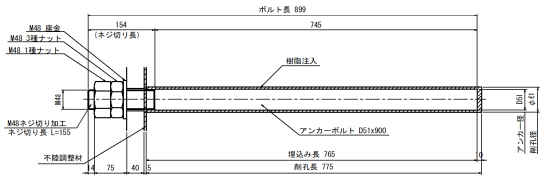
黒川橋（下り線）P3橋脚 仮受ブラケット図（その1） S=1:20

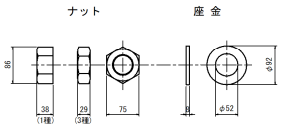
下部工ブラケット詳細図
P2橋脚側B-G1～B-G5, P4橋脚側B-G1～B-G4

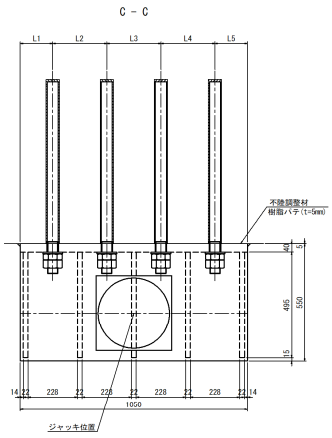


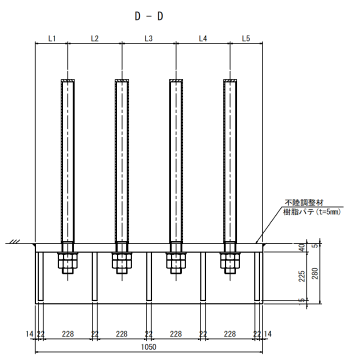


アンカーボルト詳細図 S=1:10



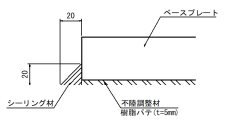






		L1	L2	L3	L4	L5
P2橋脚側	B-G1	110	270	270	210	190
	B-G2	150	300	200	250	150
	B-G3	150	250	230	230	190
	B-G4	150	300	200	250	150
	B-G5	150	250	250	300	100
P4橋脚側	B-G1	150	270	210	270	150
	B-G2	150	250	230	310	110
	B-G3	130	300	220	250	150
	B-G4	150	250	230	310	110

シーリング詳細図 S=1:4



注 記

1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
   また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
   また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。

東北自動車道	思川橋耐震補強工事
図面の種類	黒川橋（下り線） P3橋脚 仮受ブラケット図（その1）
縮尺	図示
図面番号	139／189
設計会社名	北武コンサルタント株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 宇都宮管理事務所

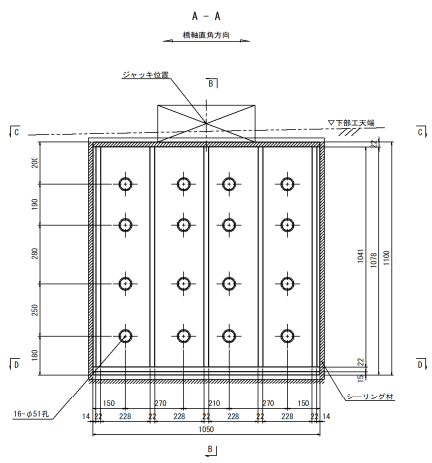
対象	設計図　黒川橋（下り線）Ｐ３橋脚 仮受ブラケット図（その２）（140/189）
誤	
正	
備考	注記欄「4.溶融亜鉛メッキ」の削除「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　　「シーリング詳細図」の削除

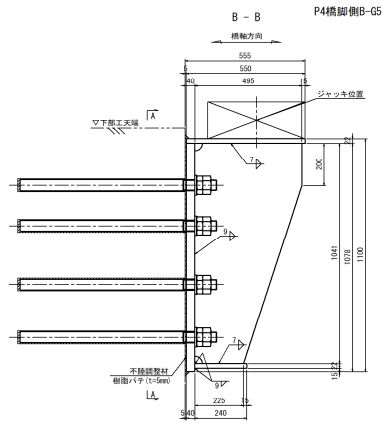
誤

140 ／ 189

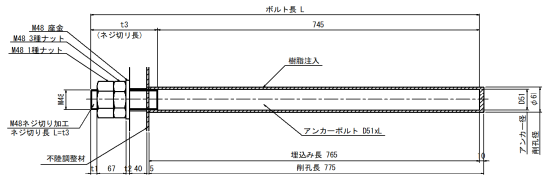
黒川橋（下り線）P3橋脚 仮受ブラケット図（その2） S=1:20

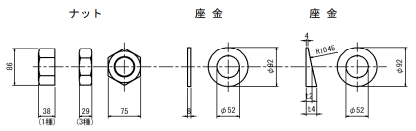
下部工ブラケット詳細図



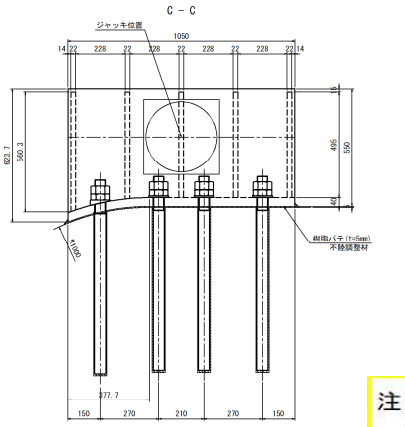


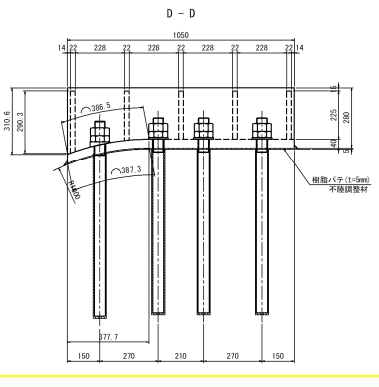
アンカーボルト詳細図 S=1:10



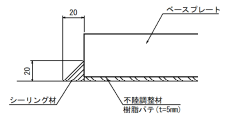


	t1	t2	t3	t4	L
G5(2～4列目)	15	8	155	—	900
G5(1列目)	20	13	165	25	910





シーリング詳細図 S=1:4



注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
付着量は，JIS H8641 HDZ55とする。
ただし，ボルト･ナット類はHDZ35とする。
5. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。

注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルト位置の調整を行うこと。

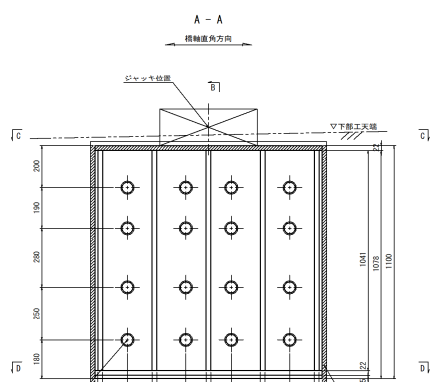
東北自動車道	思川橋耐震補強工事
図面の種類	黒川橋（下り線） P3橋脚 仮受ブラケット図（その2）
縮尺	図示
図面番号	140／189
設計会社名	北武コンサルタント株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 宇都宮管理事務所

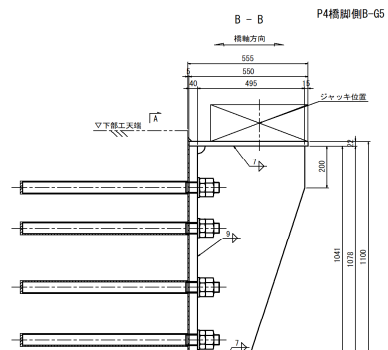
正

140 ／ 189

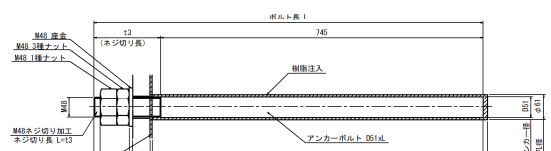
黒川橋（下り線）P3橋脚 仮受ブラケット図（その2） S=1:20

下部工ブラケット詳細図

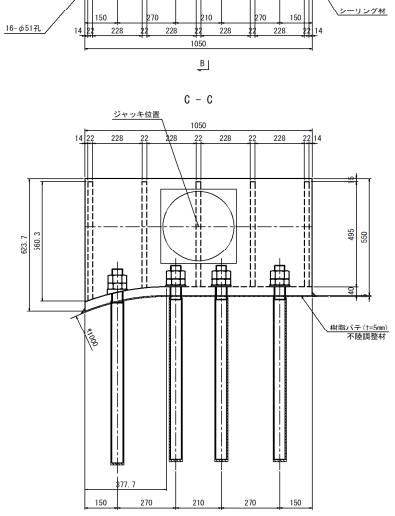


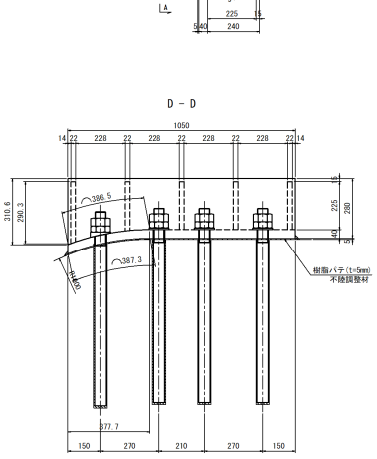


アンカーボルト詳細図 S=1:10



	t1	t2	t3	t4	L
G5(2～4列目)	15	8	155	—	900
G5(1列目)	20	13	165	25	910

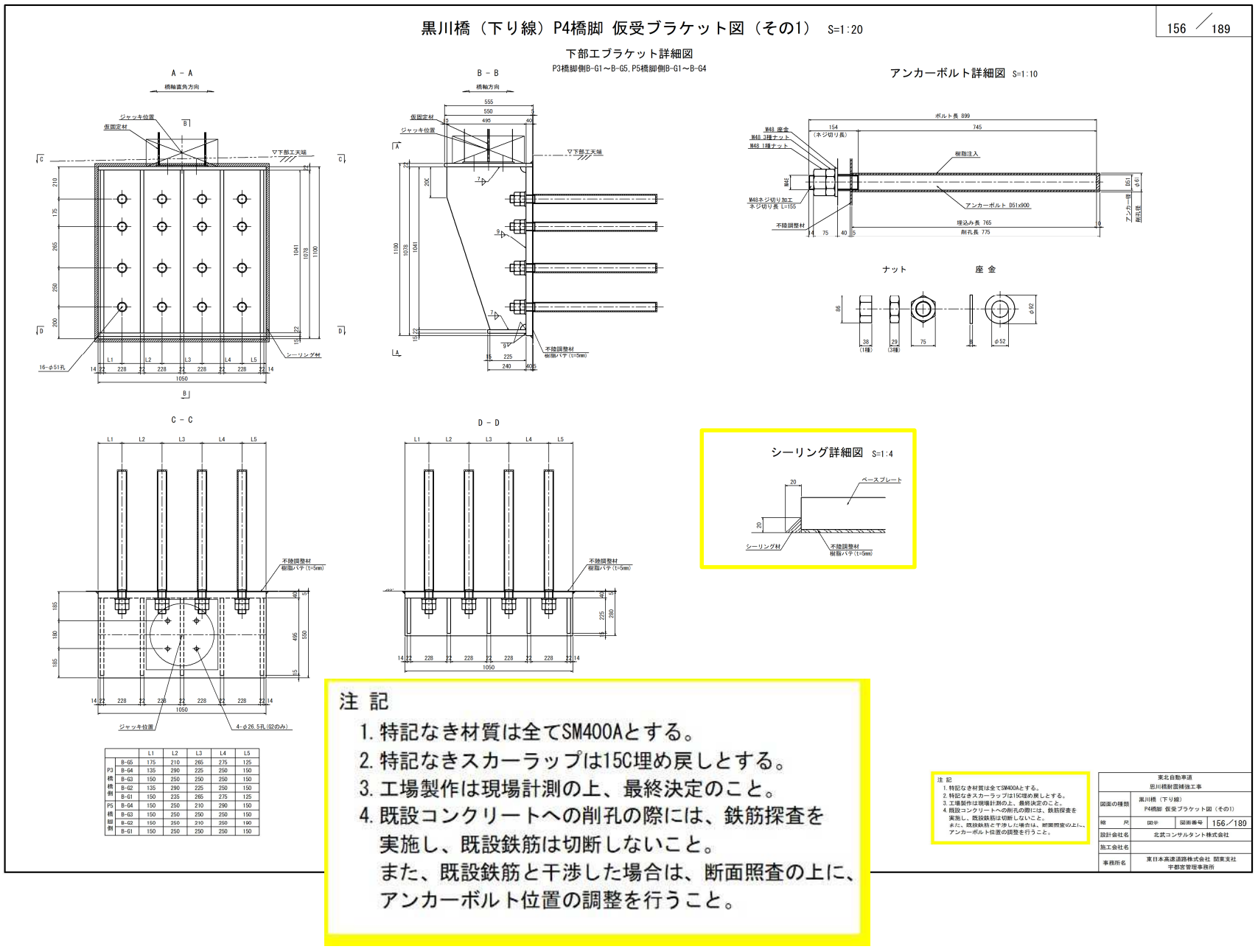




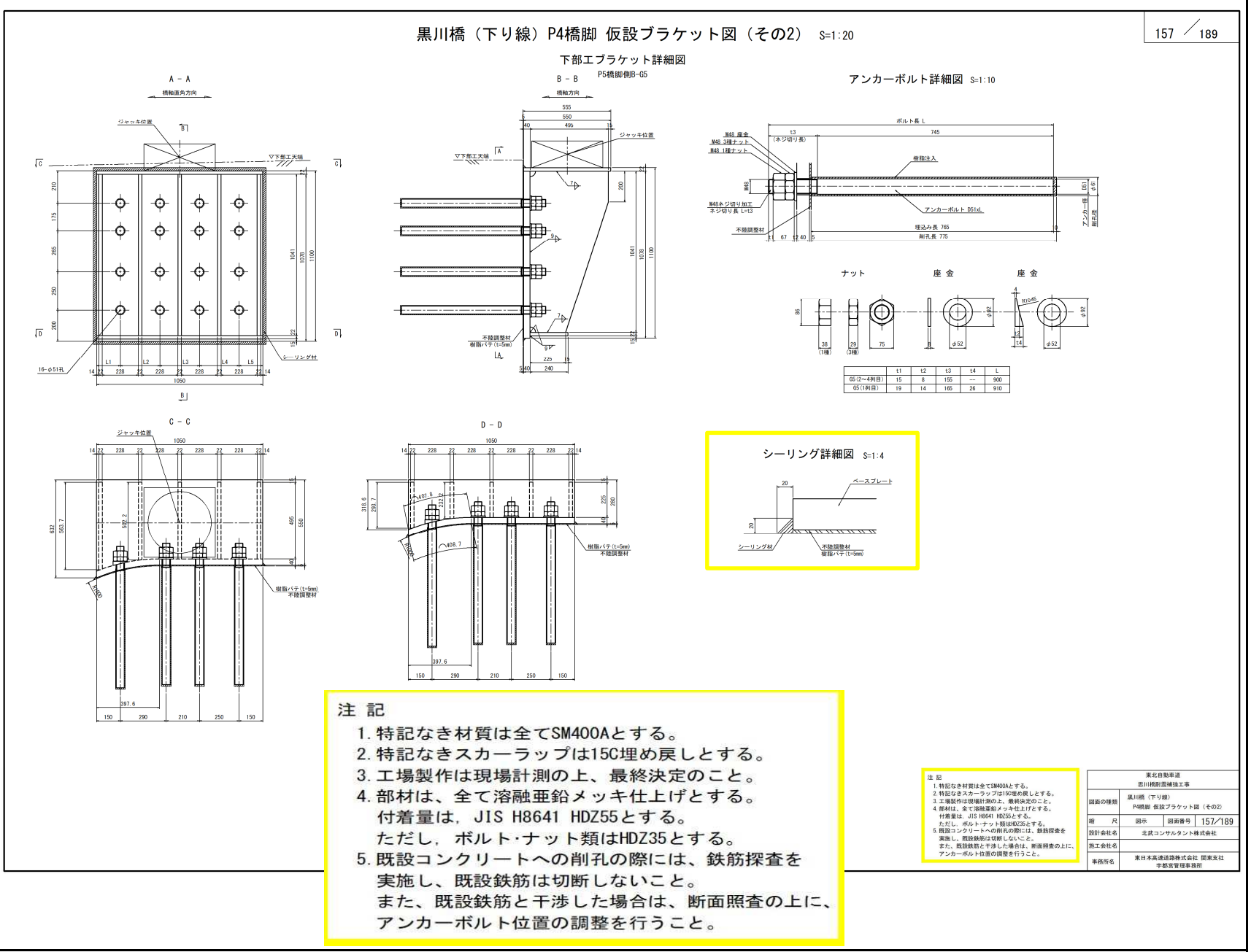
注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

東北自動車道	思川橋耐震補強工事
図面の種類	黒川橋（下り線） P3橋脚 仮受ブラケット図（その2）
縮尺	図示
図面番号	140／189
設計会社名	北武コンサルタント株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 宇都宮管理事務所

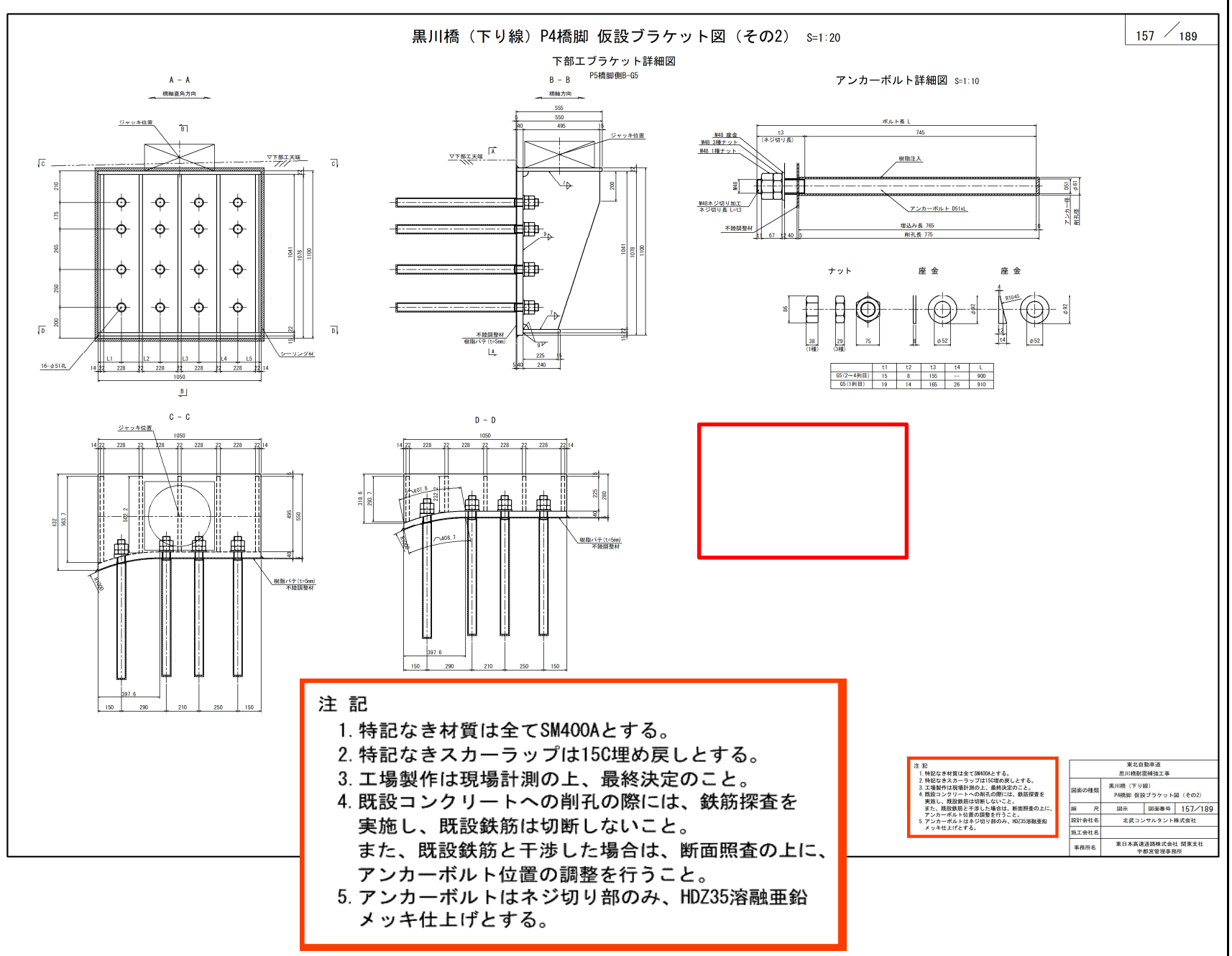
対象	設計図　黒川橋（下り線）Ｐ４橋脚 仮受ブラケット図（その１）（156/189）
誤	
正	
備考	注記欄「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　　「シーリング詳細図」の削除



対象	設計図　黒川橋（下り線）Ｐ４橋脚 仮受ブラケット図（その２）（157/189）
誤	

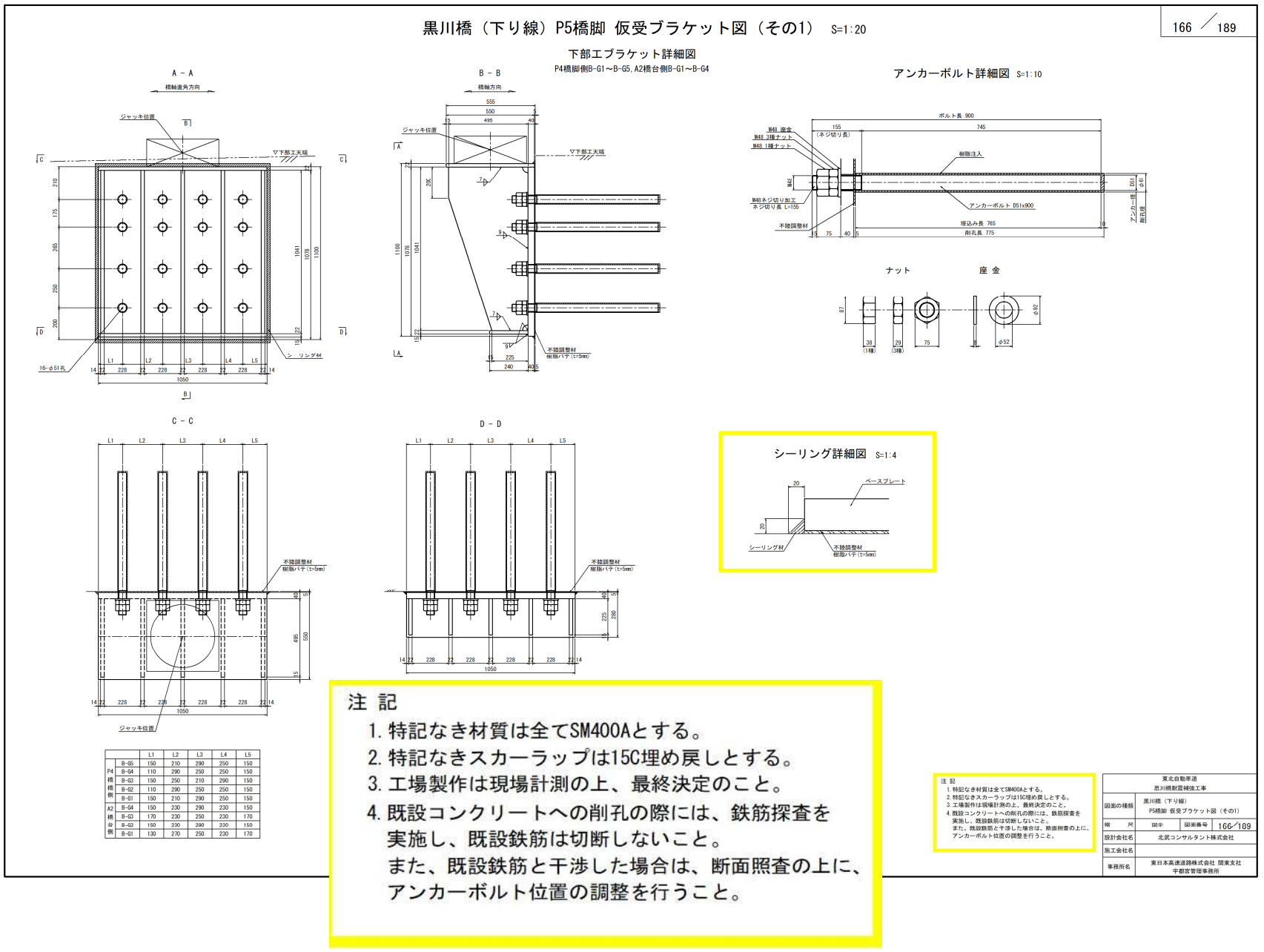


正	

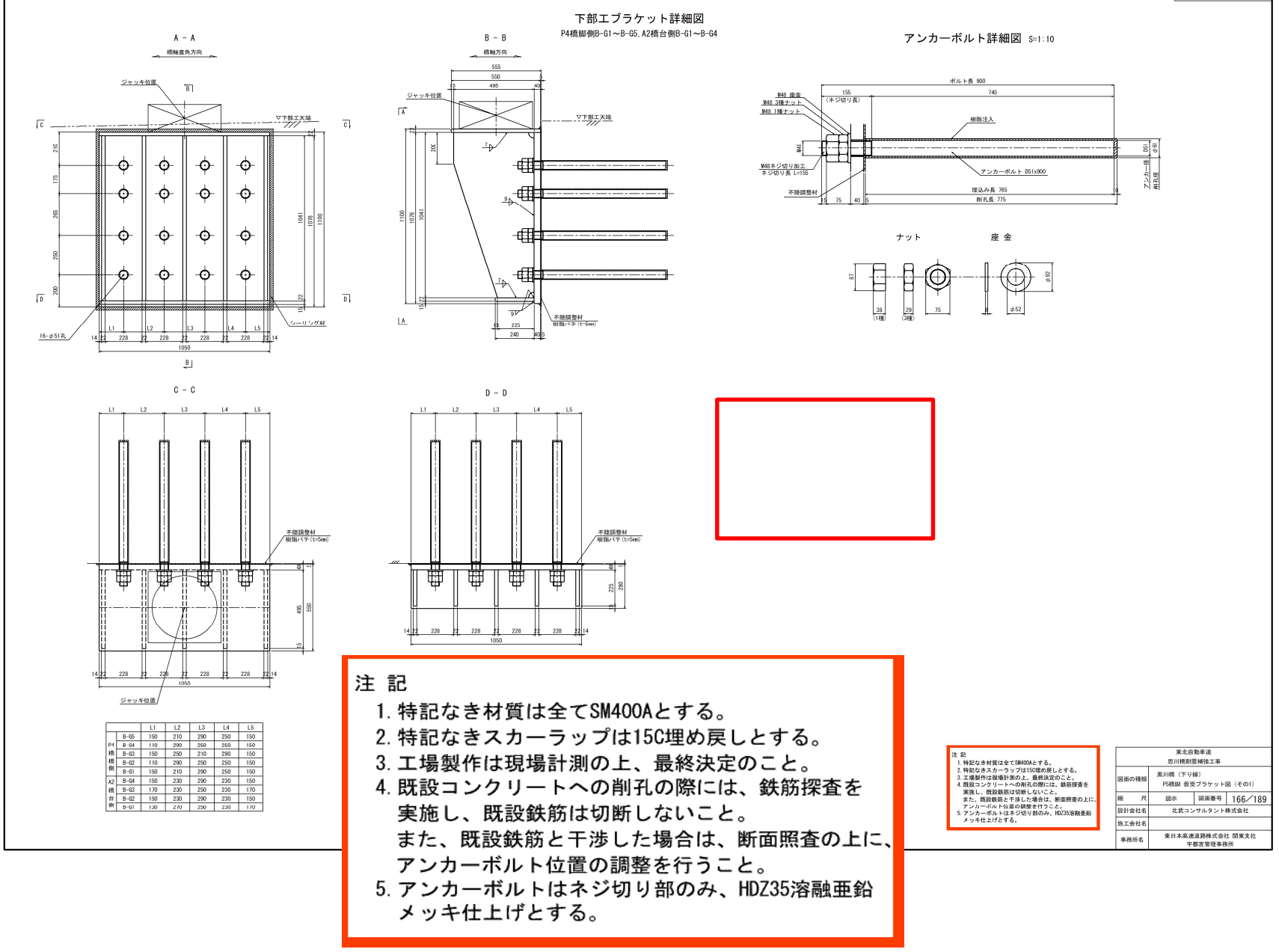


備考	
	注記欄「4.溶融亜鉛メッキ」の削除「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　「シーリング詳細図」の削除

対象	設計図　黒川橋（下り線）Ｐ５橋脚 仮受ブラケット図（その１）（166/189）
誤	



正	



備考	注記欄「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　「シーリング詳細図」の削除

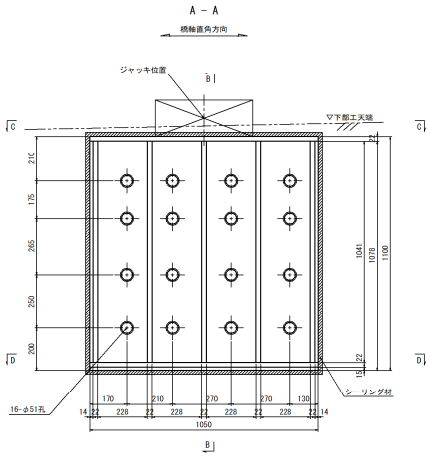
対象	設計図　黒川橋（下り線）Ｐ５橋脚 仮受ブラケット図（その２）（167/189）
誤	
正	
備考	注記欄「4.溶融亜鉛メッキ」の削除「5.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記　「シーリング詳細図」の削除

黒川橋（下り線）P5橋脚 仮受ブラケット図（その2） S=1:20

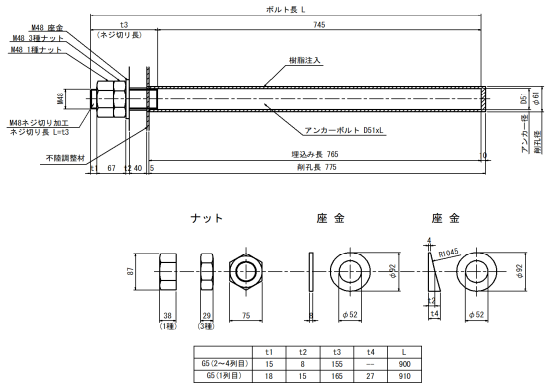
167 ／ 189

下部工ブラケット詳細図

A2橋台側B-G5

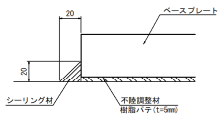


アンカーボルト詳細図 S=1:10



	t1	t2	t3	t4	L
G5(2～4列目)	15	8	155	---	900
G5(1列目)	18	15	165	27	910

シーリング詳細図 S=1:4



注 記

1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
   付着量は，JIS H8641 HDZ55とする。
   ただし，ボルト･ナット類はHDZ35とする。
5. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
   また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。

注 記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
付着量は，JIS H8641 HDZ55とする。
ただし，ボルト･ナット類はHDZ35とする。
5. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。

東北自動車道	恩川橋耐震補強工事
図面の種類	黒川橋（下り線） P5橋脚 仮受ブラケット図（その2）
縮尺	図示
図面番号	167／189
設計会社名	北武コンサルタント株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 宇都宮管理事務所

黒川橋（下り線）P5橋脚 仮受ブラケット図（その2） S=1:20

167 ／ 189

下部工ブラケット詳細図

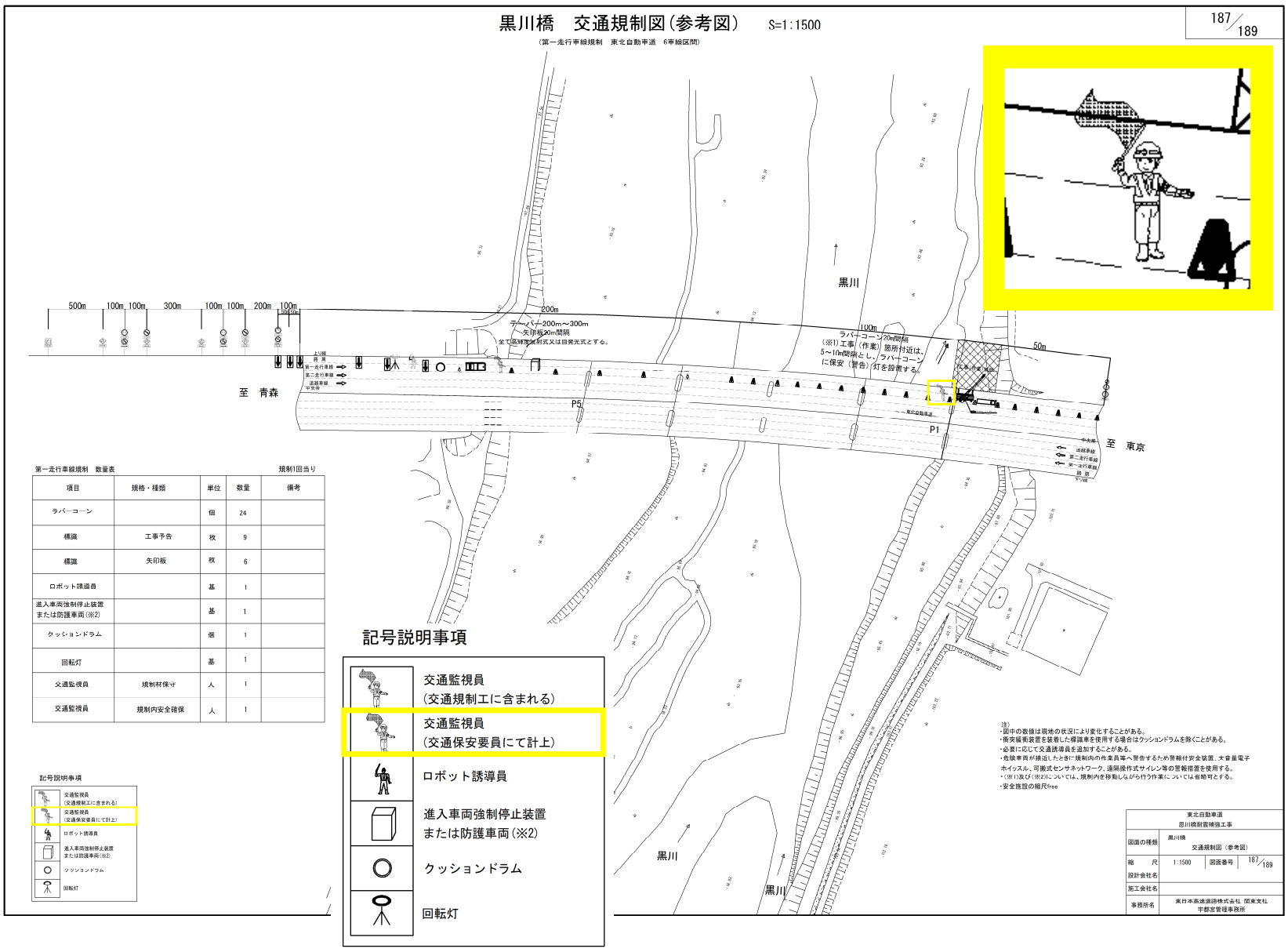
A2橋台側B-G5

アンカーボルト詳細図 S=1:10

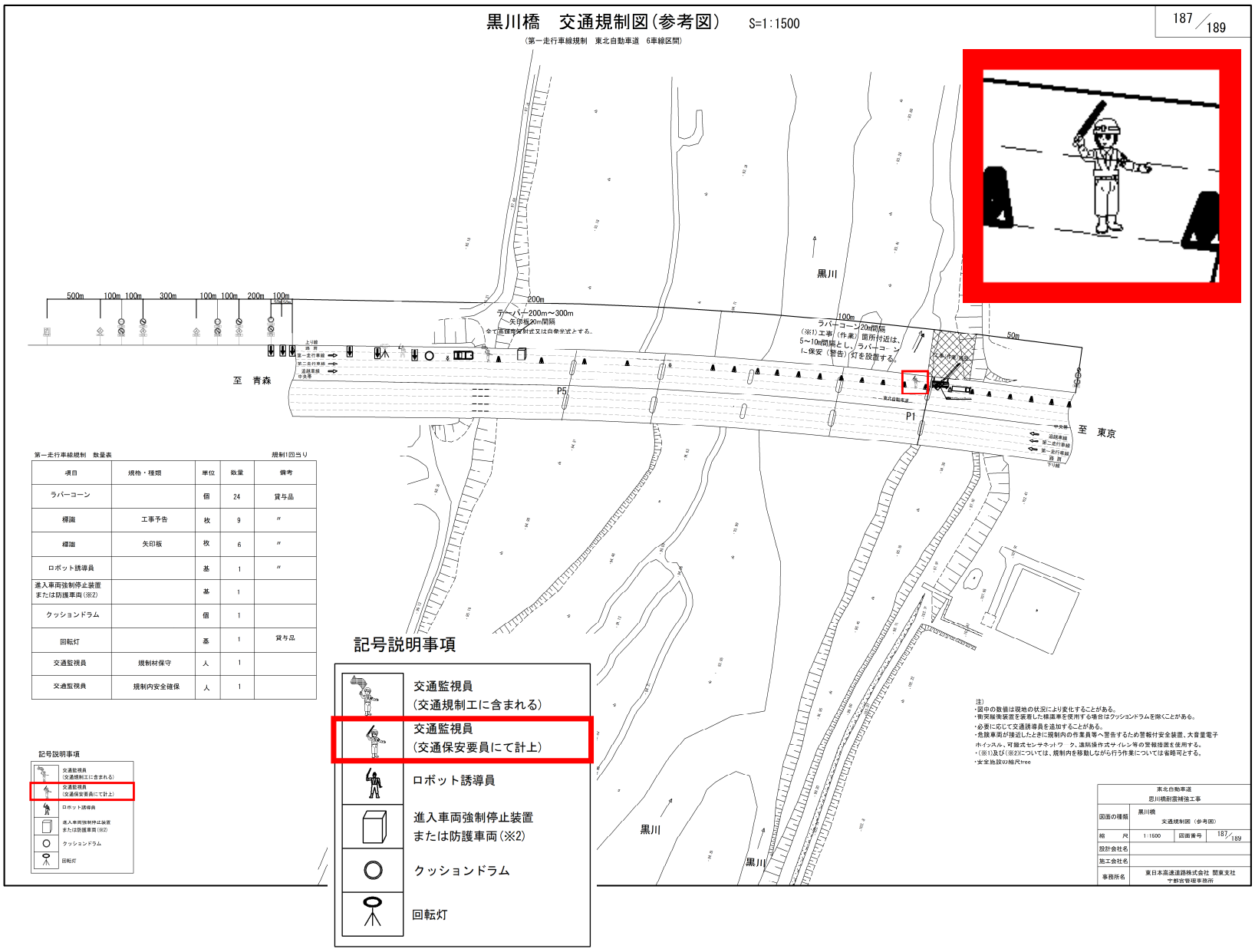
注 記

1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは15C埋め戻しとする。
3. 工場製作は現場計測の上、最終決定のこと。
4. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し、既設鉄筋は切断しないこと。
   また、既設鉄筋と干渉した場合は、断面照査の上に、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
5. アンカーボルトはネジ切り部のみ、HDZ35溶融亜鉛メッキ仕上げとする。

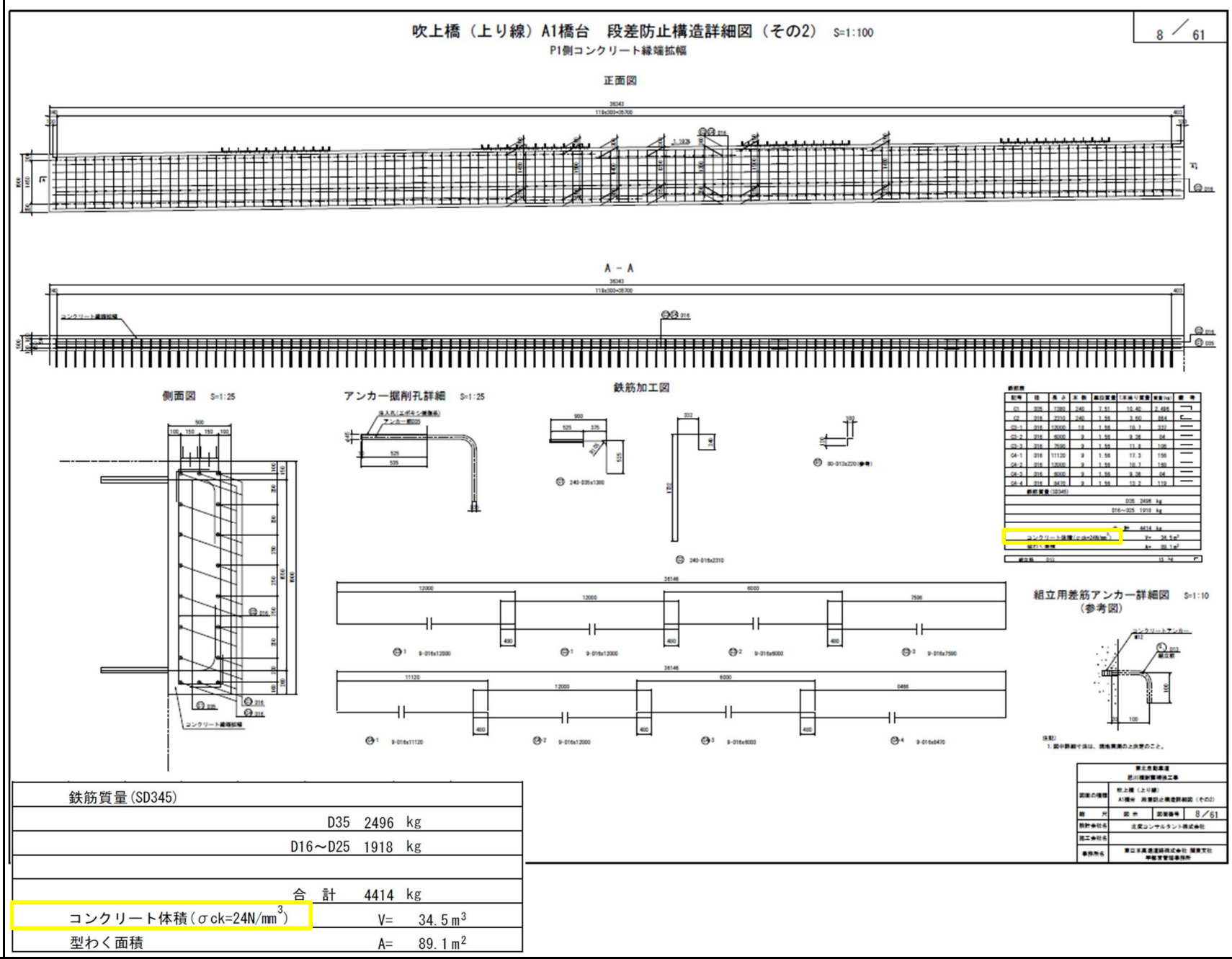
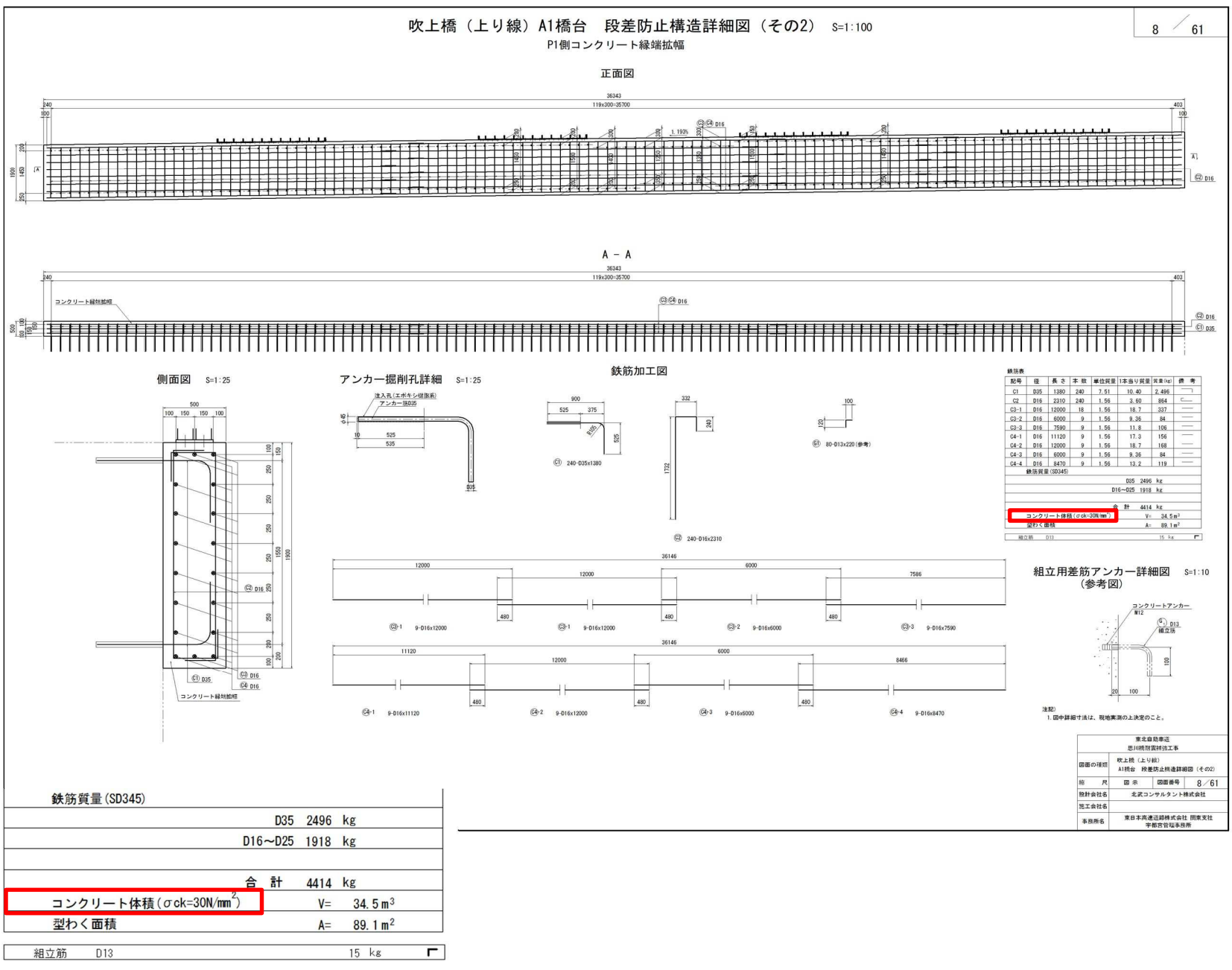
対象	設計図　黒川橋　交通規制図（参考図）（187/189）
誤	



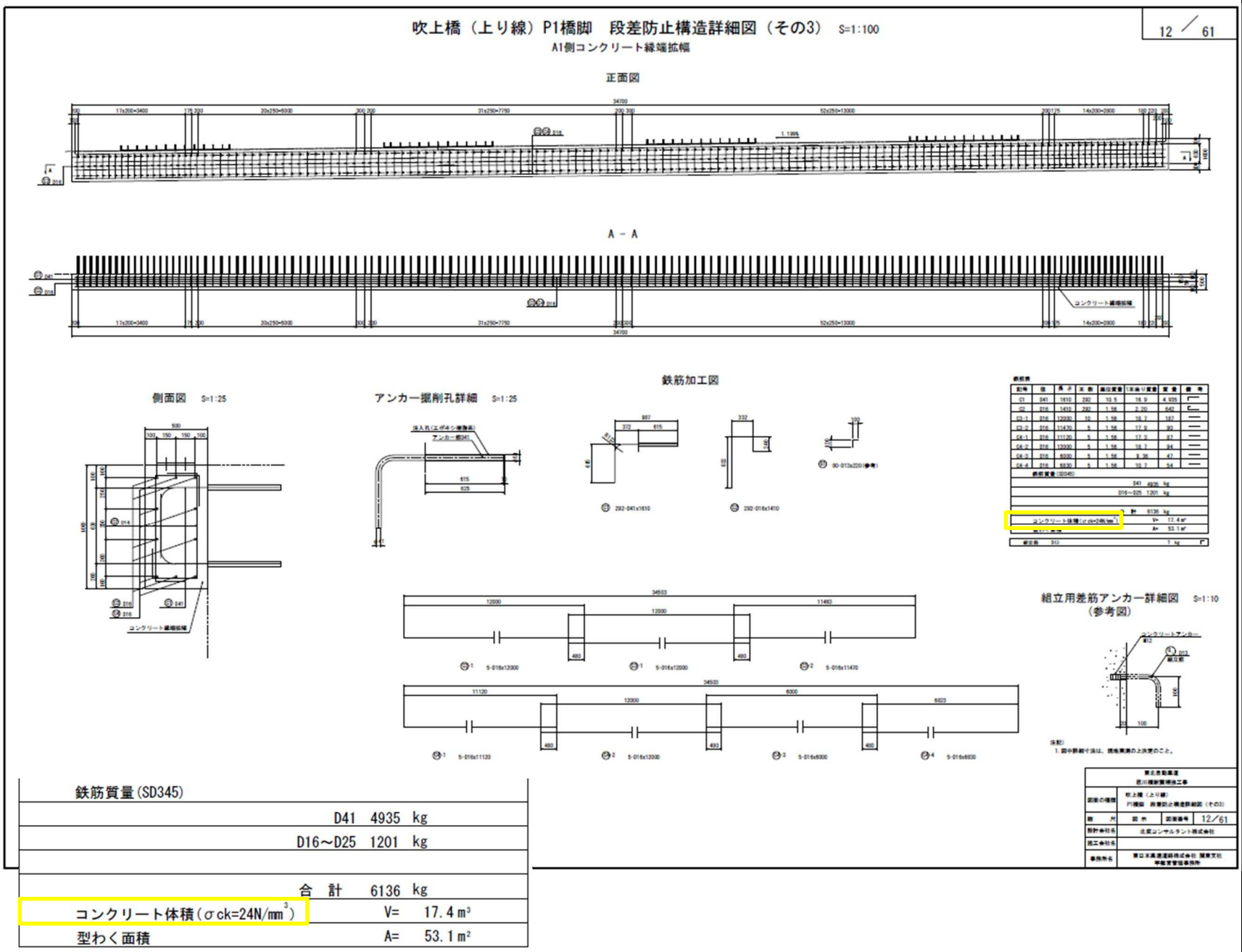
正	



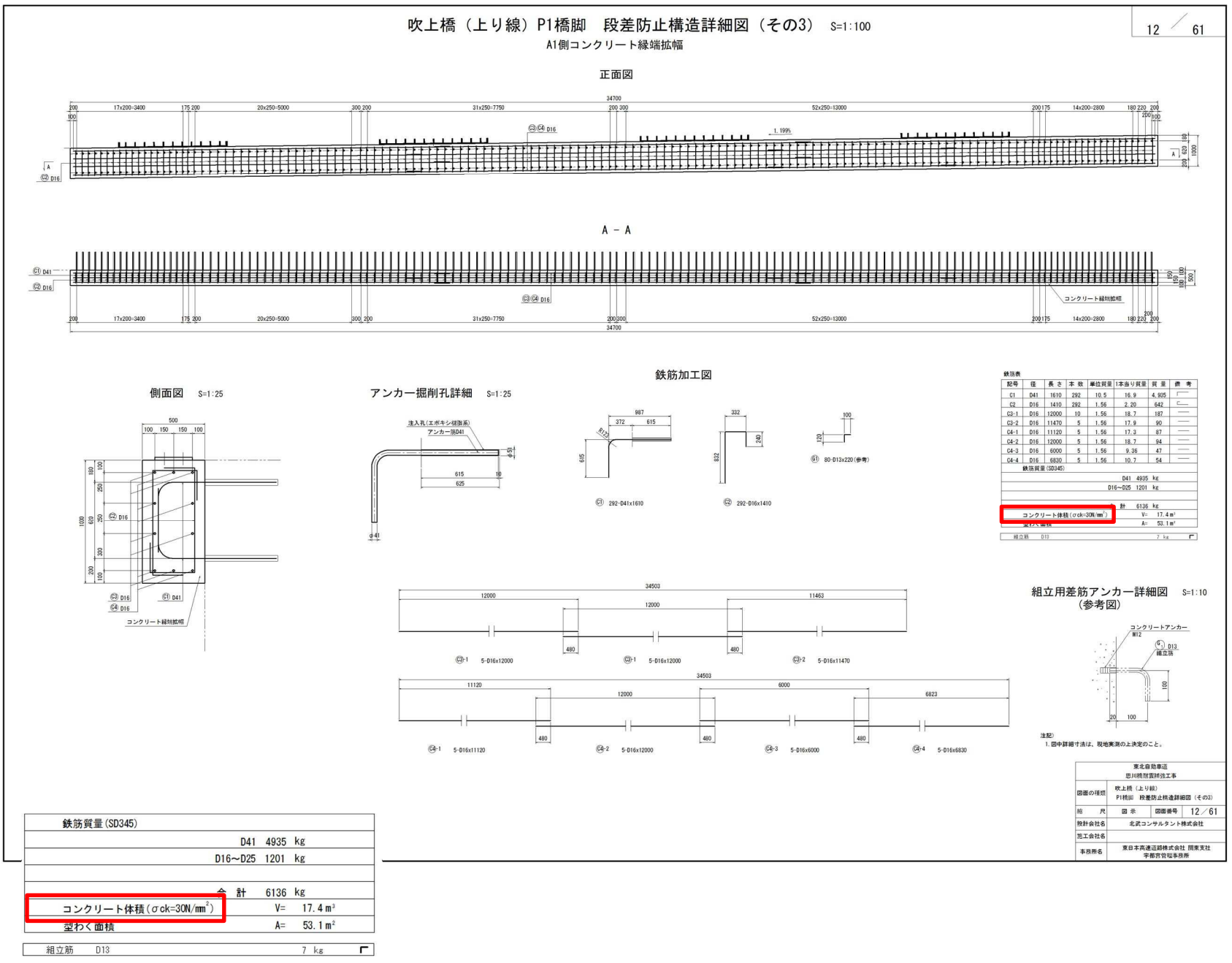
備考	交通監視員の区分を明確にするため凡例を修正

対象	設計図　吹上橋（上り線）Ａ１橋台　段差防止構造詳細図（その２）（8/61）
誤	
正	
備考	設計図　吹上橋（上り線）Ａ１橋台　段差防止構造詳細図（その２） 鉄筋表の修正

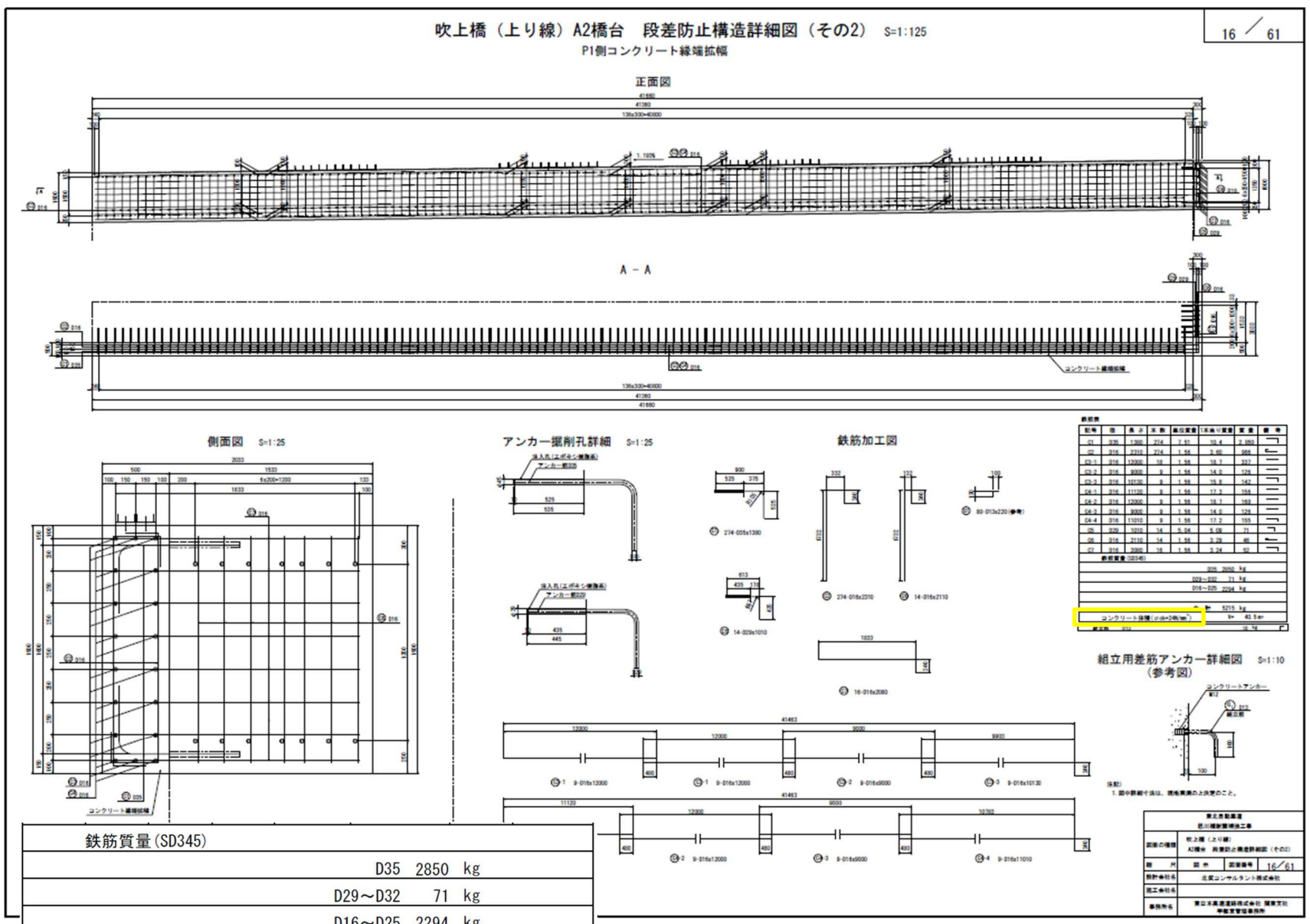
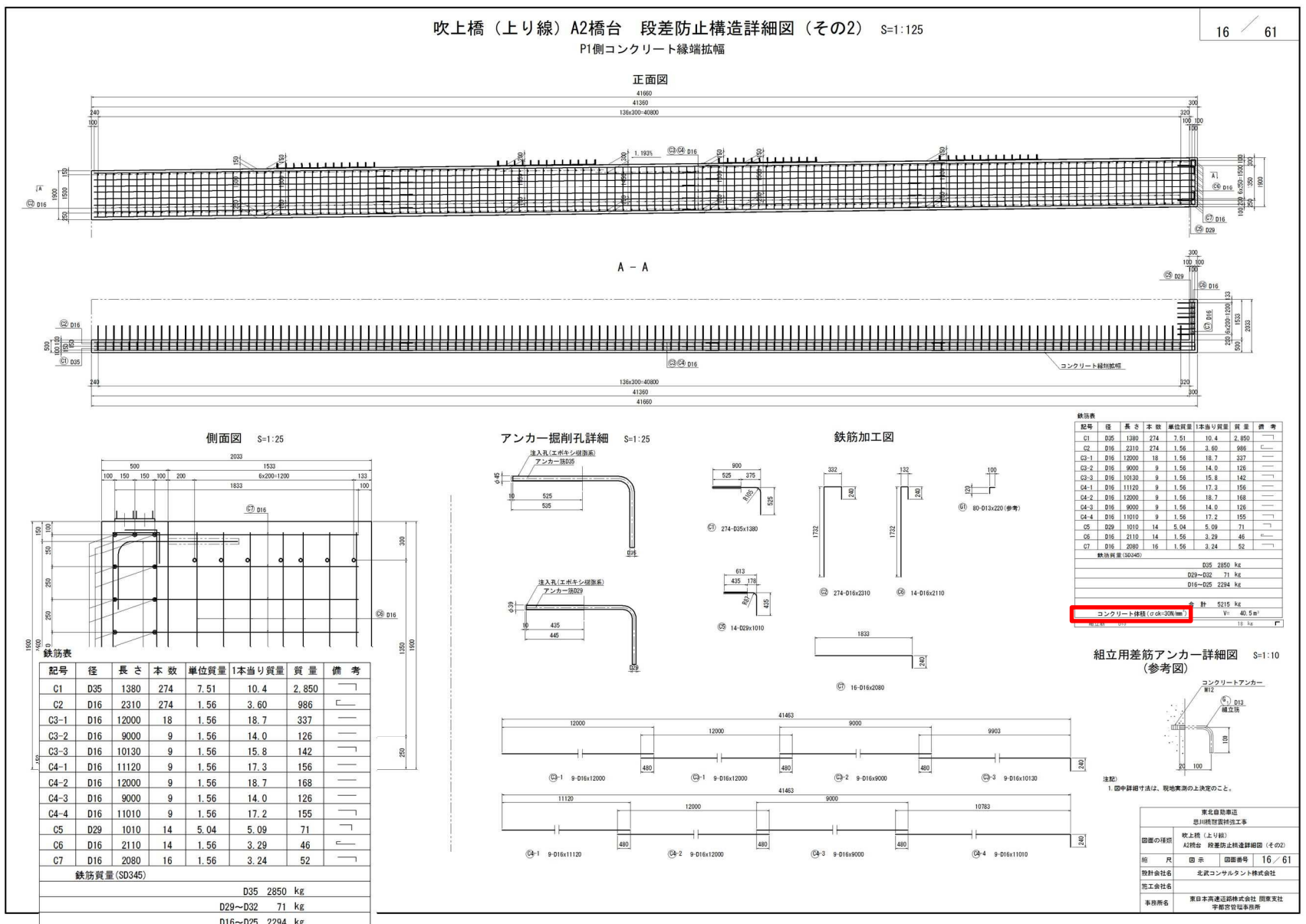
対象	設計図　吹上橋（上り線）Ｐ１橋脚　段差防止構造詳細図（その３）（12/61）
誤	



正	

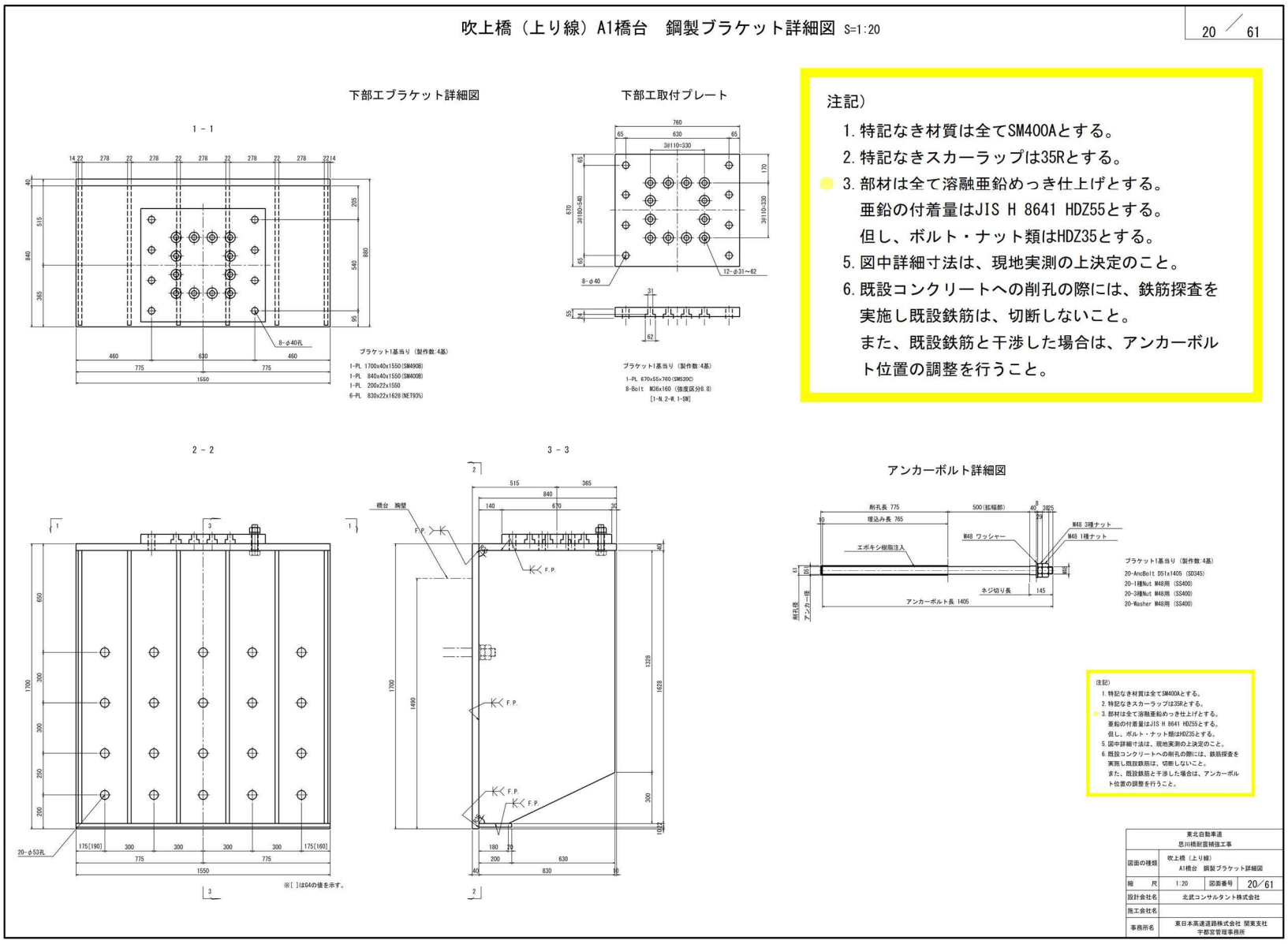


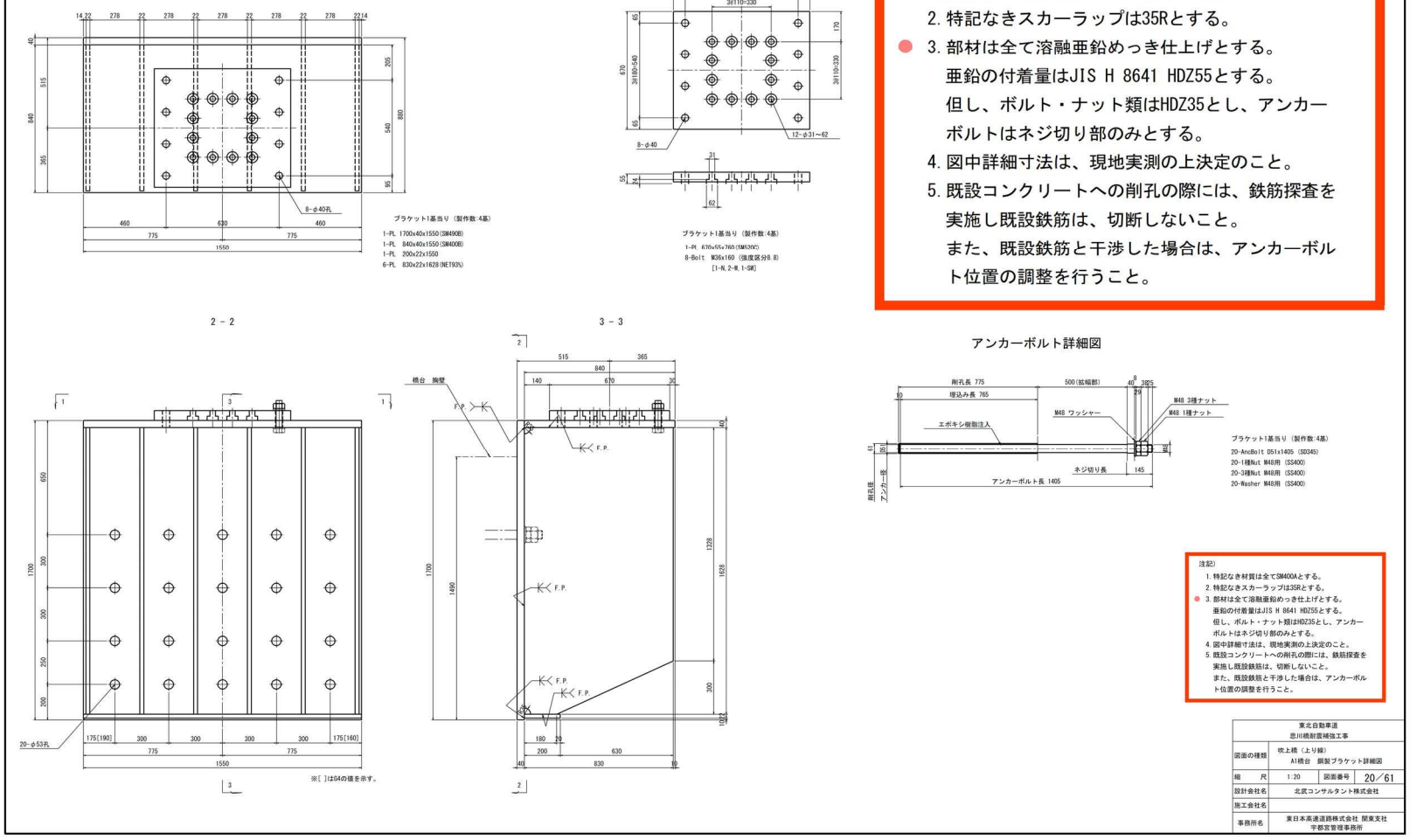
備考	設計図　吹上橋（上り線）Ｐ１橋脚　段差防止構造詳細図（その３） 鉄筋表の修正

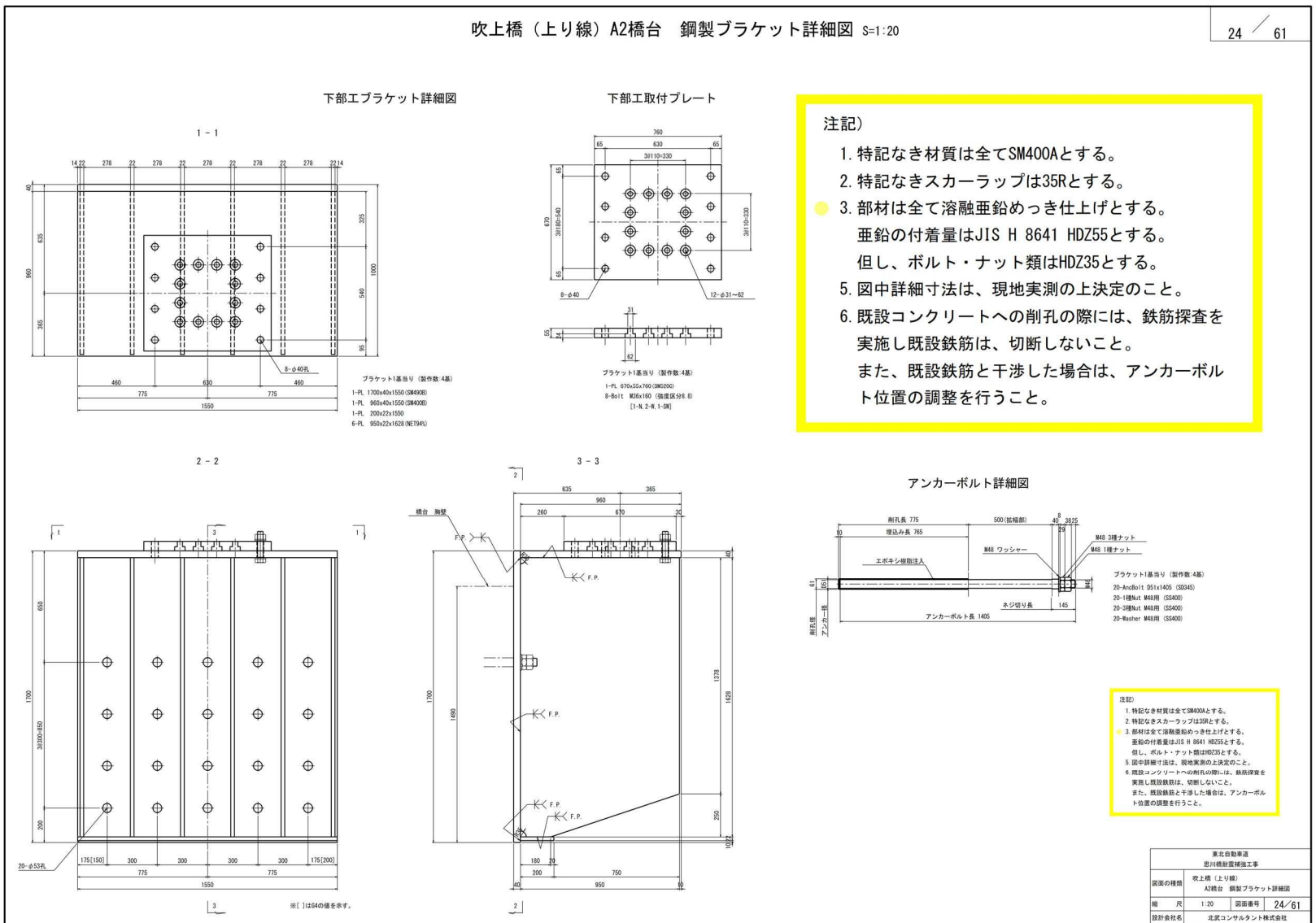
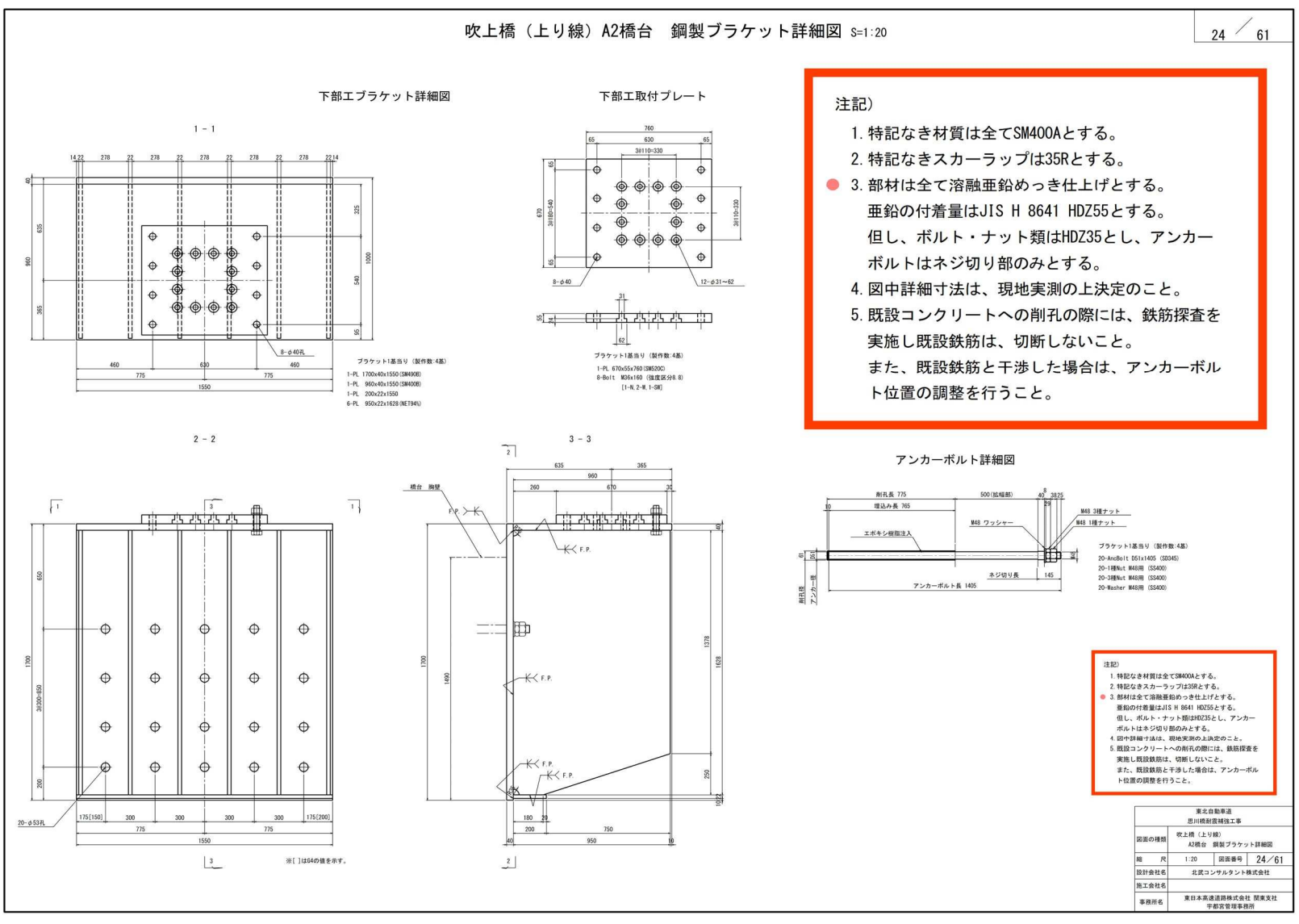
対象	設計図　吹上橋（上り線）Ａ２橋台　段差防止構造詳細図（その２）（16/61）
誤	
正	
備考	設計図　吹上橋（上り線）Ａ２橋台　段差防止構造詳細図（その２） 鉄筋表の修正

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	備考
C1	D35	1380	274	7.51	10.4	2,850	
C2	D16	2310	274	1.56	3.60	986	
C3-1	D16	12000	18	1.56	18.7	337	
C3-2	D16	9000	9	1.56	14.0	126	
C3-3	D16	10130	9	1.56	15.8	142	
C4-1	D16	11120	9	1.56	17.3	156	
C4-2	D16	12000	9	1.56	18.7	168	
C4-3	D16	9000	9	1.56	14.0	126	
C4-4	D16	11010	9	1.56	17.2	155	
C5	D29	1010	14	5.04	5.09	71	
C6	D16	2110	14	1.56	3.29	46	
C7	D16	2080	16	1.56	3.24	52	
G1	D16	220	18	0.34	0.07	1	

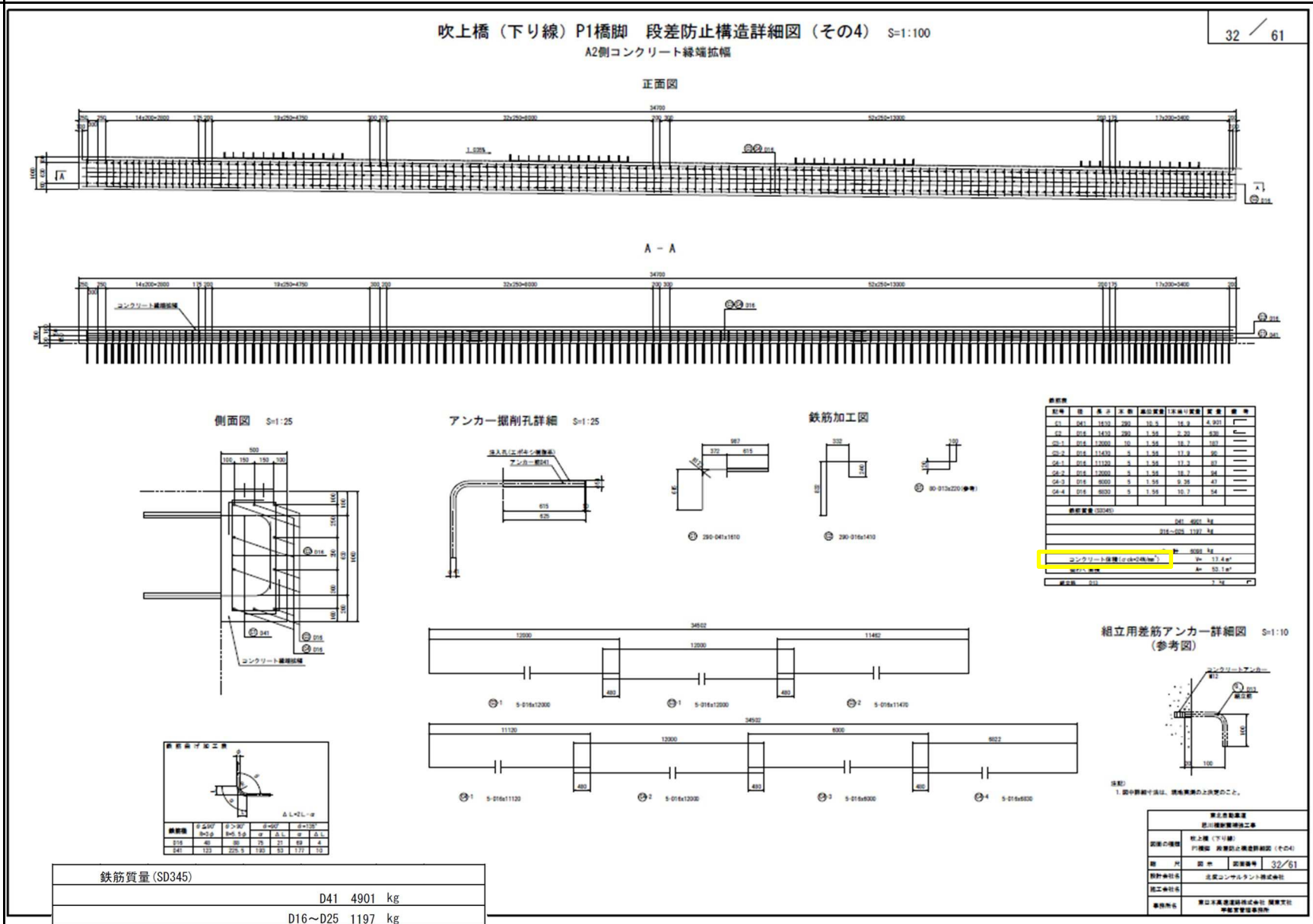
対象	設計図　吹上橋（上り線）Ａ１橋台 鋼製ブラケット詳細図（20/61）
誤	
正	
備考	注記欄「3.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記





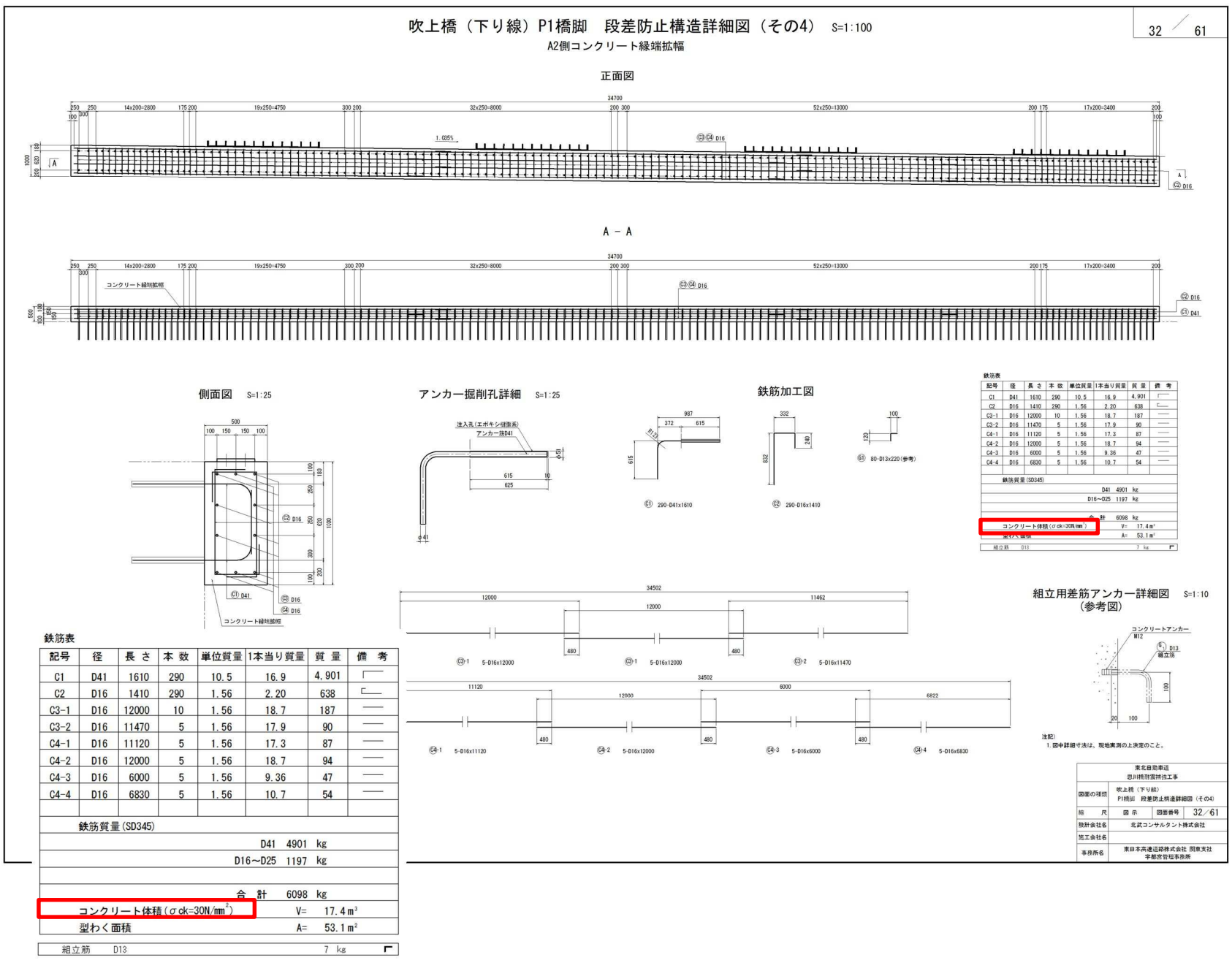
対象	設計図　吹上橋（上り線）Ａ２橋台 鋼製ブラケット詳細図（24/61）
誤	
正	
備考	注記欄「3.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記

対象	設計図　吹上橋（下り線）Ｐ１橋脚　段差防止構造詳細図（その４）（32/61）
誤	



鉄筋質量(SD345)			
	D41	4901	kg
	D16～D25	1197	kg
	合　計	6098	kg
コンクリート体積（σck=24N/mm³）	V=	17.4	m³
型わく面積	A=	53.1	m²

正	



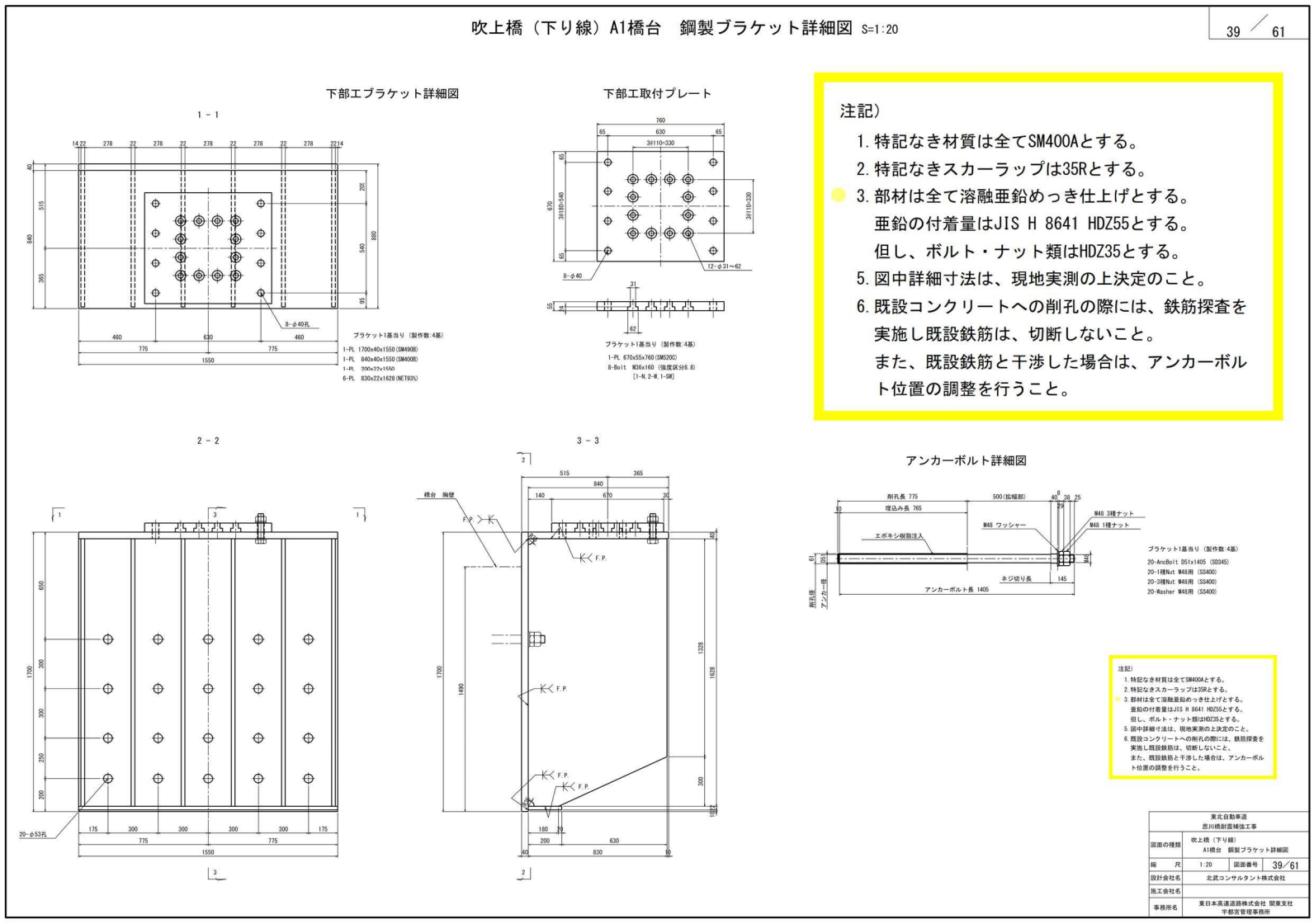
鉄筋表

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	備考
C1	D41	1610	290	10.5	16.9	4,901	
C2	D16	1410	290	1.56	2.20	638	
C3-1	D16	12000	10	1.56	18.7	187	
C3-2	D16	11470	5	1.56	17.9	90	
C4-1	D16	11120	5	1.56	17.3	87	
C4-2	D16	12000	5	1.56	18.7	94	
C4-3	D16	6000	5	1.56	9.36	47	
C4-4	D16	6830	5	1.56	10.7	54	

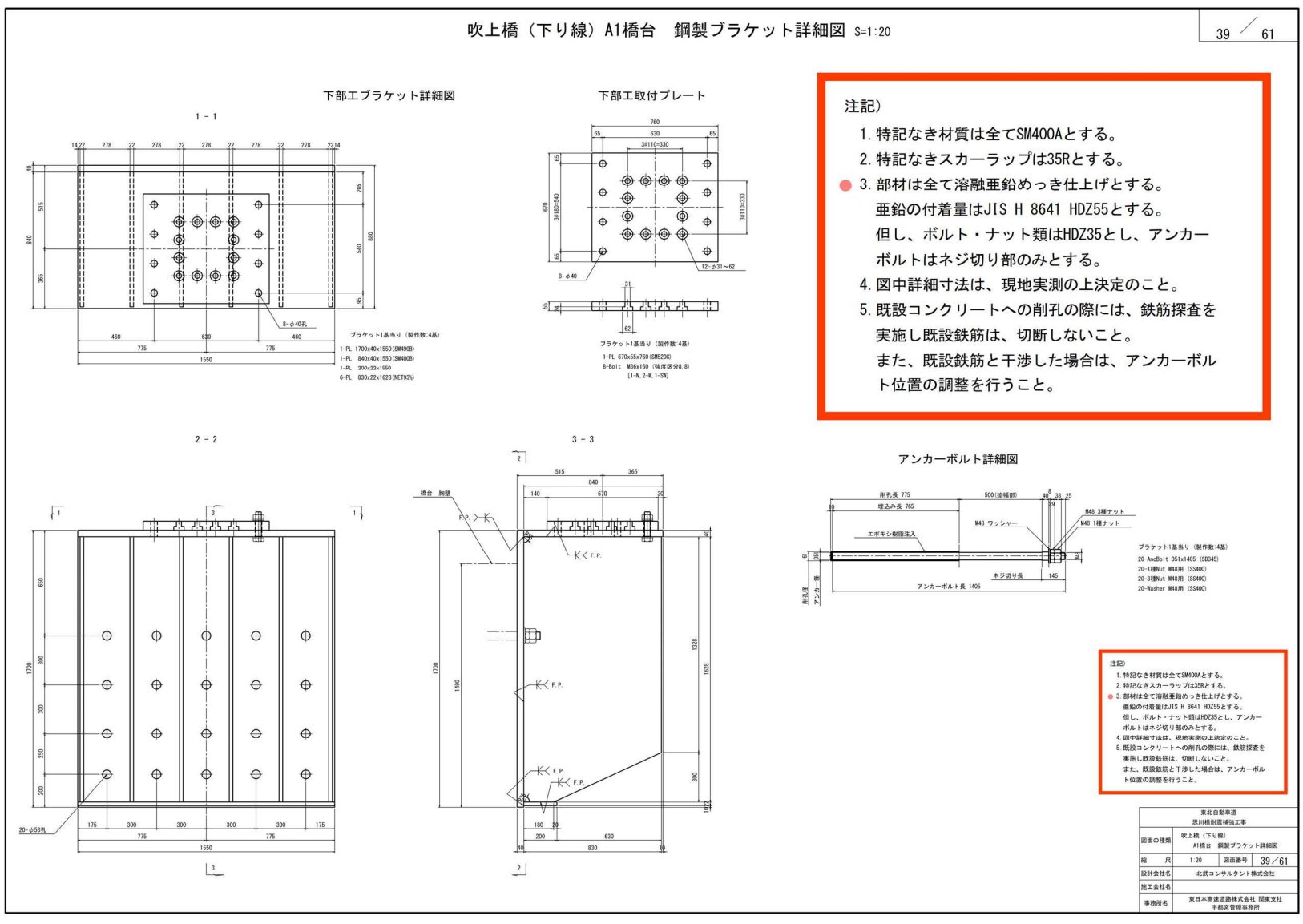
鉄筋質量(SD345)			
	D41	4901	kg
	D16～D25	1197	kg
	合　計	6098	kg
コンクリート体積（σck=30N/mm²）	V=	17.4	m³
型わく面積	A=	53.1	m²
組立筋　D13		7	kg

備考	設計図　吹上橋（上り線）Ａ２橋台　段差防止構造詳細図（その４） 鉄筋表の修正

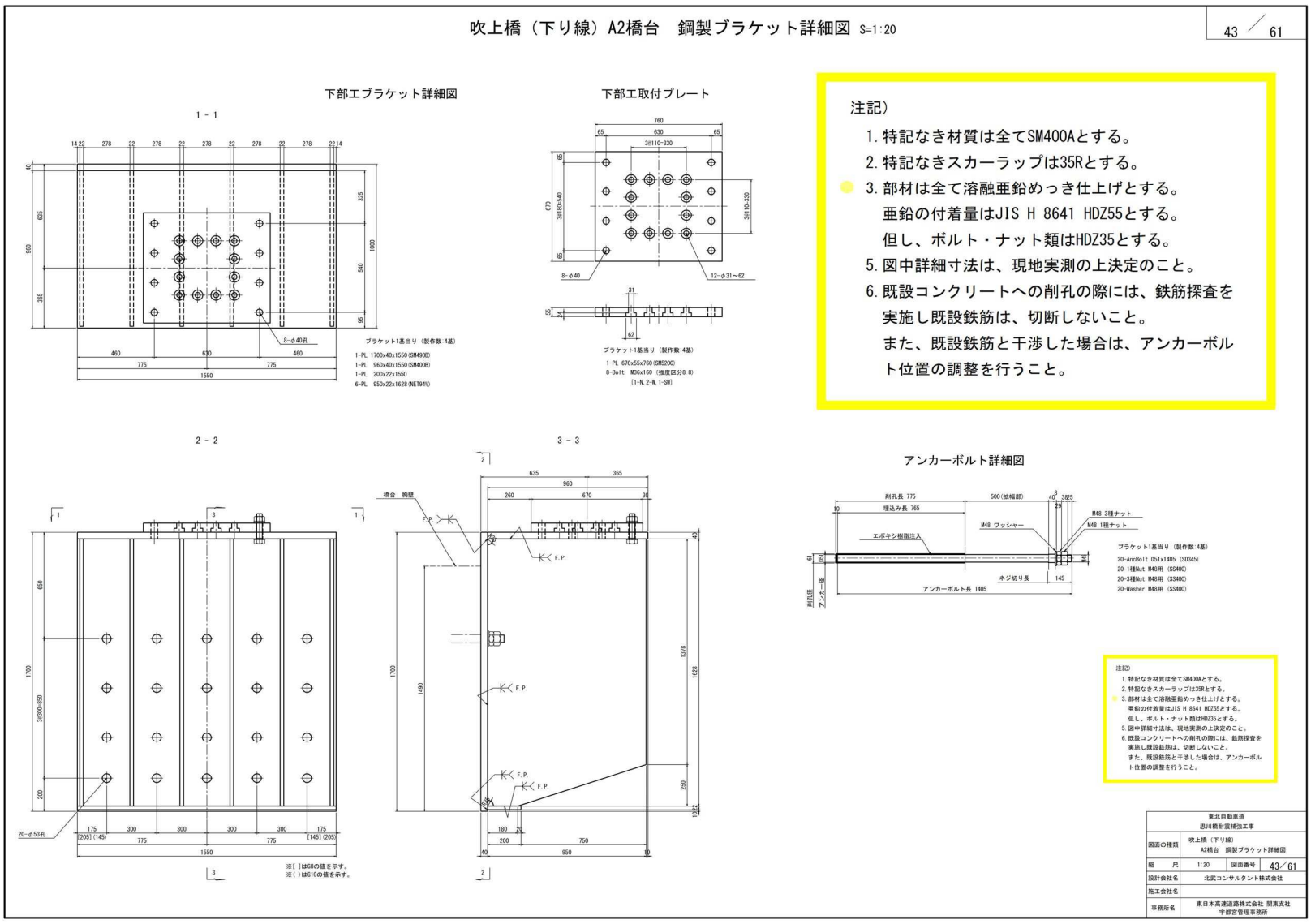
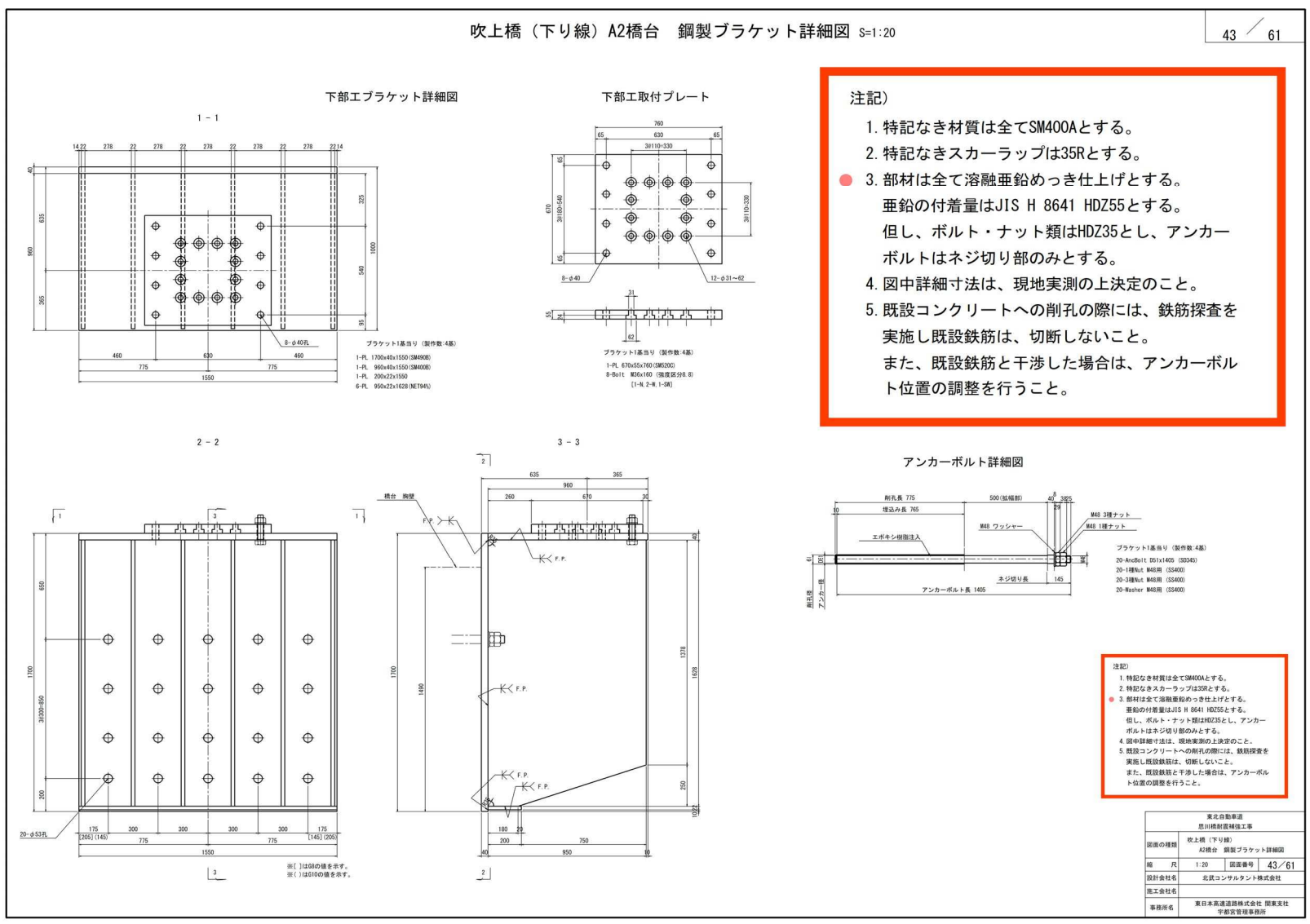
対象	設計図　吹上橋（下り線）Ａ１橋台 鋼製ブラケット詳細図（39/61）
誤	

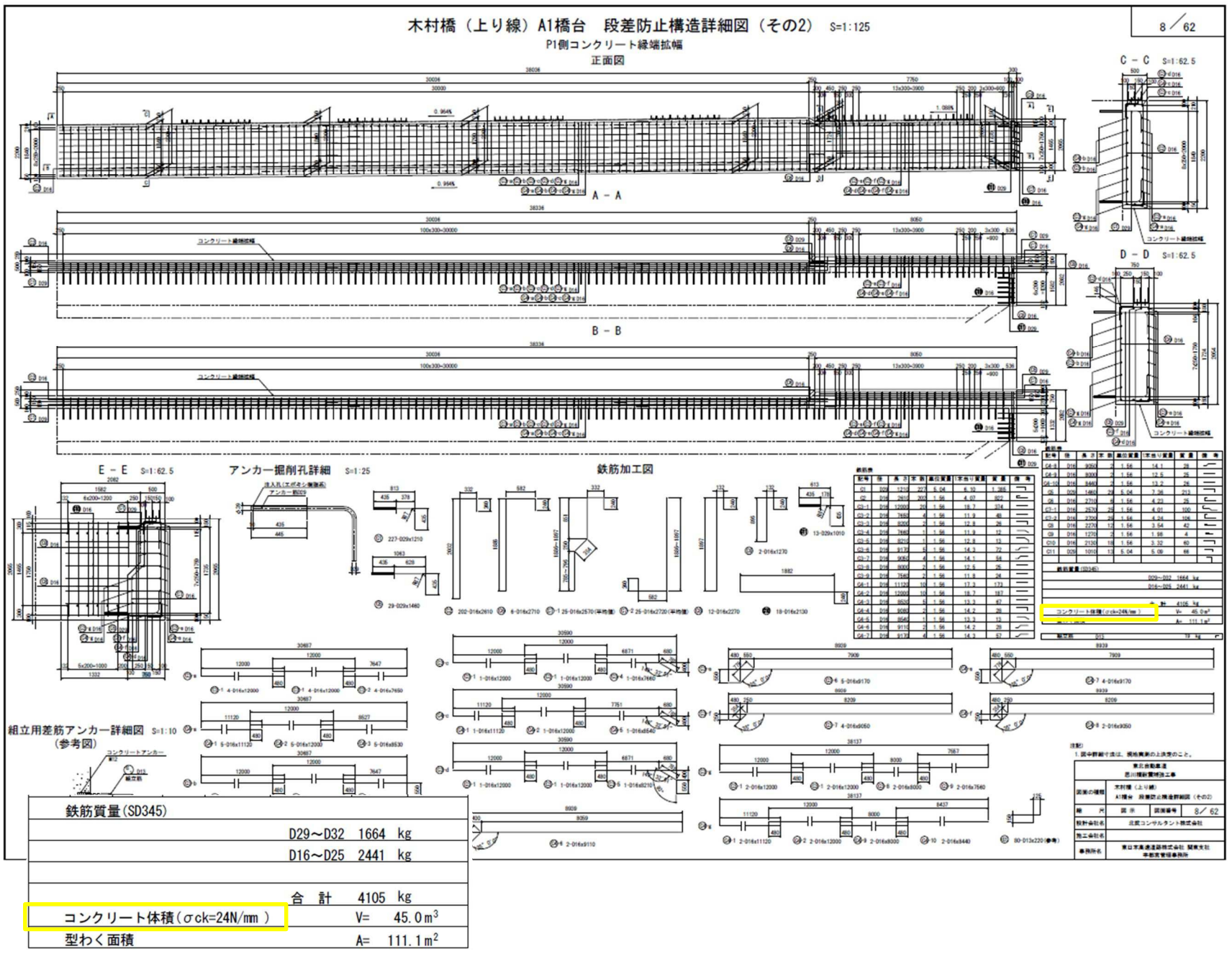
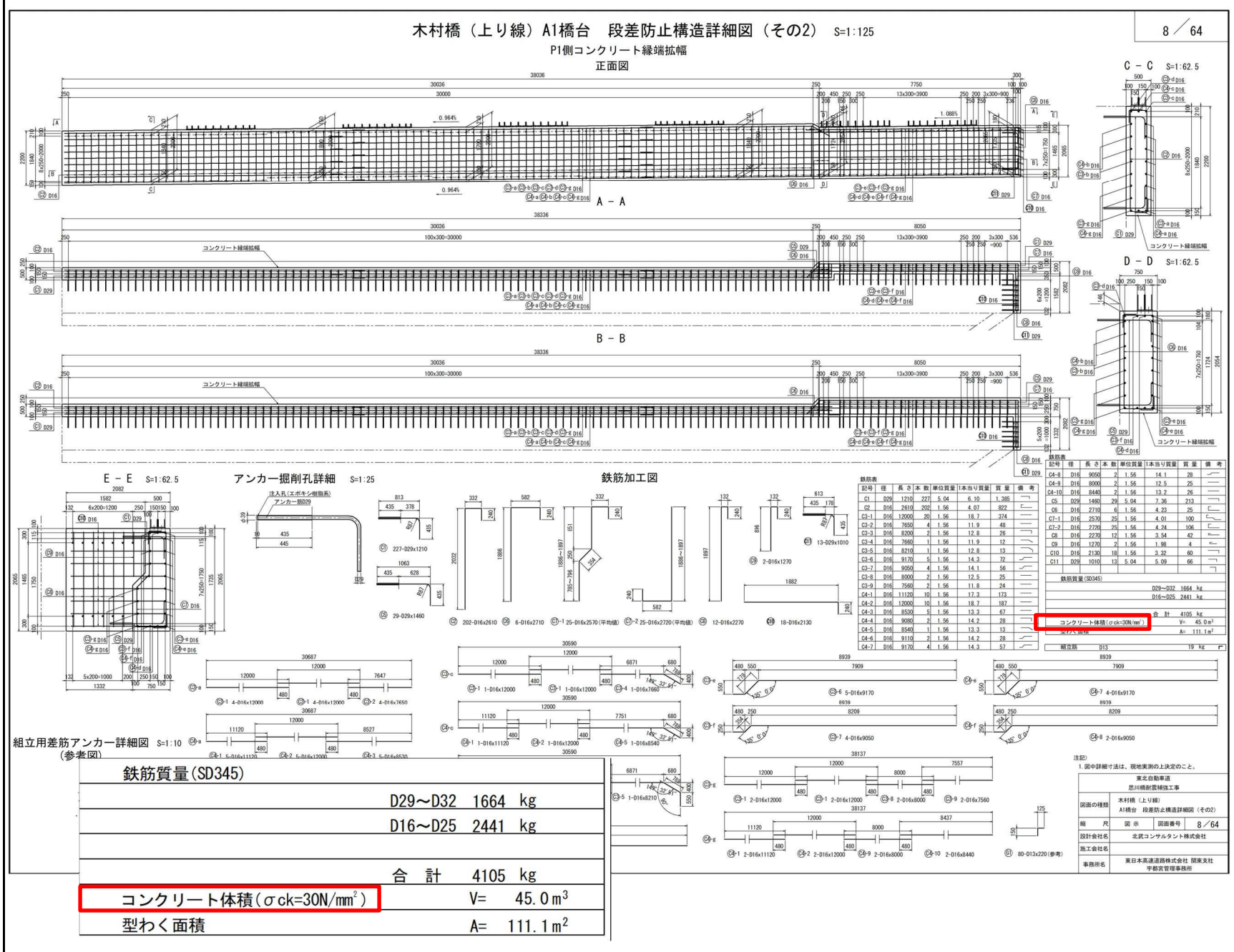


正	

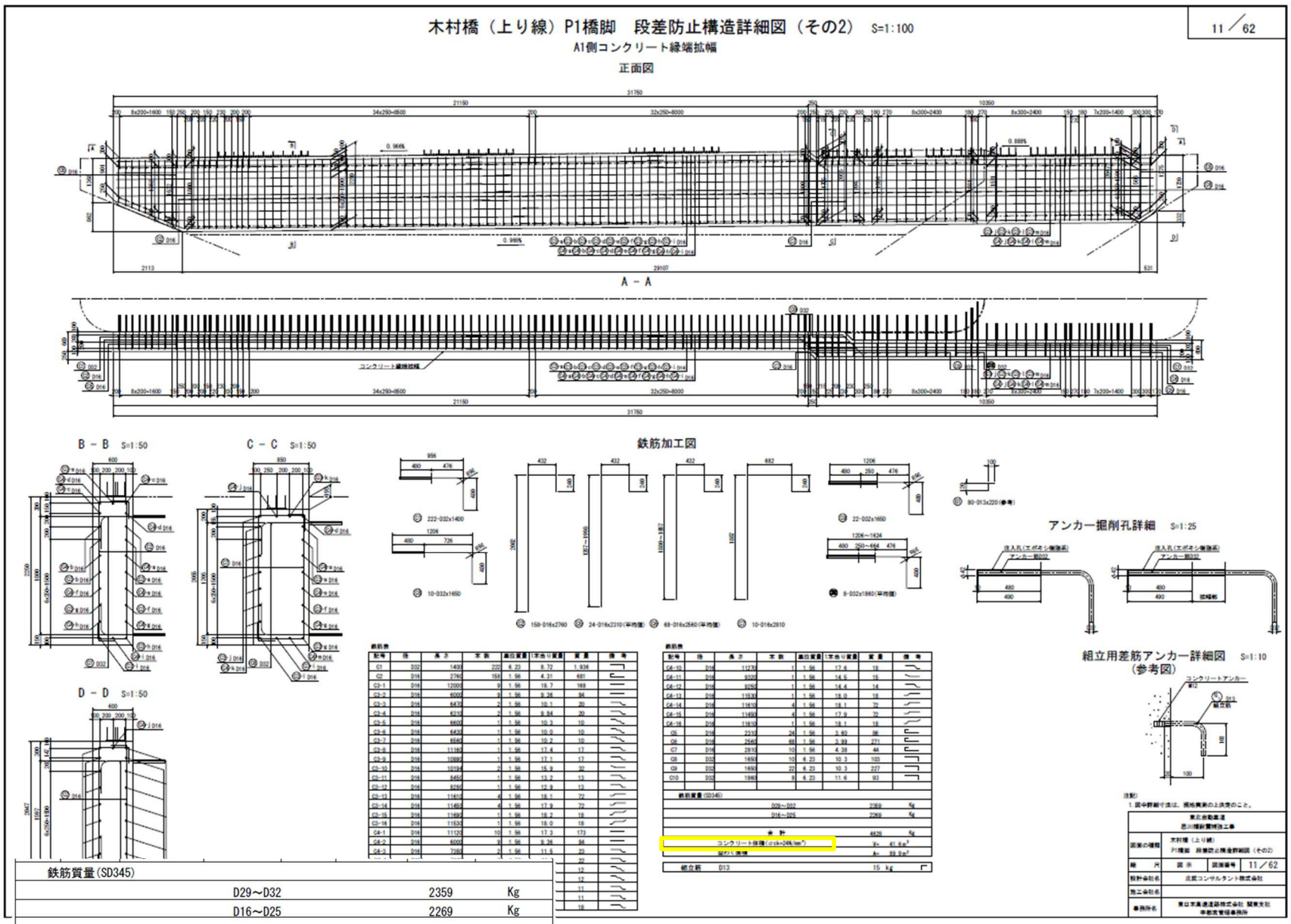


備考	注記欄「3.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記

対象	設計図　吹上橋（下り線）Ａ２橋台 鋼製ブラケット詳細図（43/61）
誤	
正	
備考	注記欄「3.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記

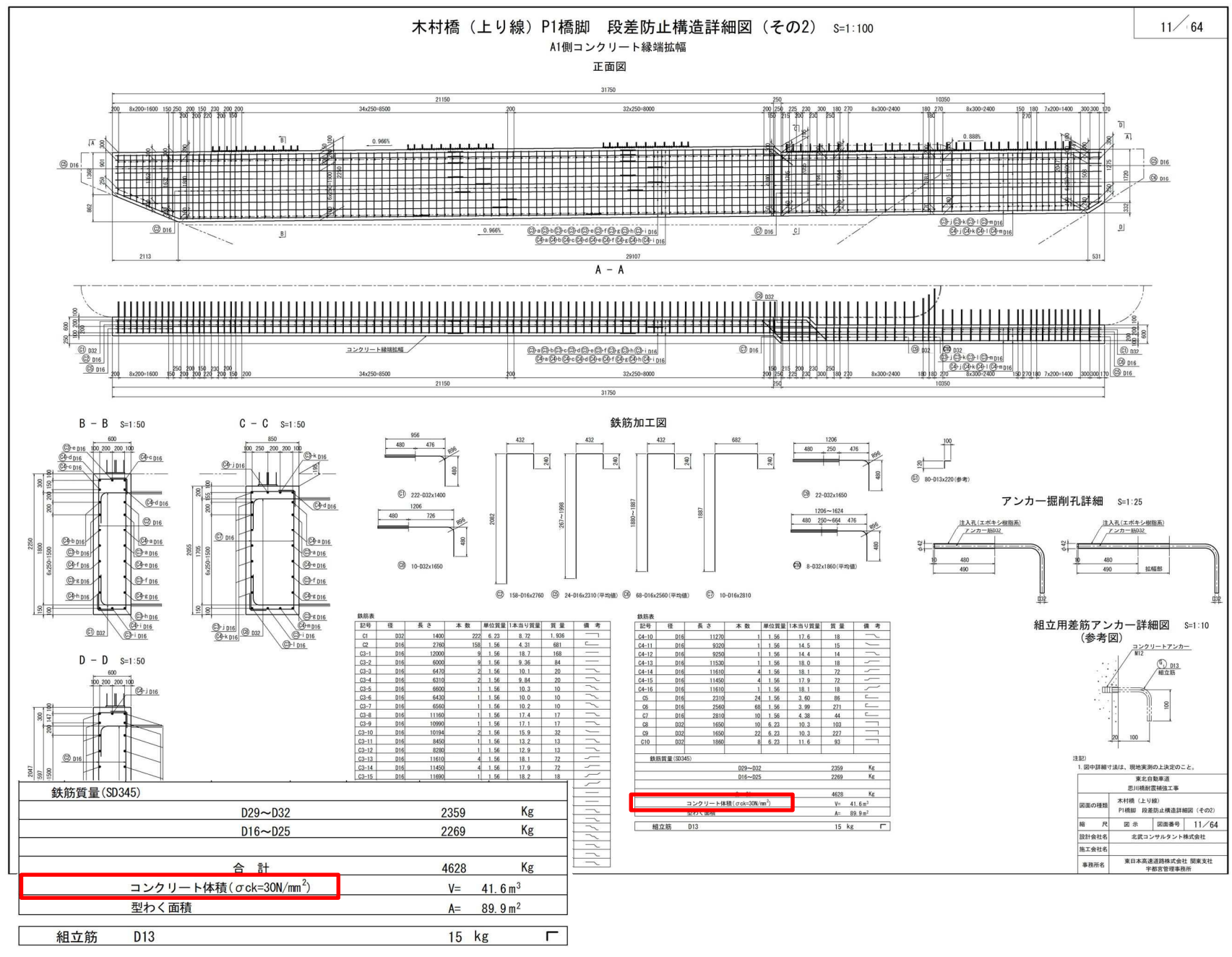
対象	設計図　木村橋（上り線）Ａ１橋台　段差防止構造詳細図（その２）（8/64）
誤	
正	
備考	設計図　木村橋（上り線）Ａ１橋台　段差防止構造詳細図（その２） 鉄筋表の修正

対象	設計図　木村橋（上り線）Ｐ１橋脚　段差防止構造詳細図（その２）（11/64）
誤	



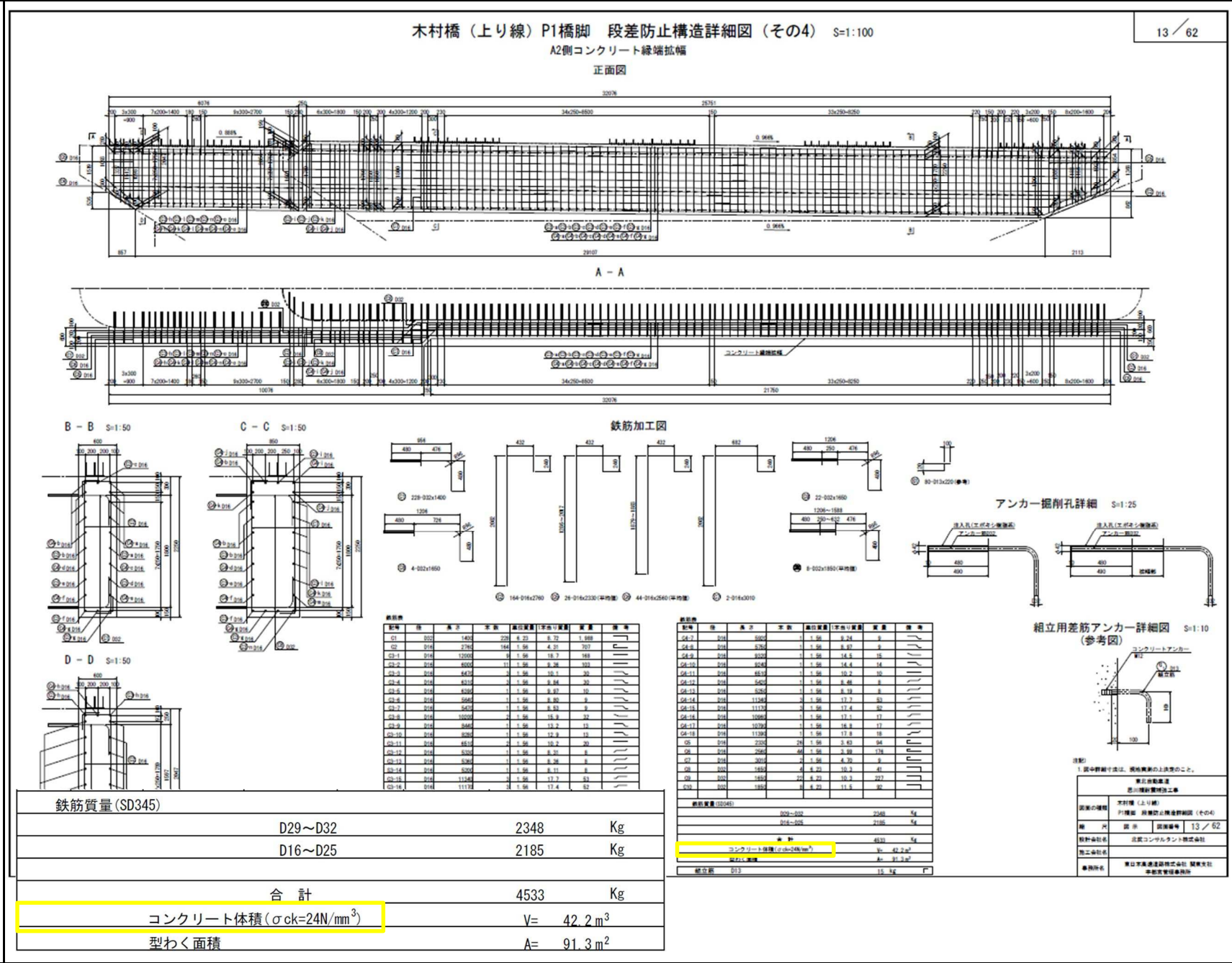
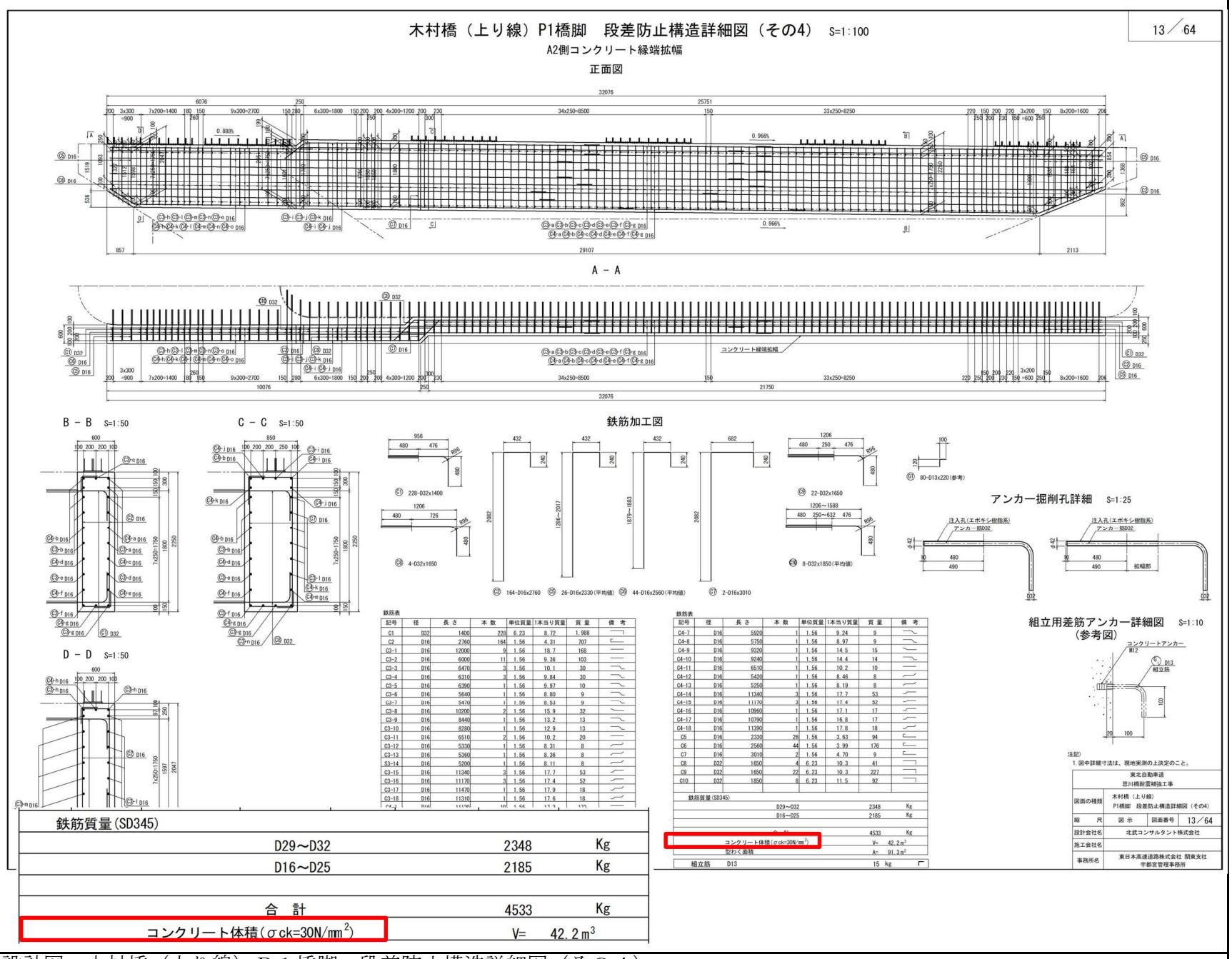
鉄筋質量(SD345)		
D29～D32	2359	Kg
D16～D25	2269	Kg
合　計	4628	Kg
コンクリート体積(σck=24N/mm³)	V= 41.6 m³	
型わく面積	A= 89.9 m²	

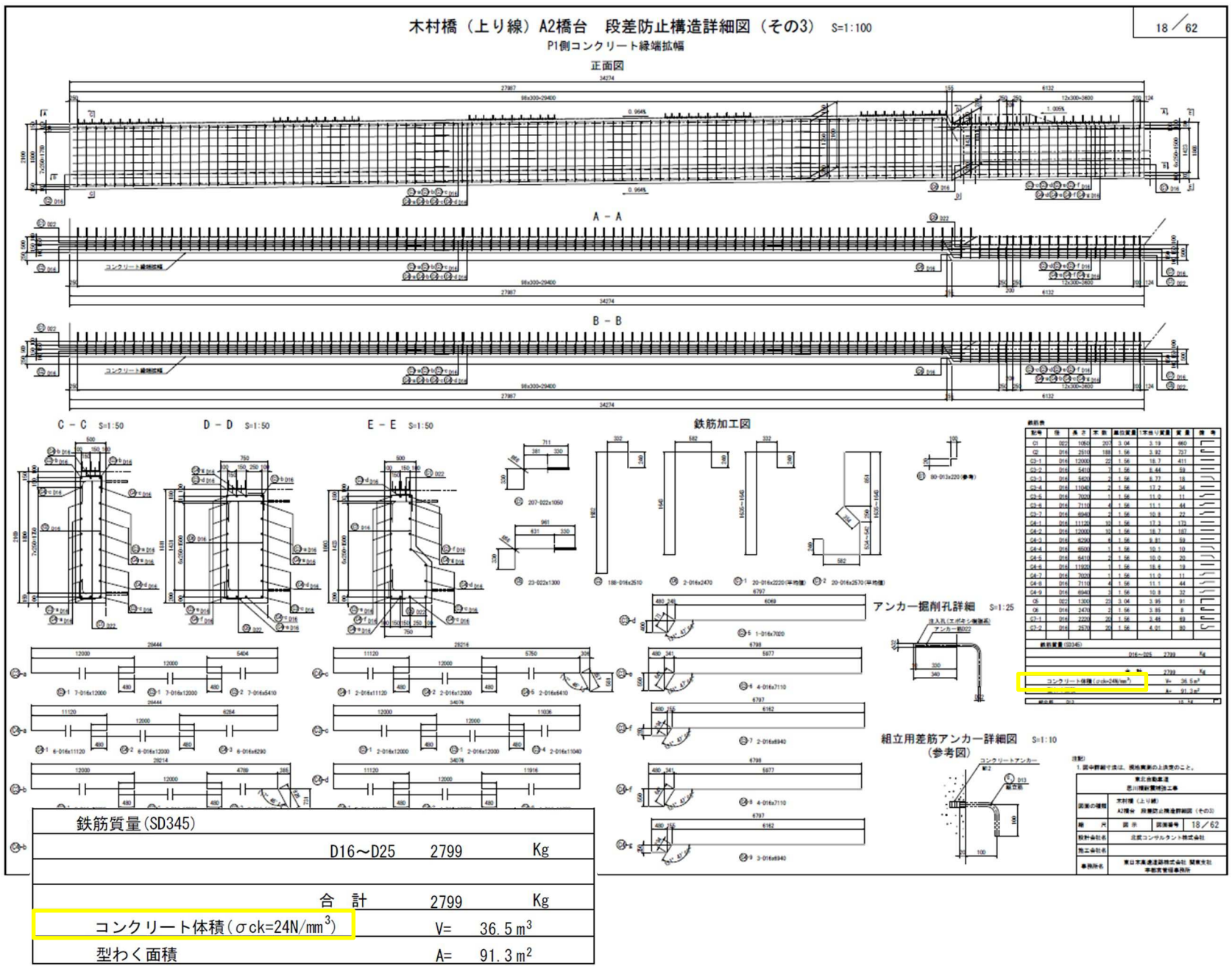
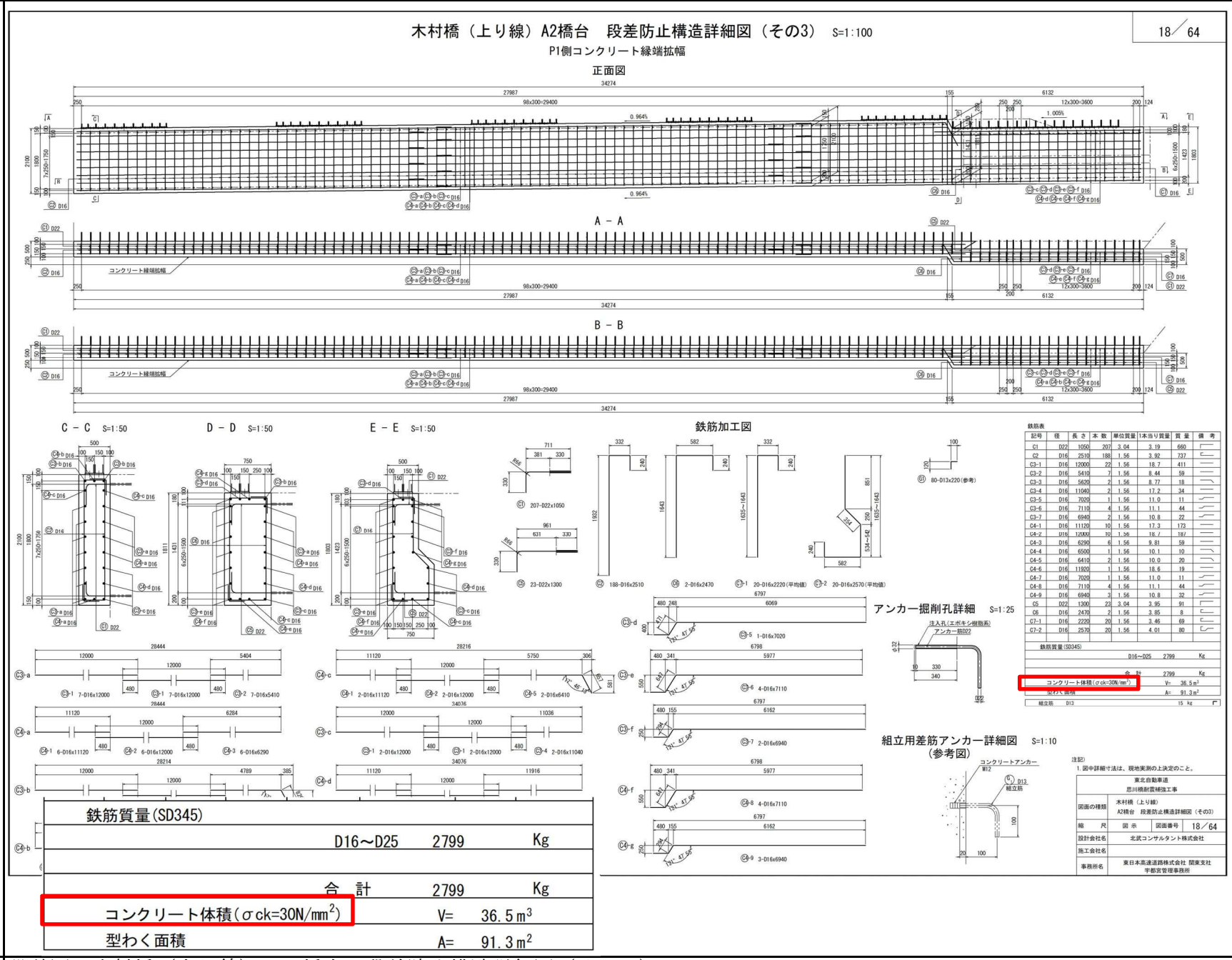
正	



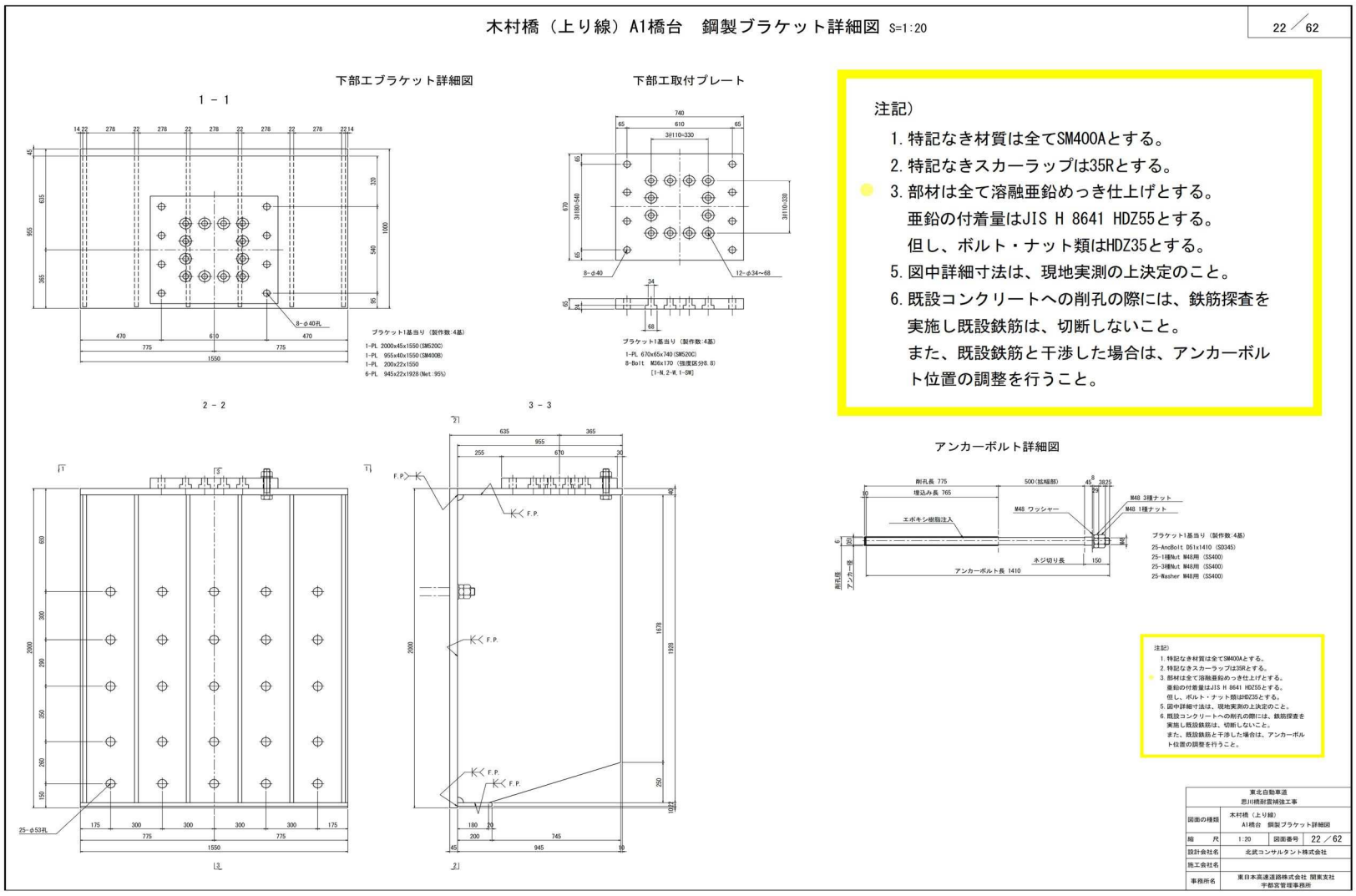
鉄筋質量(SD345)		
D29～D32	2359	Kg
D16～D25	2269	Kg
合　計	4628	Kg
コンクリート体積(σck=30N/mm²)	V= 41.6 m³	
型わく面積	A= 89.9 m²	
組立筋　D13	15 kg	

備考	設計図　木村橋（上り線）Ｐ１橋脚　段差防止構造詳細図（その２） 鉄筋表の修正

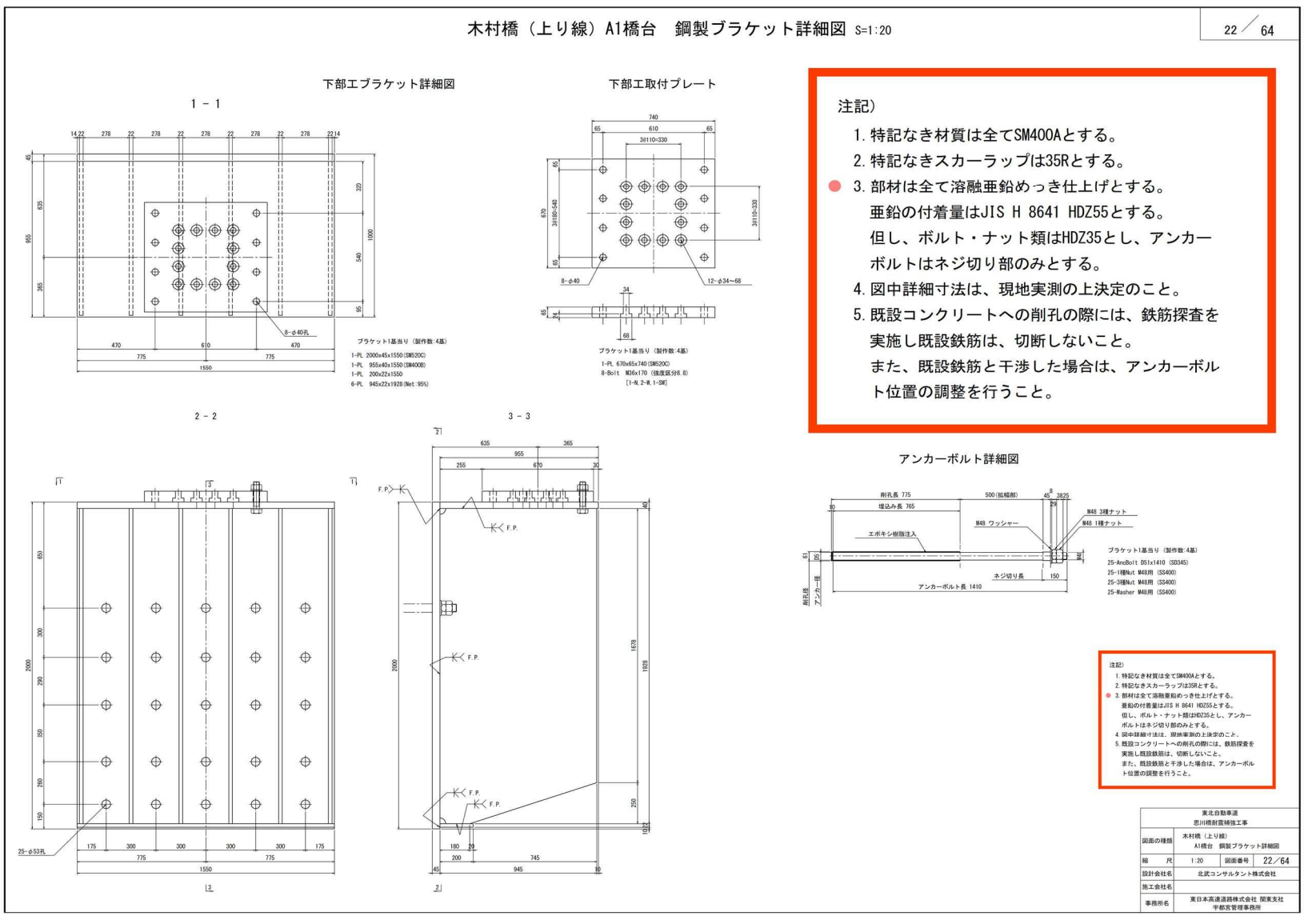
対象	設計図　木村橋（上り線）Ｐ１橋脚　段差防止構造詳細図（その４）（13/64）
誤	
正	
備考	設計図　木村橋（上り線）Ｐ１橋脚　段差防止構造詳細図（その４） 鉄筋表の修正

対象	設計図　木村橋（上り線）Ａ２橋台　段差防止構造詳細図（その３）（18/64）
誤	
正	
備考	設計図　木村橋（上り線）Ａ２橋台　段差防止構造詳細図（その３） 鉄筋表の修正

対象	設計図　木村橋（上り線）Ａ１橋台 鋼製ブラケット詳細図（22/64）
誤	

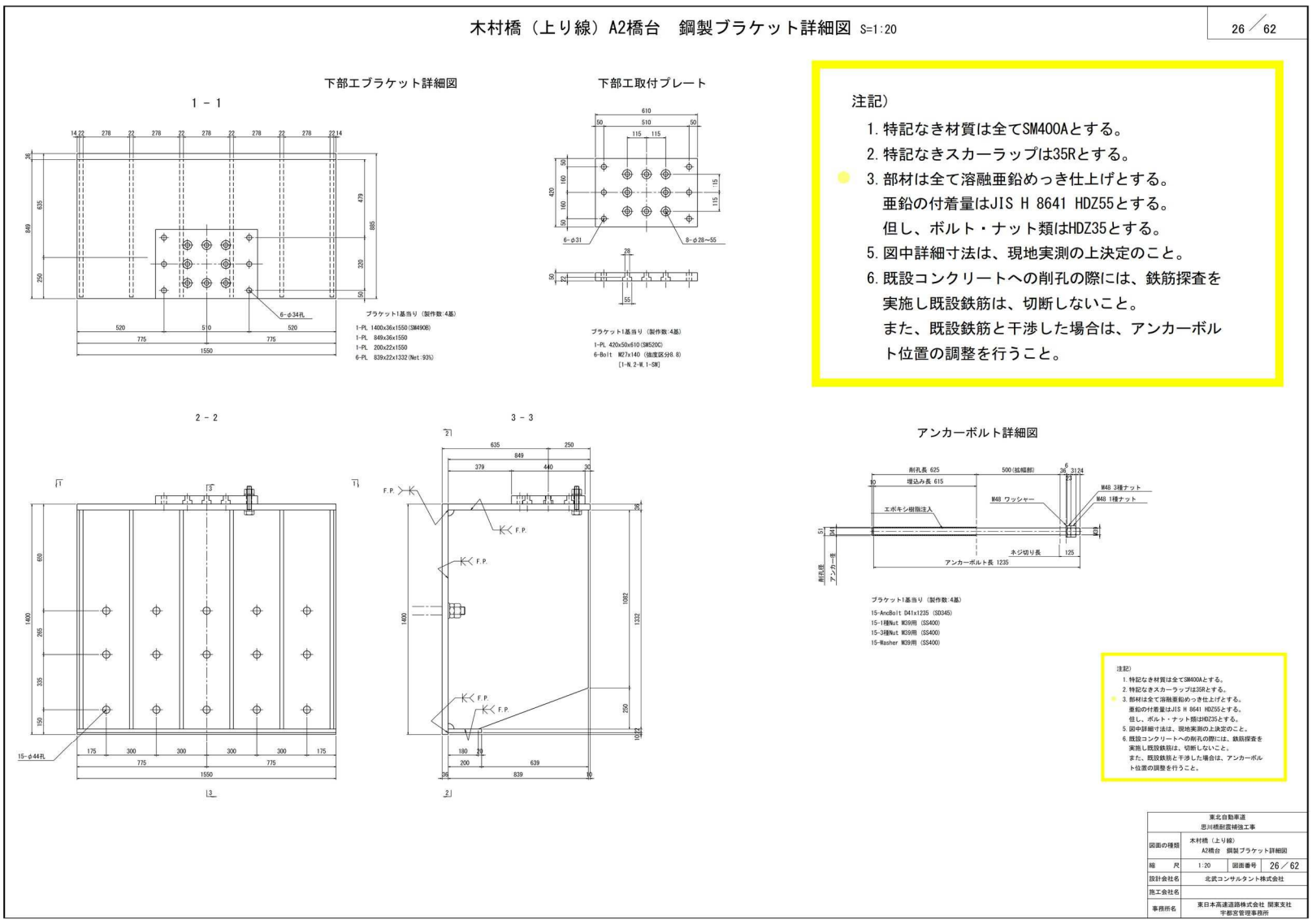


正	

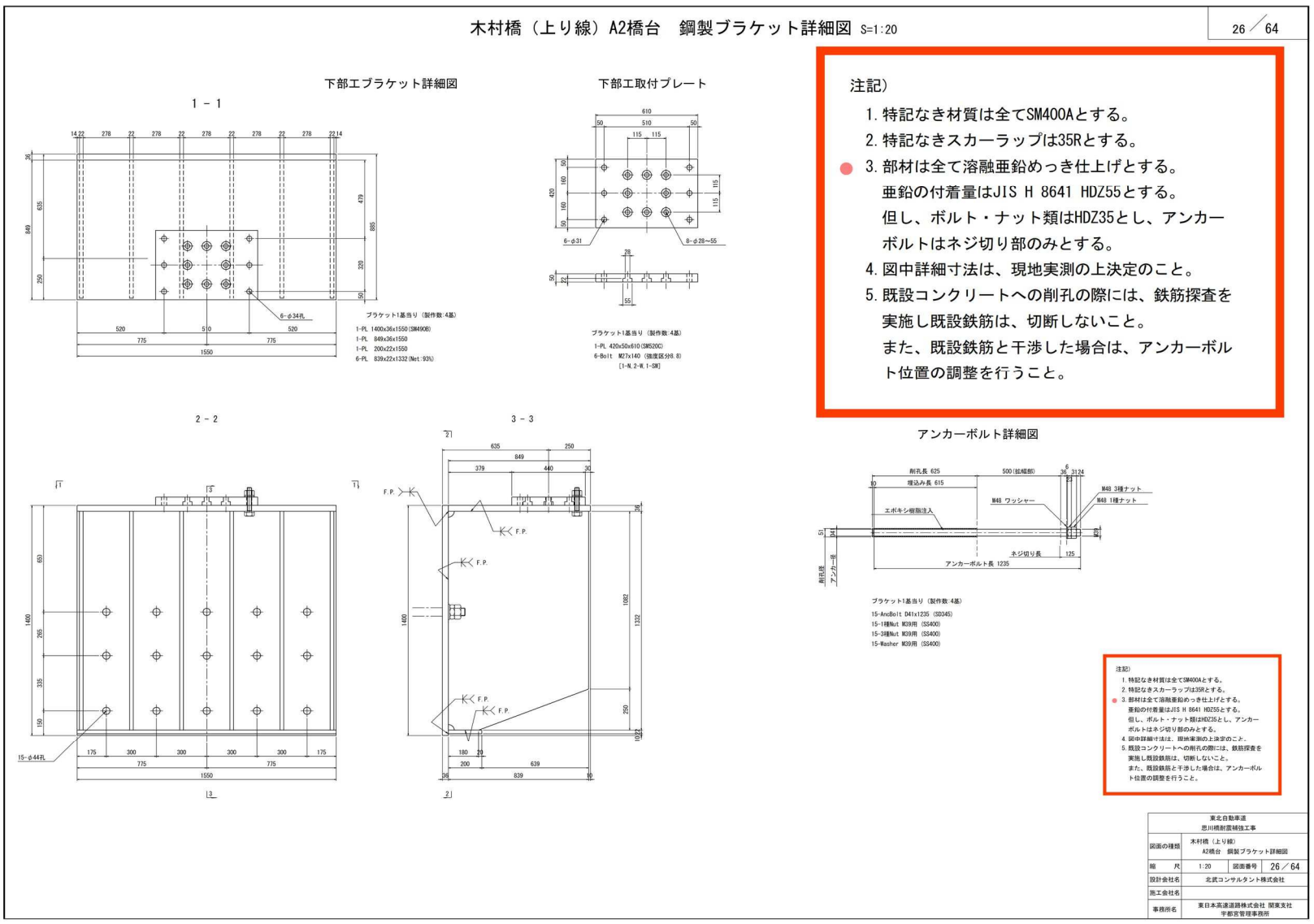


備考	注記欄「3.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記

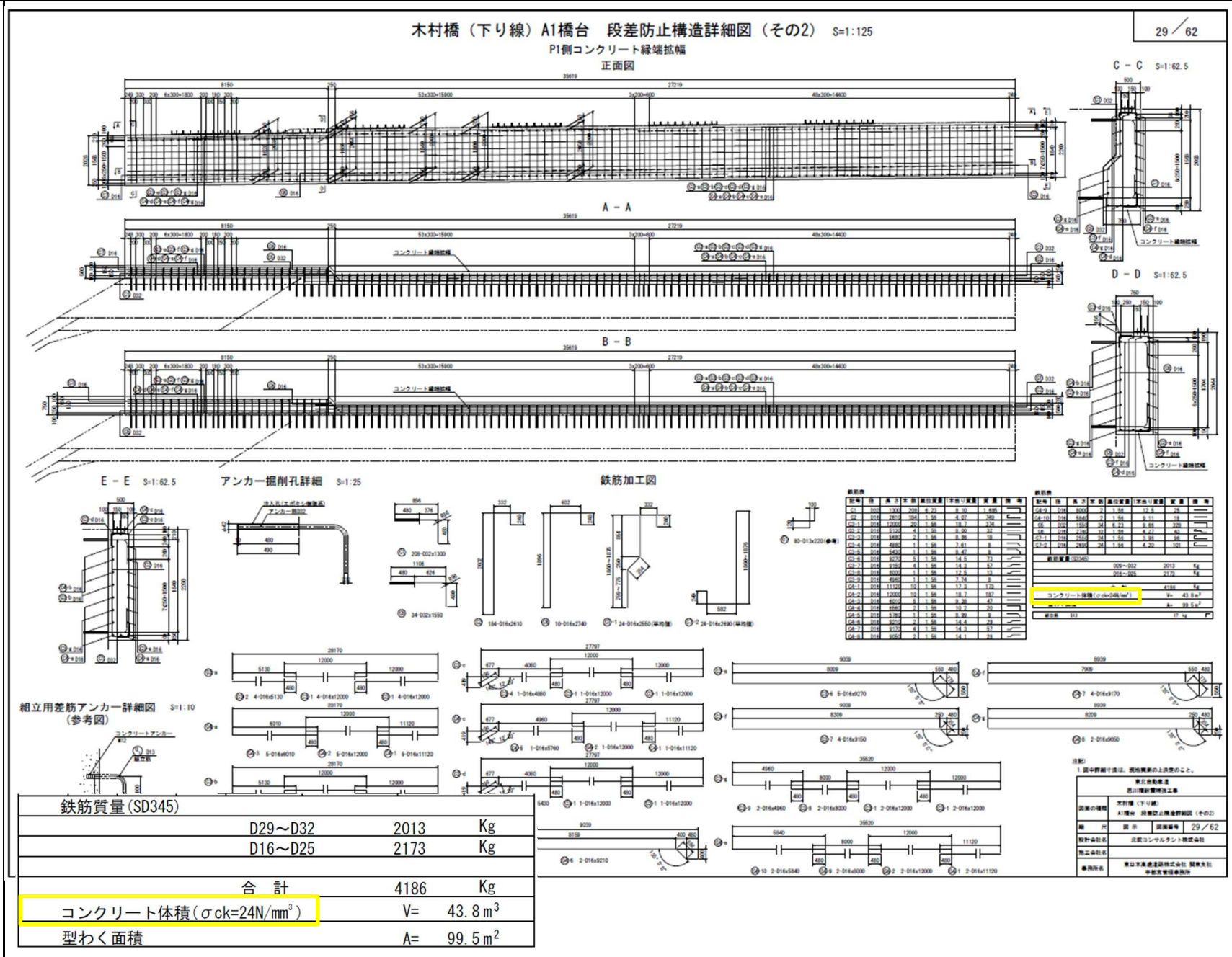
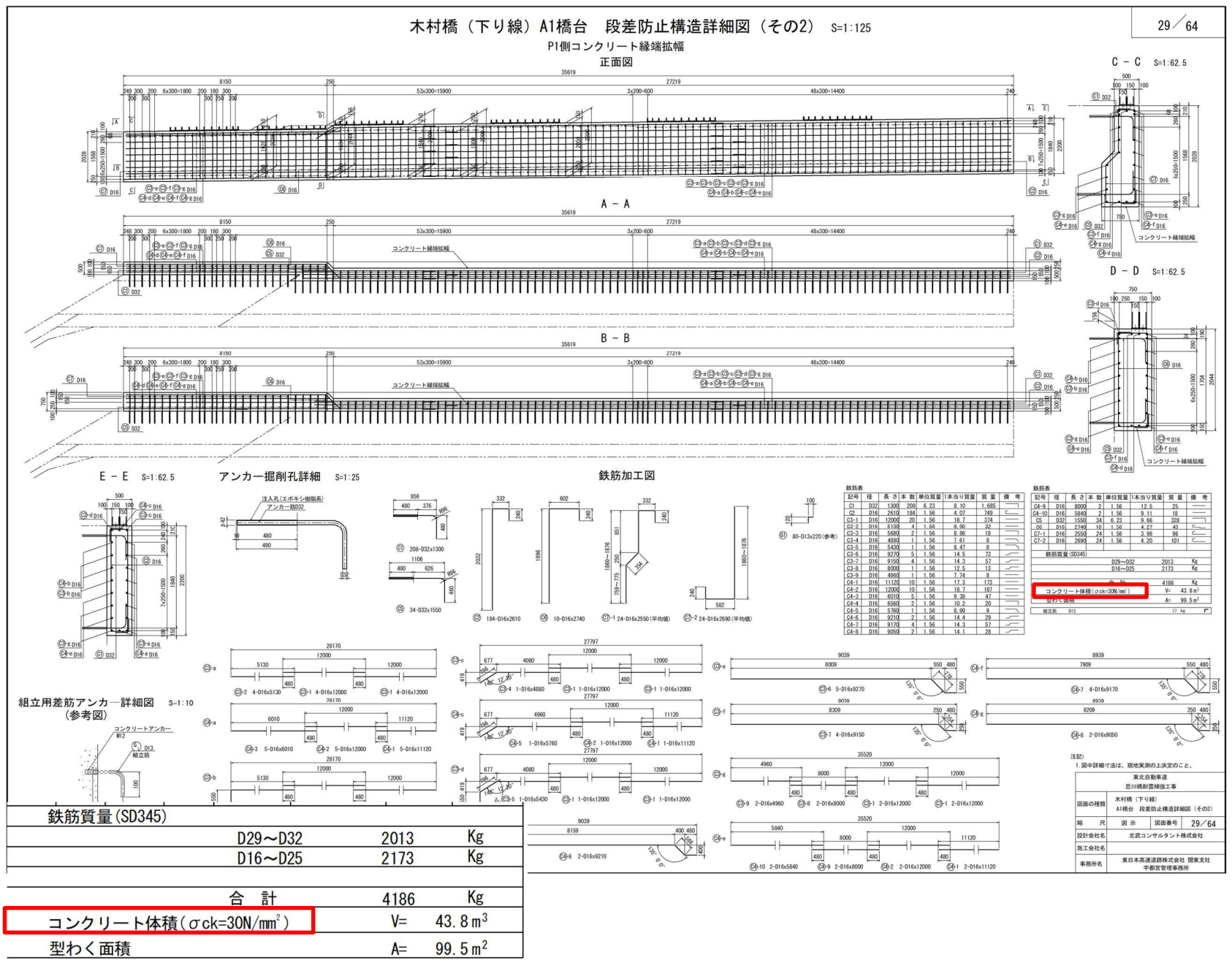
対象	設計図　木村橋（上り線）Ａ２橋台 鋼製ブラケット詳細図（26/64）
誤	



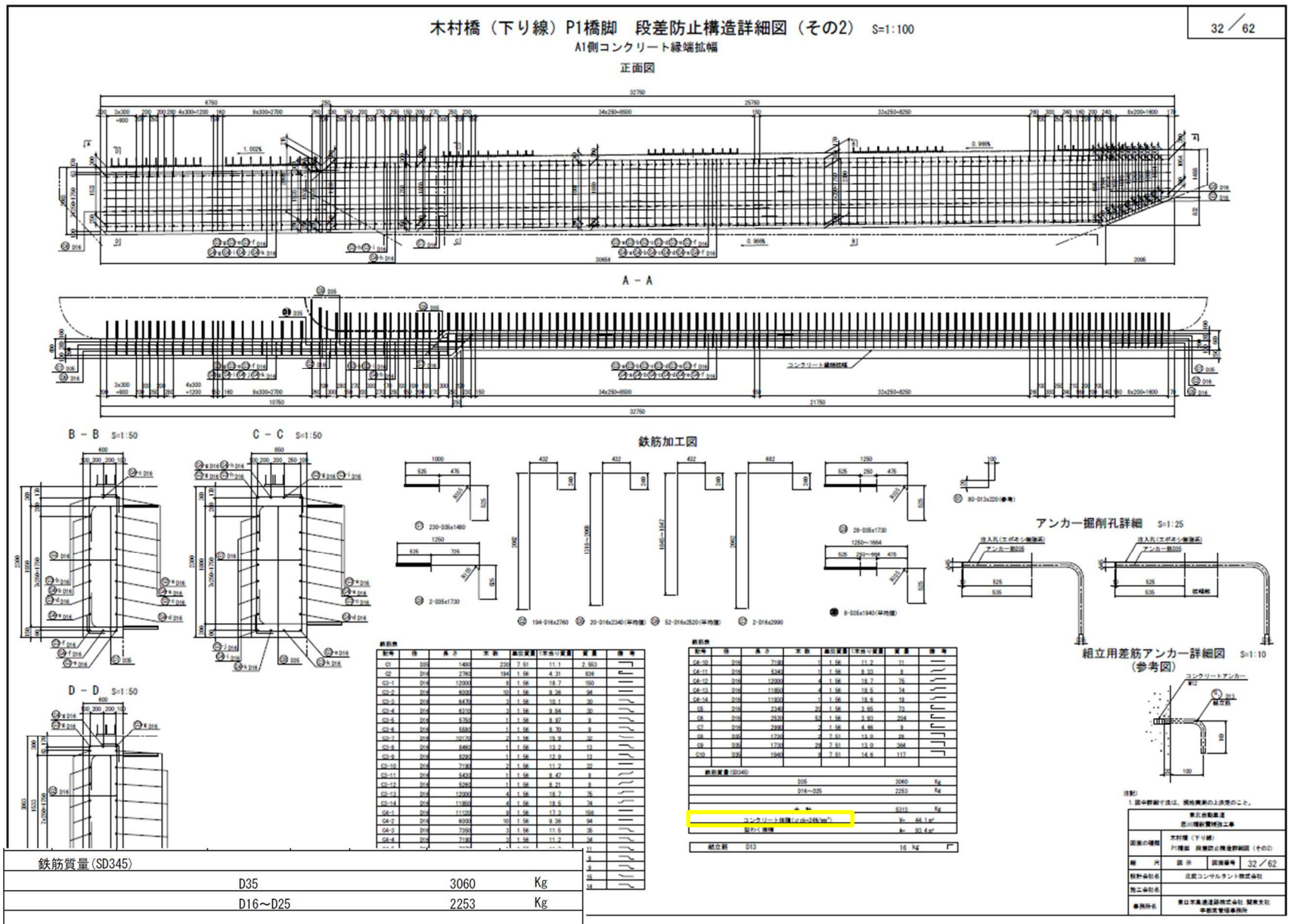
正	



備考	注記欄「3.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記

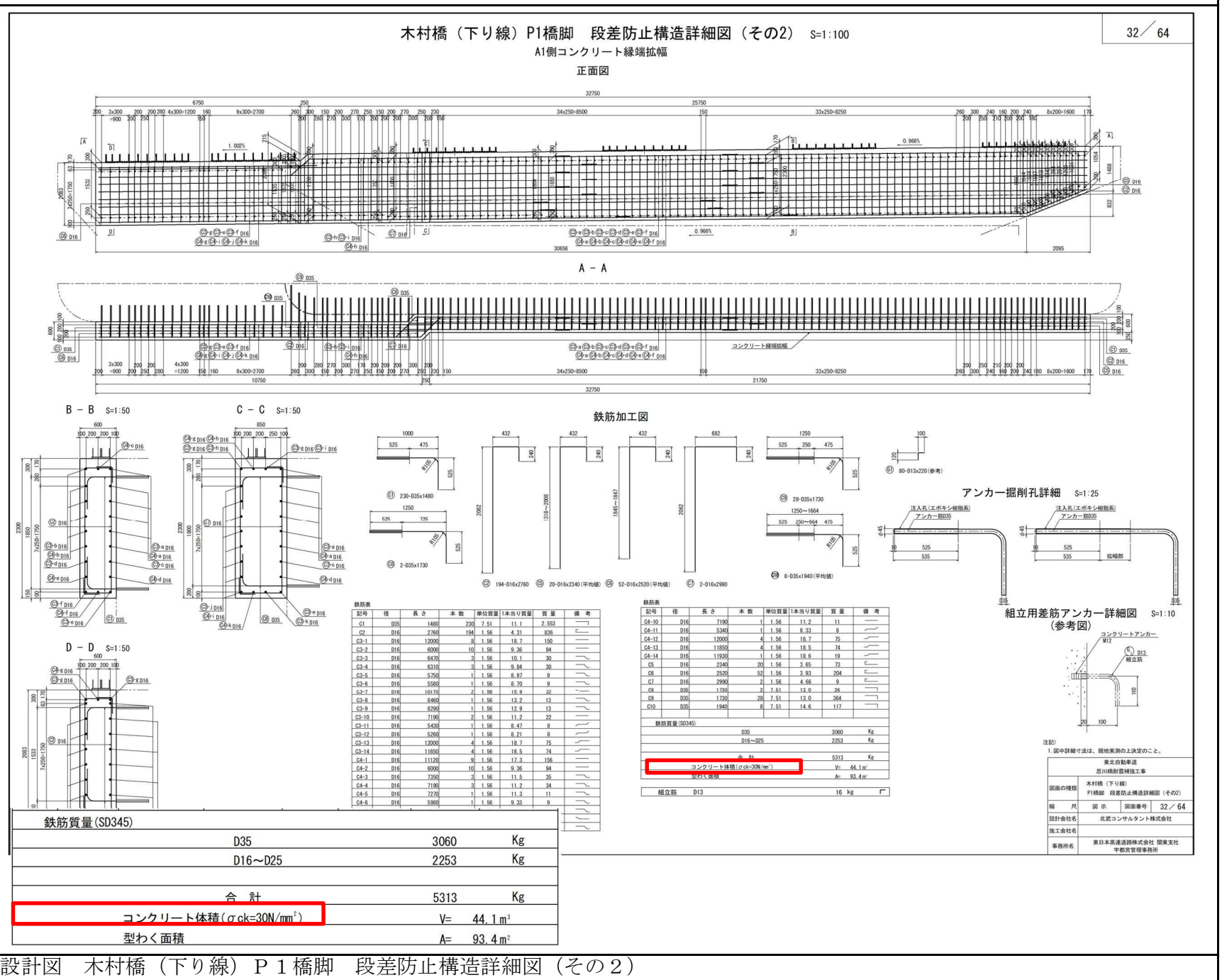
対象	設計図　木村橋（下り線）Ａ１橋台　段差防止構造詳細図（その２）（29/64）
誤	
正	
備考	設計図　木村橋（下り線）Ａ１橋台　段差防止構造詳細図（その２） 鉄筋表の修正

対象	設計図　木村橋（下り線）Ｐ１橋脚　段差防止構造詳細図（その２）（32/64）
誤	



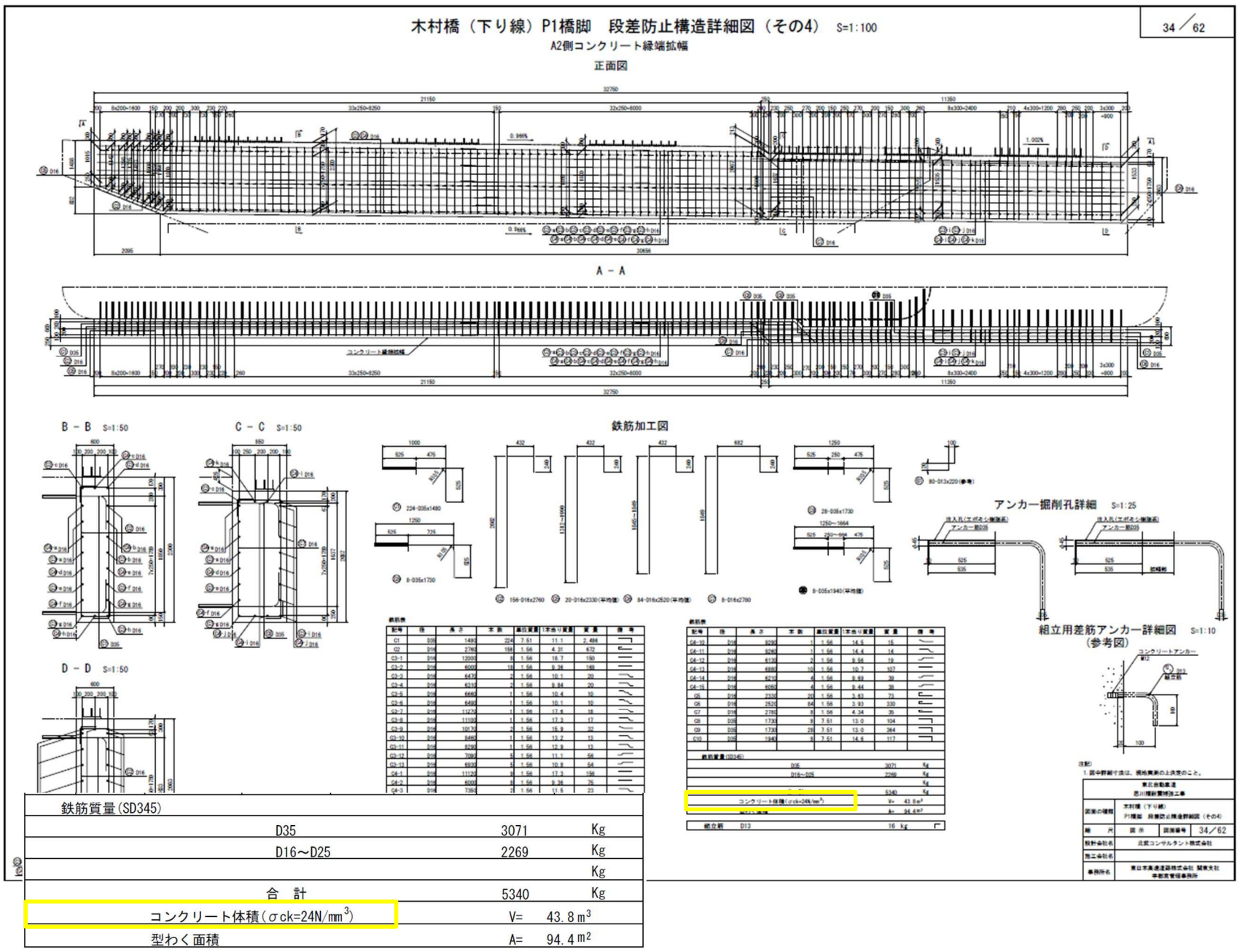
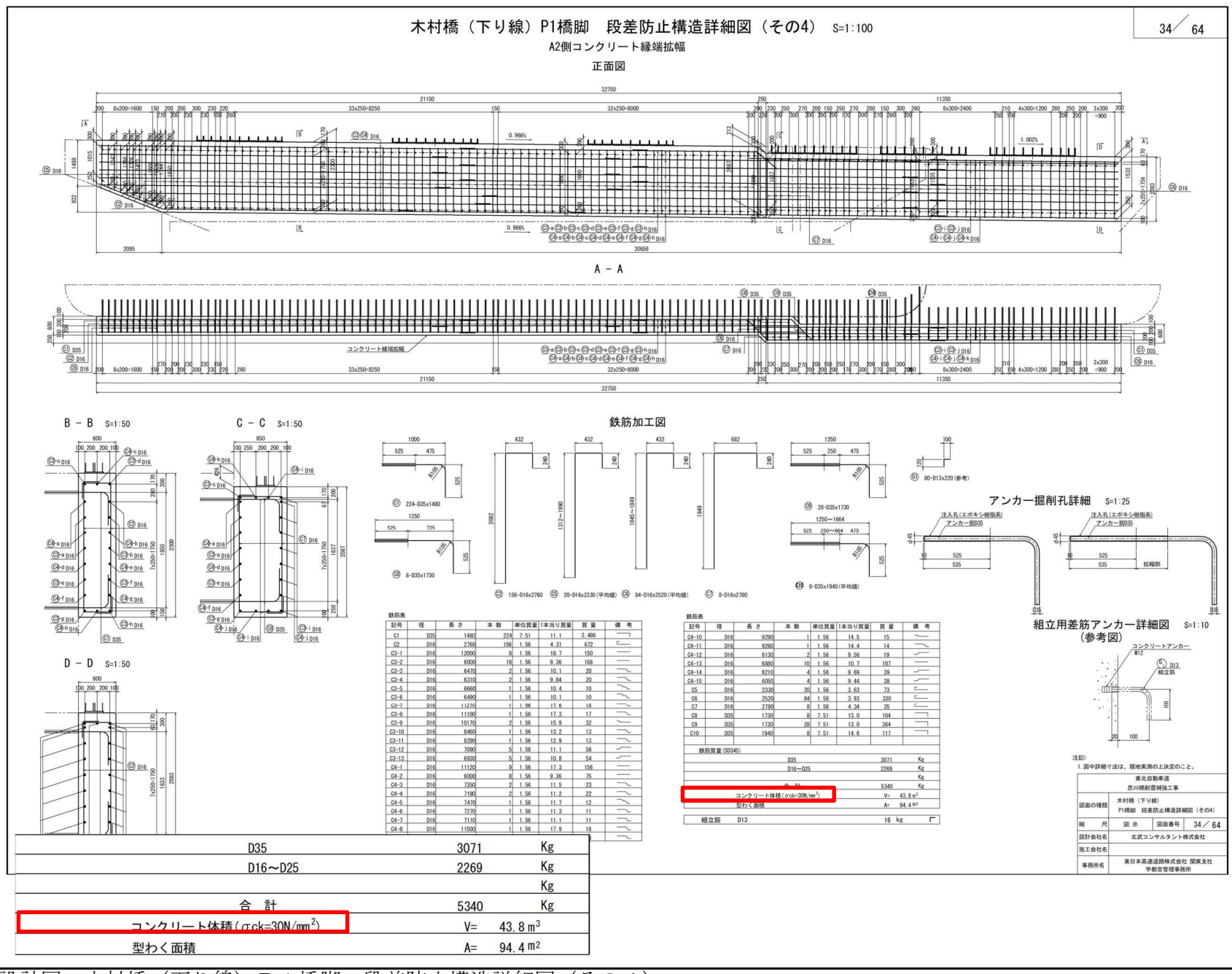
鉄筋質量(SD345)		
D35	3060	Kg
D16～D25	2253	Kg
合　計	5313	Kg
コンクリート体積（σck=24N/mm³）	V=　44.1 m³	
型わく面積	A=　93.4 m²	

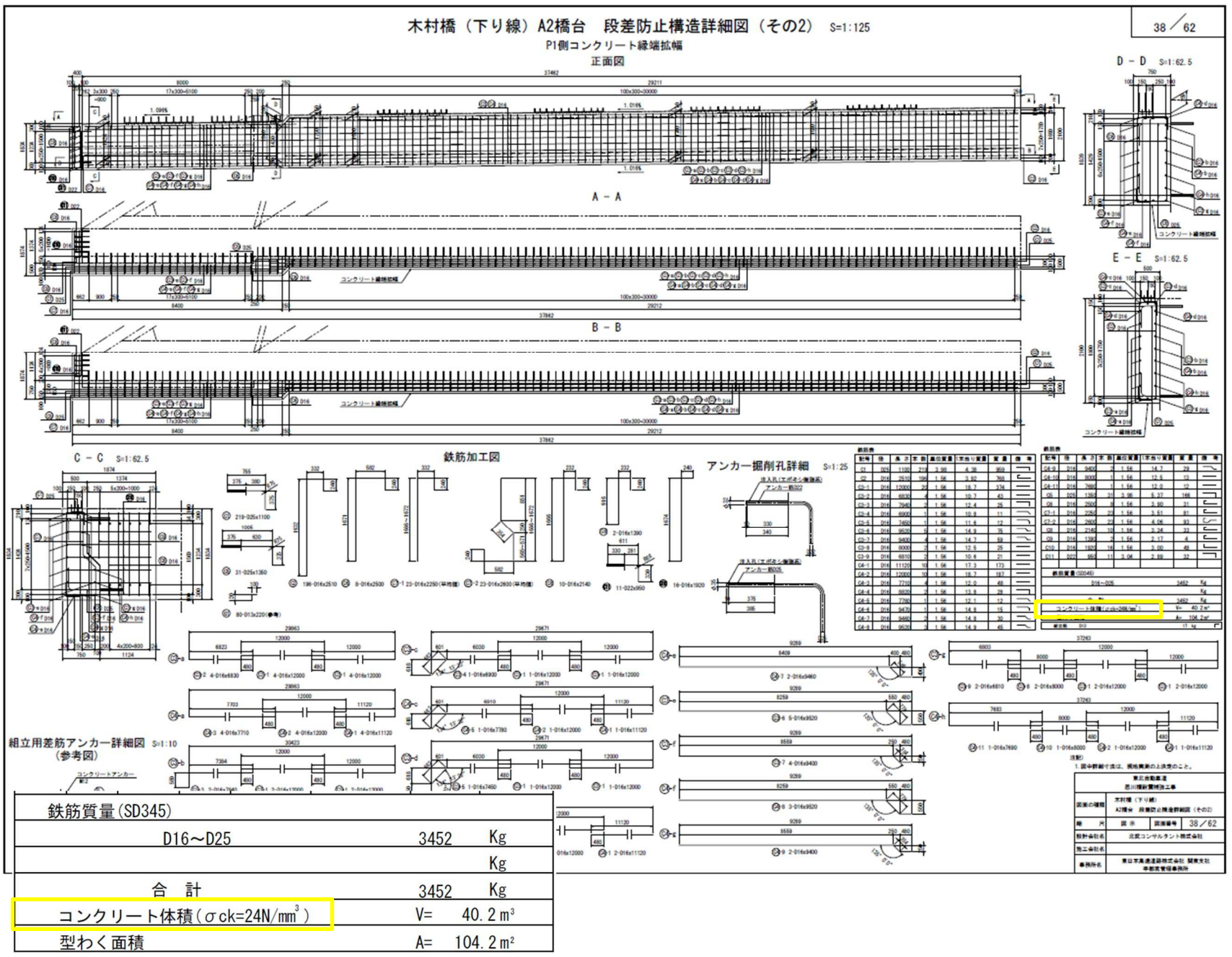
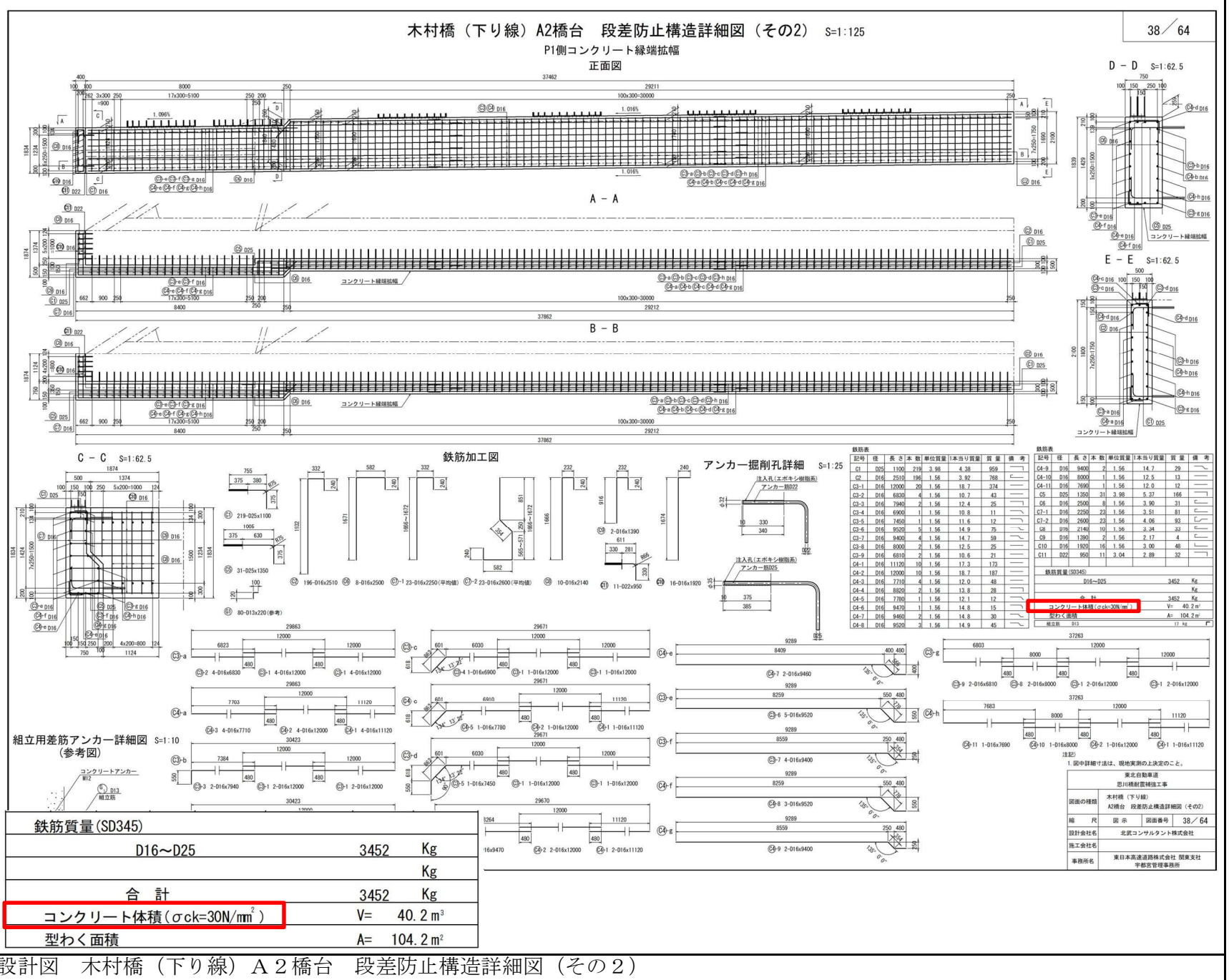
正	



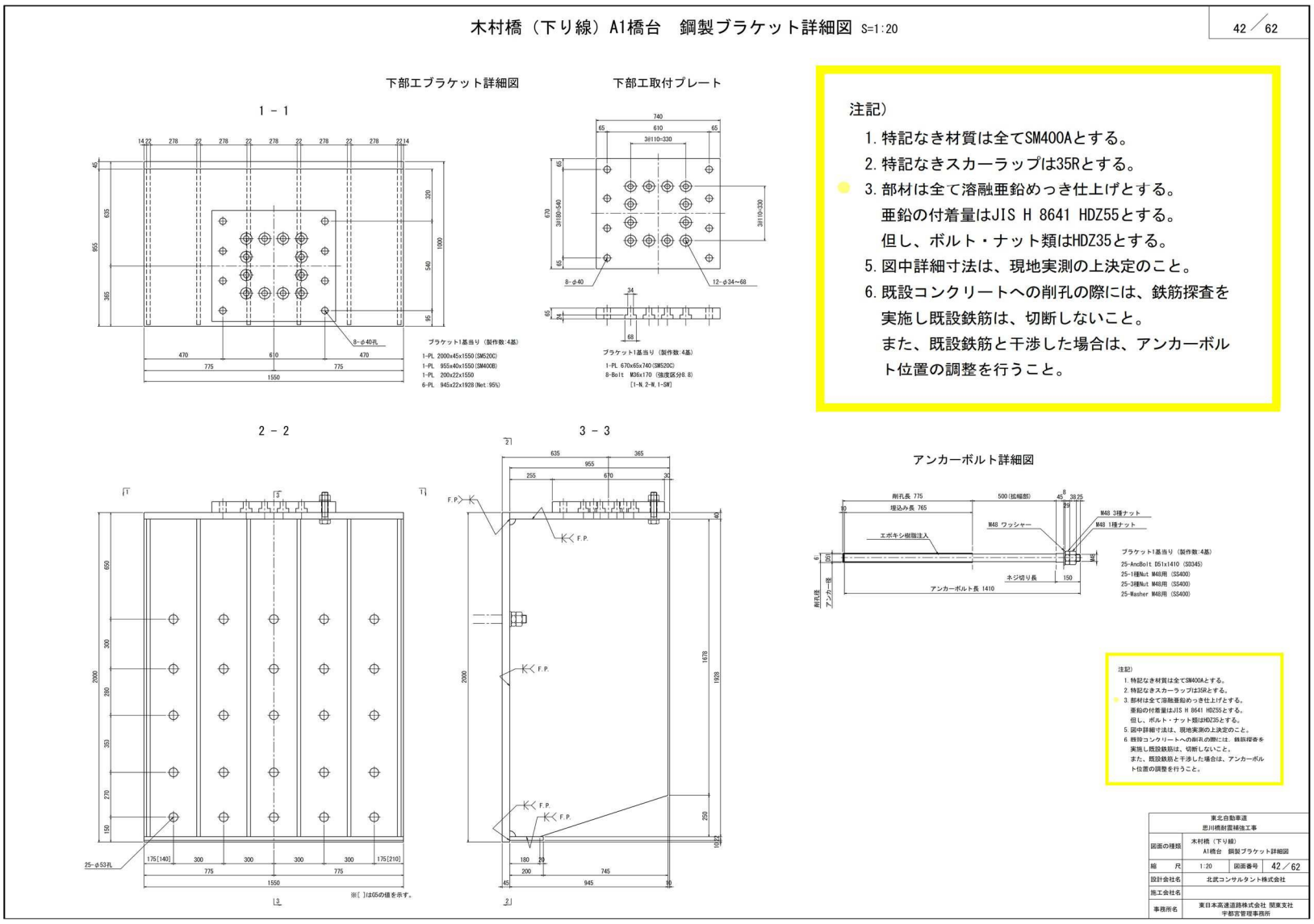
鉄筋質量(SD345)		
D35	3060	Kg
D16～D25	2253	Kg
合　計	5313	Kg
コンクリート体積（σck=30N/mm²）	V=　44.1 m³	
型わく面積	A=　93.4 m²	

備考	設計図　木村橋（下り線）Ｐ１橋脚　段差防止構造詳細図（その２） 鉄筋表の修正

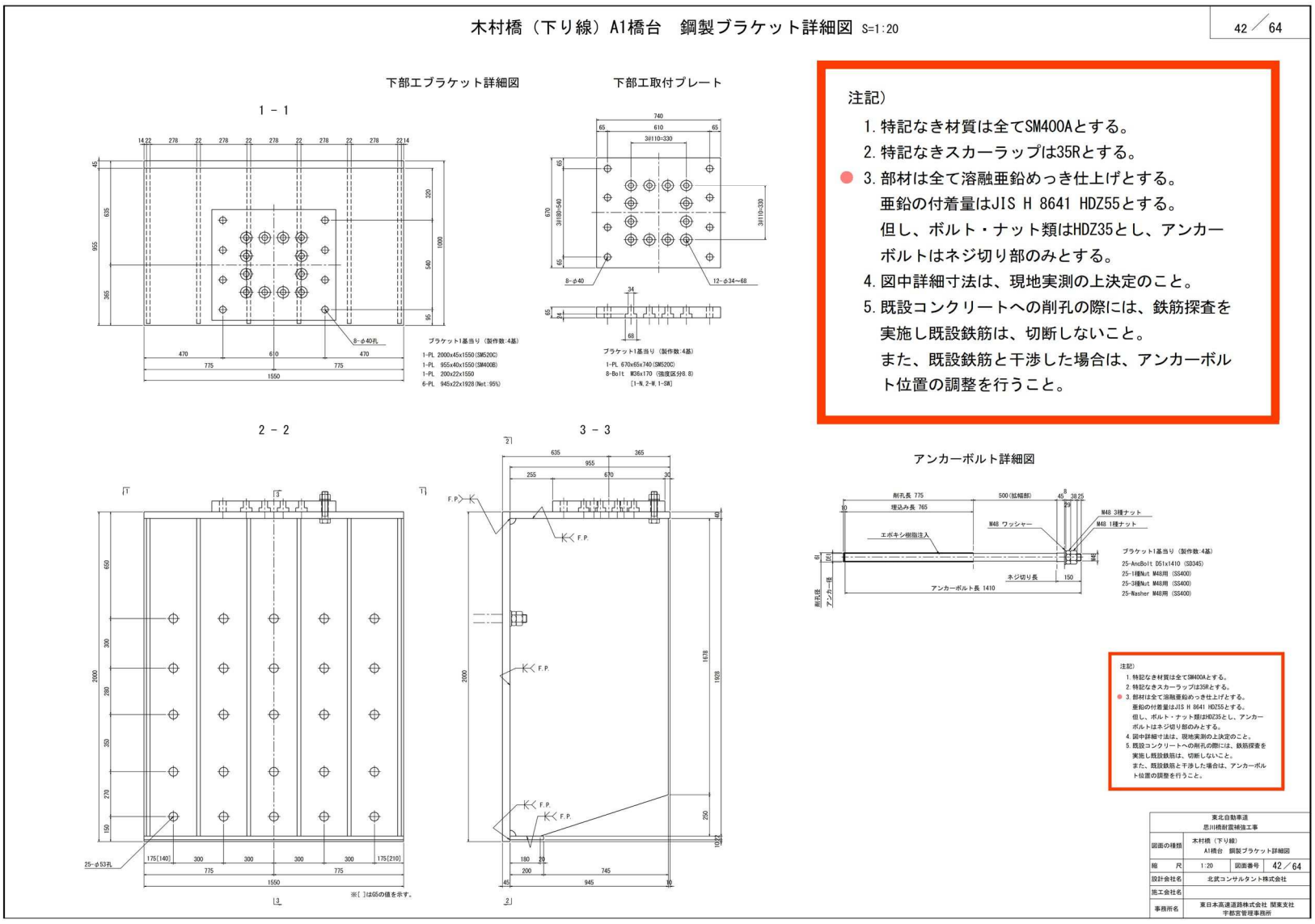
対象	設計図　木村橋（下り線）Ｐ１橋脚　段差防止構造詳細図（その４）（34/64）
誤	
正	
備考	設計図　木村橋（下り線）Ｐ１橋脚　段差防止構造詳細図（その４） 鉄筋表の修正

対象	設計図　木村橋（下り線）Ａ２橋台　段差防止構造詳細図（その２）（38/64）
誤	
正	
備考	設計図　木村橋（下り線）Ａ２橋台　段差防止構造詳細図（その２） 鉄筋表の修正

対象	設計図　木村橋（下り線）Ａ１橋台 鋼製ブラケット詳細図（42/64）
誤	

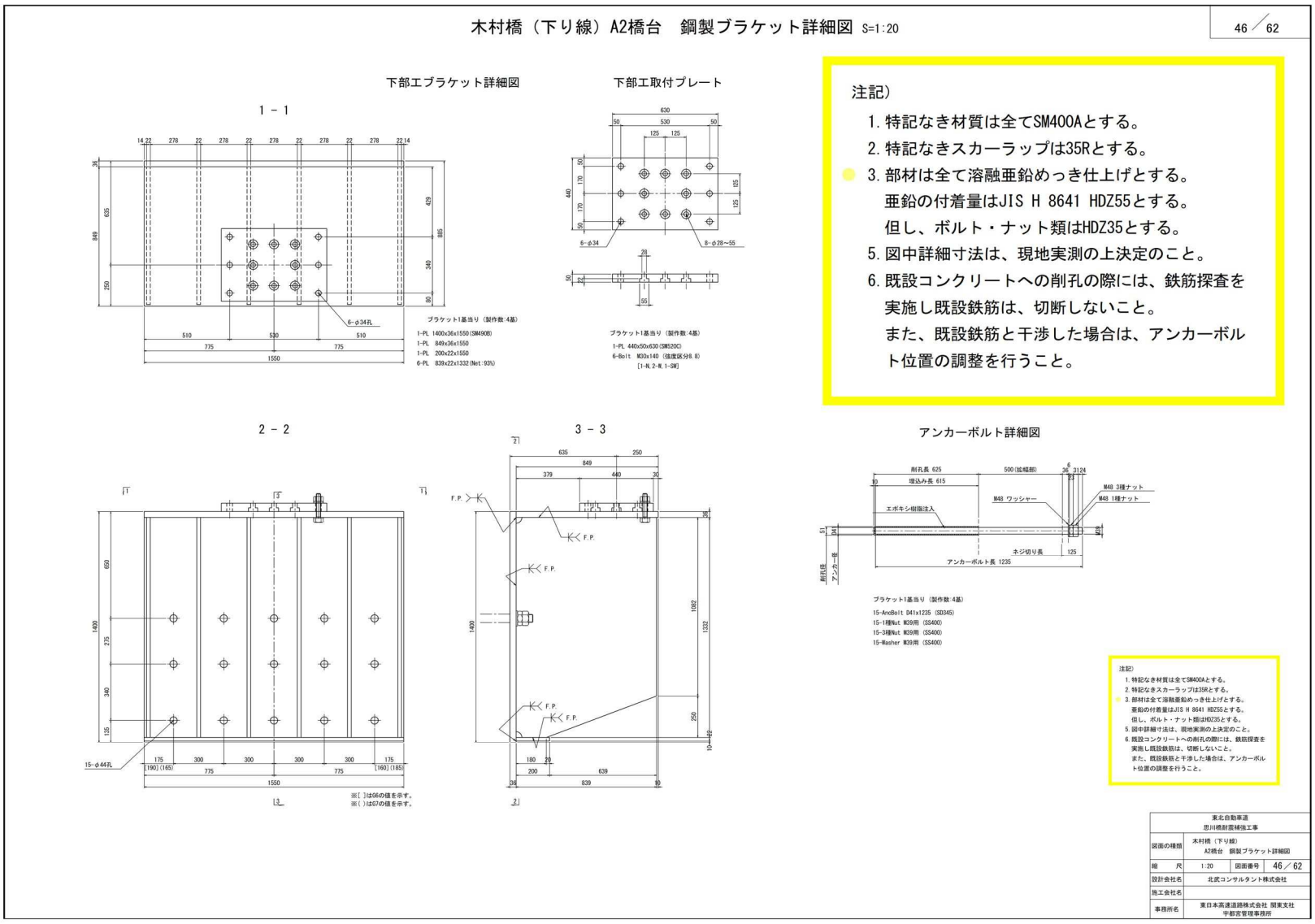


正	

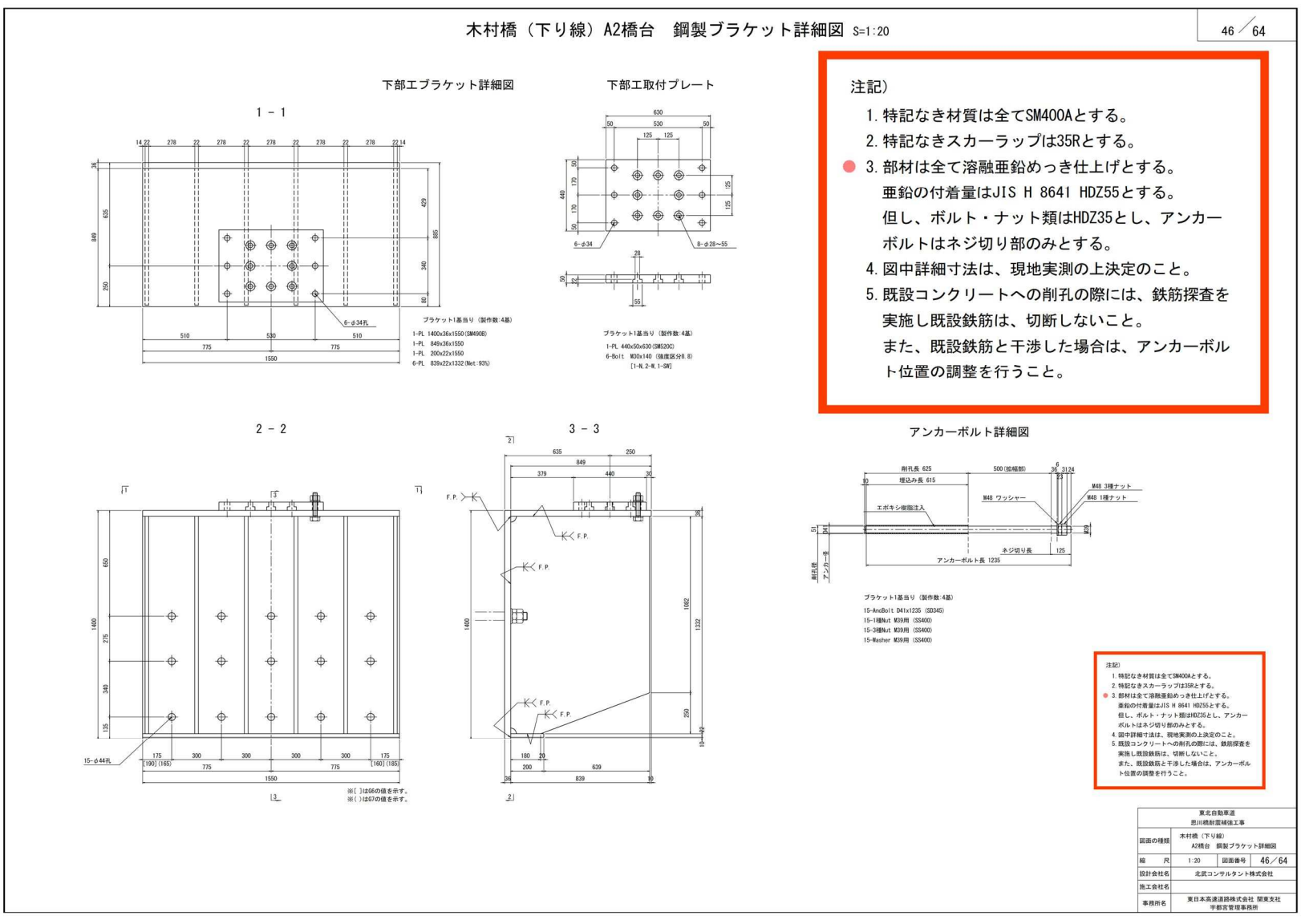


備考	注記欄「3.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記

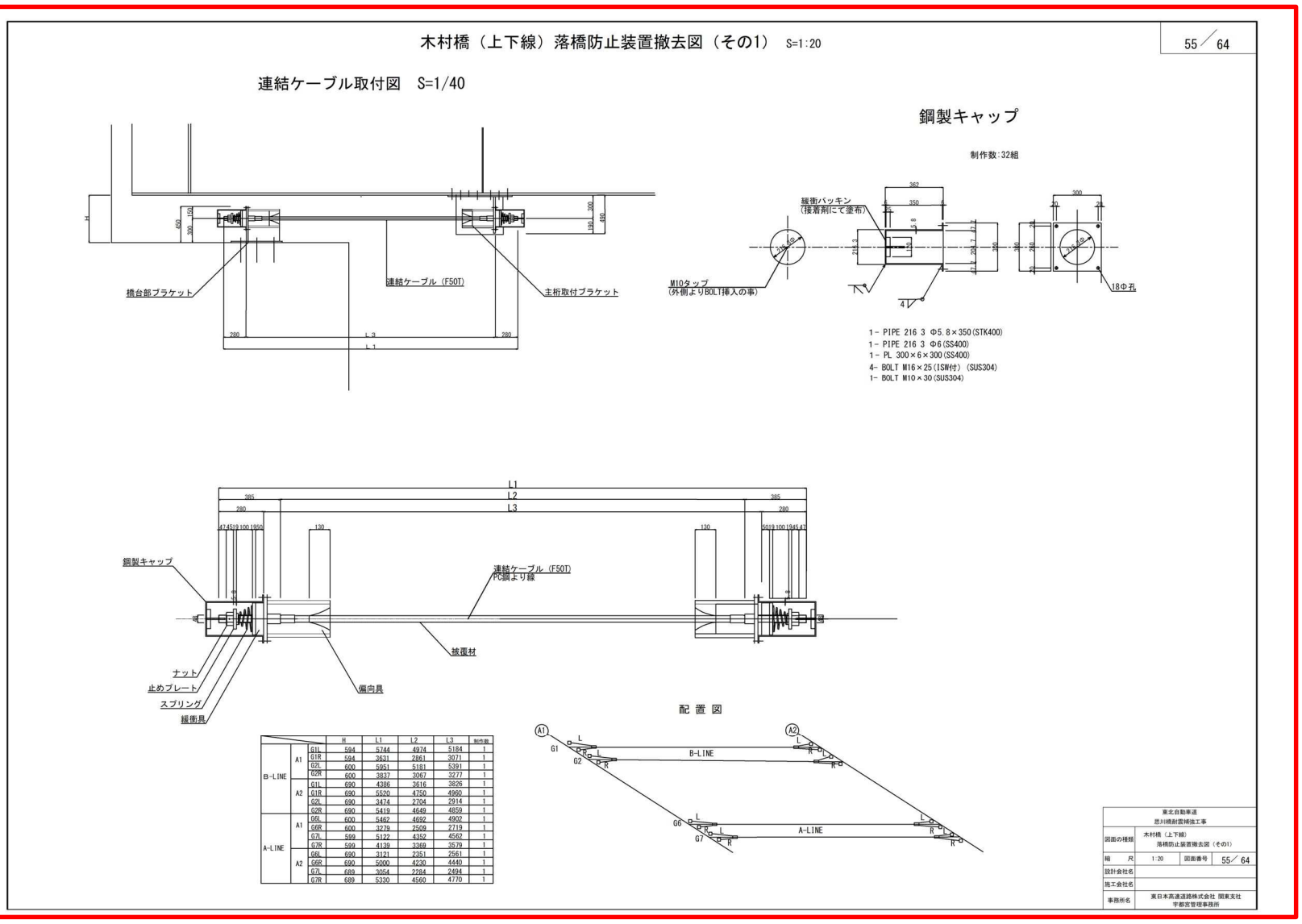
対象	設計図　木村橋（下り線）Ａ２橋台 鋼製ブラケット詳細図（46/64）
誤	

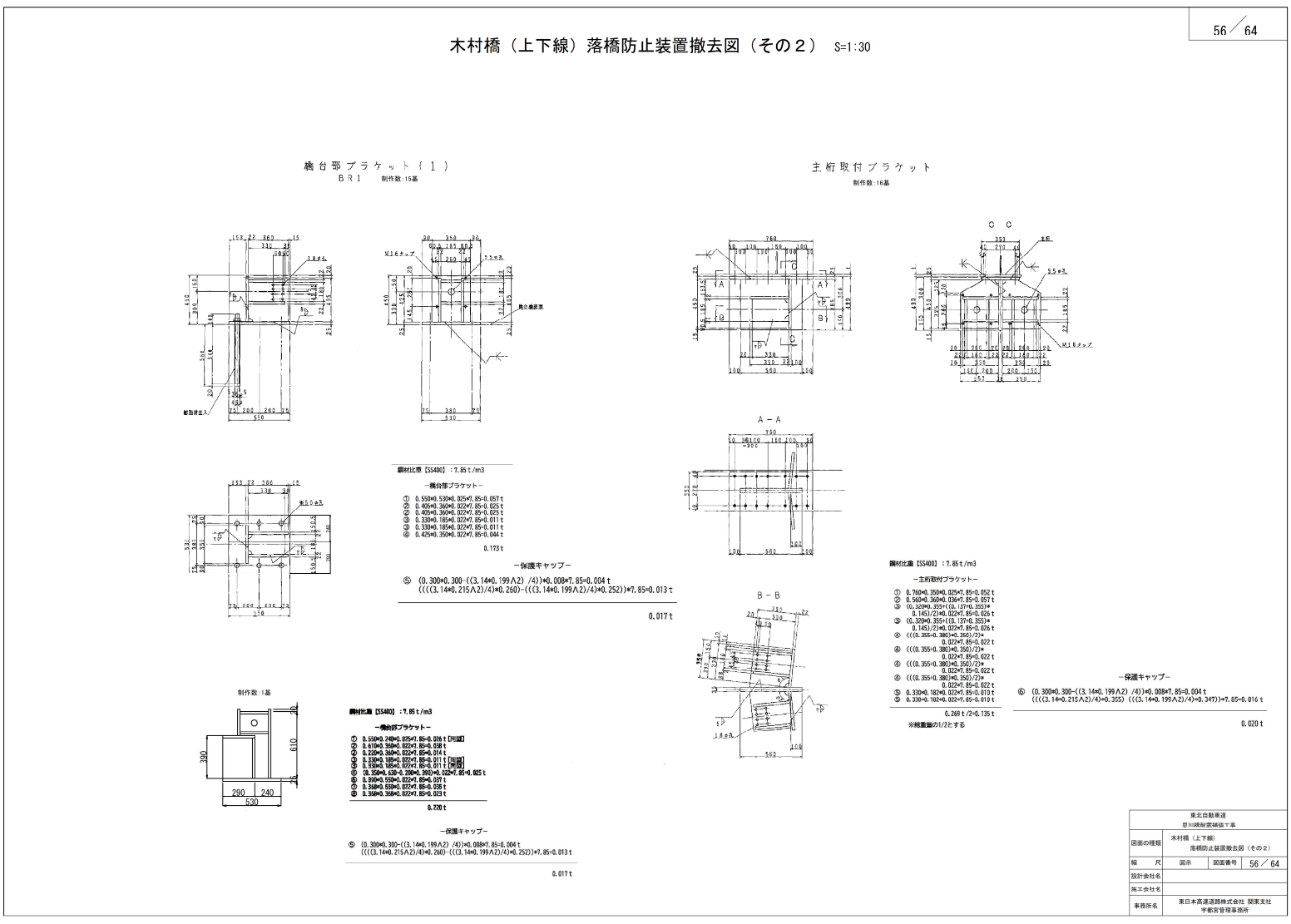


正	

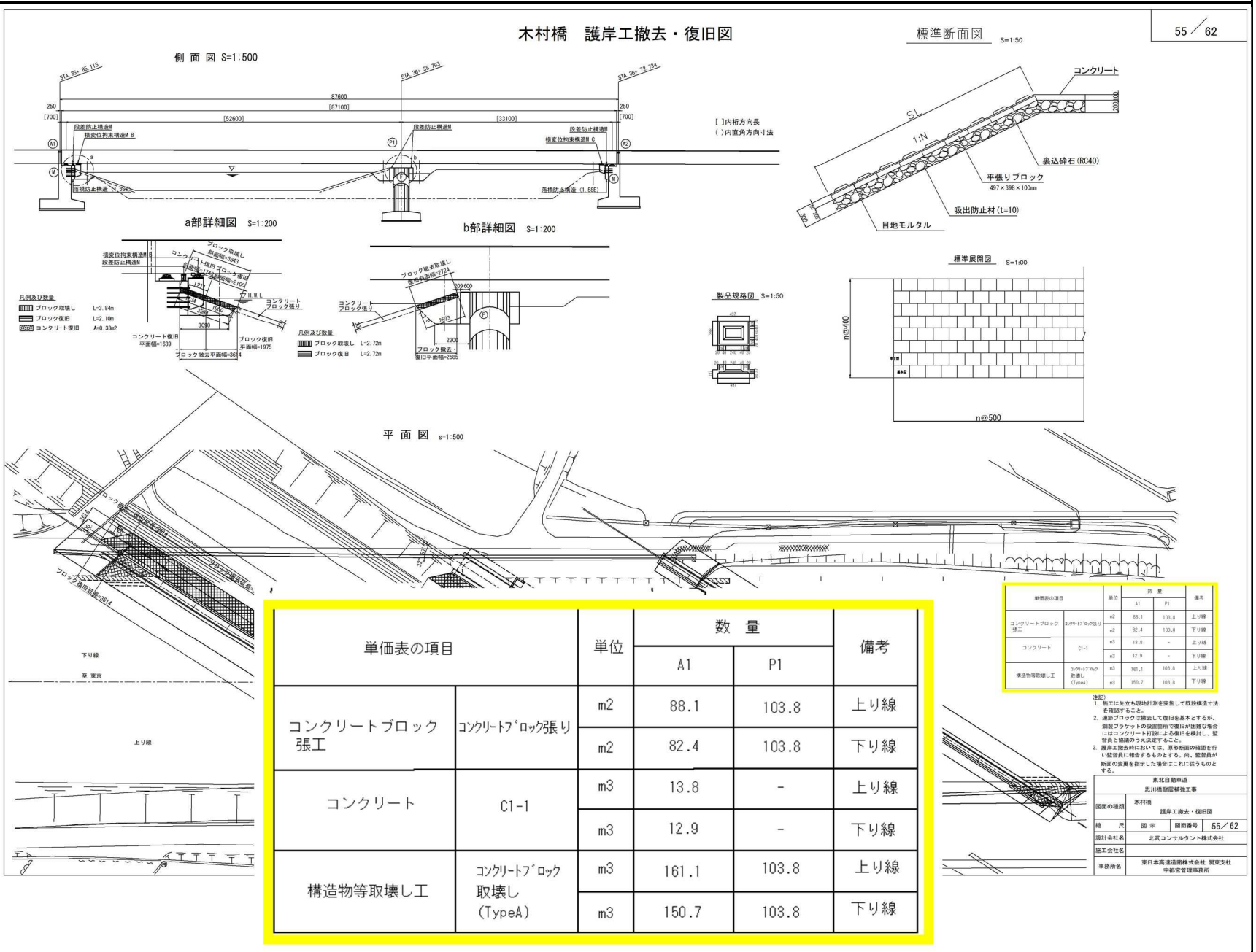


備考	注記欄「3.アンカーボルトの溶融亜鉛メッキ」を追記

対象	設計図　木村橋（上下線）落橋防止装置撤去図（その１）(55/64)
誤	図面無し
正	
備考	設計図　木村橋（上下線）落橋防止装置撤去図（その１） 図面の追加

対象	設計図　木村橋（上下線）落橋防止装置撤去図（その２）(56/64)
誤	図面無し
正	
備考	設計図　木村橋（上下線）落橋防止装置撤去図（その２） 図面の追加

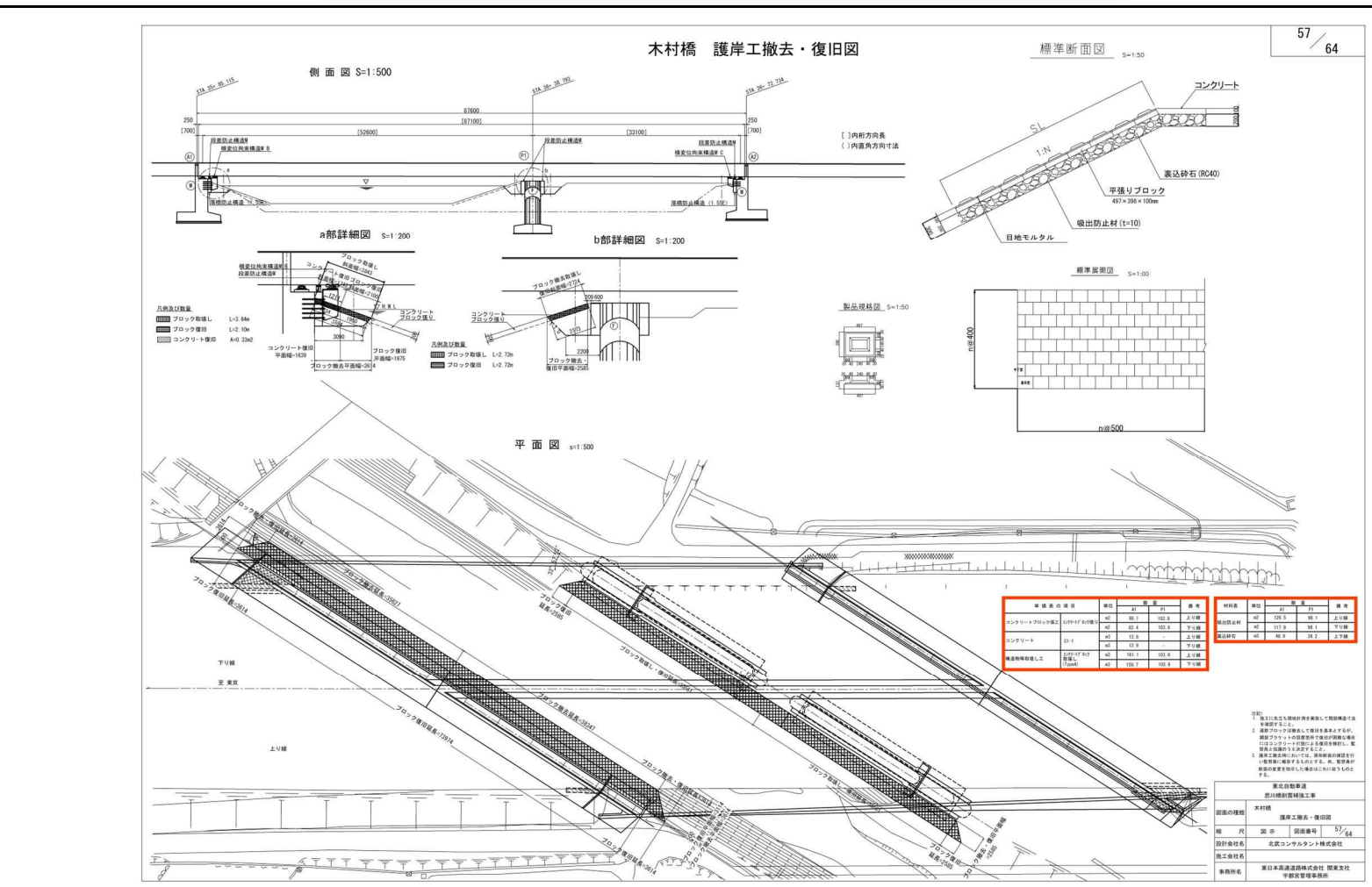
対象	設計図　木村橋　護岸工撤去・復旧図（57/64）
誤	



単価表の項目		単位	数量 A1	数量 P1	備考
コンクリートブロック張工	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ張り	m2	88.1	103.8	上り線
		m2	82.4	103.8	下り線
コンクリート	C1-1	m3	13.8	-	上り線
		m3	12.9	-	下り線
構造物等取壊し工	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ取壊し (TypeA)	m3	161.1	103.8	上り線
		m3	150.7	103.8	下り線

注記）
1. 施工に先立ち現地計測を実施して既設構造寸法を確認すること。
2. 護岸ブロックは撤去して復旧を基本とするが、鋼製ブラケットの設置箇所で復旧が困難な場合にはコンクリート打設による復旧を検討し、監督員と協議のうえ決定すること。
3. 護岸工撤去時においては、原形断面の確認を行い監督員に報告するものとする。尚、監督員が断面の変更を指示した場合はこれに従うものとする。

	東北自動車道 思川橋耐震補強工事
図面の種類	木村橋 護岸工撤去・復旧図
縮尺	図示
図面番号	55／62
設計会社名	北武コンサルタント株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 宇都宮管理事務所

正	

単価表の項目		単位	数量 A1	数量 P1	備考
コンクリートブロック張工	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ張り	m2	88.1	103.8	上り線
		m2	82.4	103.8	下り線
コンクリート	C1-1	m3	13.8	-	上り線
		m3	12.9	-	下り線
構造物等取壊し工	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ取壊し (TypeA)	m3	161.1	103.8	上り線
		m3	150.7	103.8	下り線

材料表	単位	数量 A1	数量 P1	備考
吸出防止材	m2	126.5	98.1	上り線
	m2	117.9	98.1	下り線
裏込砕石	m3	48.9	39.2	上下線

備考	単価表項目に「吸出防止材」及び「裏込砕石」の数量を追記